

史料目録 第115集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録
(その14)

令和4年3月

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館
学術資料事業部

史料目録 第115集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録
(その14)

The catalogue of historical collections

Vol. 115

The catalogue of papers of the Hatta Family, Merchants and Town Officers
in the Early Modern Japan at Ise-cho, Matsushiro Castle Town, Hanishina County, Shinano Province

No.14

National Institute of Japanese Literature,2022

ISBN978-4-87592-206-3

ISSN2435-2055

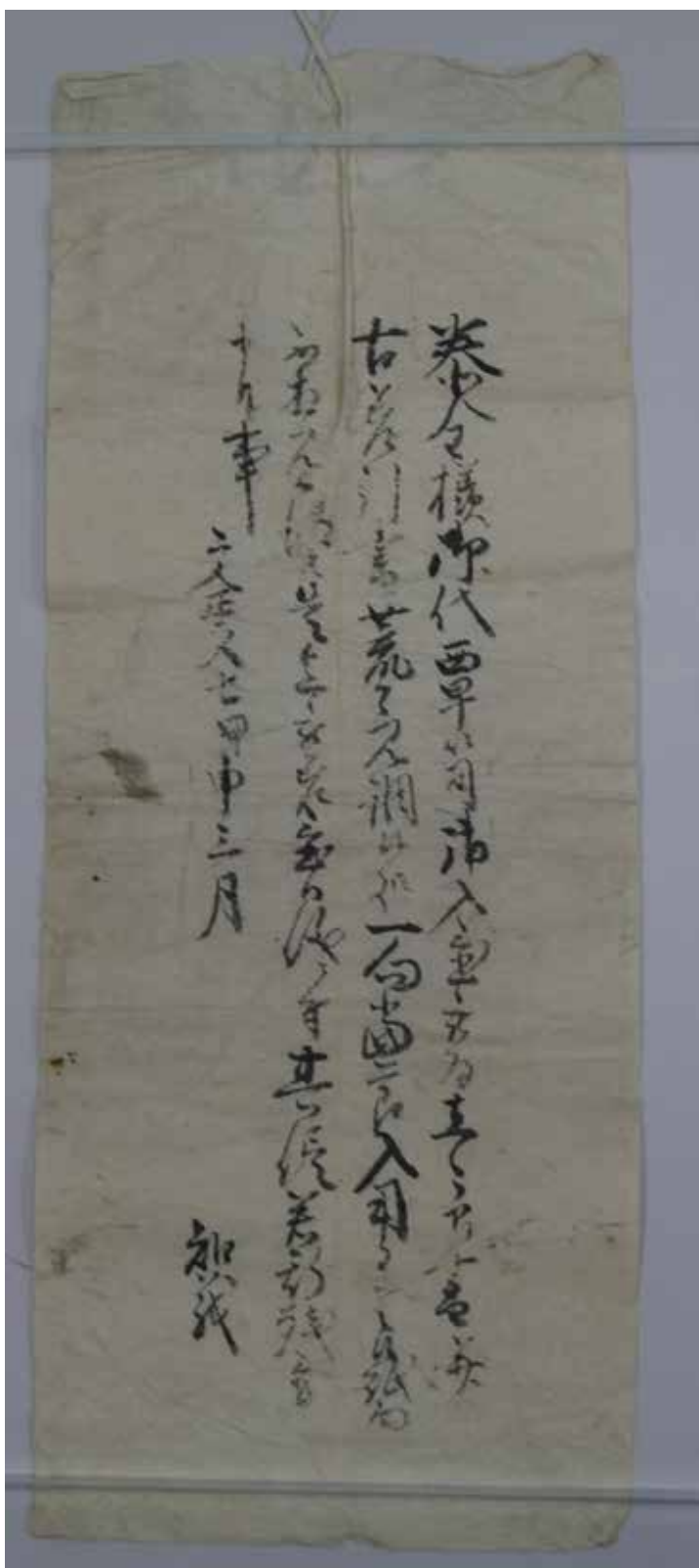


写真1 文書管理方針を記した袋（え 4634-1）

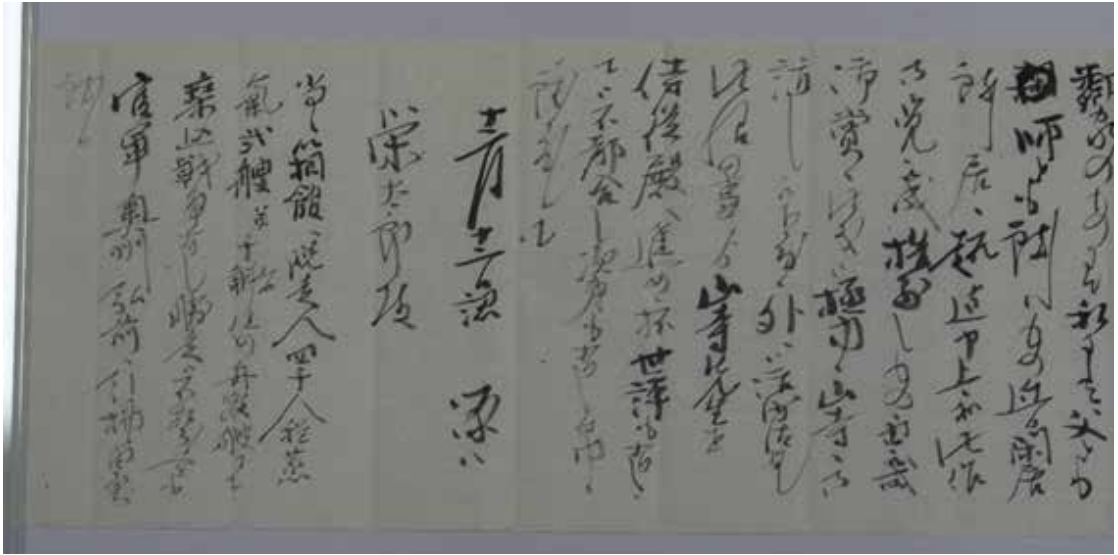


写真2 松木源八書状（え 4606-7）末尾。猶書で箱館戦争の情報を伝える。

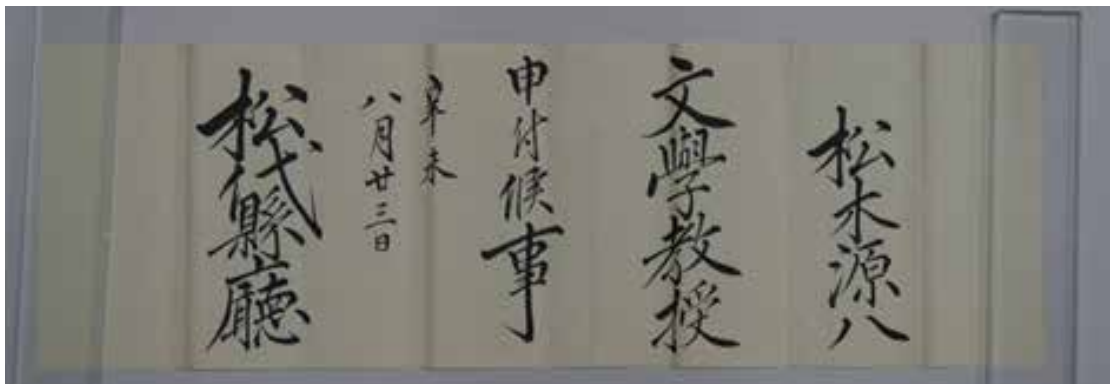


写真3 文学教授任命状（え 4632- 3）

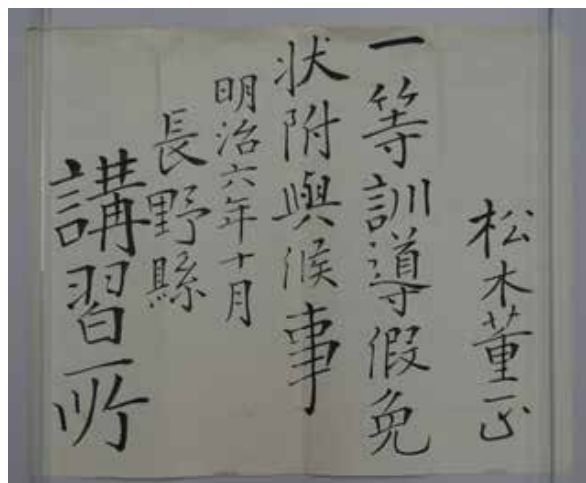


写真4 一等訓導假免状付与証書（え 4632-1）

凡 例

- 1 本目録は、『史料目録』第115集として「信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録(その14)」(文書群記号:28B)を収めた。信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書(以下、八田家文書と略)に関しては『史料目録』第41集(1985年)・第48集(1989年)・第50集(1990年)・第94集(2012年)・第96集(2013年)・第97集(2013年)・第99集(2014年)・第101集(2015年)・第102集(2016年)・第107集(2018年)・第108集(2019年)・第111集(2020年)・第113集(2021年)にも収録しており、合わせて参照頂きたい。
- 2 目録編成にあたっては、ISAD(G)(国際標準・記録記述の一般原則)の考え方も参考にしつつ、文書群を発生させた組織・集団の機能に留意し、文書群の持つ体系的なコンテキストを把握することに努めるとともに、上記既刊八田家文書目録の階層構造を生かすように心掛けた。
- 3 本文記載は、(1)表題、(2)作成者または差出人、(3)宛名、(4)作成年月日、(5)形態・数量、(6)整理番号の順である。一括状況などの情報は、(5)史料形態に続けて/(半角スラッシュ)で区切った上で、これを明記した。また紙質や保存状態などの情報も同様に適宜注記した。原文書の判読不能箇所などは、□もしくは[]をもって字数を埋めた。
- 4 表題は原表題のあるものはそれを探り、ないものについては()を付して仮表題を与えた。また、表題のみでは内容が判別できないものについても、簡単な内容摘記を行い、同様に()を付した。
- 5 作成年は和年号で示し、干支だけの場合はそれを採録した。推定年月日については、()を付した。
- 6 史料の形態は、本目録の大半を占める書付文書の場合、縦紙、折紙、縦切紙、横切紙、縦継紙、横切継紙、小切紙、小紙、札などと表記することで、料紙の使用法の違いを示した。冊子型史料では、半(半紙縦折判)、美(美濃縦折判)、横長半(半紙横折判)、横長美(美濃横折判)、横半半折(半紙横折紙半折判)などの略称によって原書の大概を示した。また絵図類や定形外の印刷物は、縦横の寸法をセンチ・メートル単位で示し、紙継があるものは鋪、ないもの(1枚もの)は枚とした。
- 7 整理番号は、今回新たにこれを付与した。
- 8 本目録は研究部渡辺浩一がこれを担当し、学術情報課の岡崎佑也がこれを補佐した。文書の目録データの作成にあたっては、大銃地駿佑、黒滝香奈、菅原一の各氏の協力を得た。

総 目 次

口 絵

凡 例

総目次

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その14）本文細目次	1
解題	8
1. 伊勢町八田家文書の伝来と編成記述の方針	8
2. 機能と組織の概要―出所の歴史	9
3. 文書群の階層構造と内容	11
文政4年八田家所有地一覧（松代藩領内分）	18
八田家関連村々一覧	19
天保・弘化期八田家年季奉公人一覧	20
伊勢御師廣田筑後関係人物一覧	23
伊勢町八田家系図	24
木町八田家系図	26
目録本文	28
内方	28
店方	98
町方／町年寄	100
松代藩御用	101
糸会所	103
産物会所	104
松木家	110
混入文書	141
既刊目録に見られる八田家文書群の階層構造一覧	142

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その 14）本文細目次

1. 内方	28
1.1. 系図・親類書	28
1.1.1. 由緒	28
1.2. 相続・家督・隠居	28
1.3. 家族・奉公人	28
1.3.1. 増田徳左衛門家勝手向き立て直し	28
1.3.2. 婚姻	29
1.3.3. 鉄之助	30
1.3.4. 八田喜兵衛	30
1.3.5. 人名	30
1.3.6. 奉公人給金	31
1.3.7. 書状	31
1.4. 親類	31
1.4.1. 書状	31
1.4.2. その他	33
1.5. 家政	33
1.6. 藩への上納金・才覚金	33
1.7. 藩関係	33
1.7.1. 御目見・御入・拝領	33
1.7.2. 勤務	34
1.7.3. 藩士との交際	34
1.7.4. 諸伺・諸届	35
1.8. 町関係	35
1.9. 給人格取立・扶持加増	35
1.10. 土地経営	36
1.10.1. 持地・抱屋敷絵図	36
1.10.2. 買取・質取	37
1.10.3. 売渡	37
1.10.4. 小作年貢取立	37
1.10.5. 年貢諸役上納	37
1.10.6. 米・桑売渡	38

1.10.7. 土口村	38
1.10.8. 矢代村	38
1.10.9. 鹿沢温泉・山野湯温泉	39
1.10.10. 東寺尾村	39
1.10.11. 牧内村	39
1.10.12. 山林	39
1.10.13. 堤普請	40
1.11. 金融	40
1.11.1. 借入金・預金	40
1.11.2. 貸付金	41
1.11.3. 無尽	48
1.11.4. 貸付金返済滞り	54
1.11.5. 質地	55
1.11.6. 伊勢山田御師広田筑後一件	55
1.11.7. 貸借金	61
1.12. 飯山領	62
1.12.1. 無尽	62
1.12.2. 訴訟	62
1.12.3. 貸付金	62
1.12.4. 音信	63
1.12.5. 藩御用	63
1.13. 岩村田領	63
1.13.1. 御勝手御用	63
1.13.2. 仕送金	64
1.13.3. 貸付金	65
1.13.4. 無尽	67
1.13.5. 訴訟	68
1.13.6. 音信	69
1.14. 金銭・穀物請払	70
1.14.1. 金銭請取	70
1.14.2. 穀物・諸品請払	71
1.14.3. 金銭払方	72
1.14.4. 金銭勘定	72
1.15. 賄	74
1.15.1. 諸品請払	74

1.15.2. 移送	75
1.16. 勝手向	75
1.17. 儀礼	75
1.17.1. 節句	75
1.17.2. 成人	75
1.17.3. 来訪	75
1.17.4. 贈答・進物	75
1.17.5. 婚姻	76
1.17.6. 葬儀・法事	77
1.17.7. 先祖供養	77
1.17.8. 宴会	78
1.17.9. 年賀状	78
1.17.10. 加増	78
1.18. 旅	78
1.18.1. 社寺参詣	78
1.18.2. 入湯	79
1.18.3. 経費	79
1.19. 寺社	79
1.19.1. 寺社奉加	79
1.19.2. 浄福寺無尽	80
1.19.3. 菩提寺浄福寺	80
1.19.4. 高野山明泉院	80
1.19.5. 和合院	81
1.19.6. 松代練光寺	81
1.19.7. 海野宿奥善寺	81
1.19.8. 良性院	82
1.19.9. 諸寺社	82
1.19.10. 水銭	83
1.20. 家財	84
1.20.1. 武器	84
1.20.2. 衣類・諸道具・書画ほか	85
1.20.3. 諸道具貸出	86
1.21. 見聞・風説書	88
1.22. 諸情報	88
1.23. 諸芸	89

1.23.1. 武芸・文芸	89
1.23.2. 茶の湯	90
1.23.3. 学芸	91
1.23.4. 手習	91
1.23.5. 俳句・和歌	91
1.24. 諸家交流	91
1.24.1. 音信	91
1.24.2. 礼状	92
1.25. 書状類	92
1.25.1. 依田市右衛門関係	92
1.25.2. 経営	93
1.25.3. 相談	93
1.25.4. 依頼	94
1.25.5. 連絡	94
1.25.6. 封紙のみ	96
1.26. 諸書類	96
1.26.1. 沢守禮ほか印書関係	96
1.26.2. その他	96
1.27. 吹直金銀引替	97
2. 店方	98
2.1. 酒店・酒造方	98
2.1.1. 酒店勘定	98
2.1.2. 酒造米	98
2.2. 呉服店	98
2.3. 油店	98
2.4. 醤油店	99
2.5. 赤倉松井店	99
3. 町方 / 町年寄	100
3.1. 諸役・貢税	100
3.1.1. 明治期貢税取調	100
3.2. 講	100
3.3. 触書写控	100
3.4. 町政	100
3.5. 祭礼	100
4. 松代藩御用	101

4.1. 川船会所	101
4.1.1. 通船免許	101
4.1.2. 飯山一件	101
4.1.3. 中野一件	101
4.2. 融通米世話	101
4.3. 椀類挽物問屋	102
4.4. 飛脚会所	102
4.5. その他	102
5. 糸会所	103
6. 産物会所	104
6.1. 拝借金	104
6.2. 会所貸下金	104
6.3. 冥加金	104
6.4. 蚕種・生糸売買	104
6.5. 金銭請払取調勘定	105
6.6. 褒賞	105
6.7. 産物無尽	105
6.8. 産業統制	105
6.8.1. 陶器竈場	105
6.8.2. 蚕種・絹紬	105
6.8.3. 杏仁	106
6.8.4. 葉草	106
6.9. 大坂交易	106
6.10. 江戸での取引	107
6.10.1 諸品	107
6.10.2 売捌代金滞り	108
6.11. 麻売買	108
6.12. 明礬江戸送り	108
6.13. 会所運営	108
6.13.1. 賄い領収書	108
6.14. 川船会所	108
6.15. 用状	108
7. 松木家	110
7.1. 松代藩士	110
7.2. 藩勤役	110

7.2.1. 御警衛方御番士	110
7.2.2. 御吟味役	110
7.2.3. 銃兵小隊長	111
7.2.4. 役職不明	112
7.3. 護国隊	112
7.4. 御賞典	115
7.5. 教育職	115
7.5.1. 教授	115
7.5.2. 訓導	115
7.6. 求職 / 上京	118
7.7. 家経営	119
7.7.1. 借金	119
7.7.2. 貸付金・無尽	121
7.7.3. 株	122
7.7.4. 金銭授受	122
7.7.5. 金銭勘定	123
7.7.6. 諸品請払	123
7.7.7. 土地・建物	124
7.7.8. その他	124
7.8. 教育	124
7.8.1. 手習	124
7.8.2. 董宣	124
7.8.3. 董隆	129
7.9. 家族	131
7.9.1. 董正（源太郎・源八）	131
7.9.2. 長（てふ・ちやう）	131
7.9.3. 栄太郎	132
7.9.4. 董宣	132
7.9.5. 董隆	132
7.9.6. 姉妹	133
7.10. 親類	133
7.11. 作成者不明	133
7.12. 縁談	134
7.13. 交際	135
7.13.1. 挨拶・連絡	135

7.13.2. 贈答	136
7.13.3. 依頼	137
7.13.4. 接待	137
7.13.5. 購入	138
7.14. 文芸	138
7.15. 情報	139
7.16. 寺社	139
7.17. 法事	140
7.18. その他	140
8. 混入文書	141
8.1. 下総国相馬郡藤代村飯田家文書	141
8.2. 下総国北相馬郡	141
8.3. 陸奥国白河郡栃本村根本家文書	141

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その 14）解題

文書群記号 28B

文書群名 信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書

年 代 宝暦 8 年 (1758) ～明治 15 年 (1882)

数 量 1521 レコード

1. 伊勢町八田家文書の伝来と編成記述の方針

伊勢町八田家文書は、信州松代城下町における御用商人かつ町役人の文書群である。出所の八田家は宝永 6 年 (1709) より現在に至るまで、信濃国埴科郡松代伊勢町（長野県長野市松代町）に存在している。1953 年に文部省史料館に譲渡された。受け入れ時に冊子形態と単葉形態に分離し、単葉形態は縦紙文書、切紙文書の順に配列された。これは現在では明らかに間違った整理方法である。

受け入れ後は仮目録で閲覧に供していたが、1985 年に目録（その 1）が刊行された。以下、各目録刊行年と収録閲覧番号を示す。

その 1（第 41 集、1985 年）	請求番号あ 1 ～ 3411（中性紙箱 74 箱分）
その 2（第 48 集、1989 年）	請求番号い 1 ～ 1046（中性紙箱 10 箱分）
その 3（第 50 集、1990 年）	請求番号う 1 ～ 937（中性紙箱 7 箱分）
その 4（第 94 集、2012 年）	請求番号え 1 ～ 870
その 5（第 96 集、2013 年）	請求番号え 871 ～ 1342、2289 ～ 2295
その 6（第 97 集、2013 年）	請求番号え 1343 ～ 1751
その 7（第 99 集、2014 年）	請求番号え 1752 ～ 2053
その 8（第 101 集、2015 年）	請求番号え 2054 ～ 3435
その 9（第 102 集、2016 年）	請求番号え 3436 ～ 4023
その 10（第 107 集、2017 年）	請求番号え 4024 ～ 4208
その 11（第 108 集、2018 年）	請求番号え 4209 ～ 4454
その 12（第 111 集、2019 年）	請求番号え 4455 ～ 4525
その 13（第 113 集、2021 年）	請求番号え 4526 ～ 4600

（その 2）までが主として冊子形態、（その 3）以後が主として単葉形態文書の目録になっている。現在は、切紙文書の束の連続という状態になっている。

以上のような物理的状況を前提として、ここ数年の八田家文書目録における編成記述（わかりやすくいえば整理）方針を以下に述べる。ただその前に、最近の関連図書ではあまり強調されなくなった、

アーカイブズ学の四つの基本原則をここで再確認しておきたい〔国文学研究資料館史料館 2003〕。

- ①出所の原則
- ②原秩序尊重の原則
- ③原形保存の原則
- ④記録の原則

以上の原則のうえに、出所の機能および内部組織・関係組織に応じて資料群の階層構造を分析し、検索手段に反映させるというのが通称国立史料館（国文学研究資料館に附置された史料館）以来の編成記述方針である。

本目録は形態上単葉文書がほとんどであるので、そうした形態上の特徴に応じた整理方針は以下の通りである。

その 11 の解題にも記した通り、束になっている切紙を主とした文書のカタマリは、後述のように、束のなかに出所を伊勢町八田家としない文書が含まれているケースが今回も 3 束あった。これは、1950 年代の文部省史料館では出所の原則が必ずしも厳密に守られていなかったことを示している。記録史料群の編成記述のために重要な点は、このことが、少なくともこの 3 束に関しては、文部省史料館が受け入れたのちに形成されたことを示しているということである。また、文書の束は、そこに含まれている文書の内容が多様であり、束ねた意図を図りかねるものが多い。このことから、束の大部分は文部省史料館で形成されたのではないかという疑いがますます強くなっている。

そのため、検索手段上では束の配列を無視して、八田家の内部組織とその機能に即して設定した編成（わかりやすいえば分類項目）のなかに、ばらばらに配列した。なお、束のなかに含まれる束に関しては、同一の機能に即して授受作成された文書の数点のカタマリである場合が多いので、束としてまとめて配列した。

2. 機能と組織の概要―出所の歴史

記録史料群としてのアーカイブズを編成記述するためには、まずもって出所の機能と内部組織の分析が必要である。これは今までの解題で十分になされてきたが、いずれも詳細に過ぎ、全体像が捉えにくくなっている。そこで本目録では必要最小限の情報を絞って、八田家の機能と内部組織・関係組織の略述を行う。

松代伊勢町八田家は、木町の本家から宝永 4 年（1707）に分家し、同 6 年に伊勢町に居を定めたことによって始まる。以下、八田家の歴史を、後述の文書群の階層構造に関連する事項に限って簡潔に略述する。そのポイントは、八田家の内部組織とその機能、および内部組織以外の諸機能である。記述内容は過去の 13 冊の目録解題に全面的に依拠する。

八田家の機能は、第一に酒造と呉服を中心とする商業である。主要な経営部門が六つあり、それらを統括する内部組織として内方（うちかた）が置かれていた。内方は家政機関でもあった。内方には二つめの機能として地主としての土地経営とそれに密接に関連する金融もある。

内方が統括していた六つの経営部門は以下の通りである。

酒造方は、名称の通り酒を醸造し販売するという機能を持っていた。天保4年(1833)時点の支配人は和七である。本店と出店に分化しており、それぞれ鏡屋町と中町にあった。

呉服店(たな)は角店ともいい、呉服を仕入れて販売することが機能であった。古着も扱っていた。酒造方と呉服店はかなり早い段階から存在したようである。

油店は寛保3年(1853)には既にその存在が確認される。油と醤油を取り扱っていた。

醤油店は、味噌・醤油の醸造・販売を機能とする。文政初年に中町と錦町に開設された。

*ここまで出てきた鏡屋町・中町・錦町は松代城下町町人地の個別町の名称である。

質店は、金融業である。内店の金融機能が発展して寛政期に設置された。ただし、その後も内方の金融機能は失われていない点は注意を要する。支配人は天保4年時点で勝之助である。

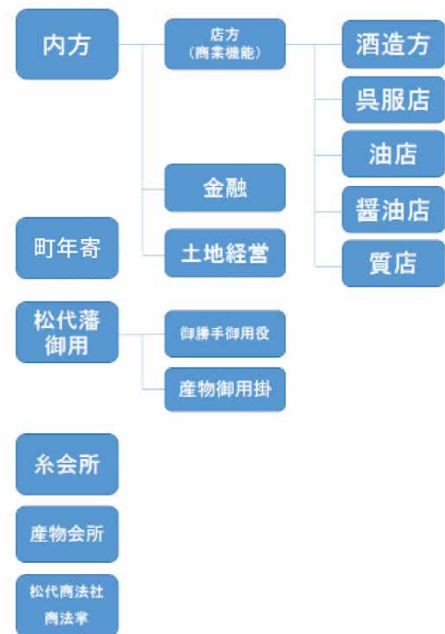
八田家の機能の第二は行政機能である。八田家の当主は宝永6年(1709)の伊勢町での営業開始と同時に町年寄(まちどしより)に就任している。町年寄とは、松代城下町町人地八ヶ町全体を統括する役職である。以後八田家の当主は代々町年寄を勤めた。

八田家の第三の機能は、松代藩御用である。八田家は初代孫左衛門の時期から松代藩に御用金上納を継続的に行った結果、享和2年(1802)に三代目当主孫左衛門は給人格御勝手御用役を命じられた。文化13年(1816)には四代目当主嘉右衛門が産物御用掛に任命され、松代藩の産業政策に深く関与することになる。このことが八田家の第四・第五の機能と組織を派生させることとなる。

以上が純粹に八田家内部の機能と組織である。以下は八田家外部の人間も加わった組織、糸会所(第四の機能・組織)と産物会所(第五の機能・組織)について述べる。

糸会所は、文政9年(1826)に設立された。その取締役には産物御用掛を勤めていた四代目当主嘉右衛門が任命され、惣元方にも一族(別家)の八田喜兵衛・同辰三郎が任命された。また、会所の建物は惣元方喜兵衛の役代(当主に代わって公的行為をする奉公人)惣兵衛の屋敷の一部を借りたものであった。したがって、糸会所の責任者は八田家の当主であるが、副次的責任者は一族すなわち伊勢町八田家の外部の人間であり、場所も伊勢町八田家の所有地ではないところにあった。半ば外部の組織である。その機能は、藩と城下町商人からの資金を生糸生産者に貸与し、生産された生糸を販売することであった。

産物会所は天保4年(1833)の設立である。幹部の人的構成は取締役が八田嘉右衛門、元方が八田喜兵衛・辰三郎であり糸会所と基本的に同じである。五代目当主嘉助・六代目当主慎蔵も産物会所掛に就任している。また、産物会所掛役人として松代藩の家臣が8名加わっている点が特徴的である。した



がって、この産物会所も糸会所と同様に八田家の内部組織ではなく、外部の組織である。産物会所の機能は、領内産業の育成と統制、さらに産品の領外への移出である。具体的には産物助成金の貸し下げ、鑑札の発行と冥加金の徴収、産物取引をめぐる調停機能である。取り扱った産物としては、絹紬・甘草・杏仁などがある。

さらに、明治2年には六代目当主慎蔵は松代商法社の商法掌に任命され、その経営に参加したものとみられる。しかし、八田家はこの組織に関しては中心的な存在ではない。

以上略述した八田家の機能と組織を図示すれば図のようになる。

3. 文書群の階層構造と内容

以上の八田家の機能と組織の把握に基づき、1521 レコードの文書に対して細目次のような編成をほどこした。全体的な特徴は書状が非常に多いことである。試みに「書状」で検索をかけると 789 セルという結果が出る。約半数が書状とみてよい。書状以外のものも含めて、月日は記されても年代が記されないことが多く、作成者と宛先を欠くものも非常に多いため、目録編成は困難を極める。

「各項目に所属させた文書から業務のプロセスを説明することは難しい」と目録(その 11)に書いた。本目録に登録した文書はますます断片的なものになってきており、同じ小項目のなかでも相互の関係が不明なものが大半である。以下、この点を含めて編成の意図をいくつかの点に絞って説明する。

(1) 内方

内方に所属させた文書は、狭義の家および土地経営・金融等の経営活動その他に関わる文書である。

文政7年(1824)に文書袋に示された八田家の文書整理方針が興味深かったので、ここに紹介する(え 4634-1、口絵写真 1)。

(袋上書)

「泰全様御代筆筒御入置被為在候印書并古差引書荒々見調候処、一向当節入用有之候紙面不相見候得共、是迄被差置候儀二付、其儘若斯残置申候事

文政七申年三月

知義」

冒頭の泰全様とは三代目八田孫左衛門のことである。作成者の知義は四代目嘉右衛門。1824年に彼は先代が筆筒に入れておいた書付や古い差引書を大雑把に調べてみたところ、全く現在は必要な文書とは見えないけれども、今まで置いていたので、そのままこのように残しておく、という意味である。このように不用と判断した文書であっても、廃棄せずにそのまま保持し続けるという文書管理方針が明言されている。しかも、その理由は単に今まで持ち続けていたからという極めて単純なことである。恐らくその後も、さらに近代になってもこの文書管理方針は変わることがなかったのであろう。「不用」と記された文書袋がこれまでも多数確認されていることから、このように推測している。

この方針のおかげで、目録(その 11)以降に多数登録されているような、通常の家文書群では見ることができないような史料を現在の私たちは見ることができる。

なお、この袋は文書を束ねるために用いられていたため、袋のなかに 1824 年時点でどのような文

書が収納されていたのかは不明である。階層構造のなかの位置づけとしては中項目「家政」に入れておいた。

脈絡のない書付類の連続ではあるが、小項目「扶持加増」には、天保7年の飢饉にあたって粥施行を行ったことに対する褒章として、天保8年12月に御切米30俵を下付され、それに対して八田嘉右衛門がお礼として青銅30疋を進上したことに関する8通の書状がある(え4614)。

以下は、点数が多い小項目のみコメントする。

「金融一貸付金」には100点以上所属させた。かつてこの小項目の代表的な文書は借金証文であったが、少なくとも本目録に関しては、武士も含む多様な人々が八田家に借金を願ったり、借金後の様々な事柄について書かれた書状や、利子の計算をしている書付など、借金証文が取り結ばれる前と後に発生する文書である。

「金融一無尽」も約90点と多い。これも書状が多く、内容的には無尽への参加勧誘や、無尽会合の連絡といったもののほか、無尽への出資と受取金の差引計算書などなど無尽関係の多様な書付類である。

「伊勢山田御師広田筑後一件」約70点。この一件に関しては、目録(その13)の解題を参照。ここもほとんどが書状であり、年代不明であることもあいまって、一点ごとに読んでも意味不明の場合が多い。この一件の経過を詳細に跡付けることができれば、それに照応する書状が内容から発見されることになるだろう。

「風聞」のなかの、え4636-1は、大項目「松木家」に属するものかもしれない。松木家の当主源八は幕末期に幕長戦争に従軍して大坂に滞在しているからである(後述)。

(2) 産物会所

中項目「大坂交易」13点。これも書状が多い。え4635は嘉永3年の年代がある文書があつて、内容が相互に関連するように見受けられるため、全て嘉永3年の史料である可能性が高い。従来の目録では時期によって小項目に細分化している。しかし、他の3点は年代不明であるために、本目録では中項目以上には細分化しなかった。それでも、嘉永期に大坂の商人である炭屋孫兵衛らが八田家役代である菊屋伝兵衛に対して、産物会所の活動に多様な提案を行っていることが判明する。特に、甘草をこれから大坂に売り込もうとしていることがわかり興味深い[荒武2008]。

(3) 松木家

この伊勢町八田家文書のなかには、出所が八田家でなく、松木家と思われる文書が含まれている。この点は目録(その3)で既に気づかれていたが、目録(その11)以後、多数収録することになった。今回の目録では、松木家文書が三分の一近くを占めることになったので、新たに判明した点も含めて、松木家という原出所の歴史について以下詳述したい。

寛政2年(1790)の松木薫胤(嘉吉)の花押鑑定書(え4389-50)、薫胤の和歌詠草(え4388-15～19)がある。『真田家中明細書』(290頁)によれば、松木源八という藩士が知行高160石であり、寛政2年に御番入している。通称が異なるため、嘉吉薫胤の次が源八であり、源八は諱が不明ということに

とりあえずしておく。

寛政期の松本源八は、天明5年7月19日家督、寛政2年11月15日御番入りのあと、郡奉行・職奉行・町奉行を歴任したのち、天保14年3月21日には寺社奉行に仰せ付けられている。

その次の代の松木東宗董は、同じく『真田家中明細書』によれば、知行高150石、天保9年閏4月8日御武具奉行、天保14年閏9月23日家督ののち御預所郡奉行などの諸役職を勤めた。慶応2年12月6日に死去した。

東の子が松本源八董正である。本目録の大項目「松木家」に登録された文書のほとんどが、この人物に関わるものであるので、以下詳しい経歴を記す。

天保元年2月	松木董正誕生〔戸倉村小林家文書 7-19/334-1〕
天保10年正月	松本源太郎（のち源八・董正）が読書出精により「近思録」「孝経」を下賜される〔え 4645-30〕
嘉永5年8月15日	松本源太郎、御番入
安政2年9月1日	<u>松本源太郎、源八と改名</u>
元治元年7月24日	御警衛方御番士 （慶応元年5月21日免、帰番）〔え 4632-2〕 （この間、幕長戦争の関係からか大坂にも滞在）
慶応2年11月10日	御吟味役
慶応3年正月27日	家督（知行高150石）
慶応4年2月7日	御物頭御足輕奉行兼帯
慶応4年2月29日	甲州へ出張を仰せ付けられる 〔「諸士明細書・履歴稿 第五」〕 （この頃、甲州で官軍の 護国隊 士として戊辰戦争に従軍）
慶応4年閏4月5日～24日	一時帰国 〔「諸士明細書・履歴稿 第五」〕
明治元年11月7日	松本源八、甲斐府御雇護国隊長を命ぜられる〔え 4606-21-2〕
明治2年3月19日	病気のため帰国 〔「諸士明細書・履歴稿 第五」〕
明治2年12月25日	銃兵小隊長
明治2年12月	水原県（新潟県）戊守として出張
明治2年12月30日	御賞典 10石
明治3年6月13日	新潟県から帰国
明治3年6月24日	文学二等 教授 （松代藩）〔え 4632-1〕
明治4年8月23日	松本源八、文学教授（松代県）〔え 4632-3〕
明治4年11月	廃県につき長野県貫属を仰せ付けらる 〔「諸士明細書・履歴稿 第五」〕
明治6年10月	<u>松木董正</u> 、一等 訓導 仮免状〔え 4632-7〕
明治7年12月	准四等訓導申付〔え 4645-33-2-4〕
明治9年2月	准四等訓導、教寛学校在勤申付〔え 4645-33-2-6〕
明治11年6月	正二等準訓導、海津学校在勤申付〔え 4645-33-2-5〕

明治 15 年 2 月 4 日

公立共進学校准訓等認可 [埴科郡戸倉村小林家文書 7-19/334-1]

明治 15 年 7 月 11 日

外務省雇記録局編纂課勤務申付 [え 4514-5、埴科郡戸倉村小林家文書 7-19/334-4]

以上のように、松木董正源八に関しては、個人の経歴が『真田家中明細書』（東京大学出版会、1986 年）、「諸士明細書・履歴稿 第五」（真田宝物館所蔵 16-2-4）、埴科郡戸倉村小林家文書（長野県歴史館所蔵）によって詳細に明らかにすることができた。幕末維新期をはさみ、非常に個性的な経歴であるため、近現代個人文書の編成方針—経歴からシリーズやサブ・シリーズを設定する—[加藤 2014] に則り、中項目と小項目を設定した。なお、上記年表のなかで項目に採用した役職名などをゴシックで表した。

中項目「松代藩士」は、次の中項目「藩勤役」以外の松代藩士として授受作成した文書を収録する項目として設定した。ここでは源太郎（源八董正の幼名）が 11 歳にして読書出精を褒章された文書のみであるが、より多様な文書が今後出てくることを想定してのことである。

二番目の中項目「藩勤役」には、上記の経歴に従って、「御警衛方御番士」「御吟味役」「銃兵小隊長」を設定した。

「御警衛方御番士」としての彼の主要な動きは、幕長戦争（いわゆる「長州征伐」）に従軍して大坂に滞在していたことである。その期間は、元治元年（1864）7 月 24 日から慶応元年（1865）5 月 21 日までに限られているから、大坂からの書状は年を欠いていても日付から年代比定がほぼ可能である。本目録では、源八から父親の束にあてた長州藩の情勢を伝える書状、また五代目八田慎蔵から大坂の源八にあてた大坂の儒者の書を依頼する書状などがこの項目に入る。さらに、妻の長からの書状も源八がこの役職として大坂に派遣されたから書かれたという意味でこの項目に入れておいた。目録（その 11）以来いくつか存在した大坂からの書状も、出所の機能に照応した文書群の階層構造という考え方に従えば、全てのこの小項目に属することとなる。

小項目「御吟味役」は、大坂から慶応 2 年 11 月 10 日に同役を命じられてから慶応 4 年 2 月 29 日に甲府に出発するまでの期間に書かれたと思われる文書を収めた。え 4617-9 は、源八が名古屋行きの目付を含む公的な一団に加わることを希望したが叶わなかったことがわかるだけではあるが、作成月日の 2 月 15 日が慶応 4 年であるとすれば、2 月 12 日に尾州藩主徳川慶勝より「朝命」により重役一人を尾州に派遣せよとの命令に応じて、同 16 日に家老・郡奉行・目付役が松代を出発したという『松代町史』上 436 頁の記述と平仄が合うと判断し、源八の御吟味役就任時期に彼が受け取った書状と仮定してこの項目に入れた。

次の中項目は「護国隊」である。藩での役職は御吟味役のままである可能性が高いが、護国隊は官軍側の諸隊の一つであり、護国隊長任命書や命令書は鎮撫府参謀から出ているから（え 4573-9,11,15、目録その 13 所収）、少なくとも指揮命令系統は松代藩ではない。そのため、「藩勤役」とは独立した中項目として設定した目録（その 13）の判断は正しい。慶応 4 年 2 月 29 日の松代出発から明治 2 年 3 月 19 日の帰国まで、主として甲府に滞在していた時期の文書を入れた。これもわずかに 13 か月という短い期間であるため、甲府からの書状はほぼ全て年代比定が可能である。宛先は息子と思われる栄太郎であることが多い。え 4606-7 のような自分の戦争体験が書かれることもある一方、え 4606-25 のよ

うに松代での無尽について指示している書状もある。

四つ目の小項目「銃兵小隊長」には、明治2年3月19日の帰国後の軍事関係の書状がある。この役職の時期のなかでも明治2年12月から明治3年6月13日までは水原県（新潟県）に戌守として出張しており、既刊目録に見られるこの期間の越後からの源八書状は全てこの小項目に位置付けられることになる。これもわずか7か月であるため、年代比定が可能となる。

中項目「御章典」は、戊辰戦争の勲功として永世高を付与する通知のほか、それをめぐる書状を入れた。

次の中項目「教育職」には「教授」と「訓導」という小項目を設けた。このなかで6月24日付の任命状は松代藩の藩校の教授と思われ、明治4年8月23日の任命状は廃藩置県後の恐らく同一の学校の教授職の任命状であろう。厳密に言えば前者は「藩勤役」に属するのではあるが、職の共通性の方を重視して同じ「教育職」として括っておいた。

もう一つの小項目「訓導」は、言うまでもなく新しい教育制度のもとでの役職である。上述の経歴に書いたように、教寛学校在勤申付書（え 4645-33-2-6）、海津学校在勤申付書（え 4645-33-2-5）、公立共進学校准訓等認可書（埴科郡戸倉村小林家文書 7-19/334-1）が現存しており、少なくとも三つの学校の訓導を勤めたようである。しかし、年代不明で当事者にしか理解できない内容の書状がそれなりにあり、どの学校に属するものか判断できないものも多いため、これ以上細分化していない。また、内容的には学校規則をめぐる書状が多い。その理由は、明治12年12月2日付で「海津学校教員松木董正」は長野県埴科郡郡役所から「小学教則更生議事」に選出されているからである（え 1443）。この史料は目録（その6）に登録され、大項目「内方」—中項目「学校」に所属しているが、この中項目には学校規則関係のものも多い。「松木家」に所属すべきものであった可能性がある。もっとも、師範学校規則などは息子の董隆が在学していたために松木家に残されたものである可能性もあり、細かなところでは区別がつかない。なお、理論的には「訓導」とは別に「小学教則更生議事」という役職名で小項目を立てることも考えられるが、両者の文書は区別がつかないものも多いため断念し、全て「訓導」に含めることとした。とはいえ、全てが訓導職に関わるものであるかどうかは確証がない。学校や教育に関係する内容が含まれている文書をここに所属させている。

さて、松木董正は明治15年7月に外務省に職を得ている。ただし、その前に上京しているようであり、作成者が誰かはわからないけれども職探しをしている内容を持つ書状もある。え 4514-36-2, 4514-37（目録その13所収）からすればそれは立田革という人物かもしれない。それらを、董正が職探しをして上京し職を得たことに関係するものと判断して、一括してこの中項目に所属させた。

中項目「家経営」。全て断片的な文書であるが、小項目として「借金」「金銭授受」「諸品請払」「株」「金銭勘定」「土地・建物」「貸付金・無尽」に分けた。ただ、借金証文や会計帳簿といった中核的な文書は少なく、そうした経済的行為に伴ってやりとりされた書状類が中心である。

中項目「教育」の中心部分は、董正の子供である董宣と董隆という兄弟が、進学のため東京へ上京していることに関する書状類である。え 4615-20からは、董隆が父に向って「兄上」と表現している人物は、「進級」という内容から見て董宣のことと推測される。したがって、董正が兄、董隆が弟と推

測する。え 4606-3 では、源八から栄太郎と隆次郎あての手紙のなかで、「隆次郎は弟だから」という表現もある。栄太郎が兄、隆次郎が弟と推測される。したがって、明確な根拠をまだ見出していないが、幕末維新期の栄太郎が明治期の董宣、隆次郎が董隆と想定している。内容的には、勉強の進捗状況や試験・成績のことが前半にあり、後半では学資の無心をする書状が多いように感ぜられる。小項目としては差出人を設定し、二人の連名の書状は「董宣」に属させた。

董宣の経歴はよくわからない。東京の「東洋学舎」を住所とする書簡が3通あり、うち1通は明治11年12月11日付である(え 4618-29)。「東洋学舎」が学校であるのか寄宿舎であるのかはにはわからない。ついで、短くとも明治12年3月11日(え 4618-14)～同14年3月9日(う 47)の期間は東京府第一中学校に在学していることが確実である。その後も東京で生活していたことは書簡の住所からわかる。

董隆は、明治12年5月3日には松代に住んでいる(え 4618-15)。明治12年11月11日に長野師範学校に入学したと父董正に伝えており(え 4615-52-2)、え 4593-14(目録その13)からは師範学校の生徒であったらしいことはわかる。兄の東京府第一中学校入学後に、彼も中学校進学を志望していたことが判明し(え 4593-19)、また、彼は明治13～15年ごろに兄とともに東京で暮らしていたことはいくつかの書簡から窺える。

董正の二人の息子の経歴は以上の通り部分的にしか判明しないため、それぞれの経歴にしたがって項目を編成することは不可能である。中項目「教育」のなかの小項目は作成者別にしておくというやむをえざる処置となった。

中項目「家族」は、他の中項目には該当しない家族間の書簡を入れた。「董正(源太郎・源八)」[「長(てふ・ちやう)」]「栄太郎」「董宣」「董隆」と作成者別に小項目を立てておいた。栄太郎＝董宣との推測は確証が得られないため別項目とした。なお、松木董正源八の妻である長の書状は、実兄である六代目八田慎蔵あてのものが内方一親類一書状にも編成されている。作成者が同一であっても、こちらは八田家に蓄積された書状であり、松木源八あてのそれとは大きく位置づけが異なることに注意されたい。

(4) 混入文書

本目録でも、他の当館所蔵文書からの混入文書が三件合計3点見つかった。

一つ目(え 4605-57)は、下総国相馬郡藤代村飯田家文書のなかの一点である。この史料の作成者は「青柳村願人重兵衛」であり、同文書群は目録(その6)登録の文書(え 2212-1)が既に混入文書として認識されており、そこには「下総国相馬郡青柳村重兵衛」が出てくるため混入文書と確定できた。

二つ目(え 4643-2)は、「茨城県北相馬郡戸長役場」の罫紙が使用されているが、書状冒頭の五行が記されているだけであり個別情報がない。当館収蔵の北相馬郡の文書は、一つ目の文書群のほか、下総国相馬郡川原代村木村家文書があるので、そのいずれかからの混入文書であろう。

三つ目(え 4637-7)は、陸奥国白川郡栃本村根本家文書のなかの一点であり、作成者の「栃本村郷士格根本栄三郎」は同文書群の他の史料から、栃本組大庄屋であることが判明するため(28C/2138-1)、混入文書であることが確定できる。

これらはいずれも文書の束のなかの1点である。したがって、少なくともこれら3つの束は文部省史料館において束ねられたことが明確である。八田家文書の今後の整理作業にあたっては、混入文書へのより一層の注意が必要であろう。

[参考文献]

荒武賢一郎「松代真田家の大坂交易と御用場」(渡辺尚志・小関悠一郎編『藩地域の政策主体と藩政—信濃国松代藩地域の研究Ⅱ』岩田書院、2008年)

エリザベス・シェパード、ジェフェリー・ヨー共著、森本祥子・平野泉・松崎裕子編訳『レコード・マネジメント・ハンドブッカー記録管理・アーカイブズ管理のための—』(日外アソシエーツ、2016年、原著は2003年刊行)

加藤聖文「近現代個人文書の特性と編成記述」(国文学研究資料館編『アーカイブズの構造分析と編成記述』思文閣出版、2014年)

国文学研究資料館史料館『アーカイブズの科学』上・下(柏書房、2003年)

国立史料館編『史料館叢書8 真田家中明細書』(東京大学出版会、1986年)

鈴木景二「松代藩の家臣由緒書とその記録—『文政七年真田家家中出仕由緒書』—」(『松代』23、2009年)

西村慎太郎「商家文書の史料群構造分析」(前出『アーカイブズの構造分析と編成記述』)

(付記) 松木董正のところで用いた「諸士明細書・履歴稿」の存在を御教示下さったのは、真田宝物館学芸員山中さゆり氏である。記して感謝したい。

表 1 文政 4 年八田家所有地一覧（松代藩領内分）

区分	項目	面積 / 屋敷地数	備考
区分	項目	面積 / 屋敷地数	備考
御持地御高小作入御居屋敷 御抱屋敷間数貸賃付覚	御居屋敷	1 カ所	
	御添屋敷	1 カ所	
	御抱屋敷	1 カ所	
	東木町御抱屋敷	1 カ所	
	伊勢町御抱屋敷	4 カ所	
	下伊勢町西側御抱屋敷	2 カ所	
	西木町御抱屋敷	1 カ所	
	鏡屋町御抱屋敷	1 カ所	
	新西木町御抱屋敷	1 カ所	
	伊勢町東側御持屋敷	1 カ所	
	中町御抱屋敷	1 カ所	
	田町御下屋敷西続	1 カ所	
	町分	4 石 3 斗 4 升 8 合	
	田中村	2 石 5 斗 8 升 8 合	内、小作地 1 石 2 斗 7 升 2 合
	河原新田	2 石 3 斗 3 升 3 合	内、小作地 1 石 3 斗 3 升 3 合
	荒町村	15 石 4 斗 3 升 4 合	内、小作地 9 石 5 斗 8 升 6 合、手作 1 石 8 斗 4 升 8 合、および収納粉 4 合
	西条村	2 石 2 斗 6 升 4 合	すべて小作地
	馬場形御高請之場所	4 石 9 斗 4 升	すべて小作地
	東寺尾村	3 石 4 斗 1 升 7 合	内、小作地 2 石 5 斗 6 升 7 合、手作 8 斗 5 升 および東寺尾村地所砂溜り新田 1 割 21 坪余り
	東条村	28 石 6 斗 7 升 8 合	内、東条村北組無役本田木立 2 斗 1 升 6 合（小 作入粉 3 俵手作、残り小作地）、小作 22 石 5 斗 8 升 3 合、手作 6 斗 8 升 3 合
	鍊光寺御朱印地	4 斗 1 升 7 合 9 勺	すべて手作地
	東福寺村	6 石 8 斗 7 升 1 合	内、東福寺村畑方無役本田 5 石 9 斗 8 升（小 作入粉 35 俵手作、同 14 俵 3 斗小作）、その他 はすべて小作地
	清野村	5 石 4 升 4 勺	および起地所新田 1 割坪数 146 坪、坪御用地 冥加粉上納之場所此坪 34 坪（すべて小作地）
	大林寺御朱印	3 石 7 斗 1 升 6 合	すべて小作地
	西寺尾村御高辻之内岡神明	1 石 4 斗 9 升 1 合 6 勺	すべて小作地
	□（貼り紙により判読不 能）仮舟渡下土手外北添 草野	29 坪	
	□□（貼紙により判読不 能）舟渡道より東八番目 割開発	103 坪	すべて手作地
御取替金為引当御引請之分	光徳院分	6 石 8 升 4 合	明屋敷
	矢代村御高辻之内	22 石 3 斗 2 升 7 合 3 勺 1 才	無役本田
御高地木立	東条村南組	7 斗 4 升 5 合	
	牧内村	1 斗 5 升 4 合	すべて小作地
	平林村	2 斗 2 升 2 合	すべて手作地

区分	項目	面積 / 屋敷地数	備考
御持山	神主小河原紀伊殿	山高初 3 斗	小作入 1 俵 2 斗 5 升 (内 2 斗 5 升 小作 / 1 俵 手作)
	東条村南組	山高初 2 石 9 斗 6 升 5 升 7 合 5 勺	すべて小作地
	東条村北組	山高初 5 斗 4 升 9 合	すべて小作地
	平林村	山高初 3 斗 7 升	つくた山 1 斗 8 升 (手作) / 宮崎東富田山 1 斗 9 升 (小作地)
	荒町村	山高初 1 石 3 斗 4 升 3 合 8 勺	内、小作山 5 斗 9 升 4 合 8 勺 / 手山 7 斗 4 升 9 合
	清野村	山高初 2 斗 4 升	すべて小作地
	土口村	山高初 9 斗 6 升	
	皆神山御分地山	山高初 6 斗 1 升	すべて小作地
淨福寺殿御引請之分	田中村	11 石 1 斗 3 升 9 合	および坪数新田畑 162 坪 5 合
松屋惣左衛門より引請之分	清野村	11 石 6 斗 2 升 2 勺	

出典：文政 4 年 10 月「御持地御高小作人入元帳」（整理番号あ 588）より作成。

表 2 八田家関連村々一覧

支配	村名
松代藩領	荒神町 伊勢町 上八町村 鏡屋町 鍛冶町 紙屋町 木町 小越町 紺屋町 肴町 柴町 新馬喰町 外田町 寺町 中町 西木町 馬喰町 東荒町 東木町 袋町 木町 会村 雨宮村 栗佐村 伊折村 泉平村 市村 入山村 岩草村 岩野村 新田 上八町村 上松村 牛嶋村 内川村 梅木村 大室村 加賀井村 上石川村 上平村 上高田村 上徳間村 北尾張部村 北郷村 北高田村 北平林村 清野村 杓野村 久保寺村 倉科村 黒沼村 桑根井村 郡村 小島村 五十平村 五十里村 五反田村 小納新田村 小堀村 小松原村 五明村 小森村 西条村 佐倉村 笹平村 里穂苅村 柴村 下小嶋田村 下水飽村 下宮野尾村 下横田村 新町村 関屋村 瀬戸川村 外鹿谷村 田中村 田野口村 丹波島村 力石村 地京原村 竹生村 土口村 綱島村 妻科村 東条村 東福寺村 長井村 中沢村 奈良井村 西寺尾村 布野村 念仏寺村 橋詰村 八丁村 羽尾村 東川田村 東寺尾村 久木村 平林村 広田村 布施五明村 布施高田村 古山村 牧内村 牧嶋村 真嶋村 町川田村 水内村 南堀村 宮野尾村 三輪村 森村 矢代村 山上条村 山布施村 湯田中村 吉田村 四ツ屋村 和佐尾村
幕領	井上村 寒沢村 権堂村 下戸倉村 中野村
幕領→松代藩預かり（文政四年）	山王嶋村
幕領・松代藩領	千田村 上野村
幕領・松代藩の相給→越後椎谷藩・松代藩の相給（寛政四年）	中御所村
飯田藩領	荒町
飯山藩領	浅野村 中條村
岩村田藩領	岩村田町 上丸子村
上田藩領	赤岩村 上田原町 海野宿 五加村
熊野出速雄神社領	皆神山
小諸藩領	離山村 綿内村 太仔町
善光寺領	後町村 善光寺
高田藩領	赤倉温泉 岩木村 御馬屋町
高遠藩領	弥勒村
久松栄之助知行所	祢津村

出典：『史料目録』第 102 集信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その 9）のうち「1.4. 土地経営」と「1.5. 金融」に登場する村を示した。

表3 天保・弘化期八田家年季奉公人一覧

No.	氏名・出自・年齢等	履歴
1	和七	天保六未年二月役代伝兵衛名目相勤候様申渡之、役料忝人扶持差遣候事 天保七申年凶作ニ付町方名主米穀□□(欠損)歎願ニ付融通米元方相勤候之様申渡候、右大儀ニ付戊正月被下帷子差遣候事 天保八申(ママ)年御巡見様御宿相勤候付伝兵衛上下御免被成下有之付同人罷出御セわ相勤候事 天保十□□(欠損)年八月暇差遣候得共、役代之儀者其俣申渡有之
2	数右衛門	(記載なし)
3	多七	(記載なし)
4	勝之助	享和年中迄長々相勤候ニ付東木町持地之内江家名差免、出店為致候伊七悴文化十五寅年二月質店江召抱候 文政七申年三月廿三日配人万吉退役ニ付跡役申渡之 天保十亥年十二月市兵衛与改名申渡之 同 十二丑年十二月酒店調申渡之 同 十三寅年二月酒店兵吉後見役申渡之 同 十五辰年八月質店相開候付支配人再勤申渡之
5	和作	(記載なし)
6	栄吉 善光寺西之門町 当辰十貳才 但同町古着中買喜助口入人	天保三辰年十月十五日質方江召抱候 同 六未年八月元服申渡之 同 七申年正月勢州代參申渡之 同 八酉年十一月四日久助与改名申渡之 同 十亥年呉服店之方相勤候様申渡之 同 十三寅年病氣ニ付宿下ケ致置候処養生不行届病死致候
7	米蔵 善光寺長野町 当未拾三才 但	天保六未年三月召抱候茶之間ニ而召遣 同 七申年二月質店江差遣 同 八酉年十一月酒店可相勤候様申渡之 同 十亥年十月廿五日元服申渡之 同 十一子年正月六日立代參相勤候様申渡之 同 十二丑年二月暇差遣し木町惣兵衛方江召抱ニ相成候事
8 ※	多助 善光寺撞堂村	天保六未年五月先年呉服店相勤候処、此節隠居致用向も有之候ハ、召遣呉候様深美甚十郎を以申聞付、質店勝之助手助之もの入用之段申上候付、雇同様ニ而召遣候、手充之儀者一ヶ年壹兩貳分宛差遣し候積り 天保十五辰二月角本より暇差遣事
9	丑蔵 中町松のや要左衛門悴 当申十三才	天保七申年二月十九日召抱質店ニ而召遣 但去未二月中目見致候へ共幼少ニ付宿下ケ当月より罷越 天保十一子年十月廿五日元服并佐助与改名申渡之 同 年五月中より呉服店相勤候様申渡之 同 十二丑年正月代參申渡之
10	清作 徳間村千左衛門子 当申十三才 但同村友吉口入人	天保七申年二月十九日召抱茶之間ニ而召遣 同 九酉年十月酒造方相勤候様申渡之 同 十二丑年二月暇差出し角本店江差置候事

No.	氏名・出自・年齢等	履歴
11	友吉 徳間村	<p>天保八酉年七月召抱候</p> <p>但此者召抱候儀今般産物方御手放ニ相成候付売買所被 仰付候、然ル処是迄産物品取扱候者無之候付此者御会所買次相勤居、此度御手段替之訳柄手前渡世ニ相成兼候儀ニ付、段々質店勝之助を以内願候付此方ニ而無人旁其段御会所江相伺、同居罷在候内川村清十一同召抱候、右ニ付一ヶ年妻子扶助金拾貳両宛手充致遣候筈取極、弥呉服商売出精相勤候上者、相当之手充金可遣趣ニ而召遣候事</p> <p>同 年十二月十五日急病ニ而角居ニ死去致候</p>
12	清十 内川村伊左衛門子 但右友吉召連成候者	<p>天保八酉年七月召抱候</p> <p>天保九戌年正月友吉死去ニ付跡支配申渡之</p> <p>同 二月上旬方注意廻りとして上京為致候</p> <p>天保九戌年中召遣下女之儀ニ付甚不都束之身持候得者、下女暇出候而内分致置候処其後速も置置候杯と風説有之候付、同十亥年正月利七を以心得方相尋候処無其訳詫書差出候付、向後中含候様申渡之差免置候事</p> <p>天保十二丑年角居産物商売而已ニ而者不都合人数も御座候付、呉服小売商売致候方可然見込ニ付、市兵衛申立其手段為取計候事</p> <p>同 十三寅年從 公義諸国一統御趣意被仰出、呉服品之内御差留之品等多分有之、仕入物之内損金ニ相立候由ニ而寅卯兩年棚卸調帳不差出候事</p>
13	春作 当酉十三才 徳間村左右衛門子	<p>天保八酉年七月友吉召遣居ニ付一同召抱候</p> <p>同 十一子年十月廿五日元服并正助と改名申渡之</p> <p>同 十三寅年正月代參相勤候様申渡之</p>
14	富吉 専納村八左衛門子 同人死失兄良助 当酉十貳才 但	<p>天保八酉年十月廿六日呉服店江召抱候</p> <p>同 元服申渡之</p> <p>同 十四卯年正月代參相勤候事</p>
15	莊吉 内川莊三郎子 当酉 但清十同村ニ付親召連	<p>天保八酉年十一月十五日右同断</p> <p>天保 元服申渡之</p> <p>同 十五辰年正月代參相勤候事</p>
16 ※	勇助	<p>天保九戌年六月中西條村藤吉親類之者商見習として召遣呉候様内願ニ付、其段召遣候事</p> <p>但酒店和作不都束之勤方ニ付宿下ヶ致候処跡役仕候間、九月中より跡役為相勤和七後見致候様申渡候事</p> <p>丑年中暇呉候事</p>
17 ※	甚助 稲荷山宿当丑	<p>天保十二丑年 月召抱角居ニ而当座等脚布商売相始為取扱度段申立、壹ヶ年金拾兩宛手充之極</p>
18 ※	定治郎 森村民之助子	<p>天保九戌年十一月召抱茶之間召遣候</p> <p>但亥四月暇差遣候事</p>
19	喜左衛門 大渡村	<p>天保十亥年二月年季ニ相極召遣候酒造方支配役</p> <p>但去申年二月より一季勤ニ而三兩貳分宛手充致、酒造方和七支配下江為相勤候処酉年酒造方振合相役候付支配役申渡、当二月中内願ニ付妻子扶助手充金差遣し年季ニ相極候事</p> <p>天保七申年違作ニ付酒造御差留御座候間、大瀧村重左衛門方ニ而出造可致内請候而同人江元メ役申渡罷下り候ニ付、袖嶋羽織一差遣候事</p> <p>天保十二丑年迄酒造方任置候処、丑十月酒蔵調申渡候得共勘定帳不差出候付、和七・市兵衛立合取調為致候処、以之外不勘定ニ而其上不都束之儀に多分候付、翌寅年段々相調当人より本帖等を以佐書差出候間、勘弁相加卯年二月暇差遣候事</p> <p>但当人引負金廿兩余手充之趣証文受取置候事</p>
20	彦市 当戊四十五才 越後国頸城郡春日新田出 塩屋新田村 当戊四十五才	<p>天保九戌年九月喜左衛門罷越召抱候者酒造方杜氏役一ヶ年金拾兩極</p> <p>天保十一子年十月中病身煩ニ付暇出し国元江差戻候事</p>

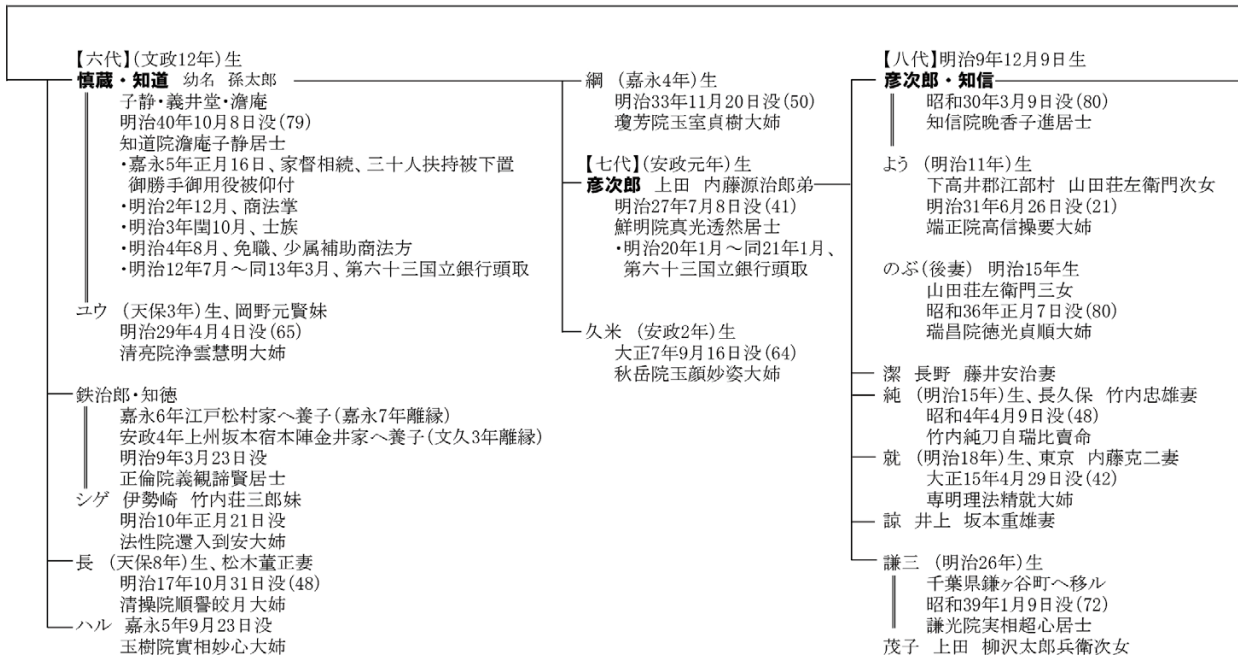
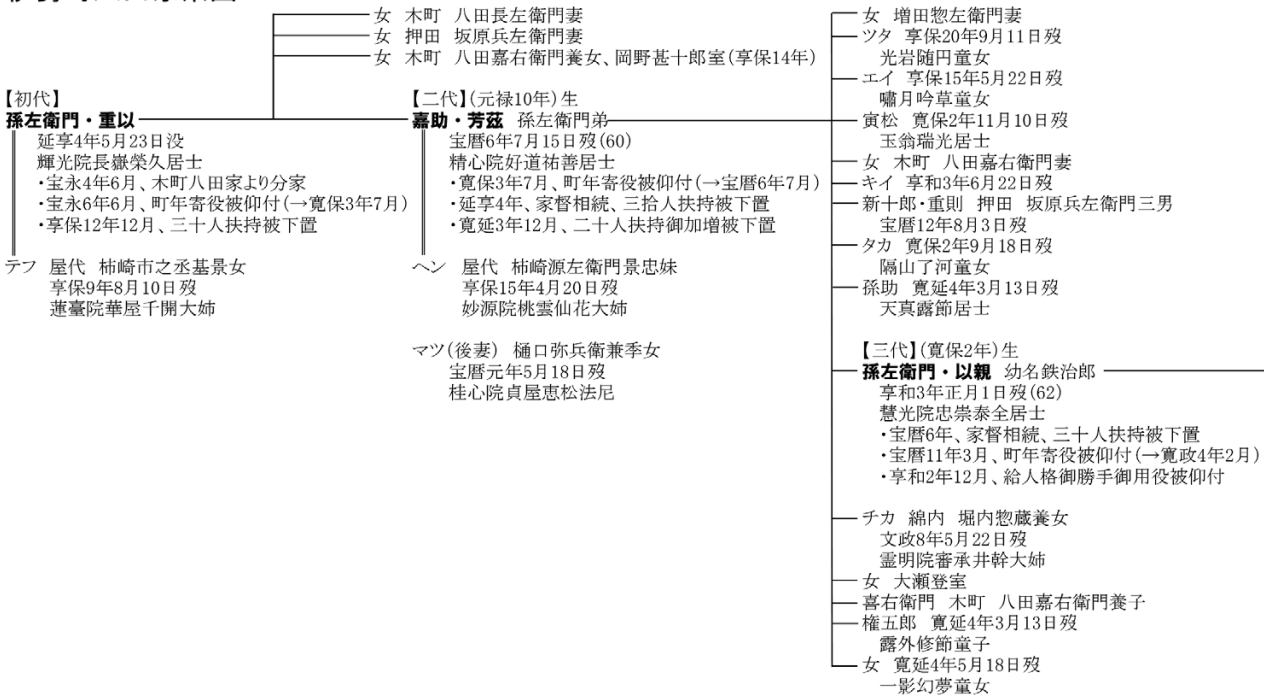
No.	氏名・出自・年齢等	履歴
21 ※	甚十郎	天保十亥年二月一季勤 但油店手段替候付仕入方之もの無之候付、喜左衛門口入ニ而召抱油仕入方為相勤候事、尤手充之儀者出精振ニ而相極差遣し候筈、質店多助同様之積り 子二月暇差遣之事
22 ※	儀助 当時江戸詰御安口下座見平治子 当亥十二才 但裏町安右衛門同人叔父ニ付召連 相願候付召遣候事	天保十亥年八月十二日為雇召遣候事 病身ニ付十月暇差遣候事
23	藤作 紺屋町藤吉子当寅十三才	天保十三寅年二月召抱候而呉服店ニ而召遣候事
24	大助 雨の宮村 当寅十貳才	天保十三寅年二月召抱候而呉服店ニ而召遣候事 天保十五辰年十二月中高崎布袋屋買役茂助江相願差遣置候事
25	栄吉 越後国頸城郡 当亥	天保十亥年九月彦市召抱来候者酒藏働役申付 同 十一子年十月より杜氏申渡一ケ年給金七兩貳分極 弘化二巳年正月勢州代參申渡之
26 ※	清五郎 越後国頸城郡杉沢村 当卯	天保十四卯年二月酒藏江召抱候 一季奉公壹ケ年給金貳兩宛極
27	兵吉 大室村 当亥	天保十亥年二月酒店江召抱候 同 十三寅年二月酒店支配喜左衛門跡役申渡之五ケ年季一ケ年衣束代金貳兩宛差遣年季明之上者、金拾五兩手充被下候取極
28 ※	音松 越後国杉沢村	天保十五辰年二月召抱候酒藏働 一季抱給金貳兩極 但巳二月暇差遣候事
29 ※	廣作 鬼無里村	天保十五辰年二月一季抱給金三兩貳分極 但巳二月暇差出候事
30 ※	政太郎 市兵衛村 当十三才 中町より雇人大助	天保十五辰年八月中質店相開候付召遣候
31	増七 中町栄八弟 当辰	天保十五辰年 月中より召抱候者 茶之間取次役申渡其後九月中役人源吉暇差遣候付右跡締等仮ニ申渡置候 弘化二巳年二月年季奉公ニ取極候事 但壹ケ年貳兩宛衣束代被下五ケ年明候節金拾五兩手充之極
32	長之丞 大室村 当巳	天保十五辰年七月中兵吉口入ニ而相雇酒店ニ召遣置申候 弘化二巳年二月五ケ年季奉公ニ召抱候 但壹ケ年壹兩貳分宛衣束被下年明候節金拾兩手充之極
33 ※	藤三郎 森村彦之助弟 当巳十五才	弘化二巳年二月牧内村庄吉口入ニ而召抱酒店ニ而召遣候事

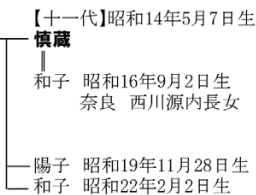
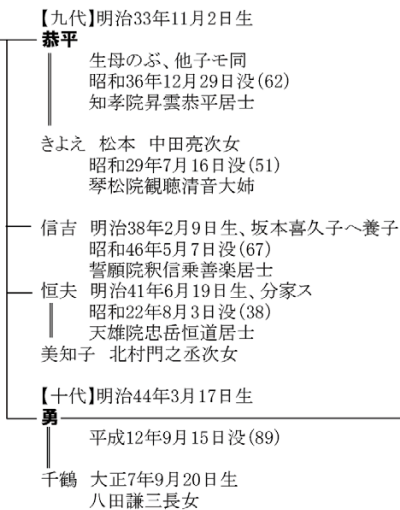
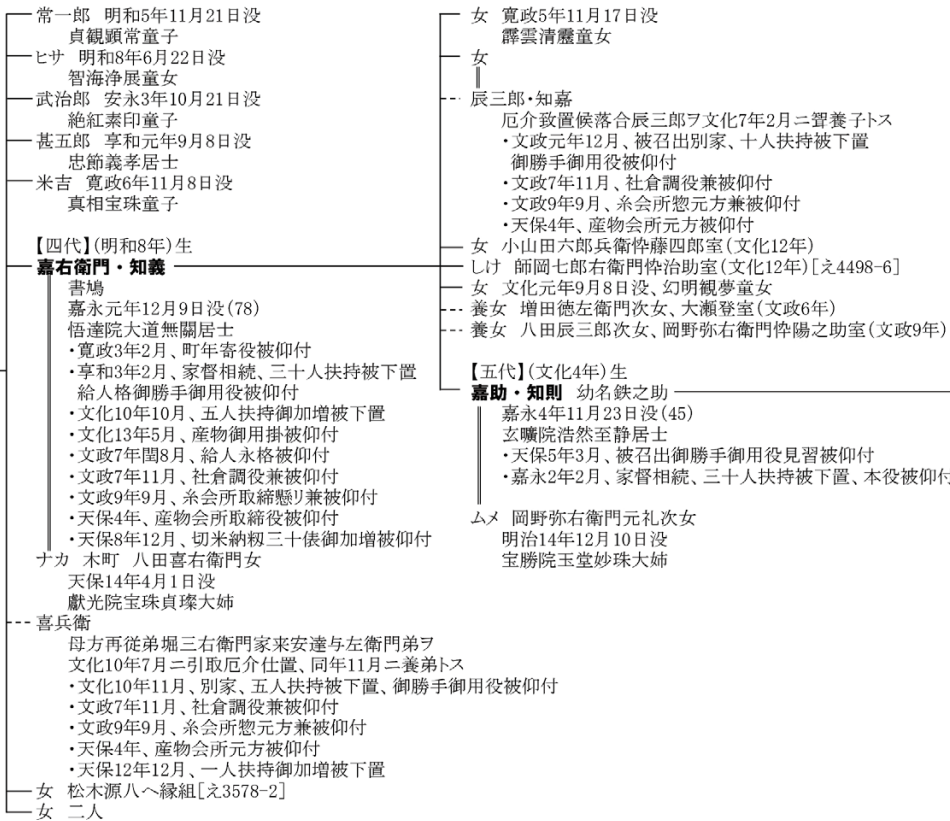
出典：史料番号 28B あ 548 「天保七申年三月改 年季奉公人抱帳 役代伝兵衛」より作成
 ※は貼り紙による情報

表 4 伊勢御師廣田筑後関係人物一覧

	名前	史料での肩書き	内容
松代檀家	佐藤伊兵衛幸春	信州松代旦家惣代(明和6。え2348-12) / 松城伊勢町(明和8。え2355-17)	信州松代檀家惣代(明和6。え2336-6など) / 鈴木安兵衛借金受取(明和8。え1363-16) / 松代・小布施・中野の惣代
	袖山新助	信州松代佐藤伊兵衛名代(明和7。え2212-9)	
伊勢神宮神職・御師	廣田金吾		伊勢御師 / 松代に檀家がいって勸化 / 花山院修理金借用請人(明和4。え1320-4)
	廣田掃部		伊勢御師 / 松代に檀家がいって勸化
	廣田自性		借入金(年不詳。え1328-7) / 借入金(年未詳。え2349-20)
	榎倉丹後		外宮権禰宜
廣田筑後親類・手代	岩出六右衛門		廣田筑後手代 / 廣田筑後と松代檀家取り持ち
	小林伊左衛門	廣田内(明和6。え1363-19)	
	吉村嘉右衛門	廣田筑後手代(明和8。え2347-12) / 廣田筑後名代(明和8。え1319-13)	岩出六右衛門後継
	桧垣掃部	廣田筑後親類(明和8。え3287-3)	廣田筑後継目拝借金内済(明和8。え3287-4)
	喜多村徳左衛門	廣田筑後親類(明和8。え1321-2) / 廣田筑後家来(明和8。え1321-2)	
花山院家家臣・金主	本庄豊前守	花山院御家(明和7。え2349-7)	花山院家諸大夫本庄元之
	梅戸筑後守	花山院殿家	花山院家諸大夫梅戸光政。稲荷社修理金返済依頼(安永7。え2346-2)
	堀式部	花山院殿家	稲荷社修理金返済依頼(安永7。え2346-2)
	一色治部	花山院御家(明和7。え2349-7)	
	小妻治郎右衛門	京都花山院殿御内此度御役(明和8。え2348-14)	
	鈴木安兵衛	花山院様御内(明和4。え1320-4) / 御金支配人(安永2。え2340-1)	印「山田浦ノ橋鈴木安兵衛」(え1321-8) / 紀州多気郡仁田村 / 花山院稲荷社修復金(花山院様名目金)を借用
松代町年寄など	宇佐美清十郎	町年寄(安永9。え2170-3)	廣田筑後借用内済奥書(明和8。え1321-6)
	増田宗右衛門		鈴木安兵衛借金受取(明和8。え1363-16) / 稲荷社修理金返済依頼惣代(安永7。え2346-2) / 町年寄
	伴伊右衛門		廣田筑後借用内済奥書(明和8。え1321-6) / 町年寄 / 検断
	野崎兵助	二俣町田原請人(明和7。え2212-9) / 信州松代佐藤伊兵衛名代(明和7。え2212-9)	
	小町屋善右衛門	信州中野村拝借主(明和8。え2347-8)	稲荷社拝借金(明和8。え2347-8)。奉加金帳元(明和8。え02348-006)
	木屋彦重郎		稲荷社拝借金請人(明和8。え2347-8)
	伊勢屋茂兵衛		稲荷社拝借金請人(明和8。え2347-8) / 京都呉服関係か

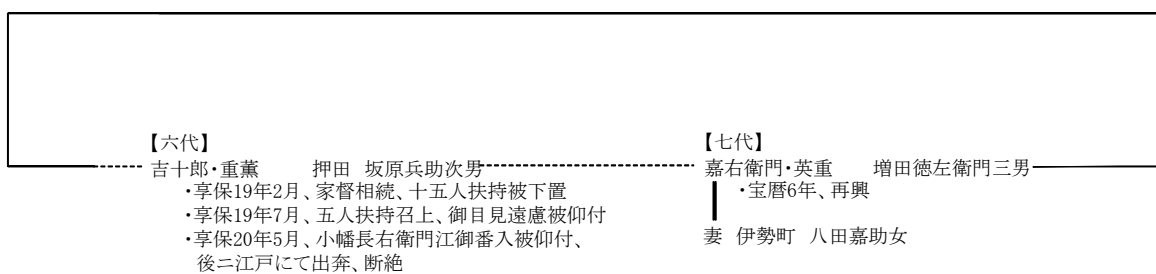
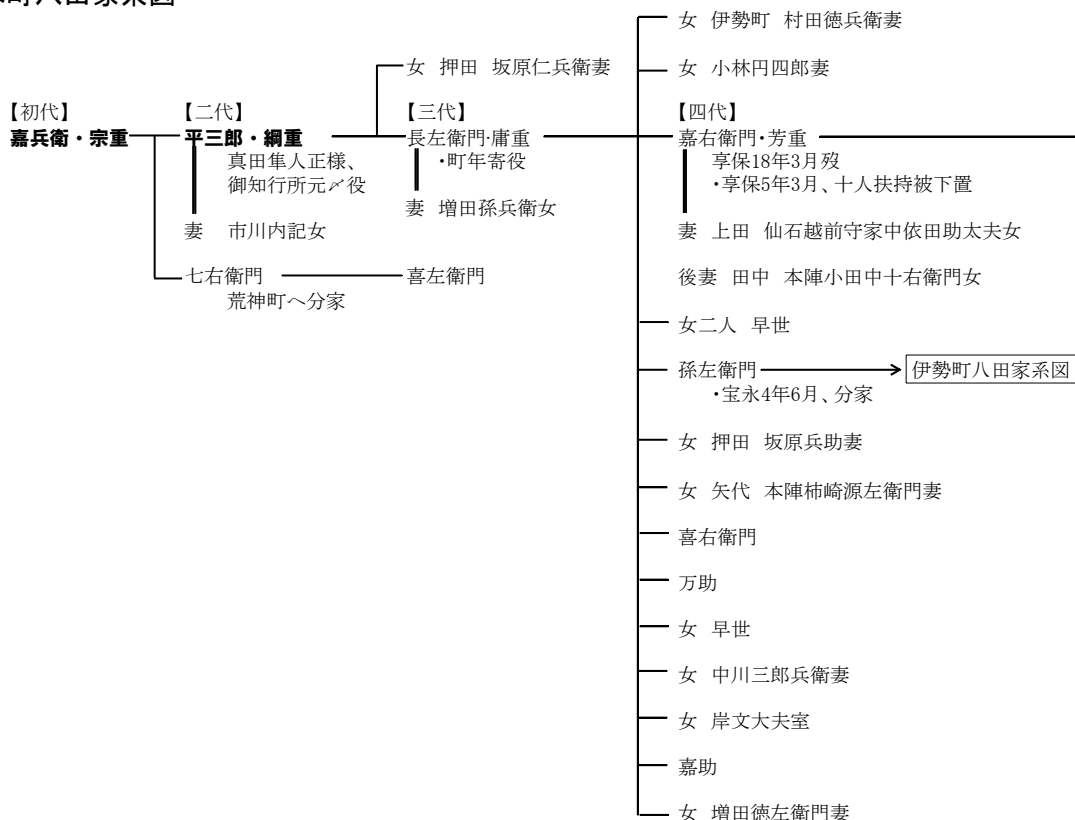
伊勢町八田家系図





◎『史料館所蔵史料目録』第41集154頁～157頁に基づいて、加筆の上、作成した。
◎点線は養子・養女・養弟を示す。二重線は夫婦を示す。
◎出典：既刊『史料目録』96・97集所収に補訂した。

木町八田家系図



-----養女 伊勢町八田孫左衛門女、岡野甚十郎室(享保14年)

【五代】

長左衛門・昭重

享保19年2月歿

・享保9年7月、被召出七人扶持被下置、刀御免御物成御用勤被仰付

・享保11年12月、給人格被仰付

・享保12年10月、御郡奉行支配ニ被仰付

・享保13年8月、種貸役被仰付

・享保18年3月、家督相続、十五人扶持被下置

妻 伊勢町 八田孫左衛門女

女 樋口一角室

惣三郎 後ニ競ト改ム

女 高田幾太室

・十人扶持被召出御番入

後信安公御近習被仰付

名競ト被下置御加恩百石被下置馬場屋敷被下置

競

室 岡野甚十郎女

室 木町 八田嘉右衛門女

【八代】

喜右衛門・嘉重 伊勢町

八田嘉助四男

【九代】

長左衛門・實親

【十代】

喜兵衛

女

女 八田競室

女 大瀬登養女

◎『史料館所蔵史料目録』第41集152頁～153頁に基づいて、加筆の上、作成した。
◎点線は養子・養女・養弟を示す。二重線は夫婦を示す。

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

1.内方

1.1.系図・親類書

1.1.1.由緒

(書状、拙家旧来小幡家被官の旨、甲州小幡村に18万石にてある所、家老の由に付)		切紙/(え4638-1～34は括り紐一括)・1通	え4638-24
(享保13年より寛延4年まで八田長左衛門家加恩・知行・役職就任など書付)		切継紙・1通	え4638-25
(延宝6年6月27日祭礼御棧敷へ御出馬遊ばれる所、御城へ召し呼ばれ銀5枚御目録を以て下し置かれるなど由緒書付)		横切紙・1通	え4638-6
(金葉山春慶作、東阿坊天目、豊臣関白太政大臣御所持の旨、天正7年8月11日由緒書写ほか)		横切紙/(え4642-1～9は括り紐一括)・1通	え4642-5

1.2.相続・家督・隠居

(八田家家督相続呼出状一括)	嘉永2己酉年	包紙一括/(え4614-1～26は包紙一括)/(え4614-3-1～3は包紙一括)・1点	え4614-3-0
(包紙) * (包紙上書)「奉書」	嘉永2己酉年	包紙・1点	え4614-3-1
(その方家督御礼仰せ付けられるにより明日4時熨斗目・麻上下により登城すべき旨呼出状) * (端裏書)「嘉永二己酉年二月」 鎌原石見→八田嘉助殿	嘉永2己酉年2月14日	横切継紙・1通	え4614-3-2
(御用あるにより親類の内1人同道の上明日4時登城すべき旨呼出状) * (端裏書)「嘉永二己酉年二月」 小山田老岐→八田嘉助殿	嘉永2己酉年2月朔日	横切継紙・1通	え4614-3-3
(亡父嘉右衛門願の通り御切米30俵玄米30人扶持下し置かれ家督御勝手御用役任命状) * (包紙上書)「御書付」/(端裏書)「嘉永二己酉年二月」	嘉永2己酉年2月2日	横切継紙/(え4614-1～26は包紙一括)・1通	え4614-4
(書状、春中貴書遣わされる所、御養子御願の通家督仰せを蒙るに付) * 下書		横切継紙/(え4626-1～19は括り紐一括)・1通	え4626-13
(書状、隠居御自分へ申し談じ置く所、右御品御持参給うべきに付) 鎌兵庫→八田嘉介殿	12月8日	横切継紙/(え4634-1～61は括り紐一括)・1通	え4634-26

1.3.家族・奉公人

1.3.1.増田徳左衛門家勝手向き立て直し

(増田徳左衛門倅弥蔵のこと拙者方へ引き取り養子にしたき所、内約束仕るにつき下書)		縦紙/(え4634-1～61は括り紐一括)・1通	え4634-25
--	--	--------------------------	----------

1.3.2.婚姻

(書状、忤鉄之助へ岡野弥右衛門殿娘縁談取り極めの訳は亡母生前より相整う旨) * (包紙上書)「申上 興津権右衛門殿持出候所右紙面無御座候而者相済候ニ付被持戻候不用之紙面ニ候得共残置申候 嘉右衛門」 嘉右衛門→	4月	横切継紙/(え4604-1~23は紙縫一括)・1通	え4604-11
(西沢八左衛門家縁談関係書類一括)		包紙一括/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-21-1~3は包紙一括)・1点	え4613-21-0
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 鼠宿村西沢八左衛門」		包紙・1点	え4613-21-1
(書状、忤へ仰せ置かれた同苗方弱息縁談のこと仰せ下され忤けなく承知致すに付) * 下書 八田嘉右衛門→西沢八左衛門様御報	12月2日	横切継紙・1通	え4613-21-2
(書状、御賢息様へ申上げ置いた縁談について團右衛門も幾重にも御所望申上げたきとの旨に付) 西沢八左衛門→八田嘉右衛門様	12月2日	横切継紙・1通	え4613-21-3
(八田鉄之助縁組許可状書類一括)	文政10亥年	包紙一括/(え4614-1~26は包紙一括)/(え4614-5-1~3は包紙一括)・1点	え4614-5-0
(包紙) * (包紙上書)「文政十亥年閏六月十八日鉄之助縁組願之通被仰付候御書付并奉書入」	文政10亥年	包紙・1点	え4614-5-1
(御用あるにより明日4時登城あるべき旨呼出状) 小山田采女→八田嘉右衛門殿	文政10亥年閏6月17日	横切継紙・1通	え4614-5-2
(八田嘉右衛門忤鉄之助と岡野弥右衛門娘との縁組願の通り仰せ付けらる旨許可状) →八田嘉右衛門	文政10亥年閏6月18日	横切継紙・1通	え4614-5-3
(八田家養女岡野家へ縁談の旨認可状ほか一括)		包紙一括/(え4614-1~26は包紙一括)/(え4614-10-1~3は包紙一括)・1点	え4614-10-0
(包紙) * (包紙上書)「文政九戌年八月朔日養女岡野弥右衛門殿御嫡子陽之助殿江縁組被仰付候節之御奉書」		包紙・1点	え4614-10-1
(八田嘉右衛門養女岡野弥右衛門忤陽之助と縁組について願の通仰せ付けられる旨許可状) →八田嘉右衛門	8月2日	横切継紙・1通	え4614-10-2
(御用あるにより明日4時登城すべき旨呼出状) 小山田采女→八田嘉右衛門殿	8月朔日	横切継紙・1通	え4614-10-3
(八田嘉助養女水井忠蔵忤との婚姻許可状関係書類一括)		包紙一括/(え4614-1~26は包紙一括)/(え4614-15-1~3は包紙一括)・1点	え4614-15-0
(包紙)		包紙・1点	え4614-15-1

1.内方/3.家族・奉公人/2.婚姻

(御用あるにより明日4時登城あるべき旨呼出状) 河原 舍人→八田嘉助殿	8月19日	横切継紙・1通	え4614-15-2
(八田嘉助養女水井忠蔵忤忠治との縁組願許可状) → 八田嘉助	8月20日	横切継紙・1通	え4614-15-3
(八田嘉助娘を松木束忤源太郎へ縁組につき願の通り 仰せ付けられる旨認可状) →八田嘉助	11月23日	横切継紙/(え 4614-1~26は 包紙一括)/(え 4614-19-1~2は 紙縫一括)・1通	え4614-19-1

1.3.3.鉄之助

(書状、忤鉄之助を嘉助へ改名したき旨願の通り仰せ 付けられる旨許可状) *(包紙上書)「文政十三寅年十月 十一日鏡之助改名願之通被仰付候御剪紙」 竹村権右衛門 →八田嘉右衛門殿	(文政13年)10月11日	横切継紙/(え 4614-1~26は包 紙一括)・1通	え4614-13
---	---------------	-----------------------------------	----------

1.3.4.八田喜兵衛

(書状、御荷物当年2月中一度切に差し上げるに付御落手 成し下さるべき旨) *(端裏書)「喜兵衛様 三郎右衛門」	4月24日	横切紙/(え 4605-1~64は紙 縫一括)・1通	え4605-7
(書状、去1月受払帳の義は中御勘定帳にて御覧に入れる 段去暮申上げ置いた義少々延引しても然るべきや御 勘考成し下さるべき旨) *(端裏書)「中島様 喜兵衛」/ 紙背文書 (八田)喜兵衛→中島様	29日	横切継紙/(え 4609-1~20は紙 縫一括)・1通	え4609-9
(書状、当正月よりは迄持替金上納方あるか此節御尋ね に付入用罷り成り候間御調べ成し下さるべき旨) *(端裏書)「嘉助様 喜兵衛」 (八田)喜兵衛→嘉助様	10月19日	横切継紙・1通	え4609-11
(書状、私も江戸引越し後重々の不仕合打ち続き必至の 難渋に相成り暮らし方行き届き兼ねるため親類から 合力を請けたので、八田養弟喜兵衛へも頼むこと御承 知のお礼に付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 安達與 左衛門」 安達与左衛門→八田嘉右衛門様	2月22日	横切継紙/(え 4627-1~27は括 り紐一括)・1通	え4627-23
口上覚(諸向不繰合罷り成るため、住居裏の手狭の場所 に暫く住居願に付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 安 達与左衛門」/(端裏書)「下案」 安達与左衛門→八田嘉右衛 門様	何月	横切継紙・1通	え4627-25
(書状、綿内よりの金子についてこの者へ御渡し成し下 されるべきに付) 喜兵衛→嘉助様	4月4日	横切紙/(え 4644-1~36は括 り紐一括)・1通	え4644-12
(書状、願い置く金子について箱ごとこの者へ御渡し成 し下されるべきに付) 喜兵衛→嘉助様	6月朔日	横切紙・1通	え4644-17

1.3.5.人名

(八田知禮実名用いたき旨及び八田本之進・知之助・近三 郎是迄の通り称用いたき旨御届書) 八田五十二→	(明治5年)壬申6月	横切紙/(え 4605-1~64は紙 縫一括)・1通	え4605-23
---	------------	----------------------------------	----------

(包紙) * (包紙上書)「松代伊勢町八田嘉右衛門様御答一品添吉村嘉四郎」/(包紙裏書)「勢州山田㍻」		包紙/(え4609-1～20は紙縫一括)/(え4609-1-1～3は包紙一括)・1点	え4609-1-1
(書状、御願ひ申上げ候実名・花押実印の義東都高名の孝師石龍子方へ仰せ遣わされ出来に付落手仕る旨) 吉村嘉四郎→八田嘉右衛門様	5月晦日	横切継紙・1通	え4609-1-2
(書状、干海鼠能々水に御漬け2日斗抜に砂あるので能く御洗い遊ばされ御遣い下さるべき旨)		切紙・1通	え4609-1-3
(書状、御実名花押の義に付主意申上げた処別紙委細仰せ越され承知仕り今般箱に入れ差し送ったので御落掌成さるべき旨) 法眼石龍子藤原相栄(花押)→八田嘉右衛門様貴報	後4月初8日	横切継紙/(え4609-1～20は紙縫一括)・1通	え4609-15
(書状、吉村氏と挨拶致し兼ねる旨など委細は石龍子方より金1両御預け並びに御問合書状差し上げ御落手下され御覧の上御報らせ遣わさるべき旨ほか) * (端裏書)「嘉右衛門様」 七郎兵衛→嘉右衛門様	3月5日	横切継紙・1通	え4609-16
(書状、木性に嘉の字・金性に辰の字など宜しき旨など善字指南に付) 石龍子拝復→八田嘉右衛門様玉床下		横切継紙/(え4638-1～34は括り紐一括)・1通	え4638-15

1.3.6.奉公人給金

覚(六三郎金2両などノ12両1分3月半給金渡し分書付)	卯3月	横切継紙/(え4616-1～33は括り紐一括)・1通	え4616-23
-----------------------------	-----	----------------------------	----------

1.3.7.書状

(病氣加養のため月代致し近所歩行したき旨許可状) 興津権右衛門→八田嘉右衛門殿	12月28日	横切継紙/(え4614-1～26は包紙一括)・1通	え4614-11
(書状、数右衛門は私存命中は宜しきも死去仕れば妻子路頭に迷い乞食いたすより他なきにより身分片付御内願に付)		横切継紙/(え4627-1～27は括り紐一括)・1通	え4627-12

1.4.親類

1.4.1.書状

(書状、昨晚も御面倒様のこと御頼み申す所、あわせの事仰せ下され有難きに付) ちやう→御兄うえ様御返事	6日	横切紙/(え4639-1～39は括り紐一括)・1通	え4639-1
(書状、今朝も御厄介様のこと御頼み申し有り難き所、大小束袋型に致したきに付) ちやう→御兄上様申上	28日	横切継紙・1通	え4639-30
(書状、一重物あまり汚れおり1つ染め買い1つ新しく染めに遣わしおるに付) ちやう→御兄うえへ様申上	5日	横切継紙・1通	え4639-10
(書状、昨日は御取込の中色々御厄介様の儀御願ひ申し有難きに付ほか) ちやう→御兄上様申上		横切継紙・1通	え4639-18

1.内方/4.親類/1.書状

(書状、先達で願い置いた小布施・高井への一条について御厄介ながら願上げ奉るに付) * (端裏書)「伊勢町様源八」 源八→伊勢町様	2月28日	横切紙・1通	え4639-2
(白木綿1丈など諸品書付)		横切紙・1通	え4639-4
(書状、鉄次郎様などにも御別条ないか御便り承りたきにより待ち入るに付) 栄八→八慎蔵様	正月22日	横切継紙・1通	え4639-5
(書状、過日は参堂仕り種々御馳走頂戴により有難く存じ奉るに付) 繁三郎→慎蔵様	2月2日	横切紙・1通	え4639-7
(書状、このくらいの物は送るのが宜しいのかなど私には御様子も相わかり申さず(に付))	3日	横切継紙・1通	え4639-11
(書状、私義風邪宜しからざるにより先月27日大御当番へ御届仕り申し上げるべき所、取り紛れ申さず(に付)) 門三郎→慎蔵様	3月6日	横切紙・1通	え4639-15
(書状、先日中願い上げ奉る金子について御繰合成し下される様御勘弁御聞き済ましの程歎願奉るに付) * (端裏書)「口上歎願書 本之進」 (八田)本之進→	4月6日	横切紙・1通	え4639-21
(書状、歎願奉り兼ねども金3両1分御恩借したく存じ奉るに付) * (端裏書)「伊勢町様内用申上 本之進」 (八田)本之進→伊勢町様内用申上	4月18日	横切継紙・1通	え4639-22
口上(しなふ様より御備物いかが致すのが宜しき哉御伺申したきに付) せい→い勢町様		横切紙・1通	え4639-33
(書状、この程懸りのことについて当惑仕ることあるにより松山町様御帰国の御様子御伺願い上げ奉るに付) * (端裏書)「慎蔵様御直披 繁三郎」 繁三郎→慎蔵様	3月9日	横切継紙・1通	え4639-36
(書状、越後の絵図暫く拝借願ひ申すに付) 松山丁→いせ町様	4月4日	横切紙・1通	え4639-37
(書状、あちらより申し遣わした品明日御便り御送り遊ばし下されるように仰せ下され有り難きに付) ちやう→御兄上様	8日	横切継紙・1通	え4639-38
(書状、去月27日御風邪とのこと御届申すにより折角御加養の上早々御出勤申すに付) 慎蔵→一郎様几下	3月9日	横切紙・1通	え4639-39
(おむめ宛書状一括)		包紙一括/(え4644-1~36は括り紐一括)/(え4644-32-1~4は包紙一括)・1点	え4644-32-0
(包紙) * (包紙上書)「おむめさま 兄きより」		包紙・1点	え4644-32-1
(書状、御願ひ申し上げた4ヶ年先冬御差1ツ御貰い貸す様其冬一昨年中相用いるに付) * (端裏書)「おむめさま兄き申上」 兄き→おむめさま	7日	横切継紙・1通	え4644-32-2
(この度松山町御尊様御養生の叶わず御隠れになるにより御悔状) くら□へ→おむめさま	12月7日	折紙・1通	え4644-32-3
(書状、この御文啓十郎参じの節持参仕るも御留守にて持ち帰り申すに付)		横切紙・1通	え4644-32-4

1.4.2.その他

(金100疋御謝儀忝く落手致す旨受領書) 法眼石龍子 (印)→吉村嘉四郎様	後4月7日	切紙/(え4619-1 ～33は括り紐一 括)・1通	え4619-8
(書状、出立の節御約諾の一字のこと御懇望により進上 致すにより花押も高名な者に相頼むに付) * (端裏 書)「文政二卯五月廿日勢州吉村嘉四郎殿江名乗官花押遣候 付下案」 八田嘉右衛門→吉村嘉四郎様人々御中	文政2卯年5月20日	横切継紙/(え 4619-1～33は括 り紐一括)・1通	え4619-25
覚(信州松代・同上田八田重双・小諸増田八郎兵衛など 諸願成就皆満足に付) 岩崎氏母→	元文5年庚申5月17日	横切紙/(え 4638-1～34は括 り紐一括)・1通	え4638-27

1.5.家政

(袋) * (袋上書)「泰全様御代筆御入置被為在候印書并古差引 書荒々見調候処一向当節入用有之候紙面不相見候得共是迄被 差置候儀ニ付其儘若斯残置申候事 文政七申年三月 知義」	文政7年3月	袋/(え4634-1～ 61は括り紐一 括)・1点	え4634-1
---	--------	---------------------------------	---------

1.6.藩への上納金・才覚金

上納金覚(文政9年から天保3年金300両ほか金銭書付)		折紙/(え4605-1 ～64は紙縋一 括)・1通	え4605-43
(御本丸御普請のため御上納金願の通り仰せつけの旨 認可状) * (端裏書)「弘化二巳年三月十八日被仰付候名代 同苗辰三郎相勤候」 →八田嘉右衛門	弘化2年3月18日	横切継紙/(え 4614-1～26は包 紙一括)・1通	え4614-17
(書状、今般御上納金御用途の内へ銀10枚上納したきに 付) * (端裏書)「弘化二巳年二月十八日御懸り竹村金吾殿 江差出ス」 八田嘉右衛門→	弘化2年2月	横切紙/(え4614-1 ～26は包紙一括) /(え4614-17に巻 込)・1通	え4614-18
(御本丸御普請に付御上納金御用途金の内へ差上金の こと御大慶の思召の旨褒状) * (端裏書)「嘉永元戊申年 十二月朔日嘉右衛門病氣ニ付名代片桐重之助」	嘉永元年12月朔日	横切継紙/(え 4614-1～26は包 紙一括)・1通	え4614-25
(書状、御家督一条に付追々莫大の御入用これあり才覚 申し付けられども内実逼迫にて心痛に付) * (端裏書) 「九月五下案」 嘉右衛門→尊道様	9月5日	横切紙/(え 4633-1～26は紙 縋一括)・1通	え4633-12

1.7.藩関係

1.7.1.御目見・御入・拝領

(書状、5月23日田町屋敷へ大殿様御入遊ばされるとの 旨、鹿野牧人殿より御内沙汰あるに付) * 下書		横切紙/(え 4630-1～13は括 り紐一括)・1通	え4630-6
(書状、御扇子2本など拝領御意なし下される所、御立前 御日柄なきに付)		折紙・1通	え4630-7
(河原理助殿白菊3升・錠鯉1本など殿様恣水園御入遊ば れるにより諸々挨拶・贈物書付) * (端裏書)「恣水十五 御会節用書物」		横切紙/(え 4644-1～36は括 り紐一括)・1通	え4644-30

1.7.2.勤務

(書状、権大参事へ庶務取り纏め引き渡し明日発足帰京致すべき処未だ何事も行き届きかね実に痛心の旨)	(明治4年)辛未9月20日	堅紙/(え4605-1～64は紙縫一括)・1通	え4605-13
記(六尺棒11本代銀22匁に付) * (端裏書)「四月廿八日師岡源兵衛殿へ代金相渡済」 旧武庫方→師岡様	戊4月18日	切紙・1通	え4605-17
(御用あるもその方病気により名代1人明日4時御城へ差し出されるべき旨召喚状) 鎌原伊野右衛門→八田嘉助殿	11月22日	横切継紙/(え4614-1～26は包紙一括)/(え4614-19-1～2は紙縫一括)・1通	え4614-19-2
(差し控え御免仰せ付けられる旨通知書) 竹村金吾→八田嘉右衛門殿	10月5日	横切紙/(え4614-1～26は包紙一括)・1通	え4614-22
(差し控え御免仰せ付けられる旨通知書) 竹村金吾→八田嘉助殿	10月5日	横切継紙・1通	え4614-23
(父嘉右衛門病気により付添看病したきに付願の通り仰せ付けされる旨認可状) 岡嶋莊蔵→八田嘉助殿	12月9日	横切継紙・1通	え4614-26
(書状、只今御殿へ御出張あるように為に進殿仰せ渡されるにより御苦勞ながら御出なし下されたきに付) * (端裏書)「八田慎蔵様 小井惣兵衛」 小井惣兵衛→八田慎蔵様	4月27日	横切継紙/(え4639-1～39は括り紐一括)・1通	え4639-24
(書状、飯山表騒擾により御人数御繰り出し罷り出る様御飛脚なし下され有り難きに付) 一郎→慎蔵様・五十司様	4月24日	横切紙・1通	え4639-32
(真田信濃守今般奥御領の内民政取締仰せつけるにより家来精選の上、彼地へ出張申付ける旨通達書)	12月	横切紙/(え4643-1～25は括り紐一括)・1通	え4643-8

1.7.3.藩士との交際

(書状、今一度御申次旁伺いたきに付) * (包紙上書)「松代御家中八田様御取次御衆中 高田村田角左衛門」 村田角左衛門(花押)→八田様御取次衆中様	4月8日	折紙/(え4627-1～27は括り紐一括)・1通	え4627-17
(岡川左十郎差出書状一括)		包紙一括/(え4642-1～9は括り紐一括)/(え4642-7-1～3は包紙一括)・1点	え4642-7-0
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 岡川左十郎」		包紙・1点	え4642-7-1
(書状、委細御懇意を蒙り痛み入るにより憚りながら御惣容様へ宜しく御伝写願うに付) 左十郎→嘉右衛門様拝答	19日	横切紙・1通	え4642-7-2
(書状、私今般家督相違なく仰せい出される所、御礼も首尾よく申上げるに付) 岡川左十郎延(花押)→八田嘉右衛門様貴報	5月19日	折紙・1通	え4642-7-3
(書状、御息女様御引越婚禮万端首尾よく御整い幾久しく目出度きに付) 八田嘉右衛門義知(花押)→堀弥左衛門様貴報	3月21日	横切紙/(え4642-1～9は括り紐一括)・1通	え4642-8

(書状、去冬中内用向きのこと格段の御深切下され承知致す所、満足存ぜられるに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 三橋新右衛門深井傳之丞」 深井傳之丞重連(花押)・吉松四郎左衛門集義(花押)・三橋新五右衛門當茶(花押)→八田嘉右衛門様	2月7日	折紙/(え4644-1～36は括り紐一括)・1通	え4644-13
(書状、佐久間御稽所について4・5人寄合御相談致したきにより藤助宅へ御来駕願うに付) 一角・藤助→嘉助様	12月23日	横切継紙・1通	え4644-16

1.7.4.諸伺・諸届

(病氣加養のため月代致し近所を歩行したきに付伺いの通り仰せ渡されるに付認可状) 岡嶋莊蔵→八田嘉助殿	2月14日	横切継紙/(え4614-1～26は包紙一括)・1通	え4614-24
--	-------	---------------------------	----------

1.8.町関係

(伊勢町杵渕甚之助・北沢藤之助ほか人名・年齢書付)		折紙/(え4605-1～64は紙縋一括)・1通	え4605-32
記(53番居住八田知禮以下57番内山善蔵までの居住人名書上) 戸長副[印]→		切紙/(え4605-1～64は紙縋一括)/(え4605-34-1～5は折込一括)・1通	え4605-34-1
(八田知道11月12月半月分金1円99銭余に付官禄交付書付)	(明治8年)	切紙・1通	え4605-34-2
(八田知道、高5石分半渡し金2両3朱に付交付書付)		切紙・1通	え4605-34-3
(八田知道、金15両の旨書付)		切紙・1通	え4605-34-4
(八田慎蔵、壬申2月分ほかメ金3両2分余勘定書付)	(明治5年)壬申	切紙・1通	え4605-34-5
(八田知道、現米2石8斗余、代金10両の旨勘定書付)		切紙/(え4605-1～64は紙縋一括)・1通	え4605-35
(八田慎蔵、現米1石8斗余、代金7両余の旨勘定書付)		切紙・1通	え4605-36

1.9.給人格取立・扶持加増

(天保飢饉救恤による切米30俵下賜関係書類一括)	(天保8年)	包紙一括/(え4614-1～26は包紙一括)/(え4614-2-1～3は包紙一括)・1点	え4614-2-0
(包紙) * (包紙上書)「天保八酉年十二月廿八日切米三拾俵被下置候節 御奉書壹通御書付壱通」	天保8酉年12月28日	包紙/(え4614-1～26は包紙一括)/(え4614-2-1～3は包紙一括)・1点	え4614-2-1
(去秋中違作の節御救粥下され、数か月出精勤めるにより御切米30俵下し置かれる旨申渡書) →八田嘉右衛門	(天保8年)12月28日	横切継紙・1通	え4614-2-2
(御用あるにより明日4時登城あるべき旨呼出状) 恩田頼母→八田嘉右衛門殿	(天保8年)12月27日	横切継紙・1通	え4614-2-3

1.内方/9.給人格取立・扶持加増

(御切米頂戴御礼として青銅献上関係書類一括)	(天保9年)	包紙一括/(え4614-1～26は包紙一括)/(え4614-1-1～7は包紙一括)・1点	え4614-1-0
(包紙) * (包紙上書)「天保八酉年十二月廿八日御切米粗三拾俵御頂戴之御奉書御切紙并翌正月廿五日於江戸表名代を以右御礼酒井権七郎殿被呉相勤候書類」/(包紙裏書)「二月二日三次殿江至来 八田嘉右衛門様 酒井権七」	(天保9年)	包紙・1点	え4614-1-1
(青銅30疋進上書) * (端裏書)「表書之通慥請取御納戸江相収申候以上 天保九戌年正月廿五日 大嶋富作(印)」 八田嘉右衛門知義→	天保9戌年正月25日	折紙・1通	え4614-1-2
(書状、八田嘉右衛門御切米頂戴の御礼のため明日4時御殿へ罷り出で名代勤めるに付) 青木数馬→酒井権七郎殿	正月24日	横切継紙・1通	え4614-1-4
(書状、御礼御名代相務める様仰せを蒙るにより御名代相務める段御用番へ申上げるに付) 権七郎→嘉右衛門様御使	正月15日認置	横切継紙・1通	え4614-1-5
(書状、御切米御頂戴の御礼明後25日との旨御内々に申し上げるに付) 権七郎→嘉右衛門様	正月23日	横切紙・1通	え4614-1-6
(書状、御内々申上げた通り当25日御礼の御名代首尾よく相勤め御礼有り難きに付) * (端裏書)「嘉右衛門様」 権七郎→嘉右衛門様申上	正月27日	横切継紙・1通	え4614-1-7
口演(勝手向き難渋のため扶持方献進に付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様 倉持寛左衛門」 寛左衛門→嘉右衛門様	7月2日	縦紙/(え4609-1～20は紙縫一括)/(え4609-20-1～13は紙縫一括)・1通	え4609-20-10

1.10.土地経営

1.10.1.持地・抱屋敷絵図

(書立帳面の内へ持山の分も書き載せ置きたき旨書付)		横切継紙/(え4605-1～64は紙縫一括)・1通	え4605-12
(明治5年長国寺出火にて寺町長屋類焼跡へ塀拵えに付職人賃金書上) * (端裏書)「寺町塀調書」	明治6酉年1月30日	横切継紙・1通	え4605-21
(田地または敷地図)		小切紙/(え4612-1～42は括り紐一括)・1通	え4612-4
覚(御用紙24枚178文など、353文人別御改入料御下願いあげるに付) 御下屋敷平作→長崎源吾様	天保15辰年2月	横切継紙・1通	え4612-42
(書状、三郎左衛門鏡屋町において屋敷相調える旨承知いたし忝き仕合に付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様 赤沢嘉司馬」 赤沢嘉司馬→八田孫左衛門様御報	4月12日	折紙/(え4613-1～21は括り紐一括)・1通	え4613-14
(書状、道境当方所持の分地によりその段御示談に及び荘吉殿へ御示談の上御伐取りも有る旨申し達するに付) →惣兵衛様・千代作様・幸吉様・友蔵様・藤作様	3月5日	横切継紙/(え4616-1～33は括り紐一括)・1通	え4616-10
(小升屋惣十郎関係間取り図)		30.3×35.8・1鋪	え4622

(表口14間3尺5寸東表より21間2尺3寸西表より12間目など建物配置・境など書付)		横切継紙/(え4638-1～34は括り紐一括)・1通	え4638-28
(十人町屋敷面積図面)		24.9×28.5/(え4643-1～25は括り紐一括)・1鋪	え4643-23

1.10.2.買取・質取

差出申為取替一札之事(人別持地譲り受け証文雛形) たれ・名主・組頭・長百姓→右同村たれ殿・たれ殿・たれ殿・たれ殿・たれ殿・たれ殿	文化7午年4月	横切継紙/(え4605-1～64は紙縫一括)・1通	え4605-9
覚(金25両、地所譲渡証文1通御預り置くの旨、写) 八田嘉右衛門様代傳兵衛印→右同村助左衛門殿	文化7午年4月	横切紙・1通	え4605-10
覚(金30両・50両などの地代金に相当の地所ありやの旨) (「流地證文江添受取候明細帳之写」書付)		切紙・1通	え4605-11
		切紙/(え4636-1～10は括り紐一括)・1通	え4636-6

1.10.3.売渡

(名左衛門方家敷返し代金55両など代金書付)		切紙/(え4626-1～19は括り紐一括)/ (え4626-1-1～6は紙縫一括)・1通	え4626-1-4
------------------------	--	---	-----------

1.10.4.小作年貢取立

覚(苗間共15表4斗5升余など米俵数勘定書付)		横切紙/(え4619-1～33は括り紐一括)・1通	え4619-10
覚(入上粃込65俵差引代金13両1分余差上げるに付) 神明村九郎助・与右衛門→菊屋伊七殿	未12月	横切継紙・1通	え4619-13
(書状、この度質地作徳米亥丑年分滞るも私共より作徳米御勘定致さずにより御請取の筋へ御掛合下さるべきに付) * (端裏書)「初而懸合返事閏三月廿三日」 蓮村庄屋平吉・静岡村庄屋市郎右衛門→菊屋傳兵衛様	閏3月23日	横切継紙/(え4627-1～27は括り紐一括)・1通	え4627-11

1.10.5.年貢諸役上納

記(八田知道所持地分貢米4斗3升余代金上税に付) 戸長副→八田知道殿	戊2月8日	横切紙/(え4605-1～64は紙縫一括)/ (え4605-38-1～2は折り込み一括)・1通	え4605-38-1
(2円30銭余明30日午後2時迄御持参成さるべき旨通知書) 役元(印)→八田知道殿	5月29日	横切紙・1通	え4605-38-2
記(貢米4斗8升余、9日午前8時2時までの内上税成さるべき旨) 戸長副→八田知道殿	戊2月8日	横切紙/(え4605-1～64は紙縫一括)・1通	え4605-39

1.10.6.米・桑売渡

(新右衛門桑方年来出精相勤めるにより先年質入の屋敷地差遣わし子孫永所事致すべき旨申渡書)	3月	横切継紙/(え4619-1～33は括り紐一括)・1通	え4619-3
覚(桑種270本金2分2朱余などメ金1両2分2朱余受取に付) 桑吉→	4月18日	縦紙/(え4638-1～34は括り紐一括)・1通	え4638-14

1.10.7.土口村

(書状、①御買帳へ引き合い新右衛門証文無く此度証文引訳に相成り候ては親類組合右証文引き替え申すべき旨、②助左衛門願につき山方拾式表当人に預け置き右証文替えに及ばざる旨、③山高は粃にて上納、田高ハ分米にて免懸り、粃に成り候を一握に仕るは如何に付) *(端裏書)「嘉右衛門様 古春町」 古春町→嘉右衛門様	2月5日	横切継紙/(え4605-1～64は紙縊一括)・1通	え4605-1
--	------	---------------------------	---------

1.10.8.矢代村

(矢代村年貢配府一括ほか)		包紙一括/(え4619-1～33は括り紐一括)/(え4719-2-1～6は包紙一括)・1点	え4619-2-0
(包紙) *(包紙上書)「寛政八辰年矢代村配府入 配府 松崎氏」		包紙・1点	え4619-2-1
覚(辰本口粃18表1斗1升余辰御年貢勘定相済むに付) 矢代村名主三郎右衛門(印)→八田孫左衛門	寛政8年辰12月	横切紙・1通	え4619-2-2
覚(本口粃18俵1斗1升余平左衛門分当丑御年貢皆済に付) 矢代村名主市左衛門(印)→松代八田嘉右衛門殿	寛政5年丑12月	横切紙・1通	え4619-2-3
(書状、去卯年御年貢切手指遣わす所、右切手の内16俵分切手紛失仕るに付) *(端裏書)「八田嘉右衛門様貴下 松崎平左衛門」/(端裏張紙)「卯暮粃切手出し候所粃百五拾三表之内拾六表分切手紛失致之旨頼之手紙」 松崎平左衛門→八田嘉右衛門様貴下	7月24日	横切継紙/(え4619-1～33は括り紐一括)・1通	え4619-4
(包紙) *(包紙上書)「寅十二月廿七日矢代村平左衛門殿配府入 卯配府入」/寛政6年入上粃受取書反故利用		包紙/(え4619-1～33は括り紐一括)/(え4619-11-1～3は包紙一括)・1点	え4619-11-1
覚(本口粃18俵1斗1升余当村平左衛門分当寅出作御年貢受取皆済に付) 矢代村名主三郎右衛門(印)→松代八田孫左衛門殿	寛政6年寅12月	切継紙・1通	え4619-11-2
覚(先達て受取置く切手金10両春中まで引替切手差出し申すに付) 矢代村常蔵(印)→伊勢町傳兵衛様	寅12月27日	切紙・1通	え4619-11-3
(包紙) *(包紙上書)「矢代村証連寺田地配府三枚 幸吉殿方受取 卯年分辰二月六日」		包紙/(え4619-1～33は括り紐一括)/(え4619-12-1～4は包紙一括)・1点	え4619-12-1

覚(粃1俵3斗8升代1分2朱余・御国役40文上納皆済に付) 法華寺納所[印]→八田嘉右衛門殿御役代中	寛政7年卯12月24日	横切紙・1通	え4619-12-2
覚(本口粃5表5升余・御国役銀8分卯御年貢ならびに御 国役銀とも受取皆済に付) 名主源五右衛門(印)→松 代八田嘉右衛門殿御役代幸吉殿	寛政7年卯12月	横切紙・1通	え4619-12-3
覚(本口粃2俵2斗5升余・御国役銀3分余当卯御年貢皆済 勘定に付) 名主三郎右衛門(印)→松代八田嘉右衛門殿 御役代幸吉殿	寛政7年卯12月	横切紙・1通	え4619-12-4
覚(卯本口粃18俵1斗1升余など当卯御年貢受取上納仕 るに付) * (包紙上書)「矢代村御年貢配府松崎殿を請取 寛政七卯十二月廿七日」 矢代本町名主三郎右衛門(印)→ 八田嘉右衛門殿	寛政7年12月	横切紙/(え 4619-1~33は括 り紐一括)・1通	え4619-14
(書状、当御年貢入上粃代金差上げたき所、当年は米価 下直のため拂い兼ね延引に罷り成るに付) 松崎平左 衛門→八田嘉右衛門様貴下	12月29日	横切継紙/(え 4619-1~33は括 り紐一括)/(え 4619-23-1~2は 紙縫一括)・1通	え4619-23-1
(書状、当入上粃代金の内金12両遣わされ確かに受取に 付) * 下書	12月29日	横切紙・1通	え4619-23-2

1.10.9.鹿沢温泉・山野湯温泉

祢津之事(湯坪湯屋家普請手入など湯本にて致す事哉 など他12条箇条書)	寅閏3月20日	横切継紙/(え 4627-1~27は括 り紐一括)・1通	え4627-3
口上覚(当村田地質地について年季明後も元利金滞る 所、山之湯温泉質地に差し入れ利分返済に付) 根津 村勘兵衛名代千代蔵→伊勢町名主惣八郎様		横切継紙・1通	え4627-22
(書状、根津村周平借付は内実落合家入用により町方預 金180両名主宛に借付るも入上粃代滞るにつき、山之 湯と振替に付)		横切継紙・1通	え4627-26

1.10.10.東寺尾村

覚(東寺尾村分地安兵衛高3石1斗余御免3つ4分本口粃3 俵2斗余代金3分余りなど年貢代金差引上納書付)		横切継紙/(え 4638-1~34は括 り紐一括)・1通	え4638-9
--	--	------------------------------------	---------

1.10.11.牧内村

覚(牧内村庄吉他9名人別人名書付)		切継紙/(え 4612-1~42は括 り紐一括)・1通	え4612-7
-------------------	--	-----------------------------------	---------

1.10.12.山林

覚(菅間山より立木切出辻並びに人歩駄賃36貫余など勘 定書付) * (端裏書)「寛政十一未年菅間山売拂候処右山を 立木切出シ辻並人歩駄賃書調」	寛政11年	横切紙/(え 4619-1~33は括 り紐一括)・1通	え4619-15
---	-------	-----------------------------------	----------

1.10.13.堤普請

(宮沢彦三郎・堀内半右衛門堰普請関係書状一括)		包紙一括/(え4641-1～11は括り紐一括)/(え4641-7-1～4は包紙一括)・1点	え4641-7-0
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 宮沢彦三郎 堀内半右衛門」		包紙・1点	え4641-7-1
(書状、御内話の一条、道橋方懸りにては分かり兼ねるも何とか出来申すべき様子により上堰・下堰3日・6日一順に付) 嘉右衛門→彦三郎様・半右衛門様	正月11日	横切継紙・1通	え4641-7-2
(書状、御内咄申上げた一件、御用多の御中其御筋へ御咄下される所、御厚情浅からずに付) 半右衛門・彦三郎→嘉右衛門様尊報	13日	横切継紙・1通	え4641-7-3
(書状、別書貴意を得る御内状について命の如く御返上仕るに付)	13日	切紙・1通	え4641-7-4

1.11.金融

1.11.1.借入金・預金

(書状、証文1通御勘定書御添金1両御送り成し下され落手仕るに付私方より御返上証文両通差し上げるべき旨) * (包紙上書)「文化六己年十二月廿日伴氏方印証一通入」/(端裏書)「嘉右衛門様尊答 三郎右衛門」 伴三郎右衛門(印)→八田嘉右衛門様	文化6年巳12月20日	横切継紙/(え4602-1～9は紙縫一括)・1通	え4602-2
覚(金3両、私御用金御預け申し上げた処思召しを以て右の金子の内御渡し成し下されたき旨) * (端裏書)「嘉右衛門様要用御内披可被申候」 又次郎(印)→旦那様	未極月晦日	横切紙・1通	え4602-5
(柿崎源左衛門願に付御金御内借を私名前の証文で受取金子渡すに付証文) * 前欠 八田嘉右衛門→戸谷藤左衛門殿	11月	堅紙/(え4609-1～20は紙縫一括)/(え4609-20-1～13は紙縫一括)・1通	え4609-20-13
辰五月廿日改 嘉右衛門殿差引覚(当3月中出府の節預かり持参いたし置く金20両など差引勘定書付)		横半/(え4619-1～33は括り紐一括)・1冊	え4619-1
覚(当戌御預辻金50両の内、差引残金33両余り、内5両借用仕る旨) 孫八→		横切継紙/(え4631-1～23は紙縫一括)・1通	え4631-11
覚(午年利金2割2両受取に付) * (端裏書)「樋口民衛殿午利金請取」 樋口民衛(印)→八田孫左衛門殿・八田喜右衛門殿	午12月13日	横切紙/(え4634-1～61は括り紐一括)・1通	え4634-14
覚(拝借金酉年分御礼金6両受取に付) * (包紙上書)「堤左二兵衛殿酉ノ年拝借金三拾兩分利足請取書」 堤左治兵衛(印)→八田孫左衛門殿	安永6年酉12月28日	横切紙・1通	え4634-22
覚(拝借金当申御礼金6両受取に付) 堤左治兵衛(印)→八田孫左衛門殿	安永5申年12月26日	横切紙・1通	え4634-23

覚(金10両御預かり置き申すにより御入用次第御渡し申すべきに付) 八田嘉助(印)→友野松之助様	延享2年丑8月7日	横切紙・1通	え4634-24
覚(御合力下され金10両確かに受取により、前度預け金御借入金もあるもこの度差引相済まし出入無きに付) * (包紙上書)「友野八三郎殿を請取申候証文 寅四月廿六日并此方毎度遣置候証文も入」 友野八三郎(印)→八田新十郎殿・八田鉄次郎殿	宝暦8年寅4月26日	縦紙・1通	え4634-27
覚(繰り廻金10両3月より11月まで確かに借出し申す追って本証文引替申すに付ほか) * (包紙上書)「西ノ三月朔日 金拾五両 山越六郎右衛門様口入ニ而指出シ」 山越六郎右衛門(印)→八田孫左衛門殿	安永6年酉3月	横切継紙・1通	え4634-30
覚(先達て御願ひ申した利分金1両2分確かに受取に付) 里見多膳(印)→八田孫左衛門殿	12月28日	横切紙・1通	え4634-58

1.11.2.貸付金

覚(金2両、差し懸り要用の義に付御時借御無心申し御承知下され金子受取り借用の旨) * (包紙上書)「文政五年三月廿日金貳両長谷川善兵衛貸印証」 長谷川善兵衛(印)→八田嘉右衛門殿	文政5年午3月12日	横切紙/(え4604-1~23は紙縫一括)・1通	え4604-17
(書状、つり敷とふ吧何分御恩借願上げ奉るに付) * (袖珍武鑑)(天保4年)の筒を包紙として利用。 介作→八田様	2月24日	横切紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-22
(書状、私仕方は母達者の内家相払い申さず凌ぎ罷り在るに付何分にも惣右衛門殿御方へ御沙汰御無用なされ下さるべきと御相談成し下されたき旨) * (端裏書)「八田孫左衛門様内用事入 宮沢佐助」 宮沢佐助→八田孫左衛門様内用事入	10月11日	横切継紙/(え4601-1~7は紙縫一括)・1通	え4601-2
(書状、当年は兩人支度彼是に付御思召を以て御心配御手伝い成し下され妻一同有り難き仕合せに付御礼) * (端裏書)「嘉右衛門様 縫殿進」 縫殿進→嘉右衛門	12月29日	横切継紙/(え4601-1~7は紙縫一括)/(え4601-6-1~6は折込一括)・1通	え4601-6-1
口上(7両御願ひ成し下さるべき旨) 神信拝→	4月2日	切紙・1通	え4601-6-2
(書状、先達より窮極の難渋御救い下され候処旧臘甚だ以て六ヶ敷義に付貴君へ御纏り申す旨) * (端裏書)「伊勢町様 柴町 別紙入御内覧可被下候」 柴町→伊勢町様	4月16日	横切紙・1通	え4601-6-3
(書状、象山下先頃より私方へ度々相越し当節甚だ差し支え凌ぎ兼ねるに付臨時の御勘弁を相願う旨) * (端裏書)「嘉右衛門様要用御内披可被下候」 総左衛門→嘉右衛門様要用御内披可被下候	11月14日	横切継紙・1通	え4601-6-4
(書状、一昨難渋談じ申し候象山下の願ひ御聞き済み下され金18両御仁恵下され早速差し遣わし申すべき旨) * (端裏書)「伊勢町様金子添 柴町」 柴町→伊勢町様金子添	大晦日	横切継紙・1通	え4601-6-5
覚(金300両、私名前証文差上げ候間書面金子借用主方へ富次郎取り次ぎを以て御渡しに付受取の旨) * (包紙上書)「藤田傳左衛門殿江返可申書面」 藤田傳左衛門(印)→八田嘉右衛門様	文化6年巳12月21日	横切紙/(え4602-1~9は紙縫一括)・1通	え4602-1

1.内方/11.金融/2.貸付金

(包紙) * (包紙上書)「覚 山越市之丞」 山越市之丞→		包紙/(え4602-1 ～9は紙縫一括) /(え4602-8-1～3 は包紙一括)・1点	え4602-8-1
覚(金12両3分余、当暮払方差し支え当惑に付御願ひ申し 御取替え下され金子請取御借用仕る旨) 山越市之 丞(印)→八田競殿	文化8未年12月28日	横切紙・1通	え4602-8-2
市之丞殿当暮無扨払方調 * (端裏書)「競」	文化8未年12月29日	横切継紙・1通	え4602-8-3
(書状、当暮金子手当の儀長々病中故働き兼ね融通も一 統手詰りに相成り難渋に付来申年5月中迄金子10両拝 借仰せ付けられる様願ひ奉る旨) 良性院→松代八田 嘉右衛門様貴下	極月日	横切継紙/(え 4603-1～24は紙 縫一括)・1通	え4603-1
(書状、先達而中御内談成し下され候伊勢町伝兵衛金子 一条につき証文御取替えくださるべき旨) 松本嘉十 郎カ→色部義大夫様	8月17日	縦紙/(え4605-1 ～64は紙縫一 括)・1通	え4605-59
(包紙) * (包紙上書)「覚」		包紙/(え4605-1 ～64は紙縫一 括)/(え4605- 64-1～7は紙縫一 括)/(え4605-64- 7-1～3は包紙一 括)・1点	え4605-64-7- 1
覚(金50両、御取替金元利の内受取に付) 松代町伝兵衛 (印)→佐久郡三塚村新八殿・七左衛門殿	文政2卯年7月24日	横切紙・1通	え4605-64-7- 2
覚(新八殿・七左衛門殿坪数10210坪質入証文1通並びに 右質地年季中御年貢夫銀村役人中預り書付1通御預 り置き申す旨) 松代町伝兵衛(印)→佐久郡三塚村七左 衛門殿・新八殿	文政2卯年7月24日	横切紙・1通	え4605-64-7- 3
(金1両勝助よりほか引当として私家財受人方へ差し出 し置く旨書付)		横切継紙/(え 4609-1～20は紙 縫一括)・1通	え4609-8
(書状、当役所金子繰について近年不作のため差支え、当 年御柱祭礼もあり貴所様御手先にて銀方御用達衆中 へ金子借用依頼に付) 元メ役大熊善兵衛次庸(花押)・ 千野源五郎房儀(花押)・千野茂左衛門光博(花押)→八田嘉 助様人々御中	2月	横切継紙/(え 4612-1～42は括 り紐一括)・1通	え4612-1
覚(御幣川村卯八文政11年正月分借用金2両2分元利金 御年賦願ひ奉るに付)		切継紙・1通	え4612-6
覚(御内借金55両差引勘定書付)		横切紙・1通	え4612-39
(去5月迄の貸付方調のことなど事項3条指示書)	寅7月	横切継紙/(え 4616-1～33は括 り紐一括)・1通	え4616-28
(書状、先達て同役一同借用仕る100両金漸々手に入り元 利107両名代を以て差遣わすに付) * (包紙上書)「八田 嘉右衛門様要用金子添 瀬下七左衛門」 瀬下七左衛門・箕 輪新八→八田嘉右衛門様	12月16日	横切継紙/(え 4619-1～33は括 り紐一括)・1通	え4619-26
(書状、今般扨無き儀により金子拝借したく御無心中 上げ何卒100両の恩借り願ひ上げ奉るに付) * (包 紙上書)「八田嘉右衛門様御下要用 倉澤七太夫倉澤愛之 助」 愛之助・七太夫→嘉右衛門様御座右	11月17日	横切継紙・1通	え4619-29

(書状、御手鑑瀬下七兵衛方より落合氏まで差出され御預り下され金子30金拝借仰せつけられれば有り難きに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様八田辰三郎様 瀬下源吾」/(包紙裏書)「六月廿日根津ニ而相認置申候」 瀬下源吾→八田嘉右衛門様・八田辰三郎様	6月20日	横切継紙/(え4620-1~16は括り紐一括)・1通	え4620-6
(書状、井上村坂本亀之助跡式に付) * 前欠		縦紙・1通<3枚>	え4621
(書状、元金23両5分利付15年賦に利下ならびに年賦割合御返金承知仕るに付) * (端裏書)「沢守禮殿へ差遣候書状下案」		横切継紙/(え4627-1~27は括り紐一括)・1通	え4627-1
口上(御内話承知仕る所、去々年中10円金借用追々返金も当節借用分これなきに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 深美甚十郎」 深美甚十郎→八田嘉右衛門様	3月□日	横切継紙・1通	え4627-8
(書状、御差引方につき御越の由、金については質地引渡年過ぎるにより如何とも申し兼ねるに付)	4月26日	横切継紙/(え4629-1~15は括り紐一括)・1通	え4629-5
(書状、池野氏指金2口×8両1分余指上げにより何分然るべき様願ひ上げ奉るに付) * (端裏書)「嘉右衛門様金子添 義八郎」 義八郎→嘉右衛門様 金子添	29日	横切紙/(え4630-1~13は括り紐一括)・1通	え4630-2
(元利金差引13両余調書付) * 前欠	正月	横切継紙・1通	え4630-5
覚(金3両、差掛り入用の儀御無心御心入を以て御取替え成し下され当12月中旬元利相揃え御返済申すべき旨) 中村原民(印)→八田嘉助殿	亥7月12日	横切紙/(え4631-1~23は紙縫一括)・1通	え4631-5
口上(昨朝相願う別紙2通明朝迄に相願うに付) 原民→嘉助様	12日	横切紙・1通	え4631-6
覚(金100両ほか、元金懸の分は元金に相立て利分13両の分は利分の方取り入れ残金元金に相立てるに付元金135両1割利附証文替える旨)		横切紙・1通	え4631-12
覚(金3両、扨無き義に付御無心御承知下され当7月初旬までに返済致すべき旨) 八田慶助(印)→八田嘉助殿	天保10亥年5月	横切紙・1通	え4631-14
覚(金25両、差懸り入用に付御無心申した処御口入れ下され、早速御知行所村請け証文差し出され申すべき旨) 松木束(印)・松木源八(印)→八田嘉助殿	天保11子年正月6日	横切継紙・1通	え4631-18
(書状、前嶋の利分1両2分差し上げ御落手下さるべき旨) * (端裏書)「伊勢丁様 金子入 柴町」 柴町→伊勢丁様	極月29日	横切紙・1通	え4631-19
(貸付金書付一括)		包紙一括/(え4634-1~61は括り紐一括)/(え4634-2-1~3は包紙一括)・1点	え4634-2-0
(包紙) * (包紙上書)「増田氏請取切手入」		包紙・1点	え4634-2-1
(亥2月金1分おのへ方へ貸の旨書付)		切紙・1通	え4634-2-2
(戌大晦日金2分増田へ貸の旨書付)		切継紙・1通	え4634-2-3
(書状、昨晚三郎兵衛を以て御無心申上げる所、金2両御時貸しなし下されるべきに付) * (端裏書)「新十郎様 三郎左衛門」 三郎左衛門→新十郎様	3月5日	横切継紙/(え4634-1~61は括り紐一括)・1通	え4634-4

1.内方/11.金融/2.貸付金

覚(伊勢町八郎右衛門拝借金の内金5両受取に付) 八田喜右衛門(印)→名主茂兵衛殿	亥8月24日	横切紙・1通	え4634-8
覚(伊勢町次郎右衛門拝借金御利息の内金2両受取に付) 八田喜右衛門(印)→名主茂兵衛殿	亥8月25日	横切継紙・1通	え4634-10
(八田鍵之助殿高100石分江戸割返し分高34石8斗本口 粗50表余代金11両1分余書付) *(包紙上書)「馬場丁江戸割之書附入 丑十二月廿日」	丑12月	横切紙・1通	え4634-11
覚(千田村年賦割合金1両1分、片岡半蔵殿分当未利息などメ2両3分余取集金受取下さるべきに付) 馬場丁→伊勢町様	12月30日	横切継紙・1通	え4634-15
覚(御時借金1両2分確かに受取に付) *(包紙上書)「田中村文廣青圓両坊江かし金済切之節一札 文廣江かし金切手入」 文廣→孫左衛門様	未10月5日	横切紙・1通	え4634-17
覚(金4両1分会村忠左衛門方借り置き申す1割5分利分相添え4年賦に返金いたすに付)	子12月	切紙・1通	え4634-28
覚(亥12月預かり金5両メ5両1分内会村忠左衛門へ4両1分借し置くなど勘定差引に付)	丑6月	切継紙・1通	え4634-29
①覚(抛無き要用により金3両御無心する所、恩借致すに付)、②覚(金3両御預かり置く借主より切手遣わす次第この切手御引替下さるべきに付) *(包紙上書)「赤沢内蔵進殿金六両借り切手入」 赤沢内蔵進(印)→	安永5年申3月19日	横切継紙・1通	え4634-35
覚(当7月御借用印書差出し置く金4両などメ7両借用の所、この度御返上申すに付) 左仲→嘉右衛門様	丑12月28日	横切継紙・1通	え4634-36
覚(金2歩抛無き入用により来月中旬まで御時借仕るに付) 小林門衛門(印)→八田孫左衛門殿	卯10月	切紙・1通	え4634-37
(大瀬登借用関係書類一括)		包紙一括/(え4634-1～61は括り紐一括)/(え4634-47-1～3は包紙一括)・1点	え4634-47-0
(包紙) *(包紙上書)「芝町証文一通」		包紙・1点	え4634-47-1
金子借用之事(抛無き要用により御無心申し無尽金の内金10両受取に付) 大瀬登(印)→青柳善兵衛殿	子12月28日	横切継紙・1通	え4634-47-2
覚(金1両1分余などメ3両3分余借用致し受取申すに付) 大瀬政右衛門→八田孫左衛門殿	酉12月29日	横切継紙・1通	え4634-47-3
覚(亥12月10日金10両など鍵之助殿より借用仕る分などの差引勘定、相違なく登殿・鍵之助殿分とも残らず受取相済むに付) 坂原兵助(印)→八田孫左衛門様	天明元丑年12月	横切継紙/(え4634-1～61は括り紐一括)・1通	え4634-48
(書状、寄り付かれぬ故計らうも出来申さずにより、こればかりは工面及ばれずに付) *(端裏書)「用事」	丙丁童子	切紙・1通	え4634-49
押田差引覚(鍵之助分亥12月10日分無尽金10両借用など差引10両2歩あまり孫左衛門方へ預かり置き申すに付)	丑12月	横切継紙・1通	え4634-50
寛政二年戊十二月廿九日木町方差引書調(市村南組庄右衛門年賦割1両などメ金2両2分2朱のうち金額揃わざるため金2両借用に付) 競→	寛政2戊年12月29日	折紙・1通	え4634-52

覚(金15両西寺尾村七郎兵衛御口入下される所、当3月20日返済できずにより霜月20日まで御取延下されるべきに付) * (包紙上書)「青木氏書付七月請取一」 青木浪治(印)→大瀬登殿	安永6年酉2月20日	横切紙・1通	え4634-55
(書状、三輪氏より森浦右衛門殿をもって返上仕るにより受取の上切手御戻し下されたきに付) * (端裏書)「孫左衛門様 競」 競→孫左衛門様	極月29日	横切紙・1通	え4634-57
覚(金3分引当的矢2つ差遣わし置くにより借用申すに付) 高野黒治(印)→大瀬登殿	安永9年子11月	横切紙・1通	え4634-61
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉へもんさま 田町いんきよ」		包紙/(え4637-1~11は括り紐一括)/(え4637-1~3は包紙一括)・1点	え4637-1-1
(書状、この程段々願上げる事御承知下され早速御かし下され忝きに付) 両中内→八田嘉へもんさま		横切継紙・1通	え4637-1-2
(書状、先立って御借り申し上げた金はともにこの度御一品になされ下されとの由に付)		切紙・1通	え4637-1-3
覚(戊年金10両など、金93両余差引31両余勘定書付)		横切継紙/(え4637-1~11は括り紐一括)・1通	え4637-2
(書状、関田氏をもって御無心申す所、御承知下され忝く印書2通認め差し上げるに付) * (端裏書)「嘉右衛門様 印書式通添 弥四郎」 弥四郎→嘉右衛門様	12月27日	横切継紙・1通	え4637-3
覚(上小嶋田村蔵本借り分御元金2両2分1割付利息1分など、金1両3分余差し上げるに付) 善左衛門持参→	12月27日	横切継紙・1通	え4637-4
(書状、先立って段々頼み申した無心とかく捗り申さず困り申すにより金子15両御借り申すに付) * (包紙上書)「八田嘉へもんさま 田町いんきよ」 両中内→八田嘉右衛門さま	5月14日	横切継紙・1通	え4637-5
(書状、先刻の御証文返上仕り私罷り出るべき所、上納にも取込により略儀御免下されるべきに付) 与一右衛門→嘉右衛門様	12月7日	横切継紙/(え4638-1~34は括り紐一括)・1通	え4638-4
(書状、金子1両何分御借り申し上げたく御願ひ申上げるに付) しまち→嘉助殿		切紙・1通	え4638-8
(岡野甚十郎・坂原兵左衛門貸金勘定書付一括)		綴/(え4638-1~34は括り紐一括)/(え4638-22-1~2は綴一括)・1綴	え4638-22-0
覚(享保14年12月28日金5両など、金74両岡野甚十郎様へ貸金勘定書付) * 反故紙利用		折紙・1通	え4638-22-1
(坂原兵左衛門かし金延享2年12月分100両など差引188両勘定書付)		折紙・1通	え4638-22-2
(書状、その内鈴木名目にて綿内様へ御取替の分鈴木差引にて御返済に成し下されるに付) 慎蔵→承之助様	19日	横切継紙/(え4639-1~39は括り紐一括)・1通	え4639-31

1.内方/11.金融/2.貸付金

(書状、拠無き入用により金10両御時借り御無心申した き所、御返済は3月下旬までに御返弁申すべきに付) *(端裏書)「八田孫左衛門様 宮沢彦右衛門 宮沢彦右衛 門→八田孫左衛門様	2月27日	横切継紙/(え 4641-1~11は括 り紐一括)・1通	え4641-5
(書状、先日御尋ねの節、御内話のこと福岡村仙吉罷り越 し委細承知致すに付) 八田嘉右衛門→熊井武助様御報	4月19日	横切継紙・1通	え4641-6
(書状、証文書入等のこと先日相談申し上げず、今日印形 持参致されるのでこの段宜しく頼み上げるに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様貴下 熊井武助」 熊井武助 →八田嘉右衛門様	4月19日	横切紙・2通	え4641-8
(書状、証文書入について今日万事御取仕舞下し置かれ る様この段願ひ上げ奉るに付)		横切紙/(え4641-1 ~11は括り紐一 括)/(え4641-8 に巻込)・1通	え4641-9
覚(拠無き要用により願ひ奉る所、御聞き済みにより金2 分確かに受取に付) *(端裏書)「文化十酉三月 一金式 分 伊勢町武兵衛かし印書」 伊勢町武兵衛(印)→八田嘉 右衛門様御内嶺村吉兵衛様	文化10年酉3月	横切継紙/(え 4642-1~9は括 り紐一括)/(え 4642-1-1~10は 包紙一括)・1通	え4642-1-3
覚(拠無き儀により御借用願ひ上げる所、御聞き済まし により金3両2分確かに受取に付) *(包紙上書)「覚 治 助」 治助(印)→傳兵衛様	文化12年亥正月	横切継紙・1通	え4642-1-4
覚(拠無き儀により願ひ上げる所、御時借り成し下され 金5両確かに受取に付) *(端裏書)「寅十二月鍛冶町金五 両 友左衛門印書」 鍛冶町友左衛門(印)→八田嘉右衛門 様御内中村金七様	文化3年寅12月	横切紙・1通	え4642-1-5
覚(願ひ奉り金5両御恩借なし下される所、来戌11月中御 元利御返上仕るべきに付) *(端裏書)「文化十酉年十二 月金五十両也 田村昌仙老戌十一月中旬まで約諾ニ而貸印 書」 田村昌仙(印)→八田嘉右衛門様	文化10年酉12月	横切紙・1通	え4642-1-6
(越村音高寺借用金関係書状一括)		包紙一括/(え 4642-1~9は括 り紐一括)/(え 4642-1-1~10は 包紙一括)/(え 4642-1-8-1~3は 包紙一括)・1点	え4642-1-8-0
(包紙) *(包紙上書)「松代八田嘉右衛門様御別業 音高寺」/ (包紙裏書)「越村殿文政六未七月三日金三歩也 善光寺近 江屋九兵衛へ渡手紙」		包紙・1点	え4642-1-8-1
(書状、金3歩善光寺近江屋九兵衛方へこの印紙持参の 上御渡し下される様何分願ひ上げ奉るに付) 越村 音高寺[印]→松代八田嘉右衛門様座各	未7月11日	横切継紙・1通	え4642-1-8-2
(書状、兎角少々の子にても手元に有合せば遣わし 安き故御面倒を省みず御頼み申上げ置くに付)		横切紙・1通	え4642-1-8-3
(高井郡越村音高寺借用金子関係書状一括)		包紙一括/(え 4642-1~9は括 り紐一括)/(え 4642-1-1~10は 包紙一括)/(え 4642-1-9-1~3は 包紙一括)・1点	え4642-1-9-0

(包紙) * (包紙上書)「松代伊勢町御別宅八田嘉右衛門様貴下音高寺」/(包紙裏書)「従高井郡越村」		包紙・1点	え4642-1-9-1
(書状、御内々御頼み申上げ置いた金の内金子5両御借り申上げたき由により別書仕るに付) 音高寺岳雄[印]→八田嘉右衛門様座側	霜月3日	横切継紙・1通	え4642-1-9-2
①別般(申上げた金子受取の使、一両日中に参り申すべきにより金五両受取の印紙御渡し願うに付)、②覚(金子5両受取に付) 越村音高寺[印]→松代八田嘉右衛門様	文政3年辰11月日	横切紙・1通	え4642-1-9-3
(書状、御頼み申上げ置いた金子の内金5両この者に御渡し御借下される様願ひ奉るに付) * (包紙上張紙)「文政三辰十月廿六日金五両右御渡候封書帖印証文 中野音高寺」/(包紙裏書)「越村」 越村音高寺岳雄[印]→八田嘉右衛門様貴下	文政13年辰10月26日	横切継紙/(え4642-1～9は括り紐一括)/(え4642-1-1～10は包紙一括)・1通	え4642-1-10
(書状、兼ねて御内々御頼み申上げ置いた金子の内金子2両善光寺大門町近江屋九兵衛方へ御渡し願ひ上げ奉るに付) * (包紙上書)「松代八田嘉右衛門当用几下 音高寺」/(包紙裏書)「高井郡越村」 音高寺岳雄[印]→八田嘉右衛門様御別宅	午5月27日	横切継紙/(え4642-1～9は括り紐一括)・1通	え4642-3
(越村音高寺預金近江屋へ代金取替関係書類一括)		包紙一括/(え4642-1～9は括り紐一括)/(え4642-4-1～3は包紙一括)・1点	え4642-4-0
(包紙) * (包紙上書)「文政五壬午六月三日音高寺江預金之内式両善光寺近江屋江相渡候書類音高寺印証入」	文政5壬午年	包紙・1点	え4642-4-1
(書状、越村音光寺様御用物代金取替仕る所、貴家様より仰せ付け下される様仰せ聞かれるに付) * (端裏書)「善光寺大門町 八田嘉右衛門様御手代衆中様 近江屋九兵衛」 近江屋九兵衛→八田嘉右衛門様御手代衆中様	(文政5年)午6月朔日	横切継紙・1通	え4642-4-2
覚(音高寺様御用物金の内金2両確かに受取に付) 近江屋九兵衛→裏野忠七様	(文政5年)午6月3日	横切紙・1通	え4642-4-3
(安永年間より幸助へ貸金一覧書付)		横切紙/(え4643-1～25は括り紐一括)・1通	え4643-5
(明和年中金1両幸助分貸金書付)		切紙・1通	え4643-6
(書状、当6日御返済の元利向方差し遣わす所、則証文相返し申すに付) * (端裏書)「菊屋儀兵衛様 久太郎へ」	正月20日	横切紙・1通	え4643-15
(書状、金子1両御借り申上げたく御願ひ申上げるに付) * (端裏書)「嘉助様用事 志摩方」		折紙/(え4644-1～36は括り紐一括)・1通	え4644-19
(山極源右衛門貸借金関係書類一括)		包紙一括/(え4644-1～36は括り紐一括)/(え4644-33-1～3は包紙一括)・1点	え4644-33-0
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様金七両相添 山極源右衛門」		包紙・1点	え4644-33-1
(書状、当時甚だ難渋により4匁少々御恵なし下されるべき様願ひ奉るに付) 源右衛門→嘉右衛門様	10日	横切継紙・1通	え4644-33-2

(書状、先月中は毎度御厚情をもって願の通り拝借仰せつけられ有難きに付) 山極源右衛門→八嘉右衛門様	4月10日	横切継紙・1通	え4644-33-3
---	-------	---------	------------

1.11.3.無尽

(包紙) * (包紙上書)「天明七未年十二月山越市之丞様無尽寅之助取金明細書積金請取茂入」	天明7年	包紙/(え4602-1~9は紙縫一括)/(え4602-6-1~3は包紙一括)・1点	え4602-6-1
覚(114両余差引き勘定に付) 寅之助→山越市之丞様御屋敷	(天明7年)	縦紙・1通	え4602-6-2
覚(山川利左衛門ほか1名へ差し出しの積金、金10両余受取に付) 山越市之丞内山田金七(印)→寺町寅之助殿	(天明7年)	横切紙・1通	え4602-6-3
覚(御屋敷様御発起100両御無尽明和9年圖金受取り1ヶ年15両宛懸け戻すべく年賦証文1通差し上げ置く旨ほか) * (包紙上書)「覚 山越六郎右衛門殿江差出候証文見江兼候ニ付書替取置申候 寛政四子年十一月」 八田孫左衛門→山(越)六郎右衛門様、(裏書)山越六郎右衛門(印)・山越新八郎(印)	寛政4年子11月	横切継紙/(え4602-1~9は紙縫一括)・1通	え4602-7
(書状、悴馳走に付御礼) * (端裏書)「嘉右衛門様 主膳」主膳→嘉右衛門様	11月20日	横切継紙/(え4603-1~24は紙縫一括)・1通	え4603-14
(書状、先頃段々御咄し申した御無心一件小助申し聞けた御咄しの趣御尤もの義に付) * (包紙上書)「嘉右衛門様御用御直披 主膳」/(端裏書)「嘉右衛門様 主膳」主膳→嘉右衛門様	初冬17日	横切継紙・1通	え4603-15
(書状、旧臘300金無尽も相催し申す旨) * (包紙上書)「嘉右衛門様御用 主膳」/(端裏書)「嘉右衛門様 主膳」主膳→嘉右衛門様	正月22日	横切継紙・1通	え4603-16
(書状、珍味珍品馳走に付御礼) * (端裏書)「嘉右衛門様 主膳」主膳→嘉右衛門様	中冬19日	横切継紙・1通	え4603-17
(書状、今日御客不足に付悴に相望み罷り越す様御咄し下さるべき旨) * (端裏書)「嘉右衛門様 主膳」主膳→嘉右衛門様	11月19日	横切継紙・1通	え4603-18
(書状、御内談申したき義有り明日鳥渡御出で下さるべき旨) * (端裏書)「御返事」主膳→嘉右衛門様	8月5日	横切継紙・1通	え4603-19
(書状、無尽講に付1両御預り及び、二会日より御懸金年々の処上げる様仰せ下さる旨) * (端裏書)「御返事」	極月26日	横切継紙・1通	え4603-20
(包紙) * (包紙上書)「辰三郎様内用御直披 半平」/(包紙裏書)「御返事ハ四五日内ニ頂戴ニ人差上可申候間其節迄御延置可被下候奉願候以上」		包紙/(え4604-1~23は紙縫一括)/(え4604-1-1~5は紙縫一括)/(え4604-1-1~3は包紙一括)・1点	え4604-1-1-1
(書状、積金員数並びに利合等の義申上げるべき段仰せ下され相調える処別紙に委細認め御覧入れたき旨) * (端裏書)「辰三郎様内用 半平」 半平→辰三郎様内用	6月10日	横切継紙・1通	え4604-1-1-2
積金員数		横切継紙・1通	え4604-1-1-3

(書状、先頃相願った義御返事頂戴人差し上げるべき処甚だ取り込み無人であるので延引仕り御勘弁成し下されたき旨) * (端裏書)「辰三郎様内用 半平」 半平→辰三郎様内用	水無月26日	横切紙/(え4604-1-1~5は紙縫一括)・1通	え4604-1-2
(書状、辰公段々御世話下され有り難き旨及び金子御持参に付拙宅へ御出で下さる義御延引下さるべき旨) * (端裏書)「伊勢町公 殿町」 殿町→伊勢町公	16日	切紙・1通	え4604-1-3
(書状、無尽会合に付当年は竹内と半分取であるが去年御同姓様へ一向相願ひ御取金の内半分頂戴に代り私取番の節御引き替え成し下されたき旨) * (端裏書)「伊勢町様内用 殿町」 殿町→伊勢町様内用	初夏12日	横切継紙・1通	え4604-1-4
(書状、頼母敷の義6会目迄は決して他言仕りまじき様仰せ下され承知仕る旨) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様用 答 出浦半平」 出浦半平→八田嘉右衛門様用答	2月28日	横切継紙・1通	え4604-1-5
(包紙) * (包紙上書)「松代御家中八田嘉右衛門様左右 手塚村山極八郎右衛門」/(包紙裏書)「酉十二月四日来帖九兵衛持参同五致参会返書遣ス頼母敷懸出金書附ニ入置候」手塚村山極八郎右衛門→松代御家中八田嘉右衛門様左右		包紙/(え4604-1~23は紙縫一括)/(え4604-5-1~4は包紙一括)・1点	え4604-5-1
(書状、頼母敷の義に付名代差し出した処如何間違い哉佐久郡取集金これあり御示談に及び出金致す様申し含む旨) 八田嘉右衛門→山八郎右衛門様貴報	12月15日	横切継紙・1通	え4604-5-2
覚(金30兩御掛返しほか、37兩2分金銭書上) 無尽連中→菊屋傳兵衛様	酉(年)12月2日	縦紙・1通	え4604-5-3
(書状、私発起無尽の義先日2日会合仕り朔日飛札を以て御側衆より申し上げた処2日御出で下される様御口上仰せ聞けられた旨) 山極八郎右衛門→八嘉右衛門様	12月4日	横切継紙・1通	え4604-5-4
(書状、発起無尽去る末年2兩2分一分懸不足出金に付前紙割合書の通り差し上げ御落手申し上げる旨) * (端裏書)「嘉右衛門様金子入 重道」 重道→嘉右衛門様金子入	12月晦日	横切紙/(え4604-1~23は紙縫一括)・1通	え4604-6
覚(金6兩2分余私名前にて御懸出し遣わされ受取に付) * (端裏貼紙)「御懸金之受取書差上候」 堀内与一右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	文政13寅年12月	横切継紙・1通	え4604-7
(発起無尽未2会目2兩2分不足の分書上)		横切継紙・1通	え4604-15
覚(金5兩2朱、去丑12月初会御無尽春口分御掛金御取替申し元利御返済下され請取の旨) * (端裏貼紙)「文政十三寅年二月金五兩貳朱也 師岡源兵衛殿貸」 増田乙司(印)→師岡源兵衛殿	文政13年寅2月	横切継紙・1通	え4604-16
覚(金92兩2分、石坂柳右衛門発起無尽御差引相極め金子受け取る旨) 和田九郎右衛門(印)→	文政6末年12月	横切継紙/(え4605-1~64は紙縫一括)/(え4605-62-1~4は紙縫一括)・1通	え4605-62-1
覚(20兩2分御預り申し御証文追って差し上げ申すべき旨) 中嶋三右衛門印→寒松山御納所	寅12月29日	横切紙・1通	え4605-62-2
(書状、今日伊勢町様より仰せ渡され罷り出で願い奉りたいが取り込み罷り在り、本証文差当り見兼ね申し別紙相認め御覧に入れ奉り御取り計らい成し下さる旨) * (端裏書)「御請 九郎右衛門」 九郎右衛門→	12月28日	横切継紙・1通	え4605-62-3

1.内方/11.金融/3.無尽

(書状、御下金の義別紙の通り申し遣わし忒へ御渡し成し下さるべく願ひ奉る旨) * (端裏書)「申上貴報御免中島」 中島→	28日	横切継紙・1通	え4605-62-4
覚(寅元・卯元メ金4両2分2朱余差引きに付金1分余受け取る旨) * 貼紙あり 傳兵衛→安左衛門殿	天保14卯年11月6日	横切継紙/(え4608-1~11は紙縫一括)・1通	え4608-10
(金12両2分敷当服2口分ほか金銭書上帳) * (包紙上書)「師岡様御無尽ニ抱り種々御差引卯六月廿六日調書半紙ニ調候分追而要用分」		横半・1冊	え4608-11
覚(辰年2会目御掛金3歩余受取に付) 発起→菊屋傳兵衛様	辰2月11日	横切継紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4612-20
(書状、発起無尽のこと不都束のことあるにより抱無く割合仕り五十治をもって御内話御頼みに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 駒澤式左衛門」 駒澤式左衛門→八田嘉右衛門様人々御中	霜月25日	横切継紙/(え4613-1~21は括り紐一括)・1通	え4613-4
(書状、今般御企ての御頼母敷のこと委細承り忝き所、彼は御心配のこと察し上げ奉るに付) * (下書) 八田嘉右衛門→駒沢式左衛門様貴報	25日	横切継紙・1通	え4613-7
(新春挨拶状、無尽帳面返銭受取、寺町際広旅留) * (包紙上書)「松代八田様御内ニ而傳兵衛様要用 江戸屋与助」/(包紙裏書)「従松本和泉町」 江戸屋与助→八田様御内傳兵衛様	2月20日	横切継紙・1通	え4613-9
(駒澤式左衛門無尽関係書類一括)		包紙一括/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-16-1~3は括り紐一括)/(え4613-16-1-1~6は包紙一括)・1点	え4613-16-1-0
(包紙) * (包紙上書)「文化八末年九月十六日駒沢氏頼母布加入付入用書類入」/(原包紙表書)「鳩雅君内用書御直覧可被下候 雪村」	文化8末年	包紙・1点	え4613-16-1-1
(書状、駒沢氏頼母敷500両に相成り10両分不足により加入のこと御頼み御申し聞くに付)		横切継紙/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-16-1~3は括り紐一括)/(え4613-16-1-1~6は包紙一括)/(え4613-16-1-2~3は帯一括)・1通	え4613-16-1-2
(書状、駒澤式左衛門殿申し聞かされるには無尽当年2会目に相成り当会より500両取になるに付) * (追伸共) 雪村→書鳩君内用書	斎月14日	横切継紙・1通	え4613-16-1-3
(書状、駒沢氏御発起頼母敷委細御懸合いの趣承知致すに付) 嘉右衛門→五十治様	9月16日	横切継紙/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-16-1~3は括り紐一括)/(え4613-16-1-1~6は包紙一括)・1通	え4613-16-1-4

覚(無尽会合日時・掛金形式取り決めに付) 雪杵→書鳩様		横切継紙・1通	え4613-16-1-5
(書状、駒澤家無尽のこと御細答仰せ下され承知致すに付) 雪杵→書鳩雅君内用書御直覧可被下候	9月16日	横切継紙・1通	え4613-16-1-6
御連中取番年御名前目録写(亥年当り八田嘉右衛門殿・村山村黒岩八百蔵殿など当り年・名前目録)		横切継紙/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-16-1~3は括り紐一括)・1通	え4613-16-2
(発頭駒澤式左衛門無尽午11月26日初回御連中名前目録)		横切継紙・1通	え4613-16-3
(書状、駒沢式左衛門殿無尽御断の趣申しつけるも誠に難儀に付1口50両取御無心申したきに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 尊下要用書 堀内半右衛門」堀内半右衛門→八田嘉右衛門様玉安下要用書	10月17日	横切継紙(天地赤色)/(え4613-1~21は括り紐一括)・1通	え4613-17
(書状、先年御厚志に預かった無尽この程滞りなく相済むに付) *(端裏書)「嘉右衛門 伯耆 伯耆→嘉右衛門様	12月12日	横切紙/(え4619-1~33は括り紐一括)・1通	え4619-7
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様内要用 明徳寺」		包紙/(え4619-1~33は括り紐一括)/(え4619-9-1~3は包紙一括)・1点	え4619-9-1
(書状、野拙発起無尽の儀も来月9日に会合仕る故去年通り六右衛門殿へ御執持ち願ひ上げるに付) 学海→書鳩様雅案下	11月29日	横切紙・1通	え4619-9-2
(書状、町田源左衛門様金子の事は御代官にて御取るべきにより八田分申し立てるべき哉に付)		切紙・1通	え4619-9-3
(包紙) *(包紙上書)「松代二而八田嘉右衛門様 内藤大和守 内山下源太夫」		包紙/(え4619-1~33は括り紐一括)/(え4619-24-1~3は包紙一括)・1点	え4619-24-1
(書状、名菓1箱御恵投下され毎々御深志の段忝き次第に付) *(端裏書)「下案」 八田嘉右衛門→山下源太夫様貴報	4月8日	横切継紙・1通	え4619-24-2
(書状、御手代衆へ頼母敷割合帳御目に掛け置く所、鞠子佐一兵衛殿方へも委曲御断申し置くに付) 山下源太夫景明(花押)→八田嘉右衛門様人々御中	3月29日	折紙・1通	え4619-24-3
(書状、無尽につきこの度飛脚を以て委細承知により近日中御手代衆の内1人御差引あるに付) *(包紙上書)「松代八田嘉右衛門様貴答 関山村越牛兵衛 稲垣甲馬 村越伴司」 世話人稲垣甲馬・村越牛兵衛→八田嘉右衛門様貴下	6月11日	横切継紙/(え4619-1~33は括り紐一括)・1通	え4619-27
(書状、無尽の義御世話下される所、先達て申し上げる通り半口私方より掛け出し置くに付) *(封筒表書)「八田嘉右衛門様 斎藤曾右衛門」 斎藤曾右衛門→八田嘉右衛門様貴下	11月8日	横切継紙・1通	え4619-31
市兵衛手帳写(弘化元辰年より末吉無尽取入の方へ増金36両など3口の無尽書上ほか)		横切継紙/(え4626-1~19は括り紐一括)/(え4626-1-1~6は紙縫一括)・1通	え4626-1-6

1.内方/11.金融/3.無尽

覚(取った1口分懸戻3両3分余など坂原・直左衛門懸け戻し金銭書付)		横切紙/(え4630-1~13は括り紐一括)・1通	え4630-3
覚(金1両、私発起無尽八田辰三郎殿御出金掛不足に付)かし印→八田嘉助殿	天保9戊年8月21日	横切紙/(え4631-1~23は紙縫一括)・1通	え4631-3
(書状、酒蔵売渡300両のうち200両を無尽差し添えとするに付) * (包紙表書)「午十一月 山極八郎右衛門より来状」/虫損甚大 山極八郎右衛門→嘉右衛門様	午11月17日	横切継紙・1通	え4631-4
(無尽に付差引き勘定書) * (端書)「き印 寺町様」		横切継紙・1通	え4631-8
(発当、終会取入金へ懸り分から差引き5両3分2朱余御出金成し下さるべき旨書付)	戊12月	横切継紙/(え4631-1~23は紙縫一括)/(え4631-16-1~2は折込一括)・1通	え4631-16-1
(福島村松右衛門殿、金3両1分余り当会へ懸け分として御出金下さるべき旨)	戊12月	横切紙・1通	え4631-16-2
(嘉助様、圖金高・亥年四分一預り金へ懸りつみ金ノ51両3分余、差引き残金23両3朱御手取止)	戊12月	横切継紙/(貼紙あり)(え4630-1~23は紙縫一括)・1通	え4631-17
(和合院無尽関係書類一括)		包紙一括/(え4634-1~61は括り紐一括)/(え4634-6-1~3は包紙一括)・1点	え4634-6-0
(包紙) * (包紙上書)「八田孫左衛門様要用書入 和合院」		包紙・1点	え4634-6-1
金子利足請取覚	天明元丑年12月日	横半・1冊	え4634-6-2
(書状、前日御頼み置いた当会無尽金昨日増田氏より証文遣わされ、拙方より御届け申し呉れる様にと申し越すに付) * (端裏書)「八田孫左衛門様 和合院」 和合院→八田孫左衛門様	11月13日	横切継紙・1通	え4634-6-3
(小林門右衛門発起無尽関係書類一括)		包紙一括/(え4634-1~61は括り紐一括)/(え4634-16-1~3は包紙一括)・1点	え4634-16-0
(包紙) * (包紙上書)「小林門右衛門様無尽年延書付一通入 天明三卯十一月廿二日」	天明3卯年	包紙・1点	え4634-16-1
覚(金2歩7匁5分私発起無尽懸返金扱無き勝手向きにより亥年まで8ヶ年の間利分御用捨御取延御無心申し入れるに付) 小林門衛門(印)→八田孫左衛門殿	天明3年卯11月22日	切紙・1通	え4634-16-2
覚(金8両1分源左衛門分3分2匁5分など差引金5両1分余勘定書付)		堅紙・1通	え4634-16-3
覚(坂原兵左衛門無尽懸戻金調達仕らず兵助仕入置く金高金2両1分御引取下される様御頼み申すに付) * (包紙上書)「太田三郎左衛門殿借金証文一通 天明元年丑五月廿六日」 高井野村三左衛門→孫左衛門様	丑5月26日	横切継紙/(え4634-1~61は括り紐一括)・1通	え4634-18

覚(矢代村源之助發起無尽2会目貴殿圖当り半分自分方へ御渡し下され確かに受取に付) * (包紙上書)「山越様ち五拾両証文一通但し時証文」 山越六郎右衛門(印)→八田孫左衛門殿	明和7年寅11月5日	豎紙・1通	え4634-31
覚(御無尽御会合の節深堀長左衛門殿御掛不足金3兩確かに受取に付) 甚兵衛(印)→八田孫左衛門様	丑5月10日	横切紙・1通	え4634-33
(無尽懸金勘定書付書類一括)		綴/(え4634-1~61は括り紐一括)/(え4634-38-1~3は綴一括)・1綴	え4634-38-0
覚(1口2分懸2口半懸金1兩1分など差引3分3匁2分3厘懸金友野氏5兩無尽割合書付)		横切紙・1通	え4634-38-1
(申年発起1分などメ1兩6匁5分余差引1分3匁4分4厘5毛不足書付)		横切継紙・1通	え4634-38-2
(両村納辻金8兩1分程の内払い木綿代1分など差引1兩6匁5分余受取の旨書付)		横切紙・1通	え4634-38-3
覚(当寺無尽圖御当金5兩御預かり置くにより御入用次第別証文遣わされ書付御引替金子御渡し申されるべきに付) * (包紙上書)「大英寺建立講圖金五兩請取候ニ付其俣大英寺御鑑司江御預ヶ置申候切手請取一通安永八亥十二月」 大英寺鑑寺(印)→八田孫左衛門殿	安永8年亥12月	横切紙/(え4634-1~61は括り紐一括)・1通	え4634-39
預り申金子之事(三郎左衛門発起無尽御取金の内11兩拠無きにより受取年2割に定め借用仕るに付) * (包紙上書)「金拾壹兩 三郎左衛門殿証文一通 金拾兩曾助殿証文一通 馬場丁分」 高井野村預り主喜曾七(印)・請人三郎左衛門(印)→小森村幾右衛門殿	安永8年亥11月22日	豎紙・1通	え4634-44
当卯暮御差引書(金7兩2分余などメ金8兩3分差引2兩3分余りおのへ方より上ヶ申すに付) * (包紙上書)「芝町ち参り候金子請取書付 山越氏無尽切手一通 卯五月相改入置」 誠政(印)→		横切継紙・1通	え4634-51
覚(長井四郎右衛門様無尽金関田庄助受取分3分1金11兩確かに受取に付) * (端裏書)「関田嘉右衛門殿切手」 関田嘉右衛門(印)→八田孫左衛門殿	安永3年午12月4日	横切紙・1通	え4634-56
(丑年6兩半口分50兩など、圖当5年分合計200兩などメ515兩勘定書付)		横切継紙/(え4636-1~10は括り紐一括)・1通	え4636-5
(大英寺無尽掛金不足関係書類一括)		包紙一括/(え4641-1~11は括り紐一括)/(え4641-1-1~4は包紙一括)・1点	え4641-1-0
(包紙) * (包紙上書)「御朱印寫」		包紙・1点	え4641-1-1
覚(金16兩2分上村彦五郎様半口分辰・巳・午・未4ヶ年分掛不足10人割1人1兩2分余勘定書付) * (端裏書)「大英寺無尽上村彦五郎殿懸不足ニ付不足之分差引書」		横切継紙・1通	え4641-1-2
覚(金76兩2朱2つ割38兩余正取金青柳氏より受取書付)	未閏12月18日	横切継紙・1通	え4641-1-3

1.内方/11.金融/3.無尽

(書状、常福寺門の作事申付ける所、不在の由油断にて早々出向く様に申付け、旁曲事たるべき由仰せ出されるに付) * (写) 師岡源兵衛東之→矢沢但馬守殿・池田長門守殿・出浦半平殿	酉4月2日	横切継紙・1通	え4641-1-4
覚(喜右衛門殿懸金4両2分余など差引金14両2分不足分差出し申すに付) * (包紙上書)「源左衛門様用事不為御認候 弥惣右衛門」		折紙/(え4641-1~11は括り紐一括)・1通	え4641-2
内山氏無尽御取替被成下候差引調書(丑4月御取替金3分銀8匁余など差引3両3分銀8匁余勘定書付) 守之丞→	戌11月	横切継紙/(え4643-1~25は括り紐一括)・1通	え4643-11
(大嶋太右衛門無尽金関係書類一括他)		綴/(え4643-1~25は括り紐一括)/(え4643-25-1~4は一綴)・1綴	え4643-25-0
(小嶋村曾右衛門分金2両3分余などメ金14両銀3匁余返済5両4匁余など借用金勘定書付)		切紙・1通	え4643-25-1
覚(金15両銀5匁余酉年過など酉から子年4カ年分の過不足額差引3両2分銀10匁余など勘定書付)		横切紙・1通	え4643-25-2
覚(大嶋太右衛門殿無尽丑寅取分金29両2分はじめ8件の無尽掛金など差引24両3分余勘定書付)		横切継紙・1通	え4643-25-3
(卯暮取1口分36両などメ353両2分余り差引36両1分など師岡無尽差引書付)		折紙/(え4644-1~36は括り紐一括)・1通	え4644-9
(書状、頼母敷再会により御手伝として銀2枚並びに世話方働きの者まで御恵贈有り難きに付) * (端裏書)「御報願行寺」 願行寺→	12月17日	横切継紙・1通	え4644-11
長谷川金藏無尽(受取金3両2朱余などメ2両1分2朱余差上げ申すに付) 守之丞→	12月	横切紙・1通	え4644-15
(書状、藤田にて御厚情の無尽24日に仕り度旨七つ時より光来なし下される様申し聞くに付)	20日	横切紙・1通	え4644-20
覚(無尽金500文などメ700文差引勘定に付) 喜多屋三右衛門→源治様	3月10日	横切継紙・1通	え4644-22

1.11.4.貸付金返済滞り

(書状、大塚村久左衛門代り与惣左衛門其向御役方へ差し出した処申訳相立てがたく町宿預け仰せ付けられ、金子皆済ならば勘弁につき本証文等私共方へ御廻し成し下されるに付) * (端裏書)「伊勢町様申上 九郎右衛門与三左衛門」 九郎右衛門・与三左衛門→伊勢町様申上	11月29日	横切紙/(え4604-1~23は紙綴一括)・1通	え4604-22
覚(去る卯年病死の御平川村字八文政11年正月分借用金残金滞り2両2分年賦願うに付)	卯12月調	横切紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4612-22
覚(欠落藤蔵殿金1両1分余借用無利足にて当申年より10ヶ年賦1ヶ年2朱余書付)		切紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-26

(書状、証文替えも昨年差支える所、段々御頼み申すには利分も高利になり迷惑等と御申越し下されるに付) * (端裏書)「かし町様御返書 十人町拝」 十人町拝→かし町様	3月14日	横切継紙/(え4640-1~15は括り紐一括)・1通	え4640-3
(書状、金子のこといろいろ手段仕り御勘定申上げたき所、今以て定御挨拶申し上げ兼ねるにより御勘弁に付) 十人町→かじ町様	11月29日	横切紙・1通	え4640-4
(書状、先日屋敷御年貢並びに多吉分一同差上げるにより御手数にて多吉分年貢高何程あるかに付) 十人町→かし町様金子添	29日	横切継紙・1通	え4640-5
(書状、金子の事幾重にも御頼み申上げたき所、御切米糶についても差上げ申したきも村方にて今以て揃い兼ねるに付) 十人町→かし町様内用	12月23日	横切紙・1通	え4640-6
(書状、当暮までに御勘定申上げたきも当年は格外の大差支えにより金子当暮までに御勘定申上げ兼ねるに付) 十人町→かじ町様当用	11月17日	横切紙・1通	え4640-7
(書状、この程中御勘定残り金1分差上げるにより、御勘定なし下される様にしたく存じ奉るに付) * (端裏書)「未正月十四日」	正月14日	横切紙・1通	え4640-8

1.11.5.質地

(書状、質地一件について平兵衛殿当方へ出向御掛合あるも落着致さず(に付) * (端裏書)「式度目返事 閏三月廿九日」 蓮村庄屋平吉・静間村庄屋市郎右衛門→松代傳兵衛様	閏3月29日	横切継紙/(え4627-1~27は括り紐一括)・1通	え4627-13
(書状、別紙取調べ御覧に入れ御手元の方差引きに御立て成し下される分は御書き入れ仰せ下されたき旨)	正月21日	横切継紙/(え4631-1~23は紙縫一括)・1通	え4631-7

1.11.6.伊勢山田御師広田筑後一件

(書状、吉村家相続の一条、大浜村五右衛門倅和助と申す者へ名跡相続申し付けるに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 廣田筑後」 廣田筑後→八田嘉右衛門様	3月28日	横切継紙/(え4601-1~7は紙縫一括)・1通	え4601-4
(書状、松代表御檀用近年相勤めさせた岩出六右衛門儀師職式に相背いた趣に付替役申し付ける旨) 慶徳 図書正(花押)・笠井主馬末(花押)・廣田金吾事自性・中山対馬正尹(花押)・福井美作末古(花押)・廣田筑後正直(花押)→八田孫左衛門様・八田喜左衛門様・西条村弥左衛門様	10月26日	折紙/(え4603-1~24は紙縫一括)/(え4603-5-1~3は包紙一括)・1通	え4603-5-2
(書状、先達て兵助取喰の折柄申し上げた岩出儀当月下旬まで帰国致さるべく様申し上げた処大借金片着き手間取り今以て相片付き兼ね私共儀難渋仕る旨) 佐藤伊兵衛・増田惣右衛門→廣筑後様参人々御中	9月26日	折紙/(え4603-1~24は紙縫一括)/(え4603-6-1~5は折込一括)・1通	え4603-6-3
(書状、年始の御祝いに付) * (包紙上書)「松代木町二而八田孫左衛門様人々御中 原彦五郎」/(包紙裏書)「吉田村より 無拋用事申遣候乍御世話早速御届ヶ可被下候以上」 原彦五郎利久(花押)→八田孫左衛門様	正月7日	折紙/(え4603-1~24は紙縫一括)・1通	え4603-8
覚(金8両預り金内訳書上) 玉井惣三郎→	辰極月	横切継紙・1通	え4603-12

1.内方/11.金融/6.伊勢山田御師広田筑後一件

口上覚(廣田筑後御物成御不足表の儀八田孫左衛門方へ願ひ置くに付10ヶ年間年々同人御断り申し上げ次第御渡し下さるべき儀筑後御願ひ申し上げ御聞き置き下さるべき旨) 廣田筑後代吉村嘉右衛門→	安永5年申8月	横切紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-60
(包紙) * (包紙上書)「八田孫左衛門様内用 増田喜右衛門」/(包紙裏書)「未八月十五日出之書状九月五日之返礼」		包紙/(え4601-1~7は紙縫一括)/(え4601-1-1~3は包紙一括)・1点	え4601-1-1
(書状、出府の一件再発も仕るべき哉の趣岩出より指図の通り松本清八方へ差送り尊方様も着き次第御披覧下さるべき旨) 増田喜右衛門→八田孫左衛門様尊下	15日	横切紙・1通	え4601-1-2
(書状、前方出入の一件落着致し兼ね再発致すべき哉の趣に付、松本清八方へ御順達の書状の御返答逐一仰せ下されたき旨) 八田孫左衛門→増田喜右衛門	9月	折紙・1通	え4601-1-3
(書状、六右衛門儀に付松垣掃部其御地へ差し越し申すので宜しく頼む旨) * (包紙上書)「八田孫左衛門様 廣田筑後同親類中」 廣田筑後正直(花押)・同親類中→八田孫左衛門様	2月11日	折紙/(え4603-1~24は紙縫一括)・1通	え4603-3
(書状、此度家作等仕り相建ち大悦奉り来春御参宮の節は右座敷にて御滞留成し下される様取り繕いたき旨) 廣田筑後正直(花押)→八田孫左衛門様	8月2日	折紙・1通	え4603-4
(包紙) * (包紙上書)「八田孫左衛門様八田喜左衛門様 廣田筑後同親類中」		包紙/(え4603-1~24は紙縫一括)/(え4603-5-1~3は包紙一括)・1点	え4603-5-1
覚(筑後方借金相増えるに付其御地へ勸化に参り各々様お世話を以て勸化金800両帳面へ御付け下され金子寄り集める旨ほか) 筑後親類中・廣田筑後(印)→八田孫左衛門様・八田喜左衛門様・西条村弥左衛門様	10月26日	横長半・1冊	え4603-5-3
(書状、御片付方に付御旦家頭立の御方様御相談の上無尽等御借成し下され其上借金方御片付け下され忝き仕合せの旨) 廣田筑後→八田孫左衛門様・八田喜左衛門様	7月十何日	折紙/(え4603-1~24は紙縫一括)/(え4603-6-1~5は折込一括)・1通	え4603-6-1
(書状、御取替の金子遣わすべき処各々大形大金出来も仕るべきなので追い付き岩出氏帰国の節御取替えも揃えさせ私共書状を添え差送る旨) 佐藤伊兵衛・増田惣右衛門→鈴木安兵衛様	7月	折紙・1通	え4603-6-2
(書状、此表御借金の義に付私共数日相懸り各々両家御名前達て御無心申した処荒々御承引も下される趣に付) 佐藤伊兵衛・増田惣右衛門→廣田筑後様	7月	折紙・1通	え4603-6-4
(書状、別紙申し上げた此表無尽に付私共儀万事世話仕った処村々御旦家頭立てられた衆中へ向け申し談じた処勢州表成されたく左の面々離旦も仕るべき様と申し御不埒の旨)		折紙・1通	え4603-6-5
(書状、此間委しく申し上げた様に中野の儀こまり、小町儀も病氣にて引き込む様町中または将監御免の願ひ仕る旨) * (包紙上書)「八田孫左衛門様増田宗右衛門様 岩出六右衛門」 岩出六右衛門→八田孫左衛門様・八田喜右衛門様・増田宗右衛門様	7月13日	折紙/(え4603-1~24は紙縫一括)・1通	え4603-7

(書状、数年来の義岩出六右衛門国元にて聞合わせる様に仰せ付けられたので当春御手代へ申し入れたく存じた処去暮より御替役差し遣わされるに付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様同喜右衛門様増田宗右衛門様 岩出六右衛門」 竹内三太夫→廣田筑後様	閏6月3日	横切継紙・1通	え4603-9
(書状、去秋中玉井氏罷参り其節御返事申し遣わした義心得違いの段仰せ聞けられたが此方には其御地思召違いと存じ松代表にて内済相調え罷り在る旨) 桧垣掃部・廣田筑後→八田孫左衛門様	正月21日	横切継紙・1通	え4603-10
覚(去る10月分金220両ほか金子書付) 鈴木安兵衛→	正月6日	折紙・1通	え4603-11
(包紙) * (包紙上書)「八田孫左衛門様桧垣掃部」 桧垣掃部→八田孫左衛門様		包紙/(え4603-1~24は紙縫一括)/(え4603-13-1~2は包紙一括)・1点	え4603-13-1
(書状、六右衛門出入の儀も当所師職中江戸表寺社御奉行所へ預の儀これあり罷り越し当地奉行所も出入の儀相止め申すに付六右衛門出入も来春に成され下さるべき旨ほか) 桧垣掃部→八田孫左衛門様	11月15日	横切継紙・1通	え4603-13-2
(書状、旧冬御緩御頂戴これ無き段承知致す旨) 桧垣掃部→八田孫左衛門様	15日	横切継紙・1通	え4603-13-3
(書状、昨日は清十郎殿御出になる所、尚又念を入れた御紙中の趣承知仕るに付) 一郎右衛門→孫左衛門様	如月晦日	横切紙/(え4611-1~12は括り紐一括)/(え4611-4-1~8は括り紐一括)・1通	え4611-4-1
(書状、坂木方帰檀の節格別の御入魂に預る所右一件滞りなく相整うに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 廣田筑後親類惣代廣田与三大夫 豊田大夫」 廣田筑後親類惣代豊田太夫勝(花押)・右同断廣田与三大夫正(花押)→八田嘉右衛門様	2月吉日	折紙/(え4613-1~21は括り紐一括)・1通<2枚>	え4613-11
(書状、上田表御帰旦のこと今般松崎氏並びに彼地重立御旦那中と御懸合の所、諸事滞りなく御帰旦相整うに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 廣田筑後」 廣田筑後→八田嘉右衛門様	9月23日	横切継紙/(え4620-1~16は括り紐一括)・1通	え4620-3
(岩出六右衛門引請金関係書類一括他)		紙縫一括/(え4634-1~61は括り紐一括)/(え4634-5-1~4は紙縫一括)・1点	え4634-5-0
(書状、兼ねて仰せ下された金子のこと差当り金子有合せ申さず差遣わし兼ねるに付) * (端裏書)「吉村嘉右衛門様 長岡左平太」 長岡左平太→吉村嘉右衛門様	6月18日	横切継紙・1通	え4634-5-1
(書状、仁田村安兵衛のこと先月六右衛門殿引居金について当春願ひ出すも惣右衛門・伊兵衛引受無きに付) * (端裏書)「外二佐藤増田兩人々之書状 寅六月十八日吉村嘉右衛門殿罷歸り候二付筑後殿江文通扣 清十郎孫左衛門兩人々」 宇佐見清十郎・八田孫左衛門→廣田筑後様	6月18日	横切継紙・1通	え4634-5-2
(書状、仁田村安兵衛のこと先月岩出六右衛門殿引請金について当春願ひ出すも惣右衛門・伊兵衛引受無きに付) * (下書)		横切継紙・1通	え4634-5-3

1.内方/11.金融/6.伊勢山田御師広田筑後一件

覚(幕布6反確かに受取に付) 伊勢町左太夫→御使	とら6月17日	切紙・1通	え4634-5-4
覚(山越六郎右衛門殿御請合当卯無尽会取番により金105両確かに受取に付) * (包紙上書)「岩出六右衛門発起無尽當会山越六郎右衛門様御取番ニ付御名代江金子相渡切手取置申候追而本証文引替御渡可申候」 山越六郎右衛門殿代判永野善藏(印)・同断三輪六十郎(印)・同断松本治三郎(印)→岩出六右衛門殿・惣御連中	明和8卯年12月22日	堅紙/(え4634-1~61は括り紐一括)・1通	え4634-12
覚(広田様御物成粳64俵受取申すに付) * (包紙上書)「加賀屋清五郎粳請取切手入」 か、屋清五郎(印)→中村喜左衛門殿	安永5申年正月	切紙・1通	え4634-60
(書状、後役の義先達中其御地御世話人中より主人筑後方へ仰せ越されるに付嘉守下向仕り御心添えの程願ひ上げ奉る旨) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様書画帖紙包[] 吉村嘉四郎」 吉村嘉四郎→八田嘉右衛門様	10月20日	横切継紙/(え4609-1~20は紙縫一括)・1通	え4609-6
(包紙)		包紙/(え4611-1~12は括り紐一括)/(え4611-1~6は包紙一括)/(え4611-1-1~3は紙縫一括)・1点	え4611-1-1
(書状、御出入のこと御辛勞と察し、私も種々申入れたこと分る様にしたき旨筑後殿方の思召しに付) * (紙縫下札)「午正月六日勢州へ下書」		折紙/(え4611-1-2~3は紙紐一括)・1通	え4611-1-2
(書状、去る冬参宮いたし長滞留仕り段々御懇情仕り忝きに付) * (下書) 八田孫左衛門→廣田筑後様・檜垣掃部様	正月6日	折紙・1通	え4611-1-3
(書状、この方出入のこと広田より段々御奉行所を拵え去年冬中立逃げの勘定に相成るに付) いわた→左藤様・増田様	正月14日	折紙・1通	え4611-1-4
(書状、先達て嘉右衛門をもって御頼み申す金子35両確かに受取に付) 廣田筑後正(花押)・檜垣掃部正(花押)→八田孫左衛門様	8月29日	横切継紙・1通	え4611-1-5
(書状、六右衛門のことについて佐藤伊兵衛殿代りに御出下されるも了簡も成り難き品あるに付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様八田喜右衛門様 廣田筑後」 廣田筑後正直(花押)・同親類中→八田孫左衛門様・八田喜右衛門様	2月11日	折紙・1通	え4611-1-6
乍恐口上書を以奉申上候御事(広田御師手代岩出六右衛門と申す者勢州鈴木安兵衛と申す者より借用金あるに付) * (控カ) 八田孫左衛門・惣右衛門・伊兵衛→御奉行所	明和9年	堅紙/(え4611-1~12は括り紐一括)・1通	え4611-2
(書状、その御町方名前の衆中この度牧野越中守様より出入について御召出あるに付) * (包紙上書)「信州松代伊勢町御名主様 江戸神田いつミ橋通り平川町代地庄内屋武左衛門」 神田いつミ橋通り平川町代地庄内屋武左衛門→松代伊勢町与頭孫左衛門様・惣右衛門様・伊兵衛様、右御名主衆中様 人々御中	9月16日	横切継紙・1通	え4611-3
覚(金30両年2割など元利金36両今度要用のことあるにより御用御繰廻し金の内拝借仕るに付) * (写) 八田孫左衛門・御請合八田喜右衛門→堤左次兵衛殿	安永元辰年12月	堅紙/(え4611-1~12は括り紐一括)/(え4611-4-1~8は括り紐一括)・1通	え4611-4-2

(包紙) * (包紙上書)「口上覚 佐藤伊兵衛」		包紙/(え4611-1 ～12は括り紐一 括)/(え4611-4-1 ～8は括り紐一 括)/(え4611-4- 3-1～3は包紙一 括)・1点	え4611-4-3-1
覚(福島村本加金伊勢屋諸入用差し引き残り堀平蔵殿より金2両2分余受取により御渡し申すに付) * (写) 岩出六右衛門→佐藤伊兵衛様	3月23日	横切紙・1通	え4611-4-3-2
口上覚(福島在勤化金2両2分余受取持参に付) * (写) 佐藤伊兵衛→八孫左衛門様	3月23日	横切紙・1通	え4611-4-3-3
(原彦五郎関係書類一括)		括り紐一括/(え4611-1～12は括り紐一括)/(え4611-4-1～8は括り紐一括)/(え4611-4-4-1～3は包紙一括)・1点	え4611-4-4-0
(包紙) * (包紙上書)「信州埴科郡松代町八田孫左衛門様 原彦五郎」		包紙・1点	え4611-4-4-1
(書状、彦五郎殿より申上げられる様相違も無く今日両所にて三方会合所へ相願ひ申される由に付) 岩出六右衛門→八田孫左衛門様・八田喜右衛門・宇佐美清十郎様・伴伊左衛門様・増田惣右衛門様	9月4日	横切継紙・1通	え4611-4-4-2
(書状、此方より御左右申すべき所、彦五郎間違い仕置彼は延引に相成るに付) 岩出六右衛門→八田孫左衛門様	8月3日	折紙・1通	え4611-4-4-3
御請一札之事(牧野越中守様御直差紙一通ほか来月2日まで出府届けるべきに付) * (下書カ) 当人たれ・五人組たれ・たれ・壱人・名主八田孫左衛門・惣右衛門・伊三・和助・弥右衛門・名主茂兵衛→庄内屋武左衛門殿	年号年月日	堅紙/(え4611-1～12は括り紐一括)/(え4611-4-1～8は括り紐一括)・1通	え4611-4-5
(岩出六右衛門御普請借金関係書類一括)		包紙一括/(え4611-1～12は括り紐一括)/(え4611-4-1～8は括り紐一括)/(え4611-4-6-1～7は包紙一括)・1点	え4611-4-6-0
(包紙) * (包紙上書)「巳八月十四日岩出勢州出立下書」		包紙・1点	え4611-4-6-1
(書状、御用向にて出府仕る所、心外千万御察し下される旨、聞き済み難き内済承知に付) * (下書)		横切紙・1通	え4611-4-6-2
(書状、岩出六右衛門殿御差し下し御借金方の御片付けなされる段甚だ間違いの筋に付) * (下書)		横切継紙・1通	え4611-4-6-3
借用申一札之事(拠無き要用により御無心申上げる所、御取替下され金35両借用受取に付) * (下書) 廣田筑後→八田孫左衛門殿	月日	堅紙・1通	え4611-4-6-4
(書状、9月中登せ金御入用出来により登せ呉れる様御頼み仰せ下されるに付) * (下書) 御宅名→廣田筑後様参人々御中	8月	横切継紙・1通	え4611-4-6-5

1.内方/11.金融/6.伊勢山田御師広田筑後一件

(書状、岩出六右衛門殿御普請御借金について穿鑿するも中野町小町善右衛門取り計らい方不埒に付) * (下書) 御宅名→廣田	8月	横切継紙・1通	え4611-4-6-6
(書状、御手代岩出六右衛門差し下され御借金御片付の所、小町善右衛門殿入り組み難しきに付) * (下書) 八田喜右衛門・宇佐美清十郎・八田孫左衛門(墨抹消)→廣田	8月	横切継紙・1通	え4611-4-6-7
(書状、六右衛門殿御訴訟申上げられ相済み兼ねる所、私共諸々存ぜざるにより心外至極に付) * (下書) 八田孫左衛門→廣田筑後様参人々御中	8月13日	折紙/(え4611-1~12は括り紐一括)/(え4611-4-1~8は括り紐一括)・1通	え4611-4-7
口上覚(奉加の折、衣服大小拵え難儀と申す金子は勢州へ取り寄せられ、その上普請出来に付) 岩出六右衛門→八田孫左衛門様	正月26日	折紙・1通<2枚>	え4611-4-8
(廣田筑後関係書類一括)		包紙一括/(え4611-1~12は括り紐一括)/(え4611-6-1~3は包紙一括)・1点	え4611-6-0
(包紙) * (包紙上書)「神田いつミ橋平川通」/(包紙上書)「神田いつミ橋通平川町代地庄内屋武左衛門方々書状写 辰九月廿一日暮前ニ飛脚到来」		包紙・1点	え4611-6-1
(書状、御領内松代の住人佐藤伊兵衛・菊屋兵助御社御修復料金貸付有るに付) 花山院殿家一色治部居判・山中采女・横山左近居判→真田伊豆守様御役人中	3月10日	折紙・1通	え4611-6-2
(書状、其御町方名前の衆中、牧野越中守様より御召し出しの御差紙あるに付) 神田いつミ橋通り平川町代地庄内屋武左衛門→松代伊勢町与頭孫左衛門様・惣右衛門様・伊兵衛様・右御名主衆中様人々御中	9月16日	横切継紙・1通	え4611-6-3
(書状、小町善右衛門殿段々引逢う所、勘定出来るものの御事には無きに付) 岩出六右衛門→佐藤伊兵衛様・増田宗右衛門様	4月21日	折紙/(え4611-1~12は括り紐一括)・1通	え4611-7
(書状、筑後親類より書状ある如く、不如意の広田家甚だ難渋の節御賢察下されるべきに付) 中山對馬正尹(花押)→八田孫左衛門様	2月21日	折紙/(え4611-1~12は括り紐一括)・1通	え4611-8
(書状、筑後方万端御世話にて奉加借金なども大形に相片付けるよう仰せ下されるに付) * (包紙上書)「佐藤伊兵衛様 檜垣掃部」 檜垣掃部→佐藤伊兵衛様	10月21日	折紙/(え4611-1~12は括り紐一括)・1通	え4611-9
(書状、世倅筑後のこと御取持御世話下される所、拙者も実父檜垣家を相続仕り広田家とは義絶に付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様八田喜右衛門様増田惣右衛門様 檜垣掃部祐」 檜垣掃部祐正貞(花押)→八田孫左衛門・八田喜右衛門様	10月18日	横切継紙/(え4611-1~12は括り紐一括)・1通	え4611-10
(向八幡村の内中村年貢勘定関係書類一括)		包紙一括/(え4611-1~12は括り紐一括)/(え4611-11-1~17は包紙一括)・1点	え4611-11-0
(包紙) * (包紙上書)「御収納物請取書卯辰兩年々共二入巳年差引書一通」/(包紙裏書)「廣田拝借切手三枚入吉村氏切手一枚入卯三月廿九日出此方々遣シ申候請取扣も有」		包紙・1点	え4611-11-1

覚(御拝借金の内卯年分御礼金4両上納受取に付) 堤左治兵衛(印)→八田孫左衛門殿	明和8年卯11月	横切紙・1通	え4611-11-2
覚(御拝借金卯年分御礼金2両上納受取に付) 堤左治 兵衛(印)→八田孫左衛門殿	卯11月	横切紙・1通	え4611-11-3
(向八幡村の内中村高200石諸勘定差引106俵4斗余野村 善太夫方より受取に付勘定書) 祢津要左衛門・成沢勘 左衛門→	巳12月	横切紙・1通	え4611-11-4
覚(粃代金13両銀5匁5分などメ金71両1分余勘定書付) (「九百七拾六文」札)		横切継紙・1通	え4611-11-5
		札・1点	え4611-11-6
(向八幡村の内中村高200石諸勘定差引127俵1斗余野村 善太夫方より受取に付勘定書)* (写) 祢津要左衛門 印・成沢勘左衛門印→廣田筑後殿	卯12月	横切継紙・1通	え4611-11-7
覚(金26両などメ金74両3分余金銭勘定書付) 吉村嘉 右衛門→	卯12月29日	横切紙・1通	え4611-11-8
覚(卯年中村御知行所御収納御物成代金74両3分余り受 取に付) 八田孫左衛門→廣田筑後殿御代吉村嘉右衛門殿	明和8卯年12月29日	折紙・1通	え4611-11-9
覚(向八幡村の内中村高200石卯巳年御年貢御物成勘定 金33両3分余皆済に付) 中村庄屋重右衛門印→廣田筑 後様御名代吉村嘉右衛門様	安永3午年2月	折紙・1通	え4611-11-10
覚(辰年中村御知行所御収納物成金77両余勘定受取に 付) 八田孫左衛門印→廣田筑後殿御代吉村嘉右衛門殿	安永2巳年2月19日	横切継紙・1通	え4611-11-11
覚(金301両の内去辰上納分貴様御立て替え分堤市郎右 衛門殿御掛金23両上納に付) 吉村嘉右衛門(印)→八 田孫左衛門殿	安永2年巳2月	縦紙・1通	え4611-11-12
(卯年上納分御切手1枚金26両貴様御取替御上納成され る所、辰年本金皆済により引替受取書) 廣田筑後代 吉村嘉右衛門(印)→八田孫左衛門殿	明和8卯年12月29日	横切継紙・1通	え4611-11-13
(書状、広田分金25両拝借差引相極めるにより不足引上 残今日中御持出御上納下されるべきに付)	12月28日	横切継紙・1通	え4611-11-14
(212俵3斗余差引メ35両3分余勘定書付)		切継紙・1通	え4611-11-15
覚(粃代金25両3分余など3月2日に残らず御皆済仕るに 付) 庄屋重郎右衛門(印)→吉村嘉右衛門様	午3月2日	折紙・1通	え4611-11-16
覚(金7両受取に付) 八田孫左衛門(印墨消)→吉村嘉右衛 門殿	2月24日	切紙・1通	え4611-11-17
(書状、近年申合せの金子去秋中遅滞におよび存外難渋 に付)* (包紙上書)「八田孫左衛門様 廣田筑後檜垣掃 部」 檜垣掃部正貞(花押)・廣田筑後正直(花押)→八田孫左 衛門様	6月2日	折紙/(え4611-1 ~12は括り紐一 括)・1通	え4611-12

1.11.7.貸借金

(メ11両1分3匁、金10両申酉利足渡し申すべき分勘定書付) *(前欠)		横切紙/(え 4609-1~20は紙 縫一括)・1通	え4609-4
---	--	----------------------------------	---------

1.内方/11.金融/7.貸借金

覚(金93両2分当巳年より40ヶ年賦など借入金銭勘定書付)		横切継紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4612-13
(包紙) * (包紙上書)「八田主人 用事 鳥山僧拜」		包紙/(え4620-1~16は括り紐一括)/(え4620-9-1~3は包紙一括)・1点	え4620-9-1
(書状、北村家近来相続内証不手廻にて気の毒至極の所、御慈愛をもって御手元御厚情御厄介忝き次第に付) * (下書カ)		折紙・1通	え4620-9-2
(書状、先祖莫大の功勞にて手厚く取建てられた北村の家名並びに住居の地所中絶残念により拙寺引請申すに付) * (下書カ)		切紙・1通	え4620-9-3
覚(文化6巳年から文政12年までの利分・割合金書付)		横切継紙/(え4627-1~27は括り紐一括)・1通	え4627-24

1.12.飯山領

1.12.1.無尽

(書状、斧右衛門発起無尽戸隠山入証文のこと今般同山より貴家様へ御懸合ありに付) 山岸三四郎・小山伝右衛門→笠井和七様	9月3日	横切継紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-13
覚(飯山より無尽掛不足残り金3両御渡し下され受取に付) 喜右衛門〔印「松屋」〕→八田孫左衛門様御使万助殿	丑5月10日	横切紙/(え4634-1~61は括り紐一括)・1通	え4634-43
覚(飯山無尽当掛出分金515両など八田嘉右衛門方飯山表無尽会について出金の分取計らい方取り調べるに付) * (端裏書)「興津権右衛門殿へ召出候紙面扣」 関田守之丞→	11月	横切継紙/(え4636-1~10は括り紐一括)・1通	え4636-7
口上覚(役代伝兵衛飯山御領分村方質流地引請けるも、遠路により飯山町平三郎など小作引受などの話あるも破談に付) 関田守之丞→	4月	横切継紙・1通	え4636-8

1.12.2.訴訟

覚(御手元より受取、高田にて宗弥へ、赤倉にて和七へ、善光寺にて良右衛門へそれぞれ渡し申す金メ金8両3分2朱金銭書付) (関田)守之丞→	6月5日	切紙/(え4638-1~34は括り紐一括)・1通	え4638-3
(書状、御来賀の時分相願った一件について御帰館後笠井へ御尋ね下され御世話くださるにより忝きに付) 高田茂左衛門→関田守之丞様人々御中	12月18日	横切継紙・1通	え4638-12

1.12.3.貸付金

(書状、其節御談事申し置いた荒神町へ粍8俵此者に御渡し下されたき旨) * (端裏書)「菊屋和七様 紙屋町甚左衛門」 紙屋町甚左衛門→菊屋和七様	2月21日	切紙/(え4603-1~24は紙縫一括)・1通	え4603-23
---	-------	-------------------------	----------

(書状、飯山様へ御用達金3000兩質地郷証文にて当子年までの年限に付) 八田嘉右衛門→	子11月	横半/(え4612-1～42は括り紐一括)・1冊	え4612-40
---	------	--------------------------	----------

1.12.4.音信

(書状、鴨1番・内山紙3束相贈られ年寄共も御意を得るに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 吉松四郎左衛門 高田茂左衛門」 高田茂左衛門庚容(花押)・吉松四郎左衛門集美(花押)→八田嘉右衛門様	12月12日	折紙/(え4601-1～7は紙縫一括)・1通	え4601-3
(包紙) * (包紙上書)「飯山より書簡入」		包紙/(え4605-1～64は紙縫一括)/(え4605-63-1～4は包紙一括)・1点	え4605-63-1
(書状、改年及び年始の御祝詞貴意を得るべき旨) 高田茂左衛門良容(花押)・吉松四郎左衛門集美(花押)→八田嘉右衛門様	正月15日	折紙・1通	え4605-63-2
(書状、新春の御吉慶に付) 高田茂左衛門・吉松四郎左衛門→八田嘉右衛門様人々御中	正月15日	折紙・1通	え4605-63-3
(書状、改春の御吉兆に付) 三橋新五右衛門営繁(花押)→八田嘉右衛門様参人々御中	正月5日	折紙・1通	え4605-63-4

1.12.5.藩御用

(書状、去歳御轉役御勝手向御取締等御取計らい向仰せを蒙り、飯山領江戸廻米止め麦倉村引受けの始末につき) →様		横切継紙/(え4633-1～26は紙縫一括)・1通	え4633-4
--	--	---------------------------	---------

1.13.岩村田領

1.13.1.御勝手御用

(書状、御願い申し上げた証文書替並びに御日延書今日は誰か持参仕る積りの処皆済にて延引罷り成り申す旨) * (包紙上書)「岩村田御出張笠井和七様貴報 野津宿並木喜右衛門」 並木喜右衛門→笠井和七様御報	12月14日	横切紙/(え4609-1～20は紙縫一括)/(え4609-20-1～13は紙縫一括)・1通	え4609-20-1
(書状、仰せ下された御領主様御勝手一件に付) * (端裏書)「寅二月中岩村田へ返報」 →並木清一郎様・並木七左衛門様・渡辺武左衛門様貴報	2月21日	横切継紙/(え4619-1～33は括り紐一括)・1通	え4619-17
(書状、500兩の義御別状仰せ付けられる趣承知仕り早速その筋へ申し上げるべきに付)		横切紙/(え4619-1～33は括り紐一括)/(え4619-17に巻込)・1通	え4619-18
(書状、倉持寛左衛門述べる通り勝手方御立入のこと領主より御挨拶など差し進めるべき所に付) * (包紙上書)「松代八田嘉右衛門様貴答 野澤村並木清一郎並木七左衛門渡辺武左衛門」 渡辺武左衛門・並木七左衛門・並木清一郎→八田嘉右衛門様	8月15日	横切継紙/(え4619-1～33は括り紐一括)・1通	え4619-19

1.内方/13.岩村田領/1.御勝手御用

(書状、御扶持方遣わすのは兼て大金の古借あるも御無沙汰におよぶも勝手向御世話下されるに付) * (包紙上書)「松代御家中八田嘉右衛門様 岩村田家中倉持寛左衛門」 倉持寛左衛門→八田嘉右衛門様	8月6日	横切継紙・1通	え4619-21
(書状、昨夜御内談申し上げた通り是迄の不義理は御聞き捨て下され当年は江戸屋敷一橋御門勤方其外臨時入用に付50金八田氏へ宜しく仰せ下さるべき旨) 出澤喜右衛門・前田宗右衛門→和合院様	12月13日	横切継紙/(え4633-1~26は紙縫一括)/(え4633-9-1~4は包紙一括)・1通	え4633-9-2
(書状、少子義去年中年寄役申し付けられ勝手向き取締等諸事孝行の者同様勤向き申し付けられるに付ほか) * (包紙上書)「文政七申七月九日岩村田々到来候進返下案 八田嘉右衛門様 倉持寛左衛門」 倉持寛左衛門(花押)→八田嘉右衛門様	7月8日	横切継紙/(え4633-1~26は紙縫一括)・1通	え4633-5
(包紙) * (包紙上書)「文政四巳十二月十三日岩村田御家中前田氏出沢氏々来状并飯沼村吉地文兵衛書状入此方々差遣候下案入」		包紙/(え4633-1~26は紙縫一括)/(え4633-9-1~4は包紙一括)・1点	え4633-9-1
(書状、小生儀川上向の義に付御内話申したく昨夜御当地へ参着仕る旨) 皆神山和合院印→高木定五兵衛様・犬井丈左衛門様・出沢喜右衛門様人々御中	12月20日	横切継紙・1通	え4633-9-3
(書状、松代伊勢町伝兵衛殿より郷借金の義仰せ聞けられ15日には罷り出でる旨、表向きは郷借りであるが内々は岩村田にて御賄金に付岩村田屋敷へ申上げる旨) * (端裏書)「海野宿御本陣藤田御隠居様貴酬 飯沼村吉地文之助」	12月13日	横切継紙/(え4633-1~26は紙縫一括)/(え4633-9-1~4は包紙一括)/(え4633-9-4-1~2は折込一括)・1通	え4633-9-4-1
覚(御手紙落手仕り七左衛門留守であるので帰宅次第早速相達し申すべき旨) (並木)七左衛門宅→御使衆中様	12月13日	横切紙・1通	え4633-9-4-2

1.13.2.仕送金

(岩村田藩仕送金関係書類一括)		紙縫一括/(え4608-1~11は紙縫一括)・1点	え4608-0
年賦済公金(寅から午年まで合元金1340両、利金375両3分)		折紙・1通	え4608-1
(書状、表書の通り勝手向差し支えに付仕送金の義申し入れた処承諾これあり大悦の旨)		切紙・1通	え4608-2
(書状、当領主は勝手向き御難渋にて正月より9月中迄は入箇差支え御仕送りの義は其御許様へ仰せ入る処承知くださる旨) 二十一ヶ村郡付村付頭立・番人連印→		横切継紙/(え4608-1~11は紙縫一括)/(え4608-3-1~2は巻込一括)・1通	え4608-3-1
(書状、表書の通り勝手向き差支えるに付仕送りの義無心申入れた処承諾致され大悦存する旨) 内藤豊後守印→		横切継紙・1通	え4608-3-2
(書状、御勝手向御仕送の義御願に付)		横切継紙/(え4608-1~11は紙縫一括)・1通	え4608-4

臨時(公私吉凶に付入用ほか拠処なく何分御出金下される様致したく非常の節備えの手段等御示談下されたき旨)	寅3月	横切継紙・1通	え4608-5
覚(諸々借入金取調べた処別紙の通り大借に及ぶので返済方手段なく年々売り出し金残りこれあれば仕送方へ預け置き積金に致す旨ほか)		折紙・1通	え4608-6
丑年(金182両正月ほか各月ノ金3077両)		折紙・1通	え4608-7
(金2247両江戸ほかノ金3137両金銭書付)		折紙・1通	え4608-8
土江様へ申越候趣意(諸御借入金御取調べ御返済御取調べの事他4条承知仕り熟得仕らずば御仕送り受兼ねるに付)		横切継紙/(え4619-1~33は括り紐一括)・1通	え4619-16

1.13.3.貸付金

(書状、屋敷証文書替の儀仰せ下され此方種々取り込みに付印形等残らず御引き替え相成り兼ね何卒冬迄御延引下される様御頼み申し上げる旨) * (包紙上書)「岩村田御旅宿笠原和七様要用 野沢村並木七左衛門・並木晋右衛門」 並木七左衛門・並木甚左衛門・並木晋右衛門→笠原和七様	8月16日	横切継紙/(え4633-1~26は紙縋一括)・1通	え4633-1
(書状、八田様へ金子拝借先達御願ひ申し入れるに付尊君様御厚情に御思召し成し下され御同人より金子20両入手拝借仕る旨) * (包紙上書)「松代皆神山和合院様尊報 腰越村甚五兵衛」 甚五兵衛→皆神山和合院様	11月26日	横切継紙・1通	え4633-6
(書状、御拝借金の義に付先中平吉殿申し上げ置いた処延引に相成り申し上げる様もなく御高免成し下さるべき旨) * (包紙上書)「松代皆神山和合院様尊報 腰越村瀧沢甚五兵衛」 瀧沢甚五兵衛→皆神山御院主様	未10月朔日	横切継紙・1通	え4633-7
(書状、御無心御約束申し置くり金子50両遣わさるべく確かなる御使いとして足輕1人願ひ奉る旨) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様内証文入用書 岩村田家中犬井条左衛門」 犬井条左衛門(印)→八田嘉右衛門様人々御中	12月27日	横切紙・1通	え4633-8
(書状、先日犬井罷り出で万事御内話成し下され其上100両御渡し下された故御取計らいの程筆紙に尽くし難き旨) * (包紙上書)「和合院様用書 前田宗右衛門犬井条左衛門」 守常百拝→和合賢君	12月24日	横切継紙・1通	え4633-11
(書状、先達御物語此方勝手次第成る御印証御願ひ上げたが万端故障なく用事残らず相整ひ満足の旨ほか) * (包紙上書)「和合院様用入 前田宗右衛門犬条左衛門」 犬井条左衛門→和合院様人々御中	極月23日	横切継紙・1通	え4633-15
覚(子11月元金2900両、丑11月利分滞金290両ほか金銭勘定に付)		横切継紙・1通	え4633-18
(書状、八田氏差引の儀、拙子受取金利分の儀昨年御渡し下され、利分下される訳に及ばざる趣御含み下さるべき旨) * (包紙上書)「松代御家中関田庄助様貴答 岩村田法華堂」 法華堂→関田庄助様	正月20日	横切継紙・1通	え4633-19

1.内方/13.岩村田領/3.貸付金

覚(質入地の内御水帳表弥八・元右衛門ほか4名名前田地の儀は拙院引き請けの地面に付質入地に致す旨) *(端裏書)「群神山和七岩村田出張ニ付諸々々來帖不用之書類候得共残置候事」——質置主法華堂印——同所組頭平助印→——殿	年号年月	横切紙・1通	え4633-20
(書状、御帰りの節、嘉右衛門殿へ此品御持参下さるべく貴様御出でに付御頼み申す旨) *(端裏書)「笠井和七様前田宗右衛門」	8月14日	横切紙・1通	え4633-21
(書状、書替添証文相認め法華堂へ申し遣わした処去年中の証文にて当暮迄置かるべき様相頼み、御承知下れば書替に及ばざる旨) *(端裏書)「笠井和七様 前田宗右衛門」	8月17日	横切継紙・1通	え4633-22
(書状、御証文書替の義私方は此節印形致し兼ね当冬迄御延引願ひ奉る旨) *(端裏書)「笠井和七様貴下 並木晋右衛門」	8月6日	横切継紙・1通	え4633-23
(書状、他出の者あり御預り置き、今日調印差し上げ御入手下さるべき旨) *(端裏書)「笠井和七様御報 並木新右衛門」	8月18日	横切継紙・1通	え4633-24
(書状、証文替の義仰せ越され今日の通り貴意を得るべき旨) *(端裏書)「笠井和七様御報 并木晋右衛門」	8月晦日	横切紙・1通	え4633-25
(和合院年賦関係書類一括ほか)		括り紐一括/(え4636-1~10は括り紐一括)・1点	え4636-0
(書状、御引合の金子差し上げるべき所、江戸表より昼夜の宿継により臨時御入用のため御返済延引に付) *(包紙上書)「和合院様要用 岩村田小松郷右衛門」 小松郷右衛門→和合院様	12月27日	横切継紙・1通	え4636-2
(和合院年賦金返済猶予関係書状一括)		包紙一括/(え4636-1~10は括り紐一括)/(え4636-3-1~3は包紙一括)・1点	え4636-3-0
(包紙) *(包紙上書)「和合院様尊下 渡邊武左衛門 並木甚右衛門」		包紙・1点	え4636-3-1
(書状、引合置く松代年賦金について御領分中米値段下直により不納人もあるなどにより松代表へ頼みいるに付) *(端裏書)「渡邊武左衛門殿並木甚右衛門殿 小松郷右衛門」 小松郷右衛門→渡邊武左衛門殿・並木甚右衛門殿	12月20日	横切継紙・1通	え4636-3-2
(書状、小松氏御約定仕る金子について当冬米穀値段下直などにより私共より申し訳致しくれる様申されるに付) 並木甚右衛門・渡邊武左衛門→和合院様上	12月25日	横切継紙・1通	え4636-3-3
(書状、豊後守当年在村にて先月25日当地へ着任致されるにより拙者共御見舞申して御様子承る様申付けられるに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様参人々御中 伊藤重蔵 井上祐右衛門」 井上祐右衛門・伊藤重蔵→八田嘉右衛門様参人々御中	9月	横切継紙/(え4640-1~15は括り紐一括)・1通	え4640-15

1.13.4.無尽

(書状、御引合残金20兩御送り下されず其上当20日迄には一件御掛向無尽御挨拶下さるべき旨旧臘中御約諾申す所猶又故障に付御賢察下されたき旨) 和合院→彈藏様	正月23日	縦紙/(え4602-1～9は紙縫一括)/(え4602-9-1～3は紙縫一括)・1通	え4602-9-1
(書状、旧臘中岩村田より引請けた一件江府御役人衆へ御掛合の上当20日迄に御挨拶下さるべき趣未だ御相談御決めなさるべく御延ばしなさる旨) 和合院→一様・一様	正月23日	縦紙・1通	え4602-9-2
(書状、去冬御懸合いの岩村田無尽一件義証文名寄の者共呼び出し評義したが未だ相談決着致さず御延ばし下さる様願ひ上げる旨) * (包紙上書)「和合院様 塩川孫七郎 落合弾藏」 落合弾藏・塩川孫七郎→和合院様	正月22日	横切継紙・1通	え4602-9-3
(長国寺無尽八田家仲介をもって岩村田方加入致す一件関係書類一括)		包紙一括/(え4613-1～21は括り紐一括)/(え4613-15-1～4は包紙一括)・1点	え4613-15-0
(包紙) * (包紙上書)「松代御家中八田嘉右衛門様貴答 岩村田家中利根川茂七」/(包紙張紙上書)「文化十三丙子正月改差懸り不用印書」	文化13年	包紙・1点	え4613-15-1
(書状、長国寺無尽懸金持ち遣わせた者に御馳走罷り成るに付) 茂七→嘉右衛門様	(文化13年)11月28日	横切紙・1通	え4613-15-2
(書状、長国寺無尽御加入申すにより御念を入れられ御挨拶下される所、承知致すに付) 利根川茂七→八田嘉右衛門様	(文化13年)11月28日	横切継紙・1通	え4613-15-3
(書状、無尽会合滞りなく相済む所、岩村田の方貴君御厚志をもって御加入下されるに付) 長国寺副寺→八田嘉右衛門様	(文化13年)11月23日	横切継紙・1通	え4613-15-4
(岩村田無尽祢津懸出指滞りに付祢津表へ懸合相成る様仕りたき旨ほか7カ条書付) * (端裏書)「群神山東武御出張ニ付御心扣指上候事御心扣」		横切継紙/(え4633-1～26は紙縫一括)・1通	え4633-16
(和合院仲介発起無尽返済金延引願関係書類一括)		包紙一括/(え4637-1～11は括り紐一括)/(え4637-6-1～3は包紙一括)・1点	え4637-6-0
(包紙) * (包紙上書)「和合院様貴下用事 法華堂並木甚右衛門渡邊武左衛門」		包紙・1点	え4637-6-1
(書状、発起無尽のこと段々延引に罷り成り不本意の至り八田公へ然るべく御取り繕ひ願ひ上げ奉るに付) 渡邊武左衛門・並木甚右衛門・法華堂→和合院様貴下	5月29日	横切継紙・1通	え4637-6-2
(書状、去冬中延證文差出し当3月中元利返済の所、凶作により当冬まで御延引願ひ奉るに付) * (端裏書)「和合院様 法華堂渡邊武左衛門」 法華堂・渡辺武左衛門→和合院様	5月29日	横切継紙・1通	え4637-6-3

(書状、この程例の無尽会合により毎度ながら遠方御光賀願い申すに付) * (包紙上書)「皆神山和合院様要用 犬井条左衛門」/(包紙裏書)「霜月十四発」 犬井→皆神山御主江人々御中	霜月13日認	横切継紙/(え4637-1~11は括り紐一括)・1通	え4637-11
1.13.5.訴訟			
(書状、岩田村一件について小子出府の時御元メへ委細申上げ内山村忠右衛門へ内談致し倅へ委細申上げるに付) * (包紙上書)「松代八田嘉右衛門様御取次衆中様 江戸神田松永町紀伊国屋より柳沢与惣左衛門」 柳沢与惣左衛門→八田嘉右衛門様	2月24日	横切継紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-8
(包紙) * (包紙上書)「丑十二月岩村田江之書状下書 □草箱入一ツ宛倉持望月富田 並木二宅渡辺江音物」/並木清一郎 他2名宛書状反故利用		包紙/(え4619-1~33は括り紐一括)/(え4619-20-1~3は包紙一括)・1点	え4619-20-1
(書状、書中を以て相願った私頂戴仰せ付けられた御扶持方御訴訟の義江戸表へ仰せ上げられるに付) * (下書) 八田嘉右衛門→倉持寛左衛門様	12月21日	折紙・1通	え4619-20-2
(書状、先達中御掛合いの通り御取集の時節により名代の者差出し宜しき様御取扱い下されたきに付) * (下書)/倉持寛左衛門宛書状反故利用 八田嘉右衛門→富田九兵衛様・望月輔様人々御中	12月21日	横切継紙・1通	え4619-20-3
(書状、岩村田一件について中嶋様より善光寺において御相談の所、五カ条の御尋向御渡し下されるに付) 渡辺武左衛門・並木七左衛門・並木清一郎→八田嘉右衛門様	2月17日	横切継紙/(え4619-1~33は括り紐一括)・1通	え4619-33
(書状、上丸子村七左衛門への出張依頼拒否に付) 御使幸三郎→	2月朔日	横切紙/(え4627-1~27は括り紐一括)・1通	え4627-18
心得書(賃銭1里64文当に受取申すべきこと、差名人一同召連れ罷り越すべき等他2条心得箇条書)		横切継紙・1通	え4627-19
口上書取(金子御調達も無く松代へも御出でにならず御日延書承知するも、御取極証文とは相違に付) * (端裏書)「岩村田一巻」		横切継紙・1通	え4627-20
(書状、別紙申上げた賃銭については此人へ御渡し申さずにより御承知下さるべきに付) (飯沼村名主)文之助(印)→傳兵衛様	閏正月晦日	横切継紙・1通	え4627-21
(開披不可)		横切継紙/(え4629-1~15は括り紐一括)/(虫損甚大)・1通	え4629-6
(書状、田野口村について先方にては30ヶ年賦にして等閑にいたしたき心得に付) * (端裏書貼紙)「御覧之上御預り置可被成下候□助様 守之丞」 源八→守之丞		横切継紙/(虫損甚大)・1通	え4629-7
(書状、伝兵衛願書今日平兵衛差出す所、一覧するも不足あるに付) 源八→守之丞	6月20日	横切継紙/(虫損甚大)・1通	え4629-8
(書状、竹山町様へ御答書相伺うにより御指図を受け清書差し出す様に存じ奉るに付) 守之丞→嘉助様	8月16日	横切継紙・1通	え4629-9

覚(岩村田小作一件について交渉・訴訟過程における取り扱いの趣伺書)	4月	横切継紙・1通	え4629-10
(書状、例の竹山町様へ申し上げる紙面清書ができましたら御覧の上御廻し成し下されるべきに付) 守之丞→嘉助様	8月15日	横切継紙・1通	え4629-11
(書状、田野口村掛合について新八など印形掛の者掛合仕るも向方勝手俣の事のみ申すに付) 良右衛門・平兵衛→	8月	横切継紙・1通	え4629-12
(書状、紙面出来により御預り申上げる所、明朝四つ時過御人ちょっと拝借仕りたきに付) 守之丞→嘉助様貴酬	8月15日	横切継紙・1通	え4629-13
(田野口村一件について済方取扱い行違により相札の上参るべき旨仰せ渡されるなど一件経過書付)		横切継紙・1通	え4629-14
(書状、かねての用向き今以て済まず延引するも当20日前後には腹藏なく御談合願うにつき) 上田十郎兵衛・上田中司→中嶋三右衛門様貴酬	12月13日	横切継紙/(え4633-1～26は紙縫一括)/(包紙共)・1通	え4633-10
(書状、兼々御申し合わせの通り3ヶ村より百姓共も恐入る者につき御取調等片付き次第仕舞いに致したく願ひ上げ奉る旨) *(端裏書)「八田嘉右衛門様用事 犬井条左衛門」	3月26日	横切紙・1通	え4633-13
(書状、院主当5日御地へ御出向致す旨故障等にて延引漸く出立、是迄取極めの約定その毎崩れ迷惑のため出府の御重役様にお目に掛りご規定取極めなくては相談し兼ねるに付) *(端裏書)「入用草稿」	月日	横切継紙・1通	え4633-17
(書状、岩村田一条について伝兵衛代沖八ほか御尊判頂戴罷り越す所、相手村々へ引き渡し2月29日帰り呉れるに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 座間百人」/(包紙裏書)「子六月四日来状」 座間→八田様	正月28日	横切継紙/(え4638-1～34は括り紐一括)・1通	え4638-2
(書状、例の一義について双方出府御差図により今度福島両人の者出府仕る所、然るべき様御賢慮願うに付) *(端裏書)「子五月二日 中野殿と文通下案」 八田嘉右衛門→中左膳様御取次中	5月2日	横切継紙・1通	え4638-7

1.13.6.音信

(書状、先日は初め参上仕る所御丁寧の御饗応忝きに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様参人々御中 倉沢七太夫」 倉沢七太夫→八田嘉右衛門様参人々御中	3月17日	横切継紙/(え4613-1～21は括り紐一括)・1通	え4613-2
(書状、御殊多の御中鯉魚1頭下され浅からず忝きに付) *(端裏書)「下案」 八田嘉右衛門→倉沢七太夫様貴答	3月18日	横切継紙・1通	え4613-3
(書状、3日に松本辺へ罷り出で19日に弊村へ帰着仕るも道中風情もなく寒さに困りいるに付) *(包紙上書)「上八田嘉右衛門様几下 並木甚右衛門玉林寺」 並木甚右衛門・玉林寺→八田嘉右衛門様几下	10月16日	横切継紙・1通	え4613-8
(書状、長々出府仕る処用向き落着先頃帰宅仕り、今般和七殿御出下されるに付) *(封筒表書)「八田嘉右衛門様 並木七左衛門」 並木七左衛門→八田嘉右衛門様	8月13日	横切継紙/(え4633-1～26は紙縫一括)・1通	え4633-2

(書状、和七殿へ御出でにて承知致す処以ての外の御不幸ある由御愁傷相察し御見舞いとして麴菓子1箱進上致す旨) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様菓子壱箱添 前田宗右衛門喜多村五橘」 喜多村五橘・前田宗右衛門→八田嘉右衛門様	8月14日	横切継紙・1通	え4633-3
(書状、例年の通り川上挽拔蕎麦6斗御受納下さるべき旨) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 岩村田前田宗右衛門」 前田宗右衛門→八田嘉右衛門様	12月16日	横切継紙・1通	え4633-14
口上(御主人公より見事成品下され有難く寿納仕り宜しく御礼仰せ上げられ下さるべく願ひ上げ奉る旨) 渡辺→笠原様	8月17日	横切継紙・1通	え4633-26
(書状、豊後守在着に付菓子1箱差送られる所、拙者より申し進めるべき旨年寄共へ申し聞かせるに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 前田宗右衛門」 前田宗右衛門→八田嘉右衛門様	9月12日	横切継紙/(え4640-1~15は括り紐一括)・1通	え4640-12
(先日25日その御地御在着になさせられる所、御尋ねなし下させられるに付ほか返信案文) * (端裏書)「午九月十三日岩村田々之来状返報案」/(端裏張紙)「入用」 知義(花押)・八田(花押)→伊藤重蔵様・井上祐右衛門様	9月14日	横切継紙・1通	え4640-13
(書状、例年の通り蕎麦2呎進上致すに付) 犬井条左衛門→八田嘉右衛門様	12月26日	横切紙/(え4643-1~25は括り紐一括)・1通	え4643-22

1.14.金銭・穀物請払

1.14.1.金銭請取

(書状、通帳遣わされるに付為替受取差し上げ申し御入手成し下さるべき旨) * (表書)「嘉助様 彦左衛門」 彦左衛門→嘉助様	7月20日	横切紙/(え4609-1~20は紙縫一括)・1通	え4609-7
覚(花餅200個624文受取に付) 白木屋吉兵衛→八田様御内	4月朔日	横切紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4612-37
覚(品々御手元より御出金の分93両などノ金22両余受取に付) 三右衛門→	28日	横切紙/(え4630-1~13は括り紐一括)・1通	え4630-10
覚(30両の内金7両2分受取に付) 師岡源兵衛内安左衛門→八田嘉助様	亥12月24日	横切紙/(え4631-1~23は紙縫一括)・1通	え4631-10
覚(金3両遣わされ確かに受取に付) 伊通在カ(印)→八新三郎様	12月30日	切紙/(え4634-1~61は括り紐一括)・1通	え4634-3
(書状、別紙の通り金子鳥目書御受取下さるべきに付) * (端裏書)「伊勢町様 馬場丁」 馬場丁→伊勢町様	30日	横切継紙・1通	え4634-20
覚(金10両受取申す所、追って本証文差上げ申すべきに付) * (包紙上書)「上 三拾両□ 手前分」 善五郎(印)・伊左衛門(印)→伊勢町御茶之間	亥10月17日	横切紙・1通	え4634-21
覚(本金10両の内1両2分確かに受取に付) 堀田新助(印)→八田孫左衛門殿	安永2年巳11月17日	横切紙・1通	え4634-32
おほへ(金2両1分余受取申すに付) * (包紙上書)「おかのおた様尤しん金うけ取切手入」 たよ→おき様	6月27日	横切紙・1通	え4634-40

(書状、金1両呈上仕るにより御受納下さるべきに付)	2月27日	横切紙/(え 4638-1~34は括 り紐一括)・1通	え4638-10
(書状、過便金子について仰せ越され早速送上奉りたき所、 調達延べなるも先便10金御落手下されるべきに付)		横切紙/(え 4639-1~39は括 り紐一括)・1通	え4639-19
(書状、先達中10匁差上げ、残り当暮までに差上げる御約束 の所、少々差支えるに付) 拾人町方→かし町様当内用	11月朔日	堅紙/(え4640-1 ~15は括り紐一 括)・1通	え4640-14
覚(すりみ10枚代400文ほか諸品代金1両受取に付) 飯 □(印)→菊屋傳治様	3月9日	横切継紙/(え 4644-1~36は括 り紐一括)・1通	え4644-21
覚(てれ脚御上徳1つ金2分余のうち2分1朱受取差し引き 分差上げるに付) みのや吉兵衛[印]→八田嘉右衛門様 御内	う4月23日	横切継紙・1通	え4644-26
覚(刀1腰など2品代金7両2分受取に付) 薦屋唯右衛門 (印)→坂原啓十郎様	3月25日	横切紙・1通	え4644-31
覚(御菓子1箱10匁など代金受取に付) ふのや清吉→菊 屋音吉様	10月28日	横切紙・1通	え4644-36

1.14.2.穀物・諸品請払

(八田知道分現米代金74円余の残金14円29銭余に付勘 定書付)		横切紙/(え 4605-1~64は紙 縫一括)・1通	え4605-15
(八田知道分の現米5石分代金仮渡し残金書付)		横切紙・1通	え4605-16
(通帳9帳・買物帳1帳・判取1帳書付)		横切継紙・1通	え4605-37
覚(染代金メ2貫720匁書付)		折紙・1通	え4605-40
覚(閏9月24日大豆買入れのため手合金才治に渡した分 金2両など諸品金銭勘定書付)		横切継紙/(え 4612-1~42は括 り紐一括)・1通	え4612-9
(閏正月5日種油1斗など諸品勘定書付)		折紙・1通	え4612-10
(正月より10月まで上中白米48石2合など米高勘定書付)		切紙・1通	え4612-11
(7月22日東福寺村瓦師安蔵へ駄賃とも7匁5分づつ荒神 町までに着との旨心得取り計らうべき仕切書)		横切紙/(え 4612-1~42は括 り紐一括)/(え 4612-16に巻込)・ 1通	え4612-17
覚(瓦代銀78匁金銭勘定書付) とふぐち村瓦屋安蔵→い せ町八田様	辰7月	横切紙/(え 4612-1~42は括 り紐一括)・1通	え4612-18
覚(2間半位6本など普請材書付)		横切紙・1通	え4612-27
覚(縮2反金1両2分受取に付) 縮屋喜助代字助→はつた 様御内	辰6月12日	切継紙/(え 4612-1~42は括 り紐一括)(え 4612-28~29は巻 込一括)・1通	え4612-29

1.内方/14.金銭・穀物請払/2.穀物・諸品請払

覚(筭90枚など代金21匁2分余勘定書付) 瓦屋周蔵→上		横切紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-27
(米高481石5斗差引7石7斗不足の旨書付) *(端裏書)「譲渡」		横切継紙・1通	え4616-29
(焼酎8合などメ1石余書付)		切紙・1通	え4616-30
覚(硯水入録子案・のし紙など品々代金2両余など差引勘定書付) *(端裏書)「伊印様」 競→		横切紙/(え4619-1~33は括り紐一括)/(え4619-2-1~6は包紙一括)・1通	え4619-2-4
覚(御下緒大小など15匁代銭済に付) *(端裏書)「伊勢町分」 大黒屋忠兵衛(印)→	9月3日	横切紙・1通	え4619-2-5
差引書調(御預り高金1両3分余・長刀1振代2両など諸品金銭勘定書上) *(端裏書)「いせ町様」 競→嘉右衛門様	11月18日	横切継紙・1通	え4619-2-6
覚(手鑑1冊・古茶入れなど7色諸品書付) *(端裏書)「いせ町」	8月29日	横切紙/(え4634-1~61は括り紐一括)・1通	え4634-19
(書状、御話し申上げ何分頼み奉ることなき所、もらい方は詮議仕り書付持ち上げ宜しく御取り計らい下さるべきに付) 伊八→孫左衛門様	12月27日	横切紙・1通	え4634-53
覚(壽庵老御茶83貼など代金2両1貫60文よろしく御頼み申上げるに付) →伊八様へ	12月27日	横切継紙・1通	え4634-54

1.14.3.金銭払方

覚(5升札などメ4貫504文金銭書付)		切紙/(え4604-1~23は紙縫一括)・1通	え4604-19
(125両余御染代金受取に付)	未2月晦日	横切紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-5
覚(三味平54匁ほかメ75匁諸品代書付) [印]→上	3月7日	横切紙・1通	え4605-20
覚(金3両御下屋敷へ御渡し下さるべき旨) 隅屋敷→	戌大晦日	横切継紙/(え4631-1~23は紙縫一括)・1通	え4631-15

1.14.4.金銭勘定

(2776両余差引勘定書付)		横切継紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-3
(1553両余差引勘定書付)	12月26日	横切継紙・1通	え4605-4
(八田知道明治8年12月中渡し差引き残金52円余に付勘定書付)	(明治)	切紙・1通	え4605-31
覚(大木才治殿無尽に付星合和泉殿取替金4両2朱余り、田町屋敷年貢代1両7分余などメ都合25両余り勘定書付)	卯12月調	横切継紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4612-5

覚(袋町只吉殿10人半代1分2朱余りなど金銭勘定書付) 只吉→八田様御内	巳4月21日	横切継紙・1通	え4612-26
覚(戌年分35匁勘定書付) かきや伴之助→師岡源兵衛様御内	巳7月	切紙・1通	え4612-31
覚(去申年暮銭払底により銭13貫文を1両につき6貫900文の相場で両替予定のところ6貫700文で銭買取ほか2件に付)		横切継紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-17
(成本様金6両2分2朱受取などメ31両2朱余勘定受取書上) →伴左衛門様		折紙・1通	え4616-31
市兵衛方差引(金42両源吾無尽差引古道具拂など差引勘定書付)、寅年之差引(酒店仕入金、御上より借用、諸方の家賃金、角店より取賄金)		横切紙/(え4626-1~19は括り紐一括)/(え4626-1-1~6は紙縫一括)・1通	え4626-1-1
市兵衛方差引、安政元寅年之差引(4626-1-1とほぼ同じ、ほかに雛品々売却代、源吾無尽差引に付)		横切紙・1通	え4626-1-2
(瀬戸冥加金7両2分余り差引勘定書付)		横切継紙・1通	え4626-1-3
(商売始め貸金20両、無尽取入金15両など金銭書付)		横切紙・1通	え4626-1-5
覚(相州物脇差刃金2両2分など諸品金銭書付)		横切継紙/(え4626-1~19は括り紐一括)・1通	え4626-2
覚(下原物平升1両2朱など諸品金銭書付)		横切継紙/(え4626-1~19は括り紐一括)/(え4626-2に巻込)・1通	え4626-3
(7月5日金1両など月日金銭書付)		切紙/(え4626-1~19は括り紐一括)・1通	え4626-15
覚(小嶋團七金3分2朱余メ金3両銀6匁3分余り、ほか2名分勘定書付)		折紙/(え4630-1~13は括り紐一括)・1通	え4630-8
①(寅暮正金預かり分49両1分など差引21両余り金銭勘定書付)、②(小倉羽織地1反21匁など金銭勘定書付)		折紙・1通	え4630-9
(28日御渡金222両余など差引60両余29日返上仕る旨金銭差引勘定書付)		横切継紙・1通	え4630-11
覚(11月12日人足2人分400文など合20貫余り勘定書付) 能州福浦港吉嶋清兵衛(印)→信州松代村菊屋傳兵衛殿・廣沢屋佐太郎殿		横切継紙・1通	え4630-12
(酒遣2升などメ7貫120文勘定書付) 能州福浦港□嶋清兵衛→信州松代村菊屋傳兵衛殿・廣沢屋佐太郎殿	嘉永元年申11月24日	横切継紙・1通	え4630-13
覚(子年・丑年残金及び戌年から丑年の元金調に付)	天保13寅年正月調	横切継紙(貼紙あり)/(え4631-1~23は紙縫一括)・1通	え4631-9
覚(久保寺村吉左衛門分金3分ほか5人分メ6両2分余差引1両2分余御渡し申すに付) 仲右衛門→嘉右衛門	12月29日	横切継紙/(え4634-1~61は括り紐一括)・1通	え4634-7
覚(亥12月預り金5両など金銭差引勘定書付)		横切継紙・1通	え4634-46

1.内方/14.金銭・穀物請払/4.金銭勘定

(内方14両2分余などノ51両31貫余り勘定書付)		横切紙/(え 4637-1～11は括 り紐一括)・1通	え 4637-8
(正金15両2分余ほか内方酒所・取替物・質店の分ノ66両1 分余差引57両2分65貫余上納辻書付)		横切継紙・1通	え 4637-9
覚(卯年分諸品金銭ノ銀17匁5分錢5貫925文など勘定書 付) 江戸屋金作→	辰11月	横切継紙/(え 4640-1～15は括 り紐一括)・1通	え 4640-10
(金木地3本10文目など出金1分2朱金銭勘定書上) 上 原米八→大木伊左衛門様	8月2日	横切継紙・1通	え 4640-11
(吉の屋差引書ノ4両2分差引など勘定書付)		横切継紙/(え 4641-1～11は括 り紐一括)・1通	え 4641-3
覚(元金70両辰年利分金7両など金銭勘定書付) * (端裏 書)「御差引書」 与一右衛門→	巳正月	横切紙/(え 4642-1～9は括 り紐一括)/(え 4642-1-1～11は 包紙一括)・1通	え 4642-1-2
(7月分149両余などノ255両余など元利金勘定書付)		横切継紙/(え 4643-1～25は括 り紐一括)・1通	え 4643-24
覚(飯米代入辻19両1分余など諸金銭差引勘定書付) *(端裏書)「伊勢町様御差引」 竹山町→		横切継紙/(え 4644-1～36は括 り紐一括)・1通	え 4644-1
(文政5年御発当掛替30両など金銭書付)		横切継紙・1通	え 4644-2
覚(諸品代金ノ5匁132文勘定書付) 八百や庄七→		横切紙・1通	え 4644-23
覚(みねや源五郎払金1両1朱ほかノ金1両1分余勘定書 付) 菊屋傳治→浦野忠七様	卯正月	横切継紙・1通	え 4644-24

1.15. 賄

1.15.1. 諸品請払

記(大豆4斗金1両2分余りほかノ金2両3分余、先相場折り 合い申し上げ例年頂戴仕り此段御探り合い願ひ上げ 奉る旨) 本之進→	4月	横切紙/(え 4605-1～64は紙 縋一括)・1通	え 4605-26
記(金2両3分余、大豆粃塩代御渡し成し下され落手頂戴 に付) 八田本之進(印)→	亥5月	横切紙/(え 4605-1～64は紙 縋一括)/(4605- 27-1～2は折込一 括)・1通	え 4605-27-1
覚(古酒2升5合などノ1斗9升5合など酒量書付) * (印判) 「能州福浦吉島清兵衛」/(後欠)		横切紙/(え 4630-1～13は括 り紐一括)・1通	え 4630-4
(木村屋敷・御船屋敷・東条の野菜書付)		切紙/(え 4612-1 ～42は括り紐一 括)・1通	え 4612-30
覚(鎌・鋤・斧・天秤棒など諸道具書付)		横切継紙/(え 4616-1～33は括 り紐一括)・1通	え 4616-16

覚(下女1人分扶持方、味噌大豆、薪ほか諸品代金勘定書付)		横切継紙/(え4627-1~27は括り紐一括)・1通	え4627-27
------------------------------	--	----------------------------	----------

1.15.2.移送

送券(馬主小山、油織り1つ240銭にて運呈に付) 上田 軍馬会社→松代伊勢町八田殿行	6月30日	切紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-49
---	-------	-------------------------	----------

1.16.勝手向

(女5人・男1人など書付)		切継紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4612-12
(5月28日より6月3日まで女性人名「此分残払」書付)	6月4日	横切紙・1通	え4612-24

1.17.儀礼

1.17.1.節句

おちょうさまはつせつく(おちょう様初節句御用品々書付)	戌年3月	横半/(え4629-1~15は括り紐一括)・1冊	え4629-2
ひつしの五月せつくおほえ(節句御用品書付)		横半・1冊	え4629-15

1.17.2.成人

(嫡孫孫太郎前髪剃により名を慎蔵と相改めたき旨願のい通り仰せ付けられるに付認可状) * (端裏貼紙)「弘化三丙午十一月十四日」 磯田音門→八田嘉右衛門殿	弘化3丙午年11月14日	横切継紙/(え4614-1~26は包紙一括)・1通	え4614-20
--	--------------	---------------------------	----------

1.17.3.来訪

(平振舞の膳後に茶菓子・茶振舞及び上ノ間床の掛け軸など書付) * 上ノ間床の絵あり		折紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-41
---	--	-------------------------	----------

1.17.4.贈答・進物

(書状、八朔御祝儀として御肴一折進上致し御祝詞の旨) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 堀内楯一郎 堀内楯一郎 泰禮(花押)→八田嘉右衛門様参人々御中	7月晦日	折紙/(え4609-1~20は紙縫一括)・1通	え4609-2
(書状、大塚広三郎殿よりの印書入1本落手仕る旨) * (端裏書)「嘉助様 忠蔵」 忠蔵→嘉助様	3月11日	横切紙・1通	え4609-10
(書状、この間金郎君御出下され、その節御内話申し述べ置く所、今日結構の御菓子進められるに付) * (端裏書)「伊勢丁君 柴丁 御複子返上仕候」 柴丁→伊勢丁君	晩秋29	横切継紙/(え4619-1~33は括り紐一括)・1通	え4619-32
とりとしせいほうおほへ(諸御祝品々書付)		横半(虫損甚大)/ (え4629-1~15は括り紐一括)・1冊	え4629-3

1.内方/17.儀礼/4.贈答・進物

(書状、餽茶少々献上奉るにより御笑味なし下されるべきに付) 莊助→伊勢町様	3月12日	横切紙/(え4639-1~39は括り紐一括)・1通	え4639-26
(書状、歳暮の御祝儀として御目録の通り金500疋貴意を掛けられ忝きに付) * (端裏書)「嘉右衛門様 助右衛門」 助右衛門→嘉右衛門様	12月29日	横切紙/(え4644-1~36は括り紐一括)・1通	え4644-3

1.17.5.婚姻

(赤沢嘉司馬差出三郎左衛門名跡関係書状一括)		包紙一括/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-6-1~4は包紙一括)・1点	え4613-6-0
(包紙) * (包紙上書)「寛政三辛亥年五月十五日於縁縁組二付馬場丁二而差出候願書案文入」	寛政3年	包紙/(え4602-1~9は紙縫一括)/(え4602-4-1~3は包紙一括)・1点	え4602-4-1
①口上覚(私妻従弟女養女仕り山越市之丞へ縁組仕りたき旨)、②口上覚(妻従弟女は御町年寄相勤める八田孫左衛門娘にて御聞き置き成し下されたき旨) ①②八田競→①御連名殿、②小主膳様	①②(寛政3年)5月①②15日	横切継紙・1通	え4602-4-2
並為知案文(私妻従弟女養女に致し山越市之丞殿へ縁組仕りたき願書御用番まで差出に付御知らせの旨)	(寛政3年)10日	切紙・1通	え4602-4-3
(書状、三十郎様御勇健目出度き旨) →御請与兵衛殿・平彦左衛門様御請		横切紙/(え4605-1~64は紙縫一括)/(え4605-25-1~6は紙縫一括)・1通	え4605-25-1
(書状、私義宜敷御取り成し下さるべき旨) * (雛形)		横切紙・1通	え4605-25-2
(書状、私儀須坂御領綿打堀内惣蔵養女縁談仕るに付) 名判→右御請主膳様		横切紙・1通	え4605-25-3
(書状、私義来る5日婚姻相調い申す旨)	正月	横切紙・1通	え4605-25-4
(書状、私義来る6日婚姻相調い御知らせに付)		横切紙・1通	え4605-25-5
(書状、私儀来る25日婚姻相調い御知らせに付)		横切紙・1通	え4605-25-6
口上覚(兼ねて御頼みの吉子のこと詮議致す所、とかく縁談決まらず困りいるに付) 嘉右衛門→三郎左衛門様	11月14日	横切紙/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-6-1~4は包紙一括)・1通	え4613-6-2
(書状、三郎左衛門殿名跡についても今もって相応の義なく遅延罷り成り御心痛の至りに付) * (下書) 兩人→赤沢嘉司馬様	12月15日	横切継紙・1通	え4613-6-3
(書状、三郎左衛門の病気について御心配下され忝きも老体により覚束なきに付) 赤沢嘉司馬→八田孫左衛門様・八田嘉右衛門様	12月9日	横切継紙・1通	え4613-6-4
(書状、旧臘御娘子様御二方ともに御婚礼調い目出度きにより御祝儀帯地進上仕るに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 落合新助」 落合新助明群(花押)→八田嘉右衛門様参人々御中	正月29日	折紙/(え4613-1~21は括り紐一括)・1通	え4613-20

(書状、私養子の事について中條勘四郎弟熟縁仕り先達て祝儀の品も差し遣わすに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 安達与左衛門」 安達与左衛門→八田嘉右衛門様	8月7日	横切継紙/(え4620-1~16は括り紐一括)・1通	え4620-4
---	------	----------------------------	---------

1.17.6.葬儀・法事

(書状、同姓縫殿進義病気の処死去の旨御知らせに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様八田嘉助様 平林藤助」 平林藤助→八田嘉右衛門様・八田嘉助様 戒名選(善男分33・女分66)	9月10日	切紙/(え4609-1~20は紙縫一括)・1通 横切継紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4609-14 え4612-14
口上覚(親弥十郎病気により死去に付) 中町善右衛門→八田嘉右衛門様御取次中様	9月10日	横切紙・1通	え4612-32
(書状、娘のこと養生叶わず昨夜死去仕るに付) 笠井和七→高梨増七様	9月7日	横切紙・1通	え4612-36
(駒澤勘解由御悔み関係書類一括)		包紙一括/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-13-1~4は包紙一括)・1点	え4613-13-0
(包紙) * (包紙上書)「八田孫左衛門様御報 駒澤勘解由」		包紙・1点	え4613-13-1
(書状、養母病気養生叶わず死去する所、御見舞御煎茶1箱忝きに付) 駒澤勘解由貞稱(花押)→八田孫左衛門様	11月8日	折紙・1通	え4613-13-2
(書状、御母上様御病気御養生叶わず御死去のこと御愁傷の所、煎茶1箱進上するに付) * (端裏書)「右杉原美濃 帚二而相認遣候茶箱一片半入桐箱二而遣候」/(下書) 八田孫左衛門以親(花押)→駒沢勘解由様参人々御中	11月8日	横切継紙・1通	え4613-13-3
(書状、秋中は御二男方御病気御養生叶わず不幸のこと御愁傷に付) 駒澤勘解由→八田孫左衛門様	11月8日	横切継紙・1通	え4613-13-4
(御用多に付忌御免仰せ付けらる旨通知書) * (端裏書)「嘉永二己酉年」 磯田音門→八田嘉助殿	5月10日	横切継紙/(え4614-1~26は包紙一括)・1通	え4614-21
口上覚(妻・母病気により死去のため忌服日数届) * (下書) 八田嘉右衛門・八田加助→菅沼弥惣右衛門様	4月朔日	横切紙/(え4638-1~34は括り紐一括)・1通	え4638-32
(母病気により付き添い看病したき旨願いの通り仰せつける旨通知書) 菅沼弥惣右衛門→八田嘉助様	4月朔日	横切継紙・1通	え4638-33
(書状、この度院号相贈る様致されたくば殿堂再建差碍にも相成るにより承引致しくれる様頼むに付) * (端裏書)「文政八乙酉五月廿六日霊明院様御死去ニ付院号之義和尚為掛合候書取紛乱致間敷事」	文政8年	横切継紙/(え4642-1~9は括り紐一括)/(え4642-2—1~4は紙縫一括)・1通	え4642-2-2

1.17.7.先祖供養

(包紙)		包紙/(え4627-1~27は括り紐一括)/(え4627-15-1~3は包紙一括)・1点	え4627-15-1
------	--	--	------------

1.内方/17.儀礼/7.先祖供養

(八田孫左衛門妻の母戒名など享保期以降縁者戒名一覧)	7月23日	横切継紙・1通	え4627-15-2
(常念仏開発主八田家縁者戒名一覧)		切紙・1通	え4627-15-3
(書状、天明2寅年8月27日鋤屋治本信女など八田家縁者御施餓鬼願い上げるに付) 由縁之者→		横切継紙/(え4638-1~34は括り紐一括)・1通	え4638-16

1.17.8.宴会

八月七日三目御祝儀献立		横切継紙/(え4604-1~23は紙縫一括)・1通	え4604-18
(寺町7人松木2人ほか献立など書付)		横切継紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-19
(4月8日献立書付)		横切継紙・1通	え4605-52

1.17.9.年賀状

(年頭のお祝い差上げにつき年賀状) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様御家来御衆中 越後高田山中吉左衛門中村清吉」 中村清吉・池田寛右衛門・横沢願阿・山中吉左衛門→八田嘉右衛門様御家来御衆中	正月26日	折紙/(え4619-1~33は括り紐一括)・1通	え4619-28
--	-------	--------------------------	----------

1.17.10.加増

(赤沢嘉司馬関係書類一括)		包紙一括/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-18-1~3は包紙一括)・1点	え4613-18-0
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様八田喜兵衛様 赤沢嘉司馬」		包紙・1点	え4613-18-1
(書状、抱無き用向きにより出府致すにより両3日以前帰着仕る所、延引御高免下さるべきに付) 赤沢嘉司馬→八田嘉右衛門様		横切紙・1通	え4613-18-2
(書状、今般御加増御頂戴の上、御養弟御願の通り仰せを被り目出度きに付) 赤沢嘉司馬信(花押)→八田嘉右衛門様・八田喜兵衛様貴報		折紙・1通	え4613-18-3

1.18.旅

1.18.1.社寺参詣

(書状、唯今より御発駕成し下されるべき所、私も7半時頃までに御機嫌伺いとして登山仕るべきに付) * (端裏書)「中嶋様八田様 羽本の拝」 羽本の拝→中嶋様・八田様	3日	横切紙/(え4643-1~25は括り紐一括)・1通	え4643-18
---	----	---------------------------	----------

1.18.2.入湯

(湯治養生・忌御免など許可状一括)		包紙一括/(え4614-1～26は包紙一括)/(え4614-12-1～3は包紙一括)・1点	え4614-12-0
(包紙) * (包紙上書)「赤倉江御湯治被遊度旨願之通被 仰付候 御切紙忝通 大瀬御不幸御忌中之処忌御免之御切紙忝通 天保七申年五月」		包紙・1点	え4614-12-1
(腕痛により越州赤倉へ湯治養生について願の通り仰せ付けられる旨許可状) 寺内多宮→八田嘉右衛門殿	5月7日	横切継紙・1通	え4614-12-2
(御用差支えにより忌御免仰せ付けられる旨許可状) 金児丈助→八田嘉助殿	4月28日	横切継紙・1通	え4614-12-3
(腰痛治療により越後赤倉温泉へ湯治養生認可関係書類一括)		包紙一括/(え4614-1～26は包紙一括)/(え4614-16-1～3は包紙一括)・1点	え4614-16-0
(包紙) * (包紙上書)「弘化二巳年湯治願之通被 仰付候御書付 五月廿六日出立」	弘化2年	包紙・1点	え4614-16-1
口上覚(腰痛により湯治然るべきとの旨御医者より申し聞くにより越後赤倉へ湯治養生したきに付) 八田嘉右衛門→岡島莊藏殿・菅沼弥惣右衛門殿・竹村金吾殿・山寺源太夫殿	(弘化2年)5月18日	横切継紙・1通	え4614-16-2
(腰痛養生のため越後赤倉へ湯治したき旨願の通り仰せ付けられる旨認可状) 山寺源太夫→八田嘉右衛門殿	(弘化2年)5月26日	横切継紙・1通	え4614-16-3

1.18.3.経費

(80文寺尾船賃、1朱昼飯料ほか諸支出2朱より差引勘定)	7月25日	横切紙/(え4605-1～64は紙継一括)・1通	え4605-14
------------------------------	-------	--------------------------	----------

1.19.寺社

1.19.1.寺社奉加

(諏訪宮御普請関係書類一括)		包紙一括/(え4634-1～61は括り紐一括)/(え4634-42-1～6は包紙一括)・1点	え4634-42-0
(包紙) * (包紙上書)「諏訪宮御普請金彦弥江内渡切手 戊三月廿八日」		包紙・1点	え4634-42-1
覚(石工3人代560文など、760文確かに受取に付) 御安口文右衛門(印)→	7月13日	切紙・1通	え4634-42-2
(書状、何分金子願いにより御面倒ながら2両御渡し成し下される様頼み奉るに付) 参代人→孫左衛門様	6月2日	横切紙・1通	え4634-42-3

1.内方/19.寺社/1.寺社奉加

(書状、彦弥方金子1両御借申したき旨聞届けにより何分御貸下される様願い奉るに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様 練光寺」 練光寺→八田嘉右衛門様	7月3日	横切継紙・1通	え 4634-42-4
(書状、大工へ御渡し下される金子のこと10両と申す所、種々御含みありて6両御渡し下される様願い申すに付) * (端裏書)「孫左衛門様 練光寺」 練光寺→孫左衛門様	6月17日	横切紙・1通	え 4634-42-5
覚(堀長7間4尺来月10日出来る様御請乞により代金1両2分余りの内今度金2分受取に付) * (裏書)「表書之通私懸合相違無御座御請合仕候以上 仙助(印)」 東条村請乞人七右衛門(印)→練光寺様御納所	寛政2戊年5月	堅紙・1通	え 4634-42-6

1.19.2.浄福寺無尽

覚(金1両2分、鍛冶町源兵衛方寄合無尽受取に付) * (封筒表書)「覚」 浄福寺→竹花重三郎殿	天保11子年6月	横切継紙/(え 4631-1~23は紙縫一括)・1通	え 4631-1
(書状、兼ての御差引物の義早速御遣わし下され浄福寺の方取計らい相済し同寺切手請け取り私未暮印形差し上げ御落手成し下さるべき旨) * (端裏書)「嘉助様 専之丞参上」	6月11日	横切継紙・1通	え 4631-2

1.19.3.菩提寺浄福寺

口上(拙寺先例は三ツ包耳紋なれどこれより二ツ文附の内1つは開基家の紋付したきに付) 浄福寺→八田嘉右衛門様	9月25日	横切継紙/(え 4616-1~33は括り紐一括)・1通	え 4616-21
(書状、去る14日夜寺中諸堂焼失により驚き入る所、貴公様始め諸方御丹誠により土蔵2ヶ所など相残るに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様人々御中 浄福寺」/(包紙下書)「江府従日暮里」 越梁→八田孫左衛門様・御同姓嘉右衛門様	6月20日	横切継紙/(え 4638-1~34は括り紐一括)・1通	え 4638-1
覚(金9両銀3匁余当寺非常御預かり下された金子確かに受取に付) 浄福寺(印)→八田嘉右衛門殿	天保11子年2月	横切継紙/(え 4643-1~25は括り紐一括)・1通	え 4643-20

1.19.4.高野山明泉院

(書状、恒例御祈禱修行仕り御札等進上致し御頂納願い奉る旨) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様貴下 高野山明泉院」 明泉院盛典(花押)→八田嘉右衛門様貴下	4月18日	折紙/(え 4604-1~23は紙縫一括)・1通	え 4604-13
(包紙) * (包紙上書)「信州松代八田嘉右衛門様貴下 高野山明泉院」/(包紙裏書)「質相済届芳□」		包紙/(え 4627-1~27は括り紐一括)/(え 4627-16-1~4は包紙一括)・1点	え 4627-16-1
(「大坂嶋之内には橋筋白銀町高野飛脚毎日出所奥屋又兵衛」札)		札・1点	え 4627-16-2
(書状、改暦の御慶御祝詞申上げるに付) 明泉院伯雄(花押)→八田嘉右衛門様貴下	正月6日	折紙・1通	え 4627-16-3
再啓(御尋問も申し上げず御無音御用捨下されるべき所、いずれ御見舞申上げるに付)		折紙・1通	え 4627-16-4

1.19.5.和合院

口演(松本より先触れ到来致すに付兼て群神今夕の義延引も致したく指引書取調べ出来致したならば差送り申したき旨) * (端裏書)「口演」	11日	横切紙/(え4609-1~20は紙縫一括)/(え4609-20-1~13は紙縫一括)・1通	え4609-20-9
(書状、和合院物語にて委細承る所、普請等のこと誠に御深切の御世話下される旨忝きに付) * (包紙上書)「松代八田孫左衛門様机下 上州吾妻より」/(包紙裏書)「岩櫃山潜龍院」 潜龍院→八田孫左衛門様机下	4月14日	横切継紙/(え4620-1~16は括り紐一括)・1通	え4620-12
(書状、和合院若年にて我侶者と相見え心付けすべき所、拙僧出府のため先月下旬帰山仕ったため出来ずに付) * (包紙上書)「信州松代八田嘉右衛門様同孫左衛門様各々御披露 上州吾妻郡郷原村より」/(包紙裏書)「岩櫃山潜龍院」 潜龍院幸清(花押)→八田嘉右衛門様・同孫左衛門様机下	閏4月2日	横切継紙・1通	え4620-13
(書状、皆神山の事御世話下される所、和合院舎弟院跡相続の由承り少しは安堵仕るに付) * (包紙上書)「信州松代伊勢町八田孫左衛門様玉案下 上州吾妻郷原村より」/(包紙裏書)「岩櫃山潜龍院」 上州吾妻潜龍院→信州松代八田孫左衛門様・同苗嘉右衛門様各々御披露	4月12日	折紙・1通	え4620-14
(書状、善光寺へ飛脚御遣わし下される所、2度目の日延聞き済みがたきもいつまでも沙汰なきに付) * (封筒表書)「八田嘉右衛門様当用被直披可被下候 和合院」 和合院→八田嘉右衛門様	21日	横切継紙/(え4636-1~10は括り紐一括)・1通	え4636-10

1.19.6.松代練光寺

覚(御本社ほか材木大工御作料など金40両1分余受取に付) * (包紙上書)「上 大工彦弥」 竹山丁大工彦弥(印)・紙屋町同断勇治(印)→練光寺様御取次衆中	寛政2歳年戌7月	堅紙/(え4634-1~61は括り紐一括)・1通	え4634-41
清瀧観音堂普請入料覚(練光寺御鑑司弘方の分金44両3分など、189両ほか金銭勘定書付) * (包紙上書)「東条清龍へ普請取調一紙 野村権兵衛」 野村権兵衛取調→	申11月	横切継紙・1通	え4642-1-1

1.19.7.海野宿奥善寺

(書状、伝右衛門儀去年中より差し起こる宿方取締り方相もつれ当春中願い立てる旨) * (包紙上書)「松代御家中八田嘉右衛門様平安用書 海野宿藤田温山」 温山→書鳩君様玉床下	戌11月20日	横切継紙/(え4604-1~23は紙縫一括)・1通	え4604-2
(書状、大守様御在城にて当所奥善寺来春御年頭相勤める義大林様へ御厄介の段願い上げ奉りたく書状御上げの旨) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様用書 藤田温山」 藤田温山→八田嘉右衛門様	閏11月20日	横切継紙・1通	え4604-3
(奥善寺松代藩へ御礼希望関係書類一括)		紙縫一括/(え4641-1~11は括り紐一括)/(え4641-4-1~4は紙縫一括)・1点	え4641-4-0

1.内方/19.寺社/7.海野宿奥善寺

口上(年賦上納金5両ほかメ金8両2分外に上納したき金あるにより右金子私出勤まで御取延し願ひ上げるに付) * (端裏書)「亥正月差引書 伊左衛門」 伊左衛門→	亥正月8日	横切継紙・1通	え4641-4-1
(書状、奥善寺御礼申上げたき趣、極密々願ひの趣書面に致し貴所様御手寄に頼み申し入れる由に付) * (端裏書)「海野奥善寺此表御上江御礼申上度旨内願付藤田懸合遣候下案」		横切紙・1通	え4641-4-2
(書状、別副に建立年月・除地員数・当時旦那家数など書き上げるにより御相談の上取計いたきに付)		横切継紙・1通	え4641-4-3
(書状、去年中宮坂甚兵衛内話の趣、御菩提所奥善寺此表領主へ御礼仰せ上げられたき趣に付) 八田嘉右衛門→藤田繁三郎様人々御中	2月16日	横切継紙・1通	え4641-4-4

1.19.8.良性院

(良性院関係書類一括)		包紙一括/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-1-1~4は包紙一括)・1点	え4613-1-0
(包紙) * (包紙上書)「八田孫左衛門様同嘉右衛門様 良性院」		包紙・1点	え4613-1-1
(書状、先頃は御尋ね下される所、御祝儀を預かり御丁寧の至り、千万忝きに付) 良性院慈嚴(花押)→八田孫左衛門様	11月9日	横切継紙・1通	え4613-1-2
(漢詩2首書付) 釈慈嚴楞洲→		横切継紙・1通	え4613-1-3
(書状、御入用の品差し遣わし申すに付) 栗菴→和七殿	2月3日	横切継紙・1通	え4613-1-4

1.19.9.諸寺社

(包紙) * (包紙上書)「口上覚 恵明寺隠居」 恵明寺隠居→		包紙/(え4601-1~7は紙縫一括)/(え4601-7-1~4は包紙一括)・1点	え4601-7-1
(書状、聖観音行基の御作へ繕細工相願うに付) 石川村常光庵二而恵明寺隠居→八田嘉右衛門様	正月18日	堅紙・1通	え4601-7-2
口上覚(先日は寸法書を以て御願ひした処仏沙尺取る故又々寸尺の儀申し上げたき旨) 恵明寺隠居→八田嘉右衛門様	正月17日	横切継紙・1通	え4601-7-3
(御仏座長さ・横広・奥行寸法書付)		切紙・1通	え4601-7-4
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様用答 海若院」 海若院→八田嘉右衛門様		包紙/(え4604-1~23は紙縫一括)/(え4604-8-1~3は包紙一括)・1点	え4604-8-1
(書状、拙院隠居宣門和尚病氣相叶わずに付) 海若院→八田嘉右衛門様貴下	極月20日	横切紙・1通	え4604-8-2
(書状、御先住様去る6日御遷化に付御愁傷の段遠察奉る旨)		切紙・1通	え4604-8-3

(信濃国別所別当常楽寺・長楽寺北向き観音画像札)		札/(え4612-1～42は括り紐一括)/(え4612-1に巻込)・1点	え4612-2
(信濃国北向堂御札)		札・1点	え4612-3
(書状、御上納延引に罷り成る所、今日1分500文上納仕るにより残りの分当月下旬まで御日延願うに付) * (封筒表書)「伊勢町傳兵衛様御役人中様 正覚院」 正覚院→伊勢町傳兵衛様御役人中様	正月朔日	横切紙/(え4612-1～42は括り紐一括)/(え4612-15-1～3は紙縫一括)・1通	え4612-15-1
(定光院台山路道図)	天保3辰年2月13日	14.6×22.8・1鋪	え4612-15-3
覚(大御膳料50疋など献備仕るに付ほか下書) 八田嘉右衛門内長崎源吾→常泉院様	辰正月9日	横切継紙/(え4612-1～42は括り紐一括)/(え4612-28～29は巻込一括)・1通	え4612-28
覚(大英寺様ほか14寺並桐扇子箱等に付)		折紙・1通	え4612-41
陀羅尼助由来書 * (摺物) 和州當麻寺中将姫御剃髮所西御堂→		横切紙/(え4616-1～33は括り紐一括)・1通	え4616-24
口演(御前御目見え有難く存じ奉るに付) * (表書)「上寒松左和尚侍夫下 魏慶九拜」 真田山 魏慶九拜書→	9月15日	横切継紙/(え4619-1～33は括り紐一括)・1通	え4619-30
覚(私儀福岡新田薬蔵院願い立て一件、難渋仕り御助成も成し下され難きに付菩提所昌禅寺へ先年御取替金御示談の上御供養料として御寄附下される旨) 坂原兵左衛門(印)・同啓十郎→八田嘉右衛門様	天保4年末6月日	横切継紙/(え4631-1～23は紙縫一括)・1通	え4631-13
覚(御寄進下された代金2両受納致すにより御礼申上げるべきに付) 福寿院→八田孫左衛門様	子6月14日	横切紙/(え4634-1～61は括り紐一括)・1通	え4634-9
覚(常念仏拝読料御寄進下される内当年分金5両2分確かに受取に付) * (包紙上書)「覚」 願行寺(印)→八田孫左衛門様・八田嘉三郎様	卯11月	横切紙・1通	え4634-13
覚(紺屋町平治証文1通金3両など、9通の蓮休借用証文並びに畑地書付受取に付) * (包紙上書)「願去庵蓮休預ヶ置候証文死去ニ付長明寺御弟子了随様江御渡申候書付入 安永七戌正月十一日」 長明寺了随→八田孫左衛門様	安永7年	横切継紙・1通	え4634-59

1.19.10.水銭

(各寺水銭支払い書類一括)		綴一括/(え4612-1～42は括り紐一括)/(え4612-19-1～8は綴一括)・1点	え4612-19-0
覚(水銭10匹受取披露に付) 長岡寺調所→八田嘉右衛門様御使中	7月	切紙・1通	え4612-19-1
覚(水銭20匹受取に付) 浄福寺納所→八田嘉右衛門様御使中	7月15日	切紙・1通	え4612-19-2

1.内方/19.寺社/10.水銭

覚(御水銭2疋受取に付) 大英寺納處→八田嘉右衛門様御使中	7月15日	切紙・1通	え4612-19-3
覚(御水銭10匹寺納に付) 西念寺納所→八田嘉右衛門様御使中	7月15日	切紙・1通	え4612-19-4
覚(御水銭10疋受納に付) 恵明寺納所→八田嘉右衛門様御使中	7月16日	切紙・1通	え4612-19-5
覚(御水銭10疋受納に付) 願行寺納處→八田嘉右衛門様御使中	7月	切紙・1通	え4612-19-6
覚(水銭10疋御預りに付) 清水栄蔵→	7月16日	切紙・1通	え4612-19-7
覚(御水銭10疋上納仕るに付) 三高院→八田嘉右衛門様御内	7月15日	切紙・1通	え4612-19-8

1.20.家財

1.20.1.武器

(包紙) *(包紙上書)「松代御家中八田嘉右衛門様用書入書状在中 小諸町塩川五右衛門」/(包紙裏書)「無銘末三池刀代金四兩二而塩川五右衛門ゝ調代請取書帖」		包紙/(え4605-1~64は紙綴一括)/(4605-61-1~6は包紙一括)・1点	え4605-61-1
(書状、先日見せに遣わされた刀三池伝多光世に相違御座無く25枚の折紙相成り申すべき旨) *(包紙上書)「享保八年十二月三日三池傳多光世刀添手紙」 本阿弥庄兵衛→石川吉右衛門様	12月13日	横切継紙・1通	え4605-61-2
(包紙) *(包紙上書)「太田彦右衛門様大井清四郎様 飯田吉十郎同彦之進」/(包紙裏書)「刀折紙入」		包紙・1点	え4605-61-3
(書状、末池刀折紙添え差送り申すので御斗い願い奉り代金の義は思召次第御計らい下さり候様願い奉る旨) 塩川五右衛門→八田嘉右衛門様	11月29日	横切継紙・1通	え4605-61-4
(書状、御約束の一腰外に折紙遣わされ御預け置き申す旨) 嘉右衛門→五右衛門様貴酬		横切継紙・1通	え4605-61-5
(書状、金子御用の義も須坂表御用相済む趣仰せ下される旨) *(包紙上書)「松代御家中八田嘉右衛門様尊下 塩川五右衛門」 塩川五右衛門→八田嘉右衛門様	3月10日	横切継紙・1通	え4605-61-6
覚(赤銅にメ玉計り金銀色絵致す所金3分2朱など代金書付) 熊谷五郎→	3月26日	横切紙/(え4626-1~19は括り紐一括)・1通	え4626-4
(無名刀3両など刀剣関係代金書付)		横切紙・1通	え4626-5
覚(赤銅御縁大小下手間代10匁などメ銀205匁勘定書付) 彫物師三吉→上	5月18日	横切紙・1通	え4626-6
(紋書付)		切紙/(え4626-1~19は括り紐一括)/(え4626-6に巻き込み)・1通	え4626-7
(赤銅縁1ツ張代5匁などメ166匁など代金勘定書付)		横切継紙/(え4626-1~19は括り紐一括)・1通	え4626-8
(刀脇差中身研代金45匁などメ192匁余代金勘定書付) *(端裏書)「入用」		横切継紙・1通	え4626-9

覚(御刀中身研代金25匁など差引ノ2分3朱余代金勘定書付) 　いつミ屋政吉→八田慎蔵様御内御役人中様	巳極月	横切継紙・1通	え4626-10
覚(御大小中身研代30匁などノ差引4兩1分余代金勘定書付) 　和泉屋政吉→八田嘉助様御内	未極月	横切継紙・1通	え4626-11
覚(御赤鞘新規搔入代金30匁など差引ノ6兩余代金受取に付) 　紀伊国屋勘右衛門→田中佐右衛門様	12月3日	横切継紙・1通	え4626-12
覚(御大小中身研代銀45匁など御注文書差上げるに付ほか)		横切継紙・1通	え4626-14
覚(御大小鞘ろ返塗代銀22匁余などノ銀56匁余代金受取に付) 　御柄巻師喜一郎(印)→八田様御内	8月29日	横切紙・1通	え4626-17
(大小中身研代22匁余などノ185匁余代金勘定書付) * (端裏書)「大小拵金積」		横切継紙・1通	え4626-18
(大小中身研代金15匁などノ194匁勘定書付)		横切継紙・1通	え4626-19
(小林門右衛門より刀入手関係書類一括)		包紙一括/(え4634-1～61は括り紐一括)/(え4634-45-1～4は包紙一括)・1点	え4634-45-0
(包紙) * (包紙上書)「覚」		包紙・1点	え4634-45-1
(書状、御頼み申した一腰御預かり下される所、当春御差引内借切手並びに銀2片確かに受取に付) * (端裏書) 「嘉右衛門 門右衛門」 門右衛門→嘉右衛門様	12月10日	横切紙・1通	え4634-45-2
覚(刀一腰代金1兩確かに受取に付) 　小林門右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	寛政2年戊12月	横切紙・1通	え4634-45-3

1.20.2.衣類・諸道具・書画ほか

(絵図、掛け軸の掛け方の見本)		32.5×25.7/(え4603-1～24は紙縫一括)・1鋪	え4603-21
(「つるへの水指」の法量図)		縦紙/(え4605-1～64は紙縫一括)・1通	え4605-8
(本膳20人前・棚3脚ほか諸品書付)		切紙/(え4612-1～42は括り紐一括)・1通	え4612-16
(無名茶碗2朱など諸品金銭代金書付) * 下書		横切紙/(え4626-1～19は括り紐一括)・1通	え4626-16
(書状、前便差上げた谷文晁の画御入手申上げるに付) 　高川→中嶋様	2月10日	横切継紙/(え4627-1～27は括り紐一括)・1通	え4627-6
覚(琴代金5兩確かに受取に付) * (包紙上書)「琴代金相渡候請取書 寛政三亥二月十三日」 武林忠右衛門〔印〕→袖寿殿	寛政3年2月13日	横切継紙/(え4634-1～61は括り紐一括)・1通	え4634-34

1.内方/20.家財/2.衣類・諸道具・書画ほか

(書状、先達で鼈甲建内屏風代金1両2分2朱など都合金4両2朱差上げるにより御落手なし下されるに付) * (端裏書)「柴街御隠居様 金四両式朱添 嘉右衛門」 嘉右衛門→柴街御隠居様	5月21日	横切継紙/(え 4642-1~9は括り紐一括)/(え 4642-2-1~4は紙縫一括)・1通	え 4642-2-1
(書状、御頼みの書画2双到来により与一右衛門殿まで相頼み呈上申すにより御落手下されるべきに付) * (包紙上書)「八田嘉助様 残封添 金児丈助」/(端裏書)「いせ 丁町」 丈助→嘉助様	4月26日	横切継紙/(え 4644-1~36は括り紐一括)・1通	え 4644-29
(坂原空楽差出文書一括)		包紙一括/(え 4644-1~36は括り紐一括)/(え 4644-34-1~4は包紙一括)・1点	え 4644-34-0
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉助様 貴下 坂原空楽」		包紙・1点	え 4644-34-1
(書状、この茶碗如何のものか私には相分かり申さずにより何分御指南願上げ奉るに付)	26日	横切継紙・1通	え 4644-34-2
(書状、年頭御祝儀として御肴1折御祝成し下され幾久しく目出度きに付) 空楽→嘉助様	正月26日	横切継紙・1通	え 4644-34-3
(書状、先日お話し上げた桜南佳1双差し上げるにより何分御引上も下される様御願ひ申すに付) 啓十郎→嘉助様	27日	横切継紙・1通	え 4644-34-4
(小山田重太夫差出諸品買上関係書類一括)		包紙一括/(え 4644-1~36は括り紐一括)/(え 4644-35-1~4は包紙一括)・1点	え 4644-35-0
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉助様 小山田重太夫」		包紙・1点	え 4644-35-1
(書状、願ひ差し上げた脇差物前に添える目貫引替たく存じ奉るにより御注文御見合成し下されるようお願い奉るに付) 重太夫→嘉助様	霜月14日	横切継紙・1通	え 4644-35-2
(書状、兼ねて御母上様より命を蒙る小切について当朔日買うにより100疋分差し上げるに付) 重太夫→嘉助様	11月5日認	横切継紙・1通	え 4644-35-3
覚(拾五代浜三郎1ツ代金1分勘定書付) ゑひす屋助五郎→小山田重太夫様 真田様ため代	霜月2日	横切継紙・1通	え 4644-35-4
口上(今朝申し上げ置いた御金屏風1双などについてこの者へ御渡し遣わし下される様御願ひ申し上げるに付) * (端裏書)「八田慎蔵様 月岡萬里」 月岡萬里→八田慎蔵様	晦日	横切紙/(え 4639-1~39は括り紐一括)・1通	え 4639-13
(書状、過日より度々画面御覧に入れる様に命を蒙る所、あまりおかしき絵ではあれど御覧に入れるに付) * (端裏書)「伊勢町様 差置 御安」 御安→伊勢町様 差置	閏月24日	横切継紙・1通	え 4639-27

1.20.3.諸道具貸出

(書状、御道具御借入があるので御当礼のため荒目鯉2本下され御受取成し下さるべき旨) * (端裏書)「八田嘉右衛門様 与良弥門」 与良弥門→八田嘉右衛門様	12月30日	横切紙/(え 4604-1~23は紙縫一括)・1通	え 4604-9
--	--------	---------------------------	----------

覚(金100疋からつ茶碗受取に付) 官ふりや時兵衛(印) →菊屋勝之助様	9月24日	横切紙/(え 4605-1~64は紙 縫一括)・1通	え4605-44
(書状、天真院様御遺骨長国寺へ入らせられる御より家 具品々御借り入れ御間に合うに付) *(端裏書)「八田嘉 右衛門様 中俣吉五郎」 中俣吉五郎→八田嘉右衛門様	12月11日	横切継紙/(え 4605-1~64は 紙縫一括)/(え 4605-64-1~7は 紙縫一括)・1通	え4605-64-1
(書状、御借り入れ家具滞り無く御間に合い忝く鯉2匹御 内々下される旨) *(端裏書)「八田嘉右衛門様 中俣吉五 郎」 中俣吉五郎→八田嘉右衛門様	4月29日	横切紙・1通	え4605-64-2
(書状、大笹宿狩宿村御関所守御礼・御祭礼兩日其外折々 家具等御借入れ致し鯉3本下され御頂戴さるべき旨) *(端裏書)「八田嘉右衛門様 徳田五百人」 徳田五百人→ 八田嘉右衛門様	弘化3丙午年11月14日	横切継紙・1通	え4605-64-3
(書状、御酒下されるに付品々家具御借り入れ滞り無く 御間に合い忝く鯉2匹御内々下され御意を得たき旨) *(端裏書)「嘉永二酉十一月五日八田嘉助様 金井諫」 金 井諫→八田嘉助様	嘉永2酉年11月5日	横切紙・1通	え4605-64-4
(書状、御次家具預り、度々御借入れ御用立てるに付、鯉2 本下される旨御せ渡されるに付) *(端裏書)「嘉永二年 己酉四月四日嘉助様 安喜」 安喜→嘉助様	嘉永2己酉年4月4日	横切紙・1通	え4605-64-5
(書状、御次家具御道具等御借り入れ御間に合うに付小布 施栗御廻し申し御頂戴なさるべき旨) *(端裏書)「八田嘉 右衛門様 徳田五百人 天保十五辰年十月二日到来」	天保15辰年10月2日	横切紙・1通	え4605-64-6
(書状、大守入駕の砌御大切の御道具御配慮御借仰せ 付けられ深謝奉る旨) *(封筒表書)「八田嘉右衛門様平 安書 堀内楸一郎」/(表書)「書鳩様御几下 梅作拝」	6日	横切紙/(え 4609-1~20は紙 縫一括)・1通	え4609-3
(書状、大勅進罷り出でるに付品々御道具御借り入れに 付鯉5本下されたき旨) *(端裏書)「八田嘉右衛門様 徳 田五百人」 徳田五百人→八田嘉右衛門様	8月20日	横切継紙・1通	え4609-13
(一場源七郎諸品借入関係書類一括)		包紙一括/(え 4614-1~26は 包紙一括)/(え 4614-9-1~3は包 紙一括)・1点	え4614-9-0
(包紙) *(包紙上書)「文政十一子年四月御酒被下候ニ付品々 家具御用立ニ付鯉式尾拝領一場源七郎殿之書状入置」	文政11年	包紙・1点	え4614-9-1
(書状、この程御酒下される上、品々家具御借入懸合忝き に付) 一場源七郎→八田嘉右衛門様	(文政11年)4月25日	横切紙・1通	え4614-9-2
(書状、馬場町へ御掛合との事、書面認めたので御落手 下さるべきに付)	(文政11年)25日	横切紙・1通	え4614-9-3
覚(腰高菓盆揃2人前など今般御勅使献備の品・御秘藏 の品拝借したきに付) 相澤隆太郎・伊藤盛太郎→八田 慎蔵様	3月21日	横切紙/(え 4639-1~39は括 り紐一括)・1通	え4639-35
(書状、脇差の身一両日の内御預かり置き申す所、相違な きに付) 関口甚五右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	未2月27日	切紙/(え4643-1 ~25は括り紐一 括)・1通	え4643-19

1.21.見聞・風説書

(琉球中山王御目見えの次第書付)	閏11月4日	横切継紙/(え4603-1~24は紙縫一括)・1通	え4603-24
(昨26日稲荷山にて騒動これあり打ち損じた人別書上) *(端裏書)「伊勢町様 木町」 木町→伊勢町様		横切継紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-48
(「胸釘打はひひきし鐘の音跡の始末は何と正造」ほか1首の狂歌書付)		横切紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4612-21
(羽州新庄去る辰年は6万6300石余損毛天明年中以来の違作のため御暇乞許可により出立の旨書状ほか書付) 戸沢大和守→	9月18日	横切継紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-3
(高田御領分福島新田大庄屋関野井新左衛門、この者先年田地3000石所持仕り、先年三条大火の際金銭抛出の旨書付)		切紙・1通	え4616-5
(南部面白き御評判願ひ奉ります哥等に付書付)		横切継紙・1通	え4616-18
(天満同心吉見九郎左衛門など返り忠より大塩の大変になる旨など大塩の変経緯書)		横切継紙・1通	え4616-32
火事場軍記		横切紙・1通	え4616-33
(書状、今度御即位遂行せられる旨承知仕り目出度きにより御祝儀として禁裏院中へ目録の如く献上仕るに付)		折紙・1通	え4625
(書状、京都壬生村というところに浪人300人余り差し置く由、公儀より御宛行との事、大坂天保山因州様御預り台場になるに付ほか)	亥7月	横切継紙/(え4636-1~10は括り紐一括)・1通	え4636-1
(「月に村雲、花に風、満れば隠るは自然の理なるべけんや…」、「欠ぬほと田畑実法で祭りかな」、など書付) 七十六翁素弓→	天保8酉年8月末の2日	堅紙/(え4638-1~34は括り紐一括)・1通	え4638-5
(御総督府御使植田宗平家来香山孫四郎・高田藩香西又五郎小者1人書付)		横切紙・1通	え4638-11
(書状、危急の時節に罷りなる所、京都より関東御追討の由により、この上は如何になり申すべきに付) * (端裏書)「慎蔵様」 半蔵→慎蔵様	正月29日	横切紙/(え4639-1~39は括り紐一括)・1通	え4639-6
(大戦は長州大敗により台場は打破られ夷に奪われる旨戦況報告の旨書状下書) * 八田慎蔵あて書状包紙の紙背		折紙/(え4643-1~25は括り紐一括)・1通	え4643-1
(藤岡町・吉井宿・富岡・藤岡町など浪士立ち回り用金徴収のため御城下町々出口と領分境固めにつき写書) *(端裏書)「子五月廿八日」/(端裏朱書)「義九四十五」	子5月28日	折紙・1通	え4643-4

1.22.諸情報

売薬広告(きなく湯、嬰兒散新薬広告) 松代町千貳百九十六番地舊有楽町賛濟堂大川市(印)→	明治15年1月21日開店	横切紙/(え4607-1~35は紙縫一括)・1通	え4607-19
--	--------------	--------------------------	----------

(信濃国大名領・幕領・預所・各郡石高一覧)	横切継紙/(え4612-1～42は括り紐一括)/(え4612-15-1～3は紙縫一括)・1通	え4612-15-2
(慶長金掛目・元禄金・2朱金など印字書付)	横切紙/(え4638-1～34は括り紐一括)・1通	え4638-26
(天文6年より埴科郡安懸庄松代海津城主変遷など書付)	横切紙・1通	え4638-29
(福德寺御朱印20石など領内寺社朱印地ならびに松代より矢代・戸倉までの里数など書付)	横切紙/(え4638-1～34は括り紐一括)/(え4638-29に巻込)・1通	え4638-30
(松代より江戸まで55里余ならびに松代領内村高人数など書付)	横切紙/(え4638-1～34は括り紐一括)・1通	え4638-31

1.23.諸芸

1.23.1.武芸・文芸

(包紙) * (包紙上書)「蕪詞 一章」		包紙/(え4604-1～23は紙縫一括)/(え4604-21-1～4は包紙一括)・1点	え4604-21-1
(漢詩、「牧拾湖山入畫中…」) 逸齋邨敦拝具(印)→		横切紙・1通	え4604-21-2
(漢詩、「山勢巍巍芳樹重…」) 中村利芳拝具(印)→		横切紙・1通	え4604-21-3
(漢詩、「半幅丹青造化工…」) 逸齋邨敦拝具(印)→		横切紙・1通	え4604-21-4
(「…山里ハおのつから…」詩書付)		縦紙/(え4609-1～20は紙縫一括)/(え4609-20-1～13は紙縫一括)・1通	え4609-20-12
(近江屋源六関係書類ほか一括)		包紙一括/(え4611-1～12は括り紐一括)/(え4611-5-1～3は包紙一括)・1点	え4611-5-0
(包紙) * (包紙上書)「信州松代二而八田嘉右衛門様 新両替町式丁目近江屋源六」		包紙・1点	え4611-5-1
(「穠春」書)		縦紙・1通	え4611-5-2
(書状、御品々仰せ下される通り御藩中片岡源左衛門様へ差上げ置くにより御落掌下されるべきに付ほか) 近江屋源六→八嘉右衛門様尊酬	閏11月26日	横切継紙・1通	え4611-5-3
「文租鑑定免許」		切紙/(え4616-1～33は括り紐一括)・1通	え4616-15
(書状、その節御約束の詩差遣わすも余りに埒無しの事にて恥入るにより御覧後は反故になし下されるべきに付) 内蔵太→お梅殿人々	正月6日	横切継紙/(え4627-1～27は括り紐一括)・1通	え4627-4

(書状、七景名題差上げる所、活法五六合巻1冊この者に御渡し成し下される様願ひ上げるに付ほか) 甚五郎→嘉右衛門様	閏8月8日	横切継紙/(え4638-1~34は括り紐一括)・1通	え4638-20
(湧泉亭・清風篁・極目岡・紫藤架など詩文書付)		切紙・1通	え4638-21

1.23.2.茶の湯

(書状、昨日御申出の赤楽の香合箱書付、不白毛の筆一覽致し香合の性勝らざる品に存ぜうる等に付今日使を以て御落手下されたき旨) *(端裏書)「近江屋源六殿 千宗室」 千宗室→近江屋源六殿	11月10日	横切紙/(え4603-1~24は紙縫一括)・1通	え4603-2
覚(御銅炉1つ90匁などメ190匁諸品勘定書上) *(端裏書)「山城屋売上巻通」/包紙として使用 山城屋清七(印)→渡邊紀六様	申ノ12月7日	縦継紙/(え4620-1~16は括り紐一括)・1通	え4620-7
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 渡邊紀六」/(包紙裏書)「専用書」		包紙/(え4620-1~16は括り紐一括)/(え4620-8-1~4は包紙一括)・1点	え4620-8-1
覚(銅炉1つ90匁など合わせて金3両2分余り御頼みの御調物代水井忠蔵へ御渡し下されるべきに付) 渡辺紀六→八嘉右衛門様	12月10日	横切継紙・1通	え4620-8-2
(書状、わずかながら生海苔1箱など御笑納なし下されるべきに付) 紀六→嘉右衛門様	12月10日	横切継紙・1通	え4620-8-3
(書状、茶師山城屋へ申付けた所、価格については不案内にて格別高料の様なれど仕方なく取極めるに付) 紀六→嘉右衛門様	12月10日	横切継紙・1通	え4620-8-4
(風炉・釜・透木の組み合わせについて指示書)	7月24日認ル	折紙/(え4627-1~27は括り紐一括)・1通	え4627-2
(書状、昨年秋御礼拝読の所、その節御茶料金松丹太泉屋よりたしかに落手仕るに付) 川村宗順→八田嘉助様参人々御中	9月10日	横切継紙/(え4640-1~15は括り紐一括)・1通	え4640-1
(八田嘉助様御茶料メ3歩2朱勘定書付) 川村宗順(印)→	卯9月10日	横切紙/(え4640-1~15は括り紐一括)/(え4640-1に巻込)・1通	え4640-2
(包紙) *(包紙上書)「三月廿六日到来状八田嘉右衛門様 渡辺紀六」		包紙/(え4641-1~11は括り紐一括)/(え4641-10-1~3は包紙一括)・1点	え4641-10-1
(書状、西ノ門利久紙御形遣わされる所、出来合なく、当節横山町まで相尋ねるも御形の通りになきに付) 紀六→嘉右衛門様	12月19日出	横切継紙・1通	え4641-10-2
(書状、別紙申上げた本書両御品のこと箱詰2つに仕り御台所へ相願ひ申す所、其表御同所より相届け申すべきに付) 紀六→嘉右衛門様	12月18日夜	横切継紙・1通	え4641-10-3

1.23.3.学芸

附録(冒頭「本月四日便宜を得んと認置候後も…」、聖誠至信に転職を務めるに付)＊(端裏書)「附録」 神澄白→	3月11日	横切継紙/(え4609-1～20は紙縫一括)/(え4609-19-1～2は折込一括)・1通	え4609-19-1
附録の二(「不佞ケ講武の業も易術の実を得るも人倫の大義を立るも…」)	(3月)12日筆記之	横切継紙・1通	え4609-19-2

1.23.4.手習

(習字手習書付) ＊反故紙利用		横切継紙/(え4629-1～15は括り紐一括)・1通	え4629-4
-----------------	--	----------------------------	---------

1.23.5.俳句・和歌

(和歌詠草、「身の秋の…」) ＊(包紙上書)「吉田源左衛門殿墨跡年来懇意ニ被致任書付仕舞置候」 鶏旭亭李井(花押)→		横切紙/(え4604-1～23は紙縫一括)・1通	え4604-4
(和歌詠草、「高君の入らせらるる…」)		縦紙/(え4608-1～11は紙縫一括)・1通	え4608-9
(和歌詠草、「こちむいて御話あれやたるまとの我もさみしき秋の夕暮」・杉林道人書) ＊(包紙上書)「千丈和尚書」		切紙/(え4627-1～27は括り紐一括)・1通	え4627-14
(省行舎怨山の御俳名字義書上) [印]→八田孫左衛門尉丈		折紙/(え4638-1～34は括り紐一括)・1通	え4638-34
(和歌詠草、「暁のうをよみ□ける 正三位家隆」)		切紙/(え4643-1～25は括り紐一括)・1通	え4643-17
(和歌詠草、「御着類を拝借して返上すとてよめる」)		横切継紙/(え4644-1～36は括り紐一括)・1通	え4644-4

1.24.諸家交流

1.24.1.音信

(書状、ちょっと御様子相伺いたきに付) 内蔵助→増七様	6月朔日	横切紙/(え4612-1～42は括り紐一括)・1通	え4612-35
(書状、存外の御無沙汰御用捨下さるべく、御容体承知致したきに付) ＊(包紙上書)「松代八田嘉右衛門様人々御中 当町玉木恒右衛門」 玉木恒右衛門→八田君几下嘉右衛門様	9月27日	横切継紙/(え4613-1～21は括り紐一括)・1通	え4613-10
①(書状、当春中大地震にて御貴君様半潰れの由、私義も物置など大潰れの所、霜月中大病も少々よろしく成るに付)、②(書状、寒中御見舞として御風呂敷1枚下し置かれ御礼に付) ②今井孫右衛門→②宮川多七様	②12月26日	折紙/(え4640-1～15は括り紐一括)・1通	え4640-9

1.24.2.礼状

(書状、先般は始めて参上を遂げ御世話共相成り帰宅の節は見事の御菓子一折下され御礼申上げる旨) * (包紙上書)「九月十一日高田公より到来 八田嘉右衛門様 矢部通伯」/(端裏書)「八田嘉右衛門様」 矢部通伯→八田嘉右衛門様人々御中	5月20日	横切継紙/(え4601-1~7は紙縫一括)/(え4601-5-1~2は紙縫一括)・1通	え4601-5-2
(書状、当夏中出府の節色々御馳走罷り成るも繁用により御礼遅延するに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 廣部廣平」 廣部廣平正苗(花押)→八田嘉右衛門様貴報	10月18日	折紙/(え4613-1~21は括り紐一括)・1通	え4613-12
(書状、旦那方臨時の義御頼み申上げる所、御承引下され御蔭で間に合い忝きに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 田中弥右衛門」 田中弥右衛門→八田嘉右衛門様	正月晦日	横切継紙/(え4620-1~16は括り紐一括)・1通	え4620-2
(書状、旧冬御繁多の御中参上仕る所、御厚志下され有り難きに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様尊下 田中善右衛門」 田中善右衛門成景(花押)→八田嘉右衛門様尊下	正月6日	横切継紙/(え4642-1~9は括り紐一括)/(え4642-2-1~4は紙縫一括)・1通	え4642-2-4
(書状、御祝儀として御肴1折御祝成し下される所、御皆々様へも宜しく御礼申上げたきに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様用書 坂原空楽」 坂原空楽→八田嘉右衛門様貴報	正月26日	横切継紙/(え4643-1~25は括り紐一括)・1通	え4643-12

1.25.書状類

1.25.1.依田市右衛門関係

(依田市右衛門・助太夫贈答関係書類一括)		括り紐一括/(え4620-1~16は括り紐一括)/(え4620-10-1~3は括り紐一括)・1点	え4620-10-0
(書状、御茶並びに塩鯨進呈に付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様八田嘉右衛門様 依田市右衛門同助太夫」 依田助太夫繁祉(花押)・依田市右衛門繁高(花押)→八田孫左衛門様・八田嘉右衛門様人々御中	7月5日	折紙・1通	え4620-10-1
(書状、肥州の御茶・寒製鯨拜味仕り格段の旨並びに助太夫様御改名目出度きことに付) * 下書 八田嘉右衛門・八田孫左衛門→依田市右衛門様・依田助太夫様		折紙・1通	え4620-10-2
(書状、御名産の御蕎麦1箱贈り下され誠に忝き次第に付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様八田嘉右衛門様 依田市右衛門」 依田市右衛門繁高(花押)→八田孫左衛門様・同嘉右衛門様御報	6月26日	折紙・1通	え4620-10-3
(依田家消息関係書類一括)		括り紐一括/(え4620-1~16は括り紐一括)/(え4620-11-1~3は括り紐一括)・1点	え4620-11-0
(書状、御由緒もありて御家督御相続なされたとのこと巨細仰せ下され御間柄の義幾久しく御文通もしたきに付) * 下書 八田嘉右衛門→依田元弥様御下	7月11日	横切継紙・1通	え4620-11-1

(書状、御見舞下され忝き次第により御礼御挨拶に付) 八田嘉右衛門知義(花押)→依田元弥様貴報	7月11日	横切継紙・1通	え4620-11-2
(依田元弥交誼関係書状一括)		包紙一括/(え4620-1~16は括り紐一括)/(え4620-11-1~3は括り紐一括)/(え4620-11-3-1~3は包紙一括)・1点	え4620-11-3-0
(包紙) * (包紙上書)「信州松代二而八田嘉右衛門様 仙石越前守内依田元弥」/(包紙裏書)「従江府」		包紙・1点	え4620-11-3-1
(書状、先達てより書中を以て何角の御見廻貴意を得るべき所、心外御疎遠申し達するに付) 依田元弥繁(花押)→八田嘉右衛門人々御中	4月27日	横切継紙・1通	え4620-11-3-2
(書状、御地へ罷り出でた養父市右衛門去る未年閏2月29日に病死致す所、相続相違なく申付けられるに付) 依田元弥→八田嘉右衛門様	4月27日	横切継紙・1通	え4620-11-3-3
(年賀状) * (包紙上書)「八田孫左衛門様 依田市右衛門」/(包紙張紙)「文化十二亥四月改入用紙面ハ無之候得共残置」/(包紙裏書)「八田競御届申候」 依田久助繁祉(花押)・依田市右衛門繁(花押)→八田孫左衛門様・八田嘉右衛門様・八田長左衛門様人々御中	文化12亥正月28日	折紙/(え4620-1~16は括り紐一括)・1通	え4620-15
(書状、競殿へ近日の内御入来たり下されるべき哉御様子承りたく御意を得るに付) * (包紙上書)「信州松代御城下二而八田孫左衛門様 依田市右衛門」 依田市右衛門繁(花押)→八田孫左衛門様人々御中	8月8日	折紙・1通	え4620-16

1.25.2.経営

(書状、孫兵衛差し出した紙面熟覧仕り、西木町出店につき山師との御尊君風評区々に付ほか) 所増大吐愚痴→井養亭尊君奉復玉案下	10月24日	半/(え4604-1~23は紙縋一括)・1冊	え4604-14
---	--------	------------------------	----------

1.25.3.相談

(書状、過時の封書中には御不審の旨も相談があったが略文故わかり兼ね開緘下され難き段直に申し談じ呈進これあり軽拳失敬に付) * (端裏書)「八田君几下 封書添 神礼拝」 神礼拝→八田君几下	丙子3月4日認	横切継紙/(え4609-1~20は紙縋一括)・1通	え4609-17
(書状、この木は何と申す木であるかに付) * 葉が付いた枝先の現物あり		小切紙/(え4631-1~23は紙縋一括)・1通	え4631-22
(書状、この木は山中桜村名無木と古く申し伝え此前検見の節の太木であるが一向名無し木である旨) * (端裏書)「御内覧可被成下候」	正月30日	横切継紙・1通	え4631-23
(書状、藤三郎殿のこと段々御厚配浅からざる所、去年中より御相談におよぶも宜しき手段も相見え申さず付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様貴下 熊井武助」	11月19日	横切継紙/(え4641-1~11は括り紐一括)・1通	え4641-11
(書状、昨日御頼み申し置いた古金銀の儀の様子問合せに付) 佐吉→嘉平治様	10月25日	横切継紙/(え4644-1~36は括り紐一括)・1通	え4644-18

1.25.4.依頼

遺書(私死去致した時金子下女とめへ取らせ申したきに付直之助方にて同人へ御渡し下さるべき旨) * (外包紙上書)「樋口伊八様御死去後町払取替遣候諸方売上扣入」/(内包紙上書)「八田嘉右衛門様 樋口伊八」 樋口伊八→八田嘉右衛門様	申8月15日	横切継紙/(え4602-1~9は紙縫一括)・1通	え4602-3
(書状、少々極密御目に掛り御内咄も致したき義があるので一兩日の内御立ち寄り下さる様相願いたき旨) * (端裏書)「嘉右衛門様差置 源五左衛門」 源五左衛門→嘉右衛門様差置	7月29日	横切紙/(え4604-1~23は紙縫一括)・1通	え4604-12
(書状、今夕の御奉駕は御延引下さるべく余り自由が間敷義は御高免下さるべき旨) * (端裏書)「八田嘉右衛門様当用 佐々木友三」 佐々木友三→八田嘉右衛門様当用	11月24日	横切紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-2
(書状、明後24日御取調御手数願ひ奉る旨書付)	22日	横切紙/(え4605-1~64は紙縫一括)/(え4605-30-1~2は折り込み一括)・1通	え4605-30-1
(あしきのしめ一枚早速遣す旨)		切紙・1通	え4605-30-2
(書状、御不快に付草津温泉へ御入浴により御軽快に相成り兩三日中に御帰宅の旨水元申し上ぐべき所お断りにつき) 八田慎蔵→色部信蔵様御側	9月12日	横切紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-46
(書状、杭瀬下村色部信蔵様御病氣にて御湯治に御参り成し下され御全快遊ばされ御入用多分に御掛りの御様子に付御当人様御書面持参致させる旨) 上州草津山本十右衛門→松代伊勢町八田慎蔵様御内御取次中様		横切紙・1通	え4605-47
(書状、下拙儀病氣に付6月中より上州草津湯治仕る処全快に付此度の義は入用等多分相掛り山本十右衛門手代を以て願ひ上げ奉る旨) * (包紙上書)「松代伊勢町八田真蔵様貴下急用 杭瀬下村色部信蔵」/(包紙裏書)「丑九月十一日認 草津山本十右衛門宅 色部信蔵→八田慎蔵様	丑9月11日	横切継紙・1通	え4605-50
(書状、本之進様方例年御入用の趣の所、金3両繰り合わせる様仰せを蒙るにより繰合御落手なし下されるべきに付) * (包紙上書)「慎蔵様内用答入 承之助」 承之助→慎蔵様	4月7日	横切紙/(え4639-1~39は括り紐一括)・1通	え4639-16
(書状、只今別紙の通り申し来たるにより御繁用の御中恐れ入るも御光駕成し下される様願ひ奉るに付) * 勘返状 慎蔵→市治様	19日	横切継紙・1通	え4639-20
(書状、お世話致し度きと申し頼み置くに付) * (封筒表書)「奉便 内用事 治□」	5月29日	折紙/(え4644-1~36は括り紐一括)・1通	え4644-25

1.25.5.連絡

(書状、同苗在府中何の風情もなく残情少なからず存じ参り、且つ粗末品御目に懸けられ御丁寧に御挨拶仰せ下され痛み入るに付) 八田嘉右衛門知義(花押)→矢部通伯様貴答	9月11日	折紙/(え4601-1~7は紙縫一括)/(え4601-5-1~2は紙縫一括)・1通	え4601-5-1
--	-------	---	-----------

(書状、先達で尊書返上奉った処仰せ蒙り金児さまへ申し上げ置いた趣何れ金子さまより仰せ蒙りたき旨) *(端裏書)「申上 嘉右衛門」 嘉右衛門→	3月18日	横切紙/(え4609-1~20は紙縫一括)・1通	え4609-18
(書状、矢代より柿崎新九郎殿御越しになられ委しく御左右承知に付) *(包紙上書)「信州松代八田孫左衛門様 要用 上州羽沢市川五郎兵衛」/(端裏書)「七月二日出十一月十二日矢代直八殿別々□□」 市川五郎兵衛→八田孫左衛門様参人々御中	7月2日	横切継紙/(え4613-1~21は括り紐一括)・1通	え4613-5
(包紙) *(包紙上書)「十二月十五日返札済八田孫左衛門様 赤沢嘉司馬」		包紙/(え4613-1~21は括り紐一括)/(え4613-6-1~4は包紙一括)・1点	え4613-6-1
(書状、同苗のこと久々不快引き籠り罷りあるにより小子より宜しく申し聞くに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 駒澤矢柄」/(包紙張紙上書)「文化三亥年三月改差当入用無之紙面」 駒澤矢柄→八田嘉右衛門様参人々御中	文化3亥年12月4日	横切継紙/(え4613-1~21は括り紐一括)・1通	え4613-19
(書状、私義眼病年齢などにより利左衛門願の通り御情けを以て東京組へ下山仰せ付け下されるに付) *(端裏書)「嘉右衛門様御内覧可被成下候 是る」 是より→嘉右衛門様御内覧可被成下候	2月23日	横切継紙/(え4619-1~33は括り紐一括)・1通	え4619-5
(書状、先達では龜末の兩種贈進致される所、御挨拶として御紙面の趣式部少輔へ相達し承知致されるに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 田能村半助」 田能村半助以壽(花押)→八田嘉右衛門様御報	9月15日	折紙/(え4620-1~16は括り紐一括)・1通	え4620-1
(書状、段々佐久間子私方へ参る所、兼ねての大望取り懸かるべきとのこと、当暮は甚だ不都合、差支えの由、例の細工物には莫大相懸る様子に付) *(端裏書)「伊勢町様 柴町」 柴町→伊勢町様	12月27日	横切継紙・1通	え4620-5
御内密(御内命のこと詮議いたす所、当人飯山辺へ稼ぎに出ており帰り次第内詮議遂げるに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 深美甚十郎」 深美甚十郎→八田嘉右衛門様	閏3月18日	横切継紙/(え4627-1~27は括り紐一括)・1通	え4627-9
御内々(小妻屋長治郎帰町様子承知いたす所、先月中浅野の利左衛門甥も申し立てるも何とも分かり兼ねるに付) 深美甚十郎→八田嘉右衛門様	3月8日	横切継紙・1通	え4627-10
(書状、裏町より旧臘願いの趣申し上げる所、貴答書には半高位の事に取り計らう様申すも相済み兼ねるとの由に付) *(端裏書)「伊勢町様 柴町」 柴町→伊勢町様	正月14日	横切継紙/(え4636-1~10は括り紐一括)・1通	え4636-9
(書状、当御差出と申すにては御帳立如何かと存じ奉るによりいづれ私より申し含み御帳外に取り計らうに付) *(端裏書)「八田様御使 千庭」 千庭→八田様	8月20日	横切継紙/(え4639-1~39は括り紐一括)・1通	え4639-17
(封筒) *(封筒表書)「嘉助様用事 元泊」		封筒/(え4642-1~9は括り紐一括)/(え4642-1~11は包紙一括)/(え4642-1-7-1~3は封筒一括)・1点	え4642-1-7-1

1.内方/25.書状類/5.連絡

(書状、この節の場合に手は尤も至極の儀の所、平年と替わり手元にて取入なく甚だ御繰り合わせに付) 嘉助→御内容		横切紙・1通	え4642-1-7-2
(書状、今朝桜尾妻罷り越すにより先達てより大病にて平臥する所、薬事差支え当人心配に付) * (端裏書)「嘉助様内用 元泊」 元泊→嘉助様	7月13日	横切継紙・1通	え4642-1-7-3
(書状、今朝は御厚志有り難き所、その節仰せの趣御客持参の御茶あらば草の盆立になされる様御話しに付) * (端裏書)「嘉右衛門様御直覧希候 六十郎」	8月8日	横切紙/(え4642-1~9は括り紐一括)・1通	え4642-6
(書状、木町一件竹全君へ得と御相談申し候旨) * (端裏書)「御直破願候 盛之丞」	7月朔日	横切継紙/(え4631-1~23は紙縊一括)・1通	え4631-20
(札) * (札上書)「嘉助様 盛之丞」		札・1点	え4631-21
(書状、御風邪御快方ならざるにより御薬調進仕る様仰せ下されるにより差し上げ申すに付) * (端裏書)「拝答 玄又」 玄又→	7日	横切継紙/(え4639-1~39は括り紐一括)・1通	え4639-8
(書状、昨日は母子ともに帰宅仰せ付けられ滞りなく大丈夫にて着仕るにより御安意なしくださるべきに付) 坂本丑之助拝→八田慎蔵様尊答	閏月6日	横切継紙・1通	え4639-23

1.25.6.封紙のみ

(包紙) * (包紙上書)「八田慎蔵様 柳沢□一郎」		包紙・1点	え4639-14
----------------------------	--	-------	----------

1.26.諸書類

1.26.1.沢守禮ほか印書関係

(書状、先刻罷り出でも留守により残念の旨並びに片葉子を以て御内々相願うこと御承知なし下されるに付) * (包紙上書)「嘉右衛門様御内披可被下候 守禮」/(端裏書)「書鳩君文ル親般再拝」 親般再拝→書鳩君	7月20日	横切継紙/(え4638-1~34は括り紐一括)・1通	え4638-13
---	-------	----------------------------	----------

1.26.2.その他

(佐久白田長谷と申す人ほか人名書付)		切紙/(え4605-1~64は紙縊一括)・1通	え4605-33
(西村久之助殿・丸山竹阮殿ほか人名書付)		横切紙・1通	え4605-58
(作右衛門貞安戊辰戦従軍など履歴書付) →上		縦紙/(え4607-1~35は紙縊一括)・1通	え4607-21
(御鑑札頂戴に付御奉行所その他謝礼並びに目録取調べ置いたので源田へ案内有るべきなどほか指示書)		横切継紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4612-8
(運賃の事・最初願立の事など事項書付)		横切継紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-19
(「此度の御趣意ハ重キもらめいしまつ、うらくにてもきぬものはなし」書付)		切紙・1通	え4616-25

(書状・覚など数十通貼り継ぎ) 高田幾太→八田嘉右衛門様・八田嘉助様		横切継紙/(え4629-1~15は括り紐一括)・1点	え4629-1
(八田新蔵正月2日に板札ひそかに隠し置くこと不届きにより「要取刑付」の申付書)		横切紙/(え4639-1~39は括り紐一括)・1通	え4639-25
(封筒) *(封筒表書)「御返申候」		封筒/(え4644-1~36は括り紐一括)/(え4644-27-1~3は封筒一括)・1点	え4644-27-1
(印影のみ)		切紙・1通	え4644-27-2
(印影のみ)		切紙・1通	え4644-27-3

1.27.吹直金銀引替

(包紙)		包紙/(え4638-1~34は括り紐一括)/(え4638-23-1~3は包紙一括)・1点	え4638-23-1
(書状、御上府にて御掛合の趣公議にても御取り用いになりこの程の御触れも出た様だと殿村より申し来るに付) 大嶋武左衛門→八田嘉右衛門様	10月2日	横切継紙・1通	え4638-23-2
(書状、嘉右衛門御引合仕る金子引替により道中持ち送り入料については仰せの割合を以て里数金高に応じるに付) *(端裏書)「殿村手代江申九月廿三日便差遣候文通下」 八田嘉右衛門手代傳兵衛→殿村佐五平様御内与平次様	月日	横切継紙・1通	え4638-23-3

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

2.店方

2.1.酒店・酒造方

2.1.1.酒店勘定

覚(寅辰巳3年分酒代3分2朱余り勘定書付) 菊屋傳兵衛→紙屋町仁右衛門様	巳7月	横切継紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4612-33
覚(市兵衛へ払い分金5両2分余り、酒店品々御払40両余などノ3口57両余り御下げ金願うに付)		横切紙・1通	え4612-38
覚(丑帳面の内借用分金23両3朱余など買掛りノ金29両2分余差引勘定に付) 喜左衛門→菊屋傳兵衛様	天保13寅年12月	横切継紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-6
(金700両余午秋残酒造入玄米代金172両など差引334両余勘定書付)		切紙・1通	え4623
(玄米988石余平均値段1石4斗5升余代金677両余など差引勘定書付)		切紙・1通	え4624
覚(戌暮樽扱桶屋丈七払分金1両2分2朱余ほかノ金3両錢23貫あまり戌年酒店入料勘定書付)	亥2月	横切継紙/(え4644-1~36は括り紐一括)・1通	え4644-10
覚(御油3本駄賃とも400文など差引3両2朱余上納に付) 酒店→	寅11月13日	横切継紙・1通	え4644-14

2.1.2.酒造米

(書状、去年中米御取次申す所、一駄切子方入の分に升屋助五郎殿より参るに付) * (封筒表書)「松代菊屋様御酒蔵掛御番頭様 高倉村油や庄兵衛」 油屋庄蔵→松代菊屋御酒蔵掛御番頭様	6月2日	横切継紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-11
--	------	----------------------------	----------

2.2.呉服店

(角店通帳御納、給金の事など書付)		横切紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-42
-------------------	--	--------------------------	----------

2.3.油店

油売高(9月1日から10日の現金分・掛之分書付)		横切紙/(え4609-1~20は紙縫一括)・1通	え4609-12
(書状、昨日仰せの山茶採実の休節、油製方承ること無きに付) * (端裏書)「嘉右衛門様 井右衛門参上」 井右衛門参上→嘉右衛門様	7月2日	横切継紙/(え4644-1~36は括り紐一括)・1通	え4644-8

2.4.醤油店

覚(大豆4斗代1貫500文、糶・塩などノ8両3朱余り寅年入用勘定書付) * (包紙上書)「上 数右衛門」 数右衛門→	卯2月	横切紙・1通	え4644-28
--	-----	--------	----------

2.5.赤倉松井店

(書状、御奥様御逝去ご愁傷の旨並びに御店向一件について栄八殿御差越委細御相談仕るに付) 加藤市郎右衛門→八田様御取次衆中	6月22日	横切継紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-12
(書状、この度栄八殿御差越され御店向一条委細相談仕る旨並びに新保一件御内談するもこれまでの筋合大相違に付) * (包紙上書)「松井和七様貴下要用 加藤市郎右衛門」 加藤市郎右衛門→松井和七様	6月23日	横切継紙・1通	え4616-14
(書状、御社参中嚴重に相守る所、高田様より本多越中守様へ入らせられた宝台院様去る4月23日御逝去に付) * (包紙上書)「信州松代八田御内松井和七様尊下 越州赤倉(欠損)」 松井繁八→松井和七様	5月8日	折紙・1通	え4616-4
(包紙) * (包紙上書)「松代松井和七様要用 市村戸右衛門」		包紙/(え4616-1~33は括り紐一括)/(え4616-20-1~3は包紙一括)・1通	え4616-20-1
(障子など立て置くことは不始末になるので外して仕舞い置く様に仰せ遣かわす旨指示書付)		切紙・1通	え4616-20-2
(書状、当節身分の義によって当月中は甚だ忙しく赤倉へ出向することは相成り難きに付) 戸右衛門→松井和七様	10月14日	縦紙・1通	え4616-20-3
(包紙) * (包紙上書)「松代菊屋和七様貴様 高田山中吉左衛門横沢徳之助」		包紙/(え4619-1~33は括り紐一括)/(え4619-22-1~4は包紙一括)・1点	え4619-22-1
(書状、御用金仰せ出される由当年については御迷惑察し上げ奉るに付) 吐愚痴→神髓街様	12月16日	横切継紙・1通	え4619-22-2
(書状、来る16日願人共当所出立し御金持参致させるべきにより私共の内一兩人参上仕るに付) 横沢徳之助・山中吉左衛門→菊屋和七様	12月13日	横切継紙・1通	え4619-22-3
(書状、御様躰相伺いたきにより亀茶1箱進呈仕るに付) * 下書/裏に別書状下書あり →松本斧次郎参人御中		折紙・1通	え4619-22-4

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

3.町方/町年寄

3.1.諸役・貢税

3.1.1.明治期貢税取調

酒造税金上納(松代伊勢町分) 組頭嶺村忠助→	(明治5年)壬申6月29日	横切紙/(え 4605-1~64は紙 縫一括)・1通	え4605-22
------------------------	---------------	----------------------------------	----------

3.2.講

(乙亥年拝受メ27両以下7ヵ年分の講の金銭勘定書付)		横切継紙/(え 4601-1~7は紙縫 一括)/(え4601- 6-1~6は折込一 括)・1通	え4601-6-6
----------------------------	--	---	-----------

3.3.触書写控

(天明8年柳生主膳正様・山村信濃守様御列座にて仰せ渡しの飢饉に関する御書付) *写		横切継紙/(え 4638-1~34は括 り紐一括)・1通	え4638-17
(天明期天候不順により五穀成就御祈祷など仰せつけられるも猶以て追々穀類などの蓄えるべき旨村々申渡書)	2月25日	横切紙・1通	え4638-18

3.4.町政

記(大小区仮割、町内役懸り6人給料、日誌入費メ金15銭余受取に付) 田町用懸(印)→八田本之進殿	4月	横切紙/(え 4605-1~64は 紙縫一括)/(え 4605-27-1~2は 折込一括)・1通	え4605-27-2
--	----	--	------------

3.5.祭礼

覚(未祭山長8間板坪4尺9寸、手間27人、扶持11人など書付)		横切紙/(え 4612-1~42は括 り紐一括)・1通	え4612-25
---------------------------------	--	-----------------------------------	----------

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

4.松代藩御用

4.1.川船会所

4.1.1.通船免許

(川船会所関係書類一括)		包紙一括/(え4614-1～26は包紙一括)/(え4614-14-1～5は包紙一括)・1点	え4614-14-0
(包紙) * (包紙上書)「文化十四三月廿八日 川々運送被 仰付候御書付」	文化14年	包紙・1点	え4614-14-1
口上覚(御領内御手船運送方任じられるにより東寺尾村などの地所伊勢町伝兵衛の高請願うに付) 八田嘉右衛門→御郡方様	5月	横切継紙・1通	え4614-14-2
口達書取(御領内引船運送方御用により東寺尾村地所など相渡すに付)		横切紙・1通	え4614-14-3
(書状、御領内川々にて米穀その他引船運送仰せ立てられる所、御附札を以て御下知相済むに付) * (端裏書)「文化十四三月廿八日御勝手方恩田靱負殿御渡被成候御書附」 →道橋奉行中	文化14年3月28日	横切継紙・1通	え4614-14-4
(引船運送について御下知相済むにより御買上物など全て船運送方掛相勤めるべきに付下知状) * (端裏書)「文化十四三月廿八日恩田靱負殿方道橋方江御渡被成候御書付之写」	文化14年3月28日	横切継紙・1通	え4614-14-5

4.1.2.飯山一件

(書状、長沼村において同村より上筋通船運送荷につき前野村・福嶋村両村を相手取り出訴仕るに付) 斎藤太左衛門→笠井和七様貴答	4月8日	折紙/(え4616-1～33は括り紐一括)・1通	え4616-7
(書状、例の当暮御上納金何程か仰せを蒙りたきに付) * (表書)「八田嘉右衛門様 関田守之丞 要用書類入」 関田守之丞→八田嘉右衛門様	12月8日	横切継紙/(え4627-1～27は括り紐一括)・1通	え4627-7

4.1.3.中野一件

覚(金10両、中町六郎兵衛中野一件にて出府致させ当暮差支える由、親類善右衛門へ時貸銘目を以て御貸し遣わし候分受取に付) 堀内与一右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	文政10亥年12月26日	横切紙/(え4604-1～23は紙縫一括)・1通	え4604-20
--	--------------	--------------------------	----------

4.2.融通米世話

(融通米取入などにより源吾分御袴1つなど御褒美・御手下当し置かれる様したき旨御伺書) * (端裏書)「御聞済」	酉12月	横切継紙/(え4638-1～34は括り紐一括)・1通	え4638-19
---	------	----------------------------	----------

4.3.椀類挽物問屋

覚(店開よりの売メ金75両3分程などメ金215両3分余引き残り85両金銭勘定書付) * (端裏書)「椀方差引書喜助 ゝ指出候卯七月」		横切継紙/(え 4644-1~36は括 り紐一括)・1通	え4644-5
覚(上表丸百物拾人前代45匁など去年中売り出しの節、 当春になり木地椀出来ざる様に存ずるに付)		横切継紙・1通	え4644-6
覚(惣黒本朱絵弁当椀320人分代312匁など5貫167匁大 藏にある代品物有増代書付) 中町店→	7月11日	横切継紙・1通	え4644-7

4.4.飛脚会所

(諸品受取覚一括)		包紙一括/(え 4636-1~10は括 り紐一括)/(え 4636-4-1~6は包 紙一括)・1点	え4636-4-0
(包紙) * (包紙上書)「素弓様御用書 書鳩」		包紙・1点	え4636-4-1
覚(箱包1つ受取に付) 板倉勘右衛門・若月素相(印)→八 田嘉右衛門様	申9月30日	横切紙・1通	え4636-4-2
覚(紙包2つ受取に付) のり物町いせや市郎兵衛(印)→松 代御飛脚会所御使衆中様	申9月晦日	横切紙・1通	え4636-4-3
覚(品入箱1つ受取に付) 田中新助(印)→松代御飛脚会所 御使中様	9月晦日	縦紙・1通	え4636-4-4
覚(八田嘉右衛門様より小箱1つ受取に付) 殿村佐五平 →松代様御会所		横切継紙・1通	え4636-4-5
覚(信州松代より紙包2つ受取に付) 喜福寺納所[印]→ 御使中	10月朔日	横切継紙・1通	え4636-4-6

4.5.その他

(桜馬場北側の屋敷における儀式の調度品配置図)		38.9×28.1/(え 4604-1~23は紙 縫一括)・1鋪	え4604-23
-------------------------	--	--	----------

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

5.糸会所

(糸会所出精による青銅下付状関係書類一括)		包紙一括/(え4614-1～26は包紙一括)/(え4614-8-1～3は包紙一括)・1点	え4614-8-0
(包紙) * (包紙上書)「文政十三寅年十月廿日御目録三百疋御書付」	文政13年	包紙・1点	え4614-8-1
(文政13年10月御勝手方矢沢監物殿御書付を以て300疋頂戴仕る旨留書)	文政13年	切紙・1通	え4614-8-2
(糸会所出精大儀により青銅300疋下付状) → 八田嘉右衛門	(文政13年)10月20日	横切継紙・1通	え4614-8-3

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

6.産物会所

6.1.拝借金

(書状、墨製方仕払金20両拝借の件、御納戸金よりか国産御用金よりか、当暮までに仕入れたきに付) 何右衛門→三右衛門様	3月4日	横切継紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-24
--	------	---------------------------	----------

6.2.会所貸下金

覚 借用金証文之事(金何程、産物御会所へ御内願これあり拙者共立ち入り残金の分当月晦日迄御勘弁下さる様御承知下されたき旨雛形)		横切紙/(え4609-1~20は紙縫一括)・1通	え4609-5
覚(金2両2分余、御預金当辰利足受取に付) 八田嘉右衛門(印)→山平林村柳沢新右衛門殿	11月	横切紙/(え4604-1~23は紙縫一括)/(え4604-10-1~5は折込一括)・1通	え4604-10-1
覚(金3両2分、御取替金当辰利足受取に付) 八田嘉右衛門(印)→山平林村柳沢新右衛門殿	11月	横切紙・1通	え4604-10-2
(辰3会目預辻残金2分余、金銭勘定書付)		横切紙・1通	え4604-10-3
覚(金6両2分余、御預金当辰利足受取に付) 八田嘉右衛門(印)→御町方産物懸名代中島三右衛門殿	文政3辰年11月	横切紙・1通	え4604-10-4
(辰3会目御預辻残金5両余、金銭勘定書上) 御町方産物掛→		横切紙・1通	え4604-10-5

6.3.冥加金

(書状、昨日申し上げおいた先方冥加取り上げの分別紙納書の通り上納仕るに付) *(端裏書)「唯之進様金子入慎蔵」 慎蔵→唯之進様	閏月9日	横切継紙/(え4639-1~39は括り紐一括)・1通	え4639-12
---	------	----------------------------	----------

6.4.蚕種・生糸売買

(丹波島村金兵衛・太蔵・三輪村宇兵衛ほか7名人名書付)		横切紙/(え4609-1~20は紙縫一括)/(え4609-20-1~13は紙縫一括)・1通	え4609-20-3
(書状、①内田・佐羽への引合方に付別紙の趣百人殿申し立てる趣結構に存される処御在所の様子如何や貴意を得御取調の上御伺い成し下されたき旨、②糸・麻・煙草につき相談、③銅山につき相談) (松本)嘉十郎・(佐竹)周蔵→忠蔵様・儀左衛門様・喜兵衛様・藤三郎様・嘉助様・与一右衛門様	2月7日朝認メ	横切継紙・1通	え4609-20-4
(書状、為登糸の事は佐羽より整立の前には断り申す通り相談もこれあり其書状佐竹(周蔵)氏方に置き帰るべく御勘弁下さるべき旨) *(端裏書)「御会所様 嘉十郎」 (松本)嘉十郎→御会所様	4月9日夜	横切紙・1通	え4609-20-5

(廻状、浅草駒形内田屋甚右衛門の一条は新規の商い向きのため村方と商人の心得詮索のうえ相談に付、追伸:佐竹(周蔵)へ転送依頼) * (端裏書)「急廻状 嘉十郎」(松本)嘉十郎→忠蔵様・儀左衛門様・喜兵衛様・辰三郎様・嘉助様・与一右衛門様	4月9日	横切継紙・1通	え4609-20-6
---	------	---------	------------

6.5.金銭請払取調勘定

(103両余三日市・七日市ほか合計8か所の市場の四月中の金銭書付)		横切継紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-6
-----------------------------------	--	---------------------------	---------

6.6.褒賞

(産物会所掛心を配り相勤めるにより八田嘉右衛門へ青銅300疋下付状) →八田嘉右衛門	12月29日	横切紙/(え4614-1~26は包紙一括)・1通	え4614-6
(産物会所掛出精に相勤めるにより八田嘉助へ青銅200疋下付状) →八田嘉右衛門	12月29日	横切紙・1通	え4614-7
(枇杷葉・小巻桂枝などを水1合5尺とともに煮るにつき書付)		横切紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-28
(枇杷葉6匁ほか精撰の品書)		横切紙・1通	え4605-29

6.7.産物無尽

(産物無尽都合72両去年・子年両会合済切分金18両1分余り金銭書付)		横切紙/(え4642-1~9は括り紐一括)/(え4642-2-1~4は紙縫一括)・1通	え4642-2-3
------------------------------------	--	---	-----------

6.8.産業統制

6.8.1.陶器竈場

(書状、竹村より申し来る先日より扱いの様子如何相成居り候哉返報申し遣わしたく否御一筆仰せ下されたき旨) * (端裏書)「喜兵衛様当用 音門」	6月28日	横切紙/(え4609-1~20は紙縫一括)/(え4609-20-1~13は紙縫一括)・1通	え4609-20-7
(書状、陶器取扱の否相成るべきは竹村氏まで貴様御出で委細御申し下されたき旨)	6月28日	横切継紙・1通	え4609-20-8

6.8.2.蚕種・絹紬

(書状、蚕種紙以来産物会所へ差し出し改め受ける様仰せ渡しの月日穿鑿に付) * (端裏書)「御用筋八田慎蔵様 小林惣兵衛」 小林惣兵衛→御用筋八田慎蔵様	9月19日	横切継紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-54
---	-------	---------------------------	----------

6.8.3.杏仁

(杏仁改方に村々へ出張の節村方賄い並びに村にて取り替えもの調べの事ほか杏仁勘定の旨箇条書) * (端裏書)「杏仁勘定ニ付入用之事」		横切紙・1通	え4605-53
---	--	--------	----------

6.8.4.薬草

(大黃作方已秋100坪植込代金および作方入用差上金15両など利潤勘定書付)		横切紙/(え4612-1~42は括り紐一括)・1通	え4612-23
(書状、①先日は御執り成しをもって御下げ金頂戴仕り有難き、②御上へ御約束のジャコウソウ1本差上げにつき) 力石村塚田五左衛門→八田様御内高梨升七様尊下	6月4日	横切紙・1通	え4612-34
(裙帯菜は珍しい食物で本草甘平にて毒もなく水を利し酒毒を少なくするなど効能など書付)		小切紙/(え4627-1~27は括り紐一括)・1通	え4627-5

6.9.大坂交易

(書状、伊勢町より飛脚罷り帰り炭彦並びに炭孫よりの持参品御先へ披見致す旨) * (端裏書)「嘉十郎様 忠蔵」 忠蔵→嘉十郎様	3月2日	横切紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-45
(康楽寺用の御渡し金額、碓屋平左衛門殿の庚即弦の銀高、菊屋傳兵衛殿の利息共々高書上、この方への糸・甘草荷物積入れ船名取調依頼書)		折紙・1通	え4605-56
(手堅き御仕法により、麻・絹紬・明礬・甘草の荷出しに付願書草稿) * 前欠		縦紙/(え4609-1~20は紙縫一括)/(え4609-20-1~13は紙縫一括)・1通	え4609-20-11
(大坂御国産物取締一件関係書類一括)		括り紐一括/(え4635-1~9は括り紐一括)・1点	え4635-0
(書状、栄八様永逗留にて気の毒の所、栄八様相談の上甘草一手に相決まれば当秋には2000両位も出来るに付) * (包紙上書)「菊屋傳兵衛様用書 津国屋友七拜」/(包紙付札)「嘉永三戌年」/(包紙裏書)「戊五月二日米八持参四月十九日」/(端裏書)「菊傳」 津国屋友七→菊屋傳兵衛様	嘉永3年4月19日	横切紙・1通	え4635-1
(書状、①新産物の甘草取締向き調うと承知、②松兵衛荷物取扱掛申付けに感謝、③当年分御扶持有難く頂戴、④(追伸部分)甘草の出荷心元なきため誰か一人でも出坂下されたたきに付) * (端裏書)「菊傳様」 炭屋孫七→菊傳兵衛様	(嘉永3年)戊正月5日	横切紙・1通	え4635-2
(炭屋孫七差出書状一括)		包紙一括/(え4635-1~9は括り紐一括)/(え4635-3-1~3は包紙一括)・1点	え4635-3-0
(包紙) * (包紙上書)「松代菊屋傳兵衛様参人々御中 炭屋孫七」/(包紙付札)「嘉永三戌年」/(包紙裏書)「正月三日 自大坂 戊正月廿九日到」	嘉永3年	包紙・1点	え4635-3-1

(年賀状) 炭屋孫七(花押)→菊屋傳兵衛様参人々御中	(嘉永3年)正月2日	横切紙・1通	え4635-3-2
(書状、御面倒恐れ入る所、この8通それぞれ御届成し下されれば千万有り難きに付) 炭屋孫七→菊屋傳兵衛様御店衆中様	(嘉永3年)正月4日	切継紙・1通	え4635-3-3
(炭屋より甘草売払関係書類一括)		包紙一括/(え4635-1~9は括り紐一括)/(え4635-4-1~3は包紙一括)・1点	え4635-4-0
(包紙) * (包紙上書)「松代菊屋傳兵衛様 炭屋松兵衛」/(包紙裏書)「六月八日出 自大坂」		包紙・1点	え4635-4-1
(書状、引当として御預かりの御国産甘草について貴店 栄八様売払方御催促も帰国後も御沙汰なきに付) 炭屋松兵衛→菊屋傳兵衛様御店衆中様	6月	横切継紙・1通	え4635-4-2
当時相場(別大稀甘草40匁より46匁など相場書付)		横切紙・1通	え4635-4-3
(書状、①甘草は余国にないものなので随分値段引附け売り方可能のため当秋には2000両をその方御堀止衆に貸し下げてはどうか提案、②谷町御代官様にも御国御恩沢を懇話、③御国許御質入の諸品を直様江戸・大坂へ出荷の提案、に付) * (包紙上書)「於松代菊屋伝兵衛様 炭屋孫七同松兵衛」/(端裏書)「戊五月二日栄八持参」 炭屋松兵衛・同孫七→菊伝兵衛様	4月17日	横切継紙/(え4635-1~9は括り紐一括)・1通	え4635-5
(書状、甘草などのこと上野屋などより薬種屋方へ御国産取締方など未決により大いに当惑の由申し来たるに付) * (包紙上書)「信州松代菊屋傳兵衛様同栄八様添状 炭屋孫七」/(包紙裏書)「正月廿五日 自大坂」 炭屋孫七→菊傳兵衛様・栄八様	正月26日	横切継紙・1通	え4635-6
(書状、①御国産御届振ならびに出金のため御重役様御登坂願、②堂島御蔵屋敷取立に付) * 後半虫損甚大 炭屋孫七→菊傳兵衛様	2月16日	横切継紙・1通	え4635-7
(書状、貴方様より御送代銀にて栄八様より御取計らい下されるべきところ不法不捌などにて大いに困りいるに付) 孫七→菊屋様	2月18日	横切継紙・1通	え4635-8
(書状、①御国産物御国元の御取締御取極め出来れば諸事大坂でも取極るため掛役人御出坂依頼、②産物届けのため大坂御用場等の工夫依頼ほか4点提案に付) * (包紙上書)「菊屋傳兵衛様藤屋戸佐久様 炭屋孫七」/(端裏書)「九月六日七ツ時来」 炭屋孫七克(花押)→菊傳兵衛様・栄八様・藤戸佐久様	8月7日	横切継紙・1通	え4635-9

6.10.江戸での取引

6.10.1 諸品

(書状、①着府、②蠟払詮議78匁、いずれ一枚以上になるべきに付) * (端裏書)「嘉助様」 (金児) 丈助→嘉助様	4月5日	横切継紙/(え4603-1~24は紙縋一括)・1通	え4603-22
---	------	---------------------------	----------

6.10.2売捌代金滞り

(書状、増田一件何分延々に付会所において片付け方願書申し合わせる旨) * (端裏書)「嘉右衛門様 儀左衛門」(春日)儀左衛門→嘉右衛門様	14日	横切継紙/(え4609-1~20は紙縫一括)/(え4609-20-1~13は紙縫一括)・1通	え4609-20-2
--	-----	--	------------

6.11.麻売買

(書状、佐竹周蔵・松本嘉十郎より申し立て仕り為登糸・麻類等引き合い評議、為登糸は大丸店を通じて、麻は山中筋麻商人や内田屋を通じて売買に付)		横切継紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-55
---	--	---------------------------	----------

6.12.明礬江戸送り

(清三郎分明礬3110貫目神田かし丁(鍛冶町)か藤木屋要右衛門方へ差送りほか9人分の書付) * 後欠		横切継紙/(え4630-1~13は括り紐一括)・1通	え4630-1
--	--	----------------------------	---------

6.13.会所運営

6.13.1.賄い領収書

覚(こんぶ・塩から等メ金12両余、御取替払いに付) 中 津や与七→徳田様	申7月16日	横切継紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-18
---	--------	---------------------------	----------

6.14.川船会所

(書状、この度彼の地へ御出張下される由御苦勞千万に付) * (包紙上書)「松代笠井和七様貴下飯山御出懸先江 西大瀧村斎藤太左衛門」大瀧村太左衛門・山王島村徳次郎 →笠井和七様貴下	2月18日	横切継紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-9
(書状、兼て内密の塩一条の件について尊宅へ関川より 大石清右衛門殿罷り出る様演説すべきか伺いたきに 付) * (包紙上書)「書鳩様御直披可被下候 学海」学海 →書鳩様御案下	4月3日	折紙/(え4619-1~33は括り紐一括)・1点	え4619-6

6.15.用状

(書状、門番人仰せ渡され飯島与作迄持参仕る哉御取計 らい願ひ上げ奉る旨) * (端裏書)「八田慎蔵様 野中直之 助様 坂本喜助」坂本喜助→八田慎蔵様・野中直之助様	9月19日	横切継紙/(え4605-1~64は紙縫一括)・1通	え4605-51
(書状、表柴町会議日限繰合せ取り決め申すに付)	11日	横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)/(え4610-5~6は巻込一括)・1通	え4610-5
(書状、表柴町一条につき御取寄の日限申上げる様仰せ を蒙るも何分埒明兼ねるに付) 承之助→慎蔵様	8月9日	横切紙・1通	え4610-6

口上(今日鈴木公へ8斗4升師岡公へ8斗4升差出す所、鈴木公へ御同所へ御出願い奉るに付) 表柴町→い勢町様	3月12日	横切紙/(え 4639-1~39は括 り紐一括)・1通	え4639-34
(書状、笥一件につき会所懸り評議の仰せ渡しにつき御賢慮願いこの件何とも見込みも付きかね、仕法は御上尾張介の思召しに叶わざるに付) *(端裏朱書)「御内々御賢察之上何卒御出勤御評義候」 嘉十郎→辰三郎様・嘉助様	3月1日	横切継紙/(え 4642-1~9は括り 紐一括)・1通	え4642-9
(書状、紺屋町善兵衛申し立てのこと可否書き取り致し今日中に差出す様仰せ渡されるに付) *(端裏書)「水井忠蔵様春日儀左衛門様 八田喜兵衛」 八田喜兵衛→水井忠蔵様・春日儀左衛門様	閏5月5日	横切紙/(え 4643-1~25は括 り紐一括)・1通	え4643-21

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

7.松木家

7.1.松代藩士

(包紙)* (包紙上書)「御書付二通 天保十亥年正月廿一日孝経拝領 天保十二丑年正月十七日近思録拝領」		包紙/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-30-1~3は包紙一括)・1点	え4645-30-1
(松木源太郎へ読書出精により近思録一部下し置かれる旨通知書) →松木源太郎	(天保2年)正月17日	横切継紙・1通	え4645-30-2
(松木源太郎へ読書出精により孝経一部下し置かれる旨通知書) →松木源太郎	(天保10年)正月21日	横切継紙・1通	え4645-30-3

7.2.藩勤役

7.2.1.御警衛方御番士

(書状、この方にては御地の御様子は一向に分り兼ねるも御前様にはこの程大坂かたへ御出向きに付) ちやうより→旦那様御もとへ	(元治元年)9月7日	横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)・1通	え4610-7
(書状、長州追討のことは御免相成り矢張当地御警衛相心得る様仰せつけられるに付) *(端裏書)「子九月十四日到来之別状」/(端裏朱書)「礼五十四 七十五」	(元治元年)子9月14日	横切紙/(え4643-1~25は括り紐一括)・1通	え4643-14
(書状、①金子紛失一条の事について只今まで暮よりの金子有高遣道など内密探索仕る、②長州とかく治まらず浪士ども二千程長府城へ乗込みに付) 源八→御父上様申上	(慶応元年)2月10日	横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)・1通	え4610-15
(書状、①防長は鎮静に及び尾州侯旧臘御凱陣、②大阪表にて文学の入門ゆえ高名の儒者より書を一枚願う、③御上も御帰城あらせられる所、尊君様方の御交替は如何申す哉に付) 慎蔵→源八様	(慶応元年)2月25日	横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)/(え4610-12~13は巻込一括)・1通	え4610-12
(書状、私義御当地御警衛のため3ヶ月御上京罷り在る所、御警衛御免により帰国仰せつけられるに付) *(端裏書)「御歎願書写一印二印」/(端裏貼紙)「子七月晦日」/(端裏貼紙朱書)「礼四十一 六十一」	(慶応元年)7月晦日	横切継紙/(え4643-1~25は括り紐一括)・1通	え4643-13
(書状、今般外国人長州と戦争に及び一先ず和睦に及ぶ旨長崎奉行より申し越すに付) *(端裏書)「丑八月廿七日上置」/(端裏朱書)「礼五十一 七十二」	(慶応元年)丑8月27日	横切紙・1通	え4643-10

7.2.2.御吟味役

(役替吟味役任命状) →松木源八	(慶応2年11月10日)	横切紙/(え4632-1~13は紙縫一括)・1通	え4632-2
------------------	--------------	--------------------------	---------

(非常の節臨時出張御物頭助仰せ付ける旨書付) →松木源八	(慶応4年)正月24日	横切紙/(え4632-1~13は紙縫一括)/(え4632-11-1~5は紙縫一括)・1通	え4632-11-4
(包紙) *(包紙上書)「御書付」	(慶応4年)	包紙・1点	え4632-11-1
(役替物頭足軽奉行兼帯につき申付書) →松木源八	(慶応4年)2月朔日	横切紙・1通	え4632-11-3
(御役附足軽10人成し下され御預りにつき書付) →松木源八	(慶応4年)2月7日	横切紙・1通	え4632-11-2
(非常の節臨時出張仰せ付けられる旨書付) →松木源八	(慶応4年)2月7日	横切紙・1通	え4632-11-5
(書状、この度の名古屋行き御役方御目付など余程の人数のため尊君召連れは申し上げ兼ねる仕合、御師家の名面かつ近年いつ頃まで文通か御教示願に付) *(表書)「拝復 治右衛門」 治右衛門→	(慶応4年)2月15日	横切継紙/(え4617-1~17は括り紐一括)・1通	え4617-9
(書状、長州3小隊御家1小隊朝6つ時より戦始まり7つ半過までに田ノ口村と申す所まで3里の間追討に付)		横切継紙/(え4643-1~25は括り紐一括)・1通	え4643-7
(書状、越後草莽隊も過日通行8日下戸倉泊とのこと、御表諸色高騰御迷惑あらせられる由当方にてても御尊に付ほか) 慎蔵→源八様	(慶応4年)2月22日	横切継紙/(え4616-1~33は括り紐一括)・1通	え4616-1
(午2月22日木綿松代相場書付)		横切紙/(え4616-1~33は括り紐一括)/(え4616-1に巻込)・1通	え4616-2
(書状、北越賊勢は熾烈にていつ平定に相成るか心痛の至り、官兵も追々相増すに付) 慎蔵→源八様	(明治元年)8月5日	横切継紙/(え4617-1~17は括り紐一括)・1通	え4617-16
(書状、奥羽諸賊も追々降伏鎮定罷りなり諸藩も帰国休兵仰せ渡されるに付) 慎蔵→源八様侍史	(明治元年)10月24日	横切継紙・1通	え4617-10

7.2.3.銃兵小隊長

(御用の儀至急公廨へ御出頭に付差紙) *(端裏書)「松木源八殿 理事」	(明治2年)12月17日	横切継紙/(え4632-1~13は紙縫一括)・1通	え4632-12
(水原県へ戌守として出張申付書) →松木源八	(明治2年)12月17日	横切継紙/(え4632-1~13は紙縫一括)・1通	え4632-9
(銃兵小隊長任命状) →松木源八	(明治2年)12月25日	横切紙・1通	え4632-10
(包紙) *(包紙上書)「御書付」	(明治2年)	包紙・1点	え4632-13
(書状、①今般蚊帳御遣わし並びに金子5円慥かに落手いたし金子不融通の内案じ入り何とか相凌ぎ申す旨、②元込筒1挺手に入れ、③万事兵隊は勿論産物方も都合宜しく、④いわし網見物に三条知事も馬上見物、⑤当所の便なるは金札は太政官民部省ばかり銭は残らず正銭土地の切手は一枚もこれなき旨ほか) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿平安 従新潟松木源八」 源八→栄太郎殿	(明治3年)4月24日	横切継紙/(え4606-1~30は紙縫一括)・1通	え4606-2

(兵政局主事など各職各職務書付)		横切継紙/(え4645-1～33は括り紐一括)/(え4645-1-1～11は包紙一括)・1通	え4645-1-5
(書状、戊辰以来東西へ奔走御苦慮遠察奉る所、小生も軍役打ち続くに付) *下書		折紙/(え4645-1～33は括り紐一括)・1通	え4645-4

7.2.4.役職不明

(書状、①尊藩御産物一条について御領諾くだされる所、御沙汰もなく御配意ゆえと安心仕る、②仏式兵書開板許可を当藩山本多源太周旋、③当藩立田君へ医学質問願いに付) 穀拝→松木様	正月21日	横切継紙/(え4610-1～21は括り紐一括)・1通	え4610-21
(書状、29日付の手紙相届き其御地の御様子も詳しく遣わされるに付) *冒頭2行のみ		便箋の断簡/(え4628-1～64は袋一括)/(え4628-17～32は巻込一括)・1通	え4628-32
(書状、近頃帆形遠く見えれば夷船にても日本船にても夷船製であれば早鐘を鳴らし日の丸御印あること度々に付)		折紙/(え4643-1～25は括り紐一括)・1通	え4643-9

7.3.護国隊

(書状、近日判事土肥謙蔵着任のため甚だ取込み、兵隊調練日々両度ずつ世話致すため御暇難しきに付) 源八→栄太郎殿	(慶応4年)2月11日	横切継紙/(え4606-1～30は紙縷一括)・1通	え4606-22
(書状、秋月藩へ兵食一切下されず自分事も大病に付御暇願うも今もって沙汰なき旨) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿平安 従甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	(慶応4年)3月8日	横切継紙・1通	え4606-1
(書状、明朝御荷物書に付申し入れ湯治御暇の義段々御催促に及び候処一兩日の内には相分かり申すべき旨) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿平安 従甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	(慶応4年)3月10日	横切継紙・1通	え4606-24
(書状、御城沼津侯へ御引渡相済み近日の内近辺在寺へ引き取る手筈、田安公佐竹駿河の屋敷も御用に相成る内実は和宮様天璋院当地へ御出で等の風評もあり、如何の事や一同相分からざる旨ほか) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿 従甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	(慶応4年)3月18日	横切継紙・1通	え4606-8
(書状、一昨23日柳原侍従当所へ入らせられ隊長並びに番頭一騎ほか御警衛に付) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿 従甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	(慶応4年)3月25日	横切継紙・1通	え4606-20
口上(甲府表へ夏服御送り成し下されるため徒士以上2貫目など差出しに付) 久米→栄太郎様	(慶応4年)4月5日	横切紙/(え4639-1～39は括り紐一括)・1通	え4639-29
(今朝十日町へ小銃1組・戦士1組飯山・高田薩長御人数進軍致すに付ほか戊辰戦争情報通知書) *(端裏貼紙朱書)「三十六」 東山道総督巡察使→	(慶応4年)戊辰閏4月	横切継紙/(え4643-1～25は括り紐一括)・1通	え4643-3

(書状、毎日の応接随分疲れ申す旨及び都合360人屯集致す処伊勢町鉄次郎様当所御見分御通し下さるべき旨) * (包紙上書)「松代松木栄太郎殿平安 従甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	(慶応4年)5月2日	横切継紙/(え4606-1~30は紙縫一括)・1通	え4606-5
(縦隊行進中小隊・縦隊と半隊に分けることなど御様子伺いたき旨など御内教に願いたき事書付) * (端裏書)「御内教筋歎願極密御内覧 源八」/勘返状 源八→(寺内)多宮様	(慶応4年)5月15日	横切継紙/(え4617-1~17は括り紐一括)・1通	え4617-14
(書状、柳条殿へ献上の佐久間先生書物着使のものの大雨にて大遅れに付及び護国隊分回中帰村昨日より着き今朝より稽古初め申す旨ほか) 源八→栄太郎殿	(慶応4年)7月22日	横切継紙/(え4606-1~30は紙縫一括)/(え4606-11-1~7は紙縫一括)・1通	え4606-11-6
(包紙) * (包紙上書)「松代松木栄太郎殿平安 従甲府松木源八」		包紙・1点	え4606-11-1
口上(来月初めに甲府へ御便りこれあり冬服御送り下されたき旨) * (端裏書)「口上」		横切紙・1通	え4606-11-5
(包紙) * (包紙上書)「松代松木栄太郎殿 従甲府松木源八」		包紙/(え4606-1~30は紙縫一括)/(え4606-21-1~3は包紙一括)・1点	え4606-21-1
(書状、近日に引き揚げ相成り申すべく私事は別紙の次第に付) 源八→栄太郎殿	(明治元年)10月8日	横切継紙・1通	え4606-21-2
(書状、万沢御警衛も11日に引取りに相成り申すに付、及び伊勢町よりの咄は掛りものの事にて代金は何ほど位に相成り候や御相談下さるべき旨ほか) * (包紙上書)「松代松木栄太郎殿平安 従甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	(明治元年)10月17日	横切継紙/(え4606-1~30は紙縫一括)・1通	え4606-12
(包紙) * (包紙上書)「松代松木栄太郎殿平安 従甲府松木源八」	(明治元年)	包紙/(え4606-1~30は紙縫一括)/(え4606-9-1~4は包紙一括)・1点	え4606-9-1
(書状、御用滞りなく相勤め帰陣致し、都合宜しき屏風1双に唐紙7、8枚所々頼まれ認め候、両3日の間は礼として持参の酒肴にて小頭世話役・同宿の者へも振舞に付、浜松兵隊は追々引揚げ上総へ御国替え引越し申すべきに付、ほか) 源八→栄太郎殿	(明治元年)10月23日認	横切継紙・1通	え4606-9-2
(書状、菓子1つ遣わし此れは山寺伯母様へ御見舞の品にて宜敷御願ひ申す旨) * (前欠) 源八→栄太郎殿	(明治元年)10月26日	横切継紙・1通	え4606-9-3
(書状末尾「此頃ハ護国児共兩人入塾致し居随分賑敷事」)		断簡・1通	え4606-9-4
(包紙) * (包紙上書)「松代松木栄太郎殿 従甲府松木源八」	(明治元年)	包紙/(え4606-1~30は紙縫一括)/(え4606-13-1~3は包紙一括)・1点	え4606-13-1
(書状、柳条殿思召しとして当所詰合第一番・北国筋へも多分の出兵引き揚げて兵隊第一番と申す御様子の由江戸表御評決如何相成るに付ほか) 源八→栄太郎殿	(明治元年)10月晦日	横切継紙・1通	え4606-13-2

7.松木家/3.護国隊

(書状、参謀中より申し来たる其藩兵隊20ばかり召し連れ れ葦崎宿より教来石辺り取締り致すべく鎮撫府へ命 じられる旨) 源八→栄太郎殿	(明治元年)10月晦日	横切継紙・1通	え4606-13-3
(書状、岩村田騒動に付兵隊引き連れ信州路へ出張する 様御達しにていよいよ出兵と申したところ出兵見合 わせ相成り組の者残念に付) 源八→栄太郎殿	(明治元年)11月6日	横切継紙/(え 4606-1~30は紙 縫一括)・1通	え4606-29
(書状、当府御雇護国隊長命じられ容易の引き揚げには 相成らざる旨) 源八→栄太郎殿	(明治元年)11月7日	横切継紙/(え 4606-1~30は 紙縫一括)/(え 4606-21-1~2は 包紙一括)・1通	え4606-21-2
(書状、14日付の書状一昨18日夜相達し披見致し御達し の由私も何の障り無く御按事下されまじき旨ほか) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿平安 従甲府松木源八」/ (端裏書)「栄太郎殿 源八」 源八→栄太郎殿	(明治元年)11月20日	横切継紙/(え 4606-1~30は紙 縫一括)・1通	え4606-6
(書状、無尽一条玉井より申し来たるに付直ぐ返事認め 遣わし宜しく御頼みに付、滋野井侍従殿中郡筋水損場 御見置につき御家兵隊御供ほか) *(包紙上書)「松代松 木栄太郎殿包物添 従甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	(明治元年)12月5日	横切継紙・1通	え4606-25
(書状、6月初旬無理にとて護国隊教授致すべき、八月中 賊徒追捕として雨天一日に五六度の川越えのため耳 鳴りひどく往来息切れ、昨日は中郡筋より西郡筋御見 分につき護国隊荊沢村に立ち寄り、箱館へ脱走人四十 人ほど蒸気船ほかに乗込み戦争の旨ほか) *(包紙上 書)「松代松木栄太郎殿平安 従甲府松木源八」 源八→栄 太郎殿	(明治元年)12月13日認	横切継紙・1通	え4606-7
(書状、当国四方の御警衛場も残らず御免に付4か所関守 のみに相成る旨、及び立ち帰りの事いづれにも致した き積りに付ほか) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿 従 甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	(明治2年)2月17日	横切継紙・1通	え4606-16
(書状、滋野井様御供仰せつけられ御住居御鎮守並びに 御城内へ入らせられ西京の方へ御拝み遊ばされる旨 ほか) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿包物添 従甲府松 木源八」 源八→栄太郎殿	(明治2年)正月2日	横切継紙・1通	え4606-17
(書状、明12日鹿野外守様出立に付一筆申し入れ、今日 は伏谷又左衛門権判事御殿引より参り話し居る旨ほ か) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿包物添 従甲府松木 源八」 源八→栄太郎殿	(明治2)正月11日認	横切継紙・1通	え4606-19
(書状、存意の條々参謀林政十郎殿迄差し上げた処御覧 に入れ佐藤正左衛門御呼出し居間に於いて上意蒙る 旨) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿 従甲府松木源八」/ 後欠		横切紙/(え 4606-1~30は紙 縫一括)・1通	え4606-10
(書状、明8日片岡十郎兵衛殿御用済出立に付申し入れ 今日は侍従様当国一宮へ御参詣御供之面々は護衛隊 一小隊、次に御家銃隊などに付ほか) *(包紙上書)「松 代松木栄太郎殿包物弐ツ添 従甲府松木源八」 源八→栄 太郎殿		横切継紙・1通	え4606-15
(書状、この程中も御話いたした甲府の方へのおくり物 について松山町へ御頼み申す置くに付) *前欠		横切継紙/(え 4639-1~39は括 り紐一括)・1通	え4639-9

(書状、甲府への御荷物近日の由、御上にて御送り下されるにより御用意置き下されるべきに付) * (端裏書)「松木様 岡野」 岡野→松木様	2日	便箋・1通	え4639-28
(「ヨリト慶應四辰年」書付)		切紙/(え4643-1~25は括り紐一括)・1通	え4643-16

7.4.御賞典

(書状、①御懸念の賞典一件は未だ大参事・議定の両所御沙汰なきも鎌原権兵衛は軍政主事など、②信州各藩当所へ会し大英寺集会所になり下談示所は産物会所に付) 哲治郎→源八様	2月6日	横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)・1通	え4610-18
(書状、親族宮本壬子郎去る辰年越奥戦功御賞のこと過日慎助より極密に歎願奉り置くに付) * (端裏書)「極密歎願 宮本慎助親類」 宮本慎助・親類→	11月	横切継紙・1通	え4610-20
(戊辰春以来甲州へ出張数月滞陣尽力に付永世高10石遣わずに付) * (包紙上紙)「御書付 松木源八」→松木源八	(明治2年)12月晦日	横切紙/(え4632-1~13は紙縫一括)・1通	え4632-5
(去戊辰戦争前後内外深く苦慮配心致し御賞典の内永世高13石遣わずに付) 松代縣廳[印]→松木源八	(明治4年)辛未9月15日	横切紙・1通	え4632-8

7.5.教育職

7.5.1.教授

(御用の儀明24日己の刻廳へ御出頭これあるべきに付) * (端裏書)「松木源八殿 理事」 理事→松木源八殿	(明治3年)6月23日	横切継紙・1通	え4632-6
(文学2等教授任命状) →松木源八	(明治3年)6月24日	横切紙・1通	え4632-1
(文学教授任命状) 松代縣廳→松木源八	(明治4年)辛未8月23日	横切紙/(え4632-1~13は紙縫一括)・1通	え4632-3

7.5.2.訓導

(書状、この程問合せ申し上げた篠田のこと内試験なしにて願書差したので、年内に試験あるか極密に問い合わせに付) * (封筒表書)「長野権堂町酒江屋ニ而松木董正様学校急用 まつ城より橋本丹下」/(封筒貼紙)「此信書附紙之通ニ付返却方御取計有之度候也 信濃国長野郵便 松代郵便局中」/(封筒下張紙)「已ニ御帰宅相成候ニ付後送を乞フ 表権藤柴屋ユキ 十二月廿一日」/(封紙裏書)「十二月十九日發ス」 橋本丹下→松木董正様	19日	横切継紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-18
(葉書、彼は唱惡説御風聞も承る旨) 西船山村堀内鍋作→松代町竹山丁松木董正様大至急学校用	10月5日	葉書/(え4607-1~35は紙縫一括)・1通	え4607-34
(①藩中旧禄の多少による雑用の多寡、②学校規則など下書)		横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)・1通	え4610-2

(封筒) * (封筒表書)「松代竹山町松木董正様至急要用 長 埜表権堂中埜保」/(封筒裏書)「明治十三年一月三日投函」/2 銭切手貼付	明治13年	封筒/(え4615-1 ~80は括り紐 一括)/(え4615- 10-1~3は封筒一 括)・1点	え4615-10-1
(書状、旧年中御約束申上げた化学実地試験の数日延 期、および実験準備に付) 中埜保→松木董正様	明治13年1月3日	青色罫紙(8行)・ 1通	え4615-10-2
(書状、水井周芳先生御帰省ならば今度の試験場に御臨 席相願いたき、及び試験準備物品に付)	明治13年	青色罫紙(8行)・ 1通	え4615-10-3
(書状、器機持ち運び人足については道路降雪などによ り悪しきなどにより2人下されたきに付)	明治13年1月5日認	青色罫紙(8行)/ (え4615-1~80は 括り紐一括)・1通	え4615-12
(書状、試験出発の期日も決定となり、各郡担当者は決ま るも海津学校は秋野君にてあるべきに付) 董隆拝→ 御父上様膝下	11月24日	赤色罫紙(13 行)・1通	え4615-36
(書状、漢学私塾の規則問い合わせ申すべき所、夏季休 業以来僅かに一部聞くにより送る次第に付) ほか 董宣拝→御父上様	1月1日	横切紙・1通	え4615-38
(書状、今般授業生2名を雇い入れしたきにより貴君より 2名計り御繰合せ相成る哉に付) * (封筒表書)「海津学 校御在勤松木董正様 磯部村」/(封筒裏書)「第四月廿二日 清水寛三」 寛三→董正様玉床下	4月22日	横切紙・1通	え4615-41
(書状、本校会議も来月8日より開会と申すにより教員方 も非常の繁忙、公立学校教則改正会議に付) * (封筒 表書)「本懸下埜科郡松代竹山町松木董正様平信要用 長埜 ヨリ」/(封筒裏書)「長野縣師範学校内第八號舎生松木董隆 十一月廿八日投函」 董隆拝→御父上様膝下	11月28日	横切紙・1通	え4615-42
(書状、各校大試験本月17・18日頃より各郡へ派出致す べきに付) * (封筒表書)「海津学校松木董正殿」/(封筒裏 書)「十二年七月八日北村門之丞」 北村門之丞→松木董正様	(明治)12年7月8日	赤色罫紙(12 行)・1通	え4615-47
(書状、①コレラ流行穂高村で13人死亡、②本年6月中 頃一書を添え瑣細の反物など御落手下される哉、 ③先会の教則郡役所より配達、良き改正と存するに 付) * (封筒表書)「松代海津学校訓導松木董正殿緊要」/(封 筒裏書)「安曇郡穂高黨大田幹 大田幹 相行→松木先生 待使	8月26日	便箋・1通	え4615-50
(書状、小生も冬中に講習所に入学いたす所、相変わら ず御教諭の程願うに付) * (封筒表書)「長野縣信州埜科 郡松代町内□竹山町西場二而松木董正様賀新年」/(封筒裏 書)「東京々橋区木挽町拾丁目拾三番地東京商法講習所生徒 寄宿舎羽田桂之進 明治十三年第一月十日午後」 桂之 進→松木先生函案下	明治13年1月朔日	横切紙・1通	え4615-51
(公立小学模範教則により施行の事ほか3条教則書付)		横切紙/(え 4615-1~80は括 り紐一括)/(え 4615-56~57は一 括)・1通	え4615-56
(前々よりの教則にて下等全科卒業の者は改正模範第一 教則適宜の級も編入して宜しき哉伺書)		横切紙・1通	え4615-57

(封筒) * (封筒表書)「長野縣下信濃国埴科郡松代町松木董正様」/(封筒裏書)「東京神田區北甲賀町五番地山寺信炳 十三年四月六日午後投函」	(明治13年)	封筒/(え4615-1~80は括り紐一括)/(え4615-60-1~3は封筒一括)・1点	え4615-60-1
(書状、帰国後も御教授の御様子御煩勞ながら国々奉社のためによりその内御東遊も有るべきに付) 信炳→松木先生待使	(明治13年)4月6日	便箋・1通	え4615-60-2
(「奉拳 簗山松木詞兄芳韻以報弟炳今日情興…」) 炳未定稿→繁正	(明治13年)	堅紙・1通	え4615-60-3
(廻状、御相談の中塾保先生実地化学について来る7日より始めたき旨通知あるにより御出張のこと順達願うに付) 松木董正→斎藤利貞様・関山光亨様・中村藤之進様・細田重明様・中村仁太郎様・春原光雄様	1月4日	横切継紙・1通	え4615-64
(封筒) * (封筒表書)「回章」/(封筒裏書)「サイトウ始メ」		封筒・1点	え4615-65
(封筒) * (封筒表書)「長野縣下松代国松代町千二百六拾番地松木董正様平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京表新保町二番地東京府第一中学校松木董宣」		封筒/(え4618-1~41は紙綴一括)・1点	え4618-18
(書簡、当中学校も規則改正に付、先達中差し上げた規則と此度改正規則共御厄介篠田順太郎子にて写方御命じ下され、一部水井先生へ御分配成し下されたき旨) 董宣拜→御父上様膝下	3月28日認む	横切継紙・1通	え4618-19
(宮坂敬藏ほか3名学校生徒名前書付)		切紙/(え4628-1~64は袋一括)・1通	え4628-48
(一等訓導仮免状付与状) 長野縣講習所→松木董正	明治6年10月	横切紙/(え4632-1~13は紙綴一括)・1通	え4632-7
(書状、規則改正について最早御打切りに成されたのかまたはこの後打ちりの思召しか伺いたきに付) * (封筒表書)「信州松代竹山町松木董正様至急 富士見町通裁判所池田重鎮」/(封筒裏書)「若し当時御不在ニ候ハ、速ニ御出先キへ御送達可被下候」 重鎮→松木先生几下	4月20日	横切継紙/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-1-1~11は包紙一括)・1通	え4645-1-6
(書状、公立小学校規則改正御来示逐一承仕る所、御身上の事も彼これと仕るに兼ねるに付) * (封筒表書)「信州埴科郡松代竹山町松木董正様」/(封筒裏書)「五月一日発東京芝區西窪葺手町十七番地立田革」 立田革→松木先生玉机下	4月30日認置	横切紙/(え4645-1~33は括り紐一括)・1通	え4645-8
(松木董正学校在勤申付書関係書類一括)		封筒一括/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-33-1~2は封筒一括)・1点	え4645-33-0
(封筒) * (封筒表書)「准四等訓導松木董正殿 長野県第五課」		封筒・1点	え4645-33-1

(松木董正学校在勤申付書関係書類一括)		包紙一括/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-33-1~2は封筒一括)/(え4645-33-2-1~6は包紙一括)・1点	え4645-33-2-0
(包紙) * (包紙上書)「證書」		包紙・1点	え4645-33-2-1
證書(上等小学師範学科講習修了書) 長野県師範学校 →	明治9年5月	横切紙・1通	え4645-33-2-2
(准四等訓導松木董正勸義学校在勤申付書) 長野縣→ 准四等訓導松木董正	明治7年12月	縦紙・1通	え4645-33-2-3
(松木董正准四等訓導申付書) 長野縣→松木董正	明治7年12月	縦紙・1通	え4645-33-2-4
(松木董正二等準訓導海津学校在勤申付書) 長野縣 [印]→松木董正	明治11年6月	縦紙・1通	え4645-33-2-5
(准四等訓導松木董正教寛学校在勤申付書) 長野縣→ 準四等訓導松木董正	明治9年2月	縦紙・1通	え4645-33-2-6
(封筒) * (封筒表書)「まつ木先生 中塾」		封筒/(え4615-1~80は括り紐一括)・1点	え4615-13
(封筒) * (封筒表書)「松木先生 雄」		封筒・1点	え4615-70

7.6.求職/上京

(書状、昨日上田より郵便到来の所出京も来月にも及ぶ趣、ついては例の納め物も延引に付) * (表書)「奉復 澹庵」 澹庵→		横切継紙・1通	え4615-17
(書状、①重道不束のため当人この上如何致せば宜いか当人様子振御実見の上御示教蒙りたく、②例の稲荷山の養子はずれ寺町へ参り居る人物なども少々仲間にもあるべきやに付他) * (封筒表書)「東京々橋區北楨町十八番地松山慶治郎方止宿松木董正様 從信州」/(封筒裏書)「第七月十六日発ス松代岡野元賢」 元賢→董正様	(明治15年カ)7月16日 午前7時	青色罫紙(10行)・1通<2枚>	え4615-44
(書状、御父上様御志願のこと一日もはやく御出仕成させられ其御地へ参り下さるべきに付) * 下書		横切継紙/(え4628-1~64は袋一括)(え4628-17~23は巻込一括)・1通	え4628-24
(書状、御志願のこと詳しく仰せ下される所、兎角差し支えにて捗り申さざるに付) * 下書		横切継紙・1通	え4628-25
(書状、御志願のこと詳しく仰せ下される所、兎角差し支えにて捗り申さざるに付) * 下書		横切継紙・1通	え4628-26
(書状、御志願のことも兎角手間取る所、致し方もなきに付) * 下書		横切継紙・1通	え4628-27
(書状、御志願のことも兎角手間取り困りいるに付) * 下書		切紙・1通	え4628-28

(書状、御志願のこと色々差し支えにて兎角捗り申さざるに付) *下書		横切継紙・1通	え4628-30
(書状、この程中度々仰せ下された御志願のことも兎角手間取り長々になるに付) *下書		横切継紙・1通	え4628-31
(書状、御志願の義も兎角捗り申さざる御様子にて大概御様子も分かり申すに付) *下書		横切継紙・(え4628-45～47は巻込一括)1通	え4628-46
(書状、御父上様御志願の義も兎角手間取る所、誠に困っているに付) *下書		横切継紙・1通	え4628-47
(書状、御内話の一件について何分政府手を縮め節儉の折柄により外務省も節減に付) * (封筒表書)「長野縣信濃国埴科郡松代竹山町 松木董正様」/(封筒裏書)「六月九日発東京芝區西窪葺手町十七番地立田革」 革拜白→松木先生待史	6月9日	横切継紙/(え4645-1～33は括り紐一括)/(え4645-1-1～11は包紙一括)・1通	え4645-1-8
(安川氏・北澤氏関係書状一括)		封筒一括/(え4645-1～33は括り紐一括)/(え4645-2-1～3は封筒一括)・1点	え4645-2-0
(封筒) * (封筒表書)「京橋北横町十八番地松山慶次郎方松木董正様」/(封筒裏書)「七月廿五日午前發北澤正誠」		封筒・1点	え4645-2-1
(書状、安川氏に過日依頼仕り置く所、過日木田氏も骨折りの様子にて別紙の通り申し来たるに付) 正誠拜→松木先生坐下	7月25日	横切継紙・1通	え4645-2-2
(書状、御同県人松木君について仰せ越される所、過般立田君より御依頼かつ本人も来訪致すに付) * (封筒表書)「中六番町九号北澤正誠殿拝復」/(封筒裏書)「封筒裏印書」東京飯倉二丁目八番地安川繁成 繁成→北澤君		横切紙・1通<2枚>	え4645-2-3

7.7.家経営

7.7.1.借金

(紙繕) * (紙繕上書)「松木董正繼」		紙繕/(え4607-1～35は紙繕一括)/(え4607-23-1～8は紙繕一括)・1点	え4607-23-1
借入金証書(金50円、無抵当にて借用に付) *印抹消 埴科郡松代町借主松木董正(印)・引受証人岡野元賢(印)・八田彦次郎(印)→第六十三国立銀行頭取支配人御中	明治12年1月18日	第六十三銀行の借入金証書用紙・1通	え4607-23-2
(書状、貯積株券1枚差上げるに付宜しく申し上げ奉る旨) * (端裏書)「竹山丁様 松山丁」 松山丁→竹山丁様	12月17日	横切紙・1通	え4607-23-3
(書状、当月御借用期日に付差引き残金別紙差引書の通り古証文返上の旨) 知道→董正様	20日	横切紙・1通	え4607-23-4
(書状、拝借の御印形相済むに付返上すべく御落手申上げべき旨) * (端裏書)「松木様 知道」 知道→松木様	23日	横切継紙・1通	え4607-23-5
(松木董正殿、メ金21円75銭の内5月19日元金50円1割利足差引き18円25銭勘定書付)		横切紙・1通	え4607-23-6
(金21円75銭の内残金19円66銭余受領書)	11月20日	横切継紙・1通	え4607-23-7

(松木董正、旧7株金21円の旨金銭書付)		切紙・1通	え4607-23-8
(封筒) * (封筒表書)「東京々橋區南新堀壺町目五番地第六十三国立銀行支店ニテ松木董正様 従信州松代」/(封筒裏書)「第七月十五日發岡野元賢」	7月15日	封筒/(え4615-1~80は括り紐一括)・1点	え4615-23
証(金2円至急入用の所、御聞き届け有難きにつき借用証文下書) 松木董隆→南澤幾久人様	明治13年4月28日	縦紙・1通	え4615-33
(書状、重道一条について先般董正出京の際に願った借用金150円為換をもって返取したきにより別紙切符送上に付) * (封筒表書)「竹山町様 松山丁」/(端裏書)「中沢への手紙寫」 岡野元賢・松木董正→中沢彦吉様	8月2日	横切継紙・1通	え4615-61
(書簡、長谷川氏の一条相窺い驚き入り御地は去冬銀行設立以来例年に比すれば金融宜しきよし当地は金融甚だ悪しく難渋致す由街市のうわさに付ほか) * (封筒表書)「長野縣下松代町松木董隆様新誌添 東京より」/(封筒裏書)「東京駿河臺北甲賀町十一番地東洋学舎内松木董宣」 董宣拝→董隆様	1月9日認む	横切継紙/(え4618-1~41は紙縫一括)・1通	え4618-31
(書状、金子返すには如何致すものや心配致し居る所、先月10日頃より木四郎様佐藤にて御評議に付) * 下書		横切継紙/(え4628-1~64は袋一括)/(え4628-17~32は巻込一括)・1通	え4628-17
(書状、もはや隣郷の方も中々容易には借りる訳にも参りかねるに付) * 下書		横切紙・1通	え4628-20
(書状、金子について仰せ下され有り難き所、仰せの通り隣郷御頼み申すに付) * 下書		横切紙/(え4628-33~34は巻込一括)・1通	え4628-34
(書状、金子について仰せ下され有り難き所、仰せの通り隣郷御頼み申すに付) * 下書		切紙/(え4628-35~36は巻込一括)・1通	え4628-35
(書状、金子について仰せ下され有り難き所、仰せの通り隣郷御頼み申すに付) * 下書		切紙・1通	え4628-37
(書状、銀行より借入金の所、8月中利子受取の節は差引に御願ひ申す訳には参り申さざる物やに付) * 下書		横切紙・1通	え4628-39
(書状、隣郷より借入金いたす由、古川より松山町おじ様の方へ申し出でるに付) * 下書		横切継紙/(え4628-52~53は巻込一括)・1通	え4628-52
(書状、隣郷より借入金いたす由、古川より申し参る所、早速御父上様の所へ申し上げるに付) * 下書		横切継紙・1通	え4628-53
(書状、この程竹内中太郎様御出成し下されたならば御取替の金子何卒御願ひ申したきに付) * 下書		横切継紙・1通	え4628-58
(書状、少々ばかりの物にて御面倒か、御伺い御頼み申し上げたきに付) * 下書		横切継紙/(え4628-59~64は巻込一括)・1通	え4628-59
(書状、何分にもなるだけ御粗末の御品々何分にも御借り申したく御頼み申すに付) * 下書		横切継紙・1通	え4628-60
(書状、あまり度々御頼み申すのは恐れ入るも小わく少々の間御借り申したきに付) * 下書		横切継紙・1通	え4628-62

(書状、先日申し越しの金子については伊勢町おじ様御頼み申す所、御くり下される由に付) *下書		横切継紙・1通	え4628-63
(包紙) *(包紙上書)「董正様 知道」		包紙/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-5-1~3は包紙一括)・1点	え4645-5-1
借入金證書(金50円利息年1割5分5厘抵当63円50銭株式券にて借用申すに付) 埴科郡松代町借主松木董正(印)・引受証人八田彦次郎(印墨消)→六工社御中	明治14年7月21日	木版刷用紙・1通	え4645-5-2
借入金證書(金35円利息1割6分抵当63円30銭株式券にて借用申すに付) 埴科郡松代町借主松木董正(印)・引受証人八田彦次郎(印墨消)→松代貯積銀行頭取支配人御中	明治14年8月18日	木版刷用紙・1通	え4645-5-3
借入金證書(金50円利息年1割5分にて借用申すに付) 埴科郡松代町借主松木董正(印)・証人豊田傳兵衛(印消)・同八田彦次郎(印消)→第六十三国立銀行頭取支配人御中	明治13年5月14日	横切紙/(え4645-1~33は括り紐一括)・1通	え4645-6
借入金證書(金10円利息年1割5分5厘にて借用申すに付) 借主松木董正(印)・証人師岡重修(印)・同八田彦次郎(印消)→第六十三国立銀行頭取支配人御中	明治13年11月22日	横切紙・1通	え4645-7
(白木屋へ金8円など借入金勘定書付)		横切継紙・1通	え4645-9
證(金30円借用仕るに付) 松木董正(印)→八田知道殿	明治14年8月12日	横切紙・1通	え4645-10
(松木董正殿第6回分7株金22円75銭書付)		切紙・1通	え4645-11
(15円の利息37円5分など合計3円47銭5分金銭勘定書付)		切継紙・1通	え4645-12
(借入金利子2円90銭余り来月25日御返済期限により元金御返済下されたきに付督促状) 松代第六十三国立銀行→松木董正様	明治14年7月	切紙・1通	え4645-15
証(金120円皆済に相成るによる追てこの切符をもって本証文と引換申すべきに付) 松代町松木董正→桜沢村小林定之助殿	明治14年巳5月21日	横切継紙・1通	え4645-26
借入金證書(年1割利付抵当松代第63国立銀行株式券状2葉にて金100円受取借用申すに付) 借主松木董正→持田栄八殿	明治14年巳5月21日	横切継紙・1通	え4645-27
証(年賦金証文1通この度御返済にて開催によりこの切符をもって本証文引替申すべきに付) 松木董正(印)→根岸壽作殿	明治14年巳5月21日	横切紙・1通	え4645-28

7.7.2.貸付金・無尽

(書状、昨暮のことは誠に困り入る弟にて無尽のことも御地よりも仰せ下されるに付) 栄太郎→御父上様申上	正月11日	横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)・1通	え4610-8
(書状、御預り申す切金について銀行へ問い合わせる所、別紙の通りにより宜しき哉に付) 彦次郎→竹山丁様	1月17日	横切継紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-15

7.松木家/7.家経営/2.貸付金・無尽

(書状、7月中無尽掛け金もいまだ遣わし申さずこの方の無尽相立ち申さぬ節は差し困るに付)	10月15日	横切継紙/(え4617-1~17は括り紐一括)・1通	え4617-15
(書状、先日中仰せ下された金子のこと早速差し上げたく存じ居るも色々不都合ありて御頼り御座なく、無尽掛け金遣わし申さざるに付)	10月6日	横切継紙・1通	え4617-17
(書状、この程久兵衛方より手紙遣わし無尽のこと掛け戻すべき金円間違い哉出来に付) *下書		横切継紙/(え4628-1~64は袋一括)・1通	え4628-14
(書状、14年2月27日金20円15年1月15日限で貸付などメ金40円36銭余前記の通り御皆済に付)		横切継紙/(え4628-33~34は巻込一括)・1通	え4628-33
(共同融通講に関する加入者講則) 埴科郡松代町会主植田富作→	明治14年11月	横切紙/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-1-1~11は包紙一括)・1通	え4645-1-3
(書状、伊勢町八田様へ例の大里氏第6回利益金の内81円25銭本年7月中御取り計らい一件に付)	28日	横切紙/(え4645-1~33は括り紐一括)・1通	え4645-21
(書状、御厚情の無尽残金書付通知) *後欠		切紙・1通	え4645-25

7.7.3.株

(松木董正殿7株第5回分金22円75銭金銭書付)		切紙・1通	え4645-16
記(第6回8株分金26円など金銭差引10円64銭余り差上げるに付)	巳7月22日	横切紙・1通	え4645-17

7.7.4.金銭授受

(書状、彦蔵金子一条の事承分2分位の処は余りなく致す儀其のまま宜しく、金子出来れば10両計り御送り下されたき旨ほか) * (包紙上書)「松代松木栄太郎殿 従甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	9月朔日	横切継紙/(え4606-1~30は紙縷一括)・1通	え4606-18
(書状、家来の内彦蔵義は金子も一切遣わさず此ものは余程用立のものに付私よりも刀拵えと申し6円余り取り替え置く旨ほか) * (包紙上書)「松代松木栄太郎殿平安 従甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	4月19日	横切継紙・1通	え4606-26
(書状、伊作より金子の事頼まれ参る由、保科村方へ申し遣わす所今もって遅参致し申さず付)	3月12日	横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)・1通	え4610-19
(書状、仰せを蒙った地金引換について当節の相場をもつて御金定仕るべき、替り金落掌依頼に付) 八田知道→松木董正様	30日	横切継紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-16
(書状、恐れ入るも金16円60銭東京へ為替願ひ上げ奉るに付) *勘返状 董正→代官町様尊答印書入	12月23日	横切継紙・1通	え4615-35
(封筒) * (封筒表書)「董正様金圓済 知道」		封筒・1点	え4615-73
(書状、この程中差上げ申す金子も相整う由ある所にて如何か御用に伺いたきに付)	11月5日	横切継紙/(え4617-1~17は括り紐一括)・1通	え4617-3

(書状、多吉と申すものより金子差し送るよう申し遣わす所、金2両遣わすに付)		横切継紙・1通	え4617-12
(書状、佐助より御頼み申した金子も滞りなく御渡し遊ばし下されるに付)	3月6日	横切継紙/(え4628-1~64は袋一括)・1通	え4628-4
(書状、昨晚伊勢町へ願い為替にて差上げた金6円届き申した哉に付) *下書		便箋・1通<10通>	え4628-8
(包紙) * (包紙上書)「松代松木栄太郎殿印書入 水原縣松木源八」		包紙/(え4637-1~11は括り紐一括)/(え4637-10-1~3は包紙一括)・1点	え4637-10-1
覚(幣札金500両伊勢町菊屋佐助・新左衛門より差送る所、落手するに付) 竹蔵兵馬(印)→吉池孝太郎殿	明治3午年正月	横切紙・1通	え4637-10-2
(書状、別紙角店500両印書について確かに届く様に致したき所、委細は本文申し遣すに付) 源八→栄太郎	正月23日	横切紙・1通	え4637-10-3
為換手形(金12円第63国立銀行東京支店において受け取る所、本年6月30日限りにて手形引換御払い下されたきに付) 京橋区北横町十八番地松山慶次郎方止宿松木董隆(印)・証人松木董宣(印)→八田知道殿	明治14年6月21日	切紙/(え4645-1~33は括り紐一括)・1通	え4645-18
為換手形(金15円第63国立銀行東京支店において受け取る所、7月30日限りにて手形引換御払い下されたきに付) 松木董正(印)→松代第六十三国立銀行東京支店御中	明治14年7月21日	切紙/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-18に巻込)・1通	え4645-19
為換手形(金10円第63国立銀行東京支店において受け取る所、本年10月20日限りにて手形引換御払い下されたきに付) 京橋区北横町十八番地松山慶次郎方松木董宣(印)・証人松木董隆(印)→松代町千二百六拾壹番地松木董正殿	明治14年10月6日	切紙/(え4645-1~33は括り紐一括)・1通	え4645-20
(第33銀行新堀支店より第63銀行ハツタへ届け電信書) * (封筒表書)「第六十三キンコウハチタへ 三十三シンホリシテン」	3月24日	電信用紙(木版刷)・1通	え4645-31

7.7.5.金銭勘定

記(栗田村金10円などメ77円50銭差引残金132円余勘定書付)		折紙・1通	え4645-13
(2円90銭余りなど合せて金3円30銭余りなど金銭勘定書付)		切紙・1通	え4645-14

7.7.6.諸品請払

覚(1匁8分三厘ほかメ24匁2分諸品代書上) ミノや甚三郎→松木様御内	8月20日	横切継紙/(え4606-1~30は紙縋一括)・1通	え4606-30
記(8銭手桶ほかメ金52銭5厘受取に付) 紺屋町初太郎→竹山町松木様	午2月	横切紙/(え4607-1~35は紙縋一括)・1通	え4607-12
記(小すき1束ほかメ37銭受取に付) 寺町→竹山丁様	12月15日	横切紙・1通	え4607-25

(書状、綿の事この方にては繰り綿1両に350目中の所、400目下げ500目位の由に付) 栄太郎→御父上様申上	2月23日	横切継紙/(え4628-1～64は袋一括)・1通	え4628-2
(サツマイモ・レンコンなど諸品数量書付)		横切紙/(え4628-35～36は巻込一括)・1通	え4628-36
(8日東京おくり物駄賃金9銭など諸代金書付)		縦紙/(え4628-54～56は巻込一括)・1通	え4628-54
(28日お茶代金15銭など11月中諸品代金書付)		縦紙・1通	え4628-55
(お茶代金5厘など諸品代金書付)		縦紙・1通	え4628-56

7.7.7.土地・建物

(松木董正居宅ノ坪52坪余間取図)		27.9×38/(え4645-1～33は括り紐一括)/(え4645-1-1～11は包紙一括)・1鋪	え4645-1-4
(竹山町539坪余敷地図)		28×38.4/(え4645-1～33は括り紐一括)・1鋪	え4645-3

7.7.8.その他

(郡役所よりの本籍・借地など記載例文書付) 佐野→		切継紙/(え4615-1～80は括り紐一括)・1通	え4615-49
---------------------------	--	---------------------------	----------

7.8.教育

7.8.1.手習

(「するめ」習字書付)		切継紙/(え4628-1～64は袋一括)・1通	え4628-49
(「必」習字書付)		縦紙・1通	え4628-57

7.8.2.董宣

(書状、御書簡及び二子唐織綿入1枚ほか荷物拝納仕る旨、及び御出京事件に付種々勘考仕る旨ほか) * (包紙上書)「長野縣下信州松代竹山町松木董正方ニテ秋里董隆様平信東京より」/(包紙裏書)「東京府第一中学校松木董宣 十月十九日投ス」 董宣→董隆様御机前	10月19日	横切継紙/(え4607-1～35は紙縷一括)・1通	え4607-15
(封筒) * (封筒表書)「□野縣下信州松代□山町松木董正様方ニテ秋里董隆様平信 東京より」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣 十月五日投函」/年代は消印	明治12年	封筒・1点	え4607-22
(葉書、月末試験等にて彼是罷り在り今夕にも委細は申し上げる旨、及び新聞の義如何様にも取り計らい申すべき旨) * 年代は消印 東京北横町十八番地松山方松木董宣・同董隆→長野縣下信州埴科郡戸倉駅柳沢庄平殿ニテ松木董正様	明治15年3月2日	葉書・1通	え4607-29

(葉書、董宣儀近日病氣にて遂に延引に付近日中に董隆より委細相認め申すべき旨) *年代は消印 東京々橋区北槇米十八番地松山方松木董宣・同董隆→長野縣下信州埴科郡戸倉村柳沢庄平方ニテ松木董正様	明治15年3月17日	葉書・1通	え4607-30
(葉書、去る8日御差し立て下された品々本日持参致し拝納に付) 東京松木董宣・同董隆(印)→長野縣下信州松代竹山町松木董正様	9月19日	葉書・1通	え4607-31
(葉書、早朝より昇校の時過て帰宿夜分は12時過ぎ迄翌日の下調べに付休日を以て書面相認める旨) *年代は消印 東京松木董宣→長野縣下信州松代竹山町松木董正様	明治14年9月8日	葉書・1通	え4607-33
(書状、4月分学資金12円など都合13円の為替証拝受仕るに付ほか) *(封筒表書)「長野縣下信州松代町松木董正様 従東京」/(封筒裏書)「東京神田區連雀町十八番地高橋惣七方ニテ松木董宣 明治十三年三月廿八日投函」/2銭切手貼付 董宣・董隆→御父上様	明治13年3月28日	横切継紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-7
(封筒) *(封筒表書)「長野縣下信濃国松代竹山町松木董正様 要信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京々橋區北槇町拾八番地松山慶次郎方松木董隆 第五月三日午後九時」		封筒・1点	え4615-25
(書状、明月分学資金6円など合計8円50銭の為替證書確かに拝納、②上田源太郎様よりも送金により余金は久保田様へお預け、③御県下小学校規則改正は官途に御出仕に都合よろしきに付他) *(封筒表書)「長野縣下信濃国松代竹山町ニテ松木董正様」/(封筒裏書)「東京京橋區北槇町十八番地松山慶次郎方松木董宣」 董隆・董宣→御父上様	26日	横切継紙・1通	え4615-26
(書状、御出発成し下された書物など今朝泰作殿持参により拝受仕るに付) 東京々橋區北槇町拾鉢番地松山慶次郎方松木董宣→長野縣下信州埴科郡松代町第千二百六十一番地松木董正様 東京より」	4月21日	葉書/(え4615-1~80は括り紐一括)/(え4615-31~32は巻込一括)・1通	え4615-29
(書状、格別入用の書物ではなきも大瀬様御蔵書も御借り置くにより御運送願うに付) 董隆・董宣→御父上様	11月3日	横切継紙・1通	え4615-31
(書状、過般御願いした金円早速御運送下され拝謝奉るに付ほか) *(封筒表書)「長野縣下信州松代松木董正様用至 済」/(封筒裏書)「東京松木董宣松木董隆」/2銭切手貼付 董宣→御父上様	12月28日	横切継紙・1通	え4615-34
(書状、董隆殿よりの書状にては政記などの荷物を御差立の様子もいまだ配達ならざるに付) *(封筒表書)「長野縣下信州松代竹山町ニテ松木董正様平信 東京より」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣」 董宣拝→御父上様膝下	11月17日	横切継紙・1通	え4615-40
(封筒) *(封筒表書)「御父上様膝下 董宣拝」		包紙/(え4615-1~80は括り紐一括)/(え4615-43-1~3は包紙一括)・1点	え4615-43-1
(書状、①上田の一条大概結局の由にて長野表講習相済み次第董隆殿出京相成る様願う、②当中学校入舎生兩人退舎に付他) 董宣拝→御会所様父上様膝下	11月15日	横切継紙・1通	え4615-43-2

(書状、横山氏より依頼にて書籍購入費用余り1円24銭明月学資金中に御差引御返却下さるべきに付)		切継紙/(え4615-1~80は括り紐一括)/(え4615-43-1~3は包紙一括)/(え4615-43-2に巻込)・1通	え4615-43-3
(封筒) * (封筒表書)「長野縣下信州松代竹山町松木董正様要信」/(封筒裏書)「東京京橋区北槇町十八番地松山慶次郎方松木董宣」	(明治13年)	封筒/(え4615-1~80は括り紐一括)/(え4615-59-1~4は封筒一括)・1点	え4615-59-1
(書状、①この度大学予備門四級入学試験の課目中へ地理学大意加えられ、地理書必要なため購求費願、②隆次郎試験上出来にて昇級の際は金銭御通送願、③隆次郎学資金上田よりの分沙汰なく問い合わせ願に付) 董宣→御父上様	(明治13年)5月12日	横切継紙・1通	え4615-59-3
(書状、当中学校は大学予備門の下稽古を教える共立学舎と申す一時入学になればさらに不都合なきに付) 董宣→御父上様	10月3日	横切紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-62
(封筒) * (封筒表書)「御父上様膝下 董宣」		封筒・1点	え4615-79
(書状、過般診断書の期日にも相成り不都合に付私より書面差出し一時退学願い置く旨) * (封筒表書)「長野縣下信州松代竹山丁松木董正殿方ニ而秋里董隆殿平信 東京より」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣 十月一日午後投函」 董宣→董隆様	10月1日	縦紙/(え4618-1~41は紙縫一括)・1通	え4618-1
(書状、毎日の学課前級に比すれば大いに進歩仕り最早今日まで訳読み致し居る旨ほか) * (封筒表書)「長野縣下信州松代竹山町松木董正様方ニテ秋里董隆様平信 東京より」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣」 董宣→董隆様	10月9日夜認置	横切継紙・1通	え4618-2
(封筒) * (封筒表書)「長野縣下信州埴科郡松代松木董正様方ニテ秋里董隆様平信親展 東京より」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣」		封筒/(え4618-1~41は紙縫一括)/(え4618-3-1~3は封筒一括)・1点	え4618-3-1
(書状、本月分学資金6円の内3円は御地にて相願う通り御返却下され1円は思し召しにて薬料として都合4円の為替證書拝納仕る旨) 董宣→董隆様	9月17日夕認置	縦紙・1通	え4618-3-2
(書状、今18日午後2時過ぎ恭作より御通送成し下された羽織など拝納仕り御礼申し上げる旨)		切紙・1通	え4618-3-3
(書状、一昨日中学校へ入学差し許され今日より日課授業であるが寄宿所未だ間に合わず内田正八方へ引越したので御承知下されたき旨) * (封筒表書)「長野縣下松代町千二百六拾壹番地ニテ松木董正様平信 東京より」/(封筒裏書)「東京神田区錦町壹丁目拾番地内田正八方止宿松木董宣」 董宣→御父上様膝下	3月初1日認	縦紙/(え4618-1~41は紙縫一括)・1通<2枚>	え4618-4
(書状、本月分学資金6円書籍購求費1円50銭都合7円50銭の証拝載仕り此段御父上様へ然るべき御取次の程希い奉る旨ほか) * (封筒表書)「長野縣下信州松代竹山町松木董正様方ニテ秋里董隆様平信 東京より」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣」 董宣→董隆様	11月2日	横切継紙・1通	え4618-5

(書状、此度始めての試験にて席順相立との事故下調べに従事仕る旨ほか) * (封筒表書)「長野縣下信濃国松代町一千二百六拾壹番地ニテ松木董正様平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京府神田区駿河臺北甲賀町七番地東洋学舎内第七番室 十二年一月廿三日投函 松木董宣」 董宣拝→董隆様	4月29日	横切継紙・1通	え4618-6
(書状、綿入1枚・「リード」1冊ほか4品余り外聞に悪敷こともある故夏期休に帰郷の節御話し申し上げたきに付御母上様丈けへ内々一条御話し願ひ上げ奉る旨ほか) * (封筒表書)「董隆様足下 董宣拝」/(封筒裏書)「明治十二年一月十八日夜認」 董宣拝→董隆様	明治12年1月18日夜認	横切継紙・1通	え4618-7
(書状、昨日御手元へ差し立てた書面中に御叔母上様への返金御母上様御手元にて何れなり御都合成し下される旨仰せを蒙ったが種々御入用多き御中恐れ入る旨ほか) * (封筒表書)「長野縣下信濃国松代竹山町松木董正様方ニテ秋里董隆様平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京府第一中学 十一月四日午後投函 松木董宣」 董宣拝→董隆様	11月4日	横切継紙・1通	え4618-8
(書状、小生共儀馬車の都合により高崎にて滞在26日午後1時発車にて27日午前着京に付ほか) * (封筒表書)「長野縣下信濃国松代松木董正様平信 東京」/(封筒裏書)「東京府下芝区琴平町壹番地真田様御邸内 松木董宣」 董宣拝→御父上様	8月28日	横切継紙・1通	え4618-9
(書状、来月分学資金過般相願ひ諸品購求費御歳暮として小生へ御投与都合10円の証書拝納仕り増金相願ひ御入用多の中恐縮に付御礼希い奉る旨ほか) * (外封筒表書)「長野縣下信州松代松木董隆様塾則入平信 東京ヨリ」/(外封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣 十二年十二月廿六日投函」/(内封筒表書)「松代董隆様玉机下」/(内封筒裏書)「中学校董宣拝」 董宣→董隆様玉机下	明治12年12月25日	横切継紙・1通	え4618-10
(書状、董隆病気の趣申し入れ中学校校務係より已に入學差し許した上は当校の校則の通り書面を以て届書私より相認め差し出す旨) * (封筒表書)「長野縣下信州松代松木董正様平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京芝区桜田鍛冶町六番地宇留嶋義重方松木董宣」 董宣拝→御父上様膝下	8月30日	横切継紙・1通	え4618-11
(封筒) * (封筒表書)「長野縣下信州松代竹山町松木董正様平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣 九月廿四日午後投函」		包紙/(え4618-1～41は紙綴一括)/(え4618-13-1～3は封筒一括)・1点	え4618-13-1
(書状、出京の節御依頼相成る漢史一班の参考書処々相尋ねたが見聞せざるに付) 董宣再拝→御父上様	9月24日	縦紙・1通	え4618-13-2
(読方チャンブルほか昨今小生共借行罷りたる課目大略書付)		洋紙・1通	え4618-13-3
(葉書、小生儀今11日より中学校へ入寮仕るので御承知下さるべき旨) 東京表神保町二番地東京府第一中学校松木董宣→長野縣下信濃国松代町一千二百六拾壹番地松木董正様	12年3月11日	葉書/(え4618-1～41は紙綴一括)・1通	え4618-14

(書状、小生共試験表昨日漸く張書相成るに付直様写 取ったので御目に懸け小生元来の志は第一席を希望 に付ほか) * (封筒表書)「長野縣下信州松代松木董隆様 平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣 十二年五月四日投函」/(端裏書)「此度ノ分ハ試験表ヲ除クノ 外他見ヲ禁ス語伝ヘ此限りニアラス」 董宣拝→董隆様	(明治)12年5月3日相認 む	横切継紙・1通	え4618-15
(書状、此度地理書・会話書・歴史3本相求めたきに付御都 合成し下され金6円丈御通送の程希い奉る旨) * (封筒 表書)「長野縣下松代町松木董正様平信 東京ヨリ」/(封筒 裏書)「東京府下神田区駿河臺北甲賀町七番地東洋学舎内松 木董宣 十二年一月五日投函」 董宣拝→御父上様	(明治)12年1月5日	横切継紙・1通	え4618-16
(書状、一期卒業試験滞りないか拝問仕る旨ほか) * (封筒 表書)「董隆様机下」/(封筒裏書)「董宣拝」 董宣拝→董隆様	3月3日相認む	横切継紙・1通	え4618-17
(封筒) * 開披不能/(封筒表書)「長野縣下信州松代町内竹山 町松木董隆様平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京府第一中 学校松木董宣 四月六日午前投函」		封筒・1点	え4618-20
(封筒) * 開披不能/(封筒表書)「長野縣松代町松木董隆様平 信」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣 四月八日投函」		封筒・1点	え4618-21
(書状、御書面及び単衣ほか後条の品に本月5日の御書 簡滞りなく拝納仕る旨) * (封筒表書)「長野縣下信州松 代松木董隆様平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京府第一中 学校松木董宣」 董宣拝→董隆様	5月10日	横切継紙・1通	え4618-22
(書状、矢野様及び山寺様等への御札の段御示諭下され る様御父上様へ御相談成し下されたき旨) * (封筒表 書)「長野縣下松代松木董隆様平信」/(封筒裏書)「駿河臺北 甲賀町拾三番地東洋学舎松木董宣 十一年十二月廿二日午 後投函」 董宣拝→董隆様	明治11年12月22日	洋紙・1通	え4618-23
(書状、兼て申し上げた当中学校生徒募集の期限来る7月 20日迄にて試験の上入学差し許され、思召しもあれば 御相談の上御出京の方然るべき旨) * (封筒表書)「長 野縣下信濃国松代町内竹山町松木董隆様平信 東京ヨリ」/ (封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣」 董宣拝→董隆様	6月12日	洋紙・1通	え4618-24
(書状、規則教則丈け相認め御目に懸け候旨、及び学科業 減したく山寺先生へ相願ひ貧窮願書差し出した処定 規の通り相納める旨ほか) * (封筒表書)「長野縣下埴科郡 松代町一二六番地松木董正様平信 東京ヨリ」/(封筒裏 書)「東京府下神田區表神保町二番地東京府第一中学校松木 董宣 十二年三月十六日投函」 董宣拝→御父上様	3月15日	堅紙・1通<2枚>	え4618-25
(封筒) * (封筒表書)「董隆様 董宣」/開披不能		封筒・1点	え4618-26
(書状、書籍購求に付都合1円50銭丈け御都合下さるべ く御父上様へ御願ひに付) * (封筒表書)「長野縣下信州 松代竹山町松木董正様方ニテ秋里董隆様平信 東京ヨリ」/ (封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣」 董宣→董隆殿		堅紙・1通	え4618-27
(書状、一時退学願差し出したところ昨今は御父上様へも 申し上げた通り都合よき学校に付、一同御話相整い次第 源太郎君へ御依頼相成り御出京の程望み奉る旨) * (端 裏書)「御内披奉希」 董宣→董隆様	10月3日	横切紙・1通	え4618-28
(書状、日々の学科も相増し下調べも仕りたく英和字書 と申す書物相求めたき故金円御都合成し下されたき 旨) * (封筒表書)「長野縣下松代町松木董正様平信 東京 ヨリ」/(封筒裏書)「東京神田區駿河臺北甲賀町拾三番地東 洋学舎内松木董宣」 董宣→御父上様	明治11年12月12日夕認	洋紙・1通	え4618-29

(書状、東洋学舎へ入塾仕り御休意下さるべく、委細は校則にて御承知下さるべき旨) 董宣拝→御父上様	11月2日	横切紙・1通	え4618-30
(書状、兼て御志願の御上京の義御決定に付御依頼を蒙り一条早速中学校事務係へ問い合わせに付) *(洋紙の包紙表書)「長野縣下信濃国松代竹山町松木董正様方ニテ秋里董隆様要用信 東京より」/(包紙裏書)「東京府第一中学校松木董宣七月十五日午後投函」 董宣→董隆様	7月15日相認む	洋紙・1通<2枚>	え4618-33
(封筒) *(封筒表書)「長野縣下松代町松木董隆様平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「神田區駿河臺北甲賀町拾三番地東洋学舎内松木董宣」		封筒/(え4618-1~41は紙縫一括)/ (え4618-34-1~3は封筒一括)・1点	え4618-34-1
(書状、御送金相願う分御地にて伊勢町様への分と御繰り換え成し下さる段拝承仕り御父上様願ひ上げ奉る旨ほか) 董宣→董隆様	12月6日	洋紙・1通	え4618-34-2
(書状、御屋敷屋野様へ参館、学資金頂戴仕り以後は受取書なくては不都合の旨仰せを蒙り其度毎に受取書私方へ御送り成し下さるべき旨ほか) 董宣拝→董隆様	12月8日	洋紙・1通	え4618-34-3
(書状、過般は薬料御過送成し下され有り難く、昨今は専ら節儉を主とし以後は願う外は決して御送り下されまじき旨ほか) *(封筒表書)「長野縣下信濃国埴科郡松代町千二百六拾壹番地松木董正様平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣」 董宣拝→御父上様	6月4日	横切継紙/(え4618-1~41は紙縫一括)・1通	え4618-36
(書状、此度規則改正に付受業料月俸共毎月5日迄に相納めるべき通達これあり来月より間に合う様御父上様へ御取次願ひ奉る旨)		切紙・1通	え4618-37
(書状、来月学資金及び薬料として都合1円50銭の証正に相納め仕る旨ほか) *(封筒表書)「長野縣下松代町松木董隆様平信 東京より」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣 五月廿九日午後発ス」/(端裏)「餘り之乱筆故他見ヲ禁ス」 董宣拝→董隆様	5月29日	横切継紙・1通	え4618-39
(書状、新学校の儀小生も下宿仕らず平常の通り東洋学舎内と御認め下さるべき旨) *(封筒表書)「董隆様 董宣」 董宣拝→董隆様	12月28日	洋紙・1通	え4618-40
(書状、御願ひした御送金御礼申す所、小生耳も良くなるも病氣知らざる者との談話は困難に付) *(端裏書)「御父上様申上 董宣」 董宣→御父上様御許	11月4日	横切継紙/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-1-1~11は包紙一括)・1通	え4645-1-2
(書状、幹旋にて金円早速御御送り成し下される所、新聞なども御払い相済むに付) *(端裏書)「御母上様董隆様 董宣」 董宣→御母上様・董隆様	11月4日夜	横切継紙/(え4645-1~33は括り紐一括)・1通	え4645-22

7.8.3.董隆

(通知写、当校において一期合格の者来る25日募集達し、去3月中臨時試験の際点数不足の課試験相心得るべき旨) 師範学校監事印→松木董隆殿・林清明殿・和田義章殿	12年11月11日	縦紙/(え4606-1~30は紙縫一括)・1通	え4606-23
菊説(朱書「90」「晩秋ニ当り独り美麗ノ色ヲ逞フシ…」菊に関する論説、試験の答案か) *添削有/鉛筆書き 変則第一級甲部生 松木薫隆喬→斧正	明治14年11月22日	半/(え4607-1~35は紙縫一括)・1冊	え4607-16

(葉書、兩人共定期試学にて自分義は相済し明日にも委細申し上げる旨) *年代は消印 東京北横町拾八番地松山方松木董隆→長野縣信州松代竹山町松木董正様	明治15年2月13日	葉書・1通	え4607-28
(書状、先般申上げた小生予備門入学願書についてその後勉強仕るも来年入学は覚束なきに付) 董隆拝→御父上様御許	12月25日夜認置	便箋/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-1
附曰(新聞紙上にては内務・大蔵両省は本年中に大改革により役立つ人を登用との風聞あるに付) *(端裏書)「御内披」 董隆拝→	12月26日	便箋/(え4615-1~80は括り紐一括)/(え4615-1に巻込)・1通	え4615-2
(書状、御兄上様御常費金7円など合計16円60銭為替切手拝受するにより御礼に付) 董隆拝→御父上様	12月27日	便箋/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-3
(書状、東京において董隆様へ2円金御取替いたす所、返弁について都合の宜しき方御伺いたきに付) 喜久人→董正様	5月22日	横切継紙・1通	え4615-5
(書状、小生の試験点数僥倖により高得点により御安心くだされたきに付) 董隆拝→御父上様	5月6日認む	横切継紙・1通	え4615-20
(封筒) *(封筒表書)「長野縣下信州松代町字竹山町 松木董正様 要信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京々橋區北横町拾八番地松山慶次郎方 松木董隆」	明治13年5月7日	封筒・1点	え4615-21
(書状、昨今中学校寄宿生の御品行不正なるとのこと御出京中御兄上様よりも御話しある、②出京費用明細に基づく送金依頼、③官途御出仕の状況伺い御上京を希望、④梅津学校の様子伺に付他) *(封筒表書)「長野縣下信州奈代第千二百六十壱番地松木董正様 平信要用 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京神田區連雀町拾八番地高橋惣七方松木董隆 三月廿四日投函」 董隆拝→御父上様膝下	明治13年3月24日	横切継紙・1通	え4615-22
(書状、御手許を省みず金員御送り願う所、早速御聞き届け有り難きに付ほか) *(封筒表書)「長野縣下信州松代竹山町松木董正様平信」/(封筒裏書)「東京々橋區北横町拾八番地松山慶次郎方松木董隆 四月七日投函」 董隆拝→御父上様御許	4月6日夜認む	横切継紙・1通	え4615-24
(書状、やむを得ず大金御送りのこと恐縮の至りも早速御聞き届御送り下され有難きに付) 董隆拝→御父上様	6月20日午後第11時	横切継紙・1通	え4615-27
(封筒) *(封筒表書)「長野縣下埴科郡松代町第千二百六十壱番地松木董正様平信要用 長野町ヨリ」/(封筒裏書)「長野縣下師範学校松木董隆 十二年十一月十六日午後投函」	明治12年	封筒/(え4615-1~80は括り紐一括)/(え4615-52-1~3は封筒一括)・1点	え4615-52-1
(書状、私義昨11日師範学校へ入学仕るにより御承知下されたきに付) 董隆拝→御父上様膝下	(明治12)年11月12日	横切継紙・1通	え4615-52-2
(書状、本日教員より今般の講習書目決定通知あるにより課題書籍借用もしくは買い上げるに付)	(明治12年)	横切紙・1通	え4615-52-3
(書状、下宿仕る高橋惣七方非常の混雑にて学校近く友人共も往来して勉強の妨害になるに付) *(封筒表書)「長野縣下信州埴科郡松代竹山町松木董正様至急用 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京々京橋區北横町拾八番地松山慶次郎方松木董隆 四月一日投函」 董隆拝→御父上様膝下	4月1日	横切継紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-53

(書状、御志願の一条掬り兼ねる由並びに池田様へ本所 区林町2丁目60番地へ移転するに付ほか) * (封筒表書) 「長野縣下信州松代町第千二百六十一番松木董正様平信 從東京」/(封筒裏書)「東京々橋區北槇町拾八番地松山慶次郎 方松木董隆 四月三十日午後」 董隆→御父上様御許	4月30日	横切継紙・1通	え4615-54
(書状、東京の御兄上様より手元御不都合により24・5日ま でに金3円御御送り願う旨小生から伝言依頼に付) * (封筒表書)「本縣下長野表權堂榮屋雪方御止宿松木董正様 平信要用 松代ヨリ」/(封筒裏書)「本縣下埴科郡松代竹山町 松木董隆 第十二月十九日投函」/(端裏書)「御内披」 董隆 拝認→御父上様膝下	12月19日	横切継紙・1通	え4615-74
(書状、先般御購求のロビンソン氏の代数の書御遞送な し下されたき旨御兄上様より伝言に付) * (封筒表書) 「信州埴科郡松代町第一二六番地 松木董正様平信 東京 ヨリ」/(封筒裏書)「東京神田區連雀町拾八番地高橋惣七方 松木董隆 三月十五日」/2錢切手貼付 董隆拝→御父上様 膝下	3月15日夜認置	横切継紙・1通	え4615-78
(書状、ロビンソン代数学書物泰作へ御遣わし下された との趣未だ到着せざるもあり難きに付他) * (封筒表 書)「長野縣下信州松代竹山町松木董正様平信 東京ヨリ」/ (封筒裏書)「東京々橋區北槇町拾八番地松山慶次郎方松木 董隆 四月十六日投函」/2錢切手貼付 董隆拝→御父上様 御許	4月15日夜認置	横切継紙・1通	え4615-80

7.9.家族

7.9.1.董正(源太郎・源八)

(書状、昨28日組の者億次郎病氣にて居残る処快方に付 出立致させる旨ほか) 源八→榮太郎殿		横切継紙/(え 4606-1~30は紙 縫一括)・1通	え4606-4
(書状、下縮一筋は色宜しき方は買い置き申す処扱無き 事にて隆次郎弟の事故ゆえなさるべき旨) 源八→榮 太郎殿・隆次郎殿	11日	横切紙・1通	え4606-3
(書状、硯2面・小風呂敷・手拭・菓子2箱御配分下されたく 其外遣わしたきもの沢山これある旨) * (包紙上書)「松 代松木榮太郎殿 從甲府松木源八」 源八→榮太郎殿	正月8日	横切継紙・1通	え4606-14
(書状、暖気になり芝居も始まる旨並びにこの程申す通 り浴衣1つ御遣わし下されるべきに付) 源八→榮太 郎殿	4月2日	横切継紙/(え 4639-1~39は括 り紐一括)・1通	え4639-3

7.9.2.長(てふ・ちやう)

(書状、この程御養生加えのためいつれも脚気は国元へ いるのが宜しきに付) 母より→董宣殿・董隆殿人々	5月26日	便箋/(え4628-1 ~64は袋一括)・ 1通	え4628-9
(書状、私も疝氣の案配にて5・6日臥せり居り申す所、何 卒1円少々の間御借り申したきに付) ちやうより→御 兄上様申上	23日	横切継紙・1通	え4628-10

7.9.3.栄太郎

(書状、いよいよ早速引き取りの事も難しいならば栄太郎を何卒御地へ御頼み申したきに付) 栄太郎→御父上もうし上	正月24日	横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)/(え4610-9~10は巻込一括)・1通	え4610-9
(書状、富岡氏へ御頼み御送り申し上げた品はそちらに届いたるや否やに付) 栄太郎→御父上様申上	3月2日	横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)・1通	え4610-17
(封筒) *(封筒表書)「御父上様申上 栄太郎」		封筒/(え4617-1~17は括り紐一括)・1点	え4617-11
(袋)		袋/(え4628-1~64は袋一括)・1点	え4628-1
(書状、この方は別段なきもたか次郎はぶらぶら致し居り、栄太郎もこの程痛み難渋致すに付) 栄太郎→御父上様申上	4月14日	横切継紙・1通	え4628-3
(書状、他御人数はいよいよ御引き揚げと申すせども早速の引き取りには難しく困りいるに付) 栄太郎→御父上様	11月14日	横切継紙・1通	え4628-5

7.9.4.董宣

(書状、小生儀元来の肺質には変りなき時にて困難罷り在り外出は出来兼ねる処銀行の証書書き換えに付掛ける旨ほか) *(端裏書)「御父上様 宣」 董宣拝→御父上様御許	8月13日	横切継紙/(え4607-1~35は紙縫一括)・1通	え4607-13
(書状、秋里御祖母様御養生相叶わず旨、及び水井君は仰せの趣には松本の方へ御出張相成るに付ほか) *(封筒表書)「長野縣信州松代町松木董隆様平信 東京ヨリ」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣」 董宣拝→董隆様	4月28日再書	横切継紙/(え4618-1~41は紙縫一括)・1通	え4618-38
(書状、董隆の手紙拝見する所、御父上様御不快とのことで心配致すも脚氣と申すは殊の外難しきに付) *下書		便箋/(え4628-1~64は袋一括)・1通<6通>	え4628-6
(書状、小生病気のこと肺質の方は宜しく相成る所、耳はまだ良くないが少々はよろしい様子に付) 董宣→御父上様御許	10月19日	横切継紙/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-1-1~11は包紙一括)・1通	え4645-1-9
(書状、新年の祝詞、十二月中旬より試験ほかの後学校より調物を託された旨) 董宣再拝→御父上様・御母上様	1月4日	横切継紙/(え4607-1~35は紙縫一括)・1通	え4607-20

7.9.5.董隆

(書状、新年の御祝儀、及び当年は別して儉約仕り少々は御安心成されるに付) *(包紙上書)「松代御母上様申上 東京董宣董隆頓首」 董隆・董宣→御母上様申上	1月3日	堅切継紙・1通	え4607-17
(封筒) *(封筒表書)「御父上様申上 董隆頓首」 董隆頓首→御父上様申上		封筒・1点	え4607-18

(封筒) * (封筒表書)「松代 用至御父上様御許 東京董隆 拝 済」/(封筒裏書)「十二月廿八日」	封筒/(え4615-1 ~80は括り紐一 括)・1点	え4615-58
--	----------------------------------	----------

7.9.6.姉妹

(書状、御取替の金子も御遣わし下され、確かに受取申すに付) いく→松木御あに上様人々御申上□	弥生5日	横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)・1通	え4610-1
(書状、この程の御話により昨晚矢野倉御まへ様へ御話申上げたく伺う所、御留守に付) つね→御兄上様人々申上	18日	横切継紙・1通	え4610-3
(書状、柴町より御願の手紙遣わすも御返事もらうもよき便りなきに付) 幾→御兄上様申上	卯月7日	横切継紙・1通	え4610-4
(書状、御文の御様子にては金子の所は多々今の訳には相成り申さざるにより何分にては御願申し上げたきに付) しけより→御姉上様		横切継紙/(え4617-1~17は括り紐一括)・1通	え4617-5
(書状、召使の事決め時なるも決まらざれば困りいるにより貴方様御出相談の上御決め下されるべきに付) 坂本秀→松木御姉上様人々御返事	1月14日	横切継紙・1通	え4617-6
(書状、金50銭差上げるによりこの程願ひ上げた羽織の御礼よろしく御願ひ上げたきに付) * (封筒表書)「松代 松木御姉上様人々御元へ 井上坂本秀」/(封筒裏書)「八月廿五日金五十銭入」 坂本秀→松木御姉上様人々御元へ		横切継紙・1通	え4617-7
(書状、この間は何よりの御品下されあり難く御礼御文なども秀様より差上げるべき所気分悪しきに付) * (封筒表書)「竹山町松木お長様人々御中へ 井上村二而き□拝」 しけ拝→まつ木お長様人々元へ		横切継紙・1通	え4617-8

7.10.親類

(封筒) * (封筒表書)「竹山町様」/(封筒裏書)「同心町上拝」		封筒/(え4645-1~33は括り紐一括)・1点	え4645-24
-----------------------------------	--	--------------------------	----------

7.11.作成者不明

(書状、ぜん蔵宅より度々頼みおくも御便りなく3本差上げるにより宜しく御頼み申し上げるに付)		切紙/(え4610-1~21は括り紐一括)/(え4610-9~10は巻込一括)・1通	え4610-10
(書状、足袋が当地では高値の上品物悪しきにより御送り成し下されたきに付)		切紙/(え4615-1~80は括り紐一括)/(え4615-31~32は巻込一括)・1通	え4615-32
記(綿入2枚など都合7枚冬物差出すにより御取調の上御落手願うに付)		横切紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-46
(書状、たか次郎昨年のようないたみにて難渋致し居るも心配なるほどのことにも無きに付)	正月14日	横切継紙/(え4617-1~17は括り紐一括)・1通	え4617-2

7.松木家/11.作成者不明

(書状、先日中御頼み申す子供が読む本何分にも御送り下される様御頼み申上げるに付)	10月25日	横切継紙・1通	え4617-13
(書状、兩人様仰せ含められ一日も早く帰の様にたしたき所、家宅なども売り払う手続き致すに付) *下書		横切継紙/(え4628-1~64は袋一括)・1通	え4628-15
(書状、御父上様御不快如何か心配致し居る所、御容態詳しく早速申し遣わす様致したきに付) *下書		横切継紙/(え4628-17~32は巻込一括)・1通	え4628-18
(書状、昨15日夜10時董宣より電信をもって申す所、御不快も詳しくもなく脚気の御様子の由に付) *下書		折紙・1通	え4628-19
(書状、御父上様御不快如何か殊の外心配するも詳しく御様子も申し遣わさず) *下書		切紙・1通	え4628-21
(書状、その後御無沙汰致す所、御様子何うも御不快との由御案じ申し居るに付) *下書		横切紙・1通	え4628-22
(書状、御父上様御不快如何か殊の外心配するも詳しく御様子も申し遣わさず) *下書		横切継紙・1通	え4628-23
(書状、この度遣わし申す袴も遣わしたき所、20日頃には御父上様御出給わたりたきに付)		折紙・1通	え4628-38
(書状、御父上様御不快少々よろしきとも参り申さず心配の所、私不快は宜しき方に相成るに付) *下書	8月28日	横切継紙・1通	え4628-41
(書状、私臥せり居るにより全快致し申さず所、上田おば様・伊勢町おじ様御手紙毎日参るに付) *下書		横切継紙/(え4628-45~47は巻込一括)・1通	え4628-45
(書状、御父上様に御苦勞御頼む所、さりとて御暮らし方も起き申さざるに付) *下書		折紙/(え4628-59~64は巻込一括)・1通	え4628-64

7.12.縁談

(書状、御内々相談申し上げた妹の事について、御料所井上村の坂本孝右衛門殿俸へ貰いたき趣に付) * (端裏書)「御内々申上」		横切継紙/(え4610-1~21は括り紐一括)/(え4610-12~13は巻込一括)・1通	え4610-13
(書状、莊三郎義同郡高柳村善市と申す者へ養子相続相定まり御案慮下されるべきに付) * (包紙表書)「長埜懸埴科郡松代早旧士族竹山早ニテ松木正雅様貴下使用 南佐久郡從内山驛」/(包紙裏書)「第三月三十一日發ス 内山驛 武井常右衛門」/1錢切手貼付 武井常右衛門→松木正雅様	第3月31日	便箋/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-37
(書状、上田伊藤様へ罷り出で種々談話の末董隆養子に付御訊問を蒙る故大略申し上げる旨) * (封筒上書)「長野縣下松代松木董正様平信 小諸より」/(封筒裏書)「小諸鶴屋佐平治方松木董宣 八月廿四日」 董宣拝→御父上様	(8月)24日	切紙/(え4618-1~41は紙綴一括)・1通(2枚)	え4618-12
(書状、董隆様倉科村秋里氏へ養子の義御問い合わせに付、小生は該家の様子存せず御書面の趣にて結構の事と存じ御相談次第早速御取極め然るべき旨ほか) 董宣拝→御父上様	(明治)12年1月22日夜 認	横切継紙・1通	え4618-32
(書状、御内々申し上げた董宣嫁について早くもらう方が宜しいと仰せ下されるに付) *下書		切紙/(え4628-1~64は括り紐一括)・1通	え4628-16

(源八妹儀津田源五郎へ縁組仕りたき旨願いの通り申付書) * (包紙上書)「御書付」 →松木源八	12月16日	横切紙/(え4632-1~13は紙縫一括)・1通	え4632-4
---	--------	--------------------------	---------

7.13.交際

7.13.1.挨拶・連絡

松代懇親会切符(明治14年10月2日午後1時から松代中町長崎楼にて開会に付)	明治14年	葉書/(え4607-1~35は紙縫一括)・1通	え4607-26
(書状、過日御話なし下された中野先生御出のところ余儀なき次第にてまず御訴訟申上げたきに付) * (封筒表書)「松木先生待史 □臣拜」 →松木先生	1月5日	横切紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1点	え4615-63
(書状、長野へ4時頃着き船越清次共出廳中に付玉川へ相尋ね談判致し候旨ほか)	2月26日	横切紙/(え4607-1~35は紙縫一括)・1通(5枚)	え4607-14
(書状、人の品へ疵を付けてはよろしくも御座無く、真偽の所しかとわからずに付) * (表書)「御返事 知道」 知道→	19日	横切紙・1通	え4607-24
(葉書、敬賀新禧、旧年中は御世話に相成り奉謝の旨) 小縣郡田中芝田席八(印)→埴科郡松代竹山町松木董正様貴下	1月1日	葉書・1通	え4607-32
(葉書、謹祝新正に付) * 年代は消印 東京芝区南佐久間町二丁目十七番地木曾礼方中千本孟→信州松代竹山町ニテ松木董正様	明治10年1月2日	葉書・1通	え4607-35
(書状、一兩日少々取り込むにより21日に御出で遊ばされる様御待ち申し上げるに付)	19日	横切紙/(え4610-1~21は括り紐一括)・1通	え4610-11
(書状、明日より丹波島にてお祭りがある所、子供御誘い下され誠に有難きに付)		折紙・1通	え4610-14
(書状、母も11日か12日の内に師岡へ御呼ばれ申す所、子供は御上り申すに付御頼み申し上げるに付)		折紙・1通	え4610-16
(書状、その節願い置いた次第に付明後21日夕御光臨願うに付) * (封筒表書)「松木大先生 河原」/(端書)「拜啓 河原」 河原→(松木)	4月19日	便箋/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-4
(書状、この程抛無く御勞煩につき願の通り御承諾下され千万有り難きに付ほか) * (封筒表書)「松木董正様 乞親展 從松代」/(封筒裏書)「八田知道 第七月十四日」 知道 拜→董正様	7月14日	横切紙・1通	え4615-9
(年賀状) * (封筒表書)「松木先生梧下」/(封筒裏書)「東京市ヶ谷陸軍士官校幼年生徒小山文次郎 一月一日」 文次郎 拜→先生梧下	1月1日	切紙・1通	え4615-14
(書状、同姓数馬病氣養生叶わず死去致すに付) 横田 英雄→松木董正様	8月	切紙・1通	え4615-28
(書状、今日御引取に紺屋町へ御立ちより願うに付)	4月1日	切紙・1通	え4615-39
(上田への鯛・手ぬぐい・白紬など歳暮・御祝い・薪など諸品書付)		横切紙・1通	え4615-45
(書状、上田一条について鈴子当地へ参道すべき所、痢氣味にて趨き兼ねるに付) 松山町→拝酬	9月7日	横切紙・1通	え4615-48

7.松木家/13.交際/1.挨拶・連絡

(書状、奥村は只今は拙宅へ出張御出陣お待ち申し上げ居るに付) * (封筒表書)「竹山町様 松山丁」/(封筒裏書)「未覚秋容寂猶存勉節香」	5月30日	横切紙・1通	え4615-55
(書状、橋本の義については手紙遣わし置くにより近日罷り越せば申し談ずる義に付) * (端裏書)「竹山丁様 松山丁」 →董正様	8月13日	横切紙・1通	え4615-66
(書状、御内室様道中御不快により31日より病氣相増す所、来5日新築地ならし万端御差図なし下されたきに付) * (封筒表書)「松代竹山町松木董正様貴報 上田町々」/(封筒裏書)「十一月三日 丸山喜助」 喜助→御旦那様御中	11月3日	横切継紙・1通	え4615-75
(書状、来る28日に御来光の趣何等の差別も無きにより待ち奉るに付) * (封筒表書)「埴科郡松代町千式百六十一番地松木董正様与親展」/(封筒裏書)「上高井郡須坂町清須勝祥」 勝祥→松木堅□御中入	8月24日	横切紙・1通	え4615-77
(書状、御書中脚気症の御様子御難波に付) * (封筒表書)「角間湯二而松木董正君閣下尊報」/(封筒裏書)「十月十九日 児玉果亭拜」 児玉果亭拜→松木董正君閣下		横切紙/(え4618-1~41は紙縫一括)・1通	え4618-41
(書状、兩人より願出すことも早速御取遣わし下され有り難きに付) * 下書		便箋/(え4628-1~64は袋一括)・1通<3通>	え4628-7
(書状、この程色々御面倒様に付) * 下書		切紙・1通	え4628-11
(書状、明日小山田・佐藤より御振舞いに付参る様申すにより、迷惑もよんどころ無く参るに付)		横切紙・1通	え4628-50
(書状、天気は宜しくも兎角不順の寒さの所、御皆々様御かわりなきやに付) * 下書		横切継紙・1通	え4628-51
(包紙) * (包紙上書)「態々御見舞」		包紙/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-1~11は包紙一括)・1点	え4645-1-1
(書状、御果教所即日御着場成されるに付) * (封筒表書)「下高井郡佐野村之内角間組百八番地養田屋伊七殿方船松氏 松木董正様平信」/(封筒裏書)「八田知道 十月廿四日 發」1銭切手・2銭切手貼付 知道拜→董正様	10月24日	横切継紙・1通	え4645-1-10
(封筒) * (封筒表書)「中島様内事 松木」/封筒内に書状あり		封筒/(え4645-1~33は括り紐一括)・1点	え4645-23

7.13.2.贈答

(書状、新栗1包煉もの菓子これあるとも遣わし兼ね残念に近日は便りも覚束なく困り申す旨)		切紙/(え4606-1~30は紙縫一括)/(え4606-11-1~7は紙縫一括)・1通	え4606-11-4
(書状、この程泰作へ結構なる品々饅頭9本など送り下され有り難きに付) * 下書		横切継紙/(え4628-1~64は袋一括)/(え4628-17~32は巻込一括)・1通	え4628-29

(書状、結構成る品度々いただき有り難き所、早速御礼差し上るべき所差し上げ兼ねるに付) *下書		切紙・1通	え4628-40
(書状、この程御馳走様に成る所、また結構なる御品いただき有り難きに付) *下書		切紙/(え4628-59~64は巻込一括)・1通	え4628-61
(書状、北澤・安川両先生へ御贈物のこと委細承る所、本月泰作23日到着の際に持参致しくれるに付) *(端裏書)「御父上様申上 董隆」 董隆→御父上様申上	8月12日	横切継紙/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-1-1~11は包紙一括)・1通	え4645-1-7
(書状、御養生の様子承りたき所、粗末により御口に叶わないかもしれないものの品物進上仕るに付) *(封筒表書)「 間温泉場ニ而松木董正様平安 松代小山田藤四郎」 藤四郎→御伯父上様申上	10月25日夜	横切紙・1通	え4645-1-11

7.13.3.依頼

(書状、極密大歎願御座候に付面目なき次第にて筆も立かね候得共此間中より大散財の事これあり此表にて種々手段いたし候、②又地震災御城下町も全体押潰しのため町方疲弊、諸国の地震津波あされ大変の旨) *(端裏書)「内密」 慎三→源太郎様	(弘化4年以後)11月18日	横切継紙/(え4607-1~35は紙縫一括)・1通	え4607-10
(書状、願ひ上げた一条について董宣君より別紙申し来るにより先方へ御聞合成し下されたきに付) 元賢→董正様		横切継紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-6
(書状、今般弊郷へ仏国宣教師ビーグロス氏滞在中耶蘇の説教致す所、今度御地へ出でるにより通知・斡旋願うに付) *(封筒表書)「松代竹山町松木董正様待史 須坂常盤町拓植宗固」/(封筒裏書)「四月(墨書により判別不可) 写」 (拓植宗固)→(松木董正)		横切紙・1通	え4615-72
(書状、御内室様道中御不快により、4・5日参り兼ねるにより新築地ならし万端御差図なし下されたき旨願うに付) *(封筒表書)「松代竹山丁松木董正様貴報 上田町々」/(封筒裏書)「十一月三日 丸山喜助」 喜助→御旦那様人々御中	11月3日	横切継紙・1通	え4615-76
(書簡、井上御叔母上様への御礼書の儀御教示成し下され有り難く別紙相認め差し上げ候間宜しく願ひ奉る旨ほか) *(封筒表書)「長野縣下信州松代松木董隆様平信 東京より」/(封筒裏書)「東京府第一中学校松木董宣」 董宣拝→董隆様	5月19日夜認む	横切紙/(え4618-1~41は紙縫一括)・1通	え4618-35
(書状、この程色々御面倒様の義御願申すに付) *下書		切紙/(え4628-1~64は袋一括)・1通	え4628-12
(書状、久兵衛方へは何分参る所、その内に又々御願ひ申したきと申し遣わすに付) *前欠		切紙・1通	え4628-13

7.13.4.接待

五月二十八日三拾五人前(献立)		横切継紙/(え4607-1~35は紙縫一括)・1通	え4607-9
(28日・29日献立)		横切紙・1通	え4607-11

(書状、御丁寧の御馳走相成り有り難く大失敬に付) *(封筒表書)「松代竹山町松木董正殿親展」/(封筒裏書)「須坂町清須勝祥」 清須勝祥→松木董正様几下	横切継紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-11
--	----------------------------	----------

7.13.5.購入

(書状、①時計購入につき参考意見、②三日前池田方へ訪れる所、相変わらず疾病により歩行に悩むに付ほか) *(封筒表書)「長野縣下信濃国埴科郡松代町竹山丁 松木董正様」/(封筒裏書)「東京神田北甲賀町五番 山寺信炳」(山寺)信炳→松木先生	10月2日	横切紙・1通	え4615-8
(封筒) *(封筒表書)「長野縣下信濃国埴科郡松代町松木董正様」/(封筒裏書)「東京神田北甲賀町五番地山寺信炳」		封筒/(え4615-1~80は括り紐一括)/(え4615-71-1~3は封筒一括)・1点	え4615-71-1
寛(時計45円位・金磁石5円位などメ金57円位見積勘定書付) 京橋區山下町二十三番地川村福次郎(印)→宮下様	辰9月14日	横切継紙・1通	え4615-71-2
(書状、時屋儀の件について別紙に通例の品大略の予算記すにより別紙の価に準ずるものと存ずるに付) (山寺)信炳→埴山先生帳下	9月15日	横切継紙・1通	え4615-71-3

7.14.文芸

(書状、佐久間先生書き物差し上げた処殊の外御悦びにて対面の上委細御礼申上げたき旨ほか) *(包紙上書)「松代松木栄太郎殿平安 従甲府松木源八」 源八→栄太郎殿	7月29日	横切継紙/(え4606-1~30は紙縫一括)/(え4606-11-1~7は紙縫一括)・1通	え4606-11-2
(書状、柳条殿へ献上の書物到来御覧に入れ殊の外御悦びにて熟覧致したきと申すに付ほか) 源八→栄太郎殿	7月24日	横切継紙・1通	え4606-11-3
(当国一宮と申す所の社家共7,8人読書門人に相成るに付及び羽尾村役人彦藏へ借置き候金子7両2分御催促ある旨ほか) *(端裏書)「栄太郎殿 源八」 源八→栄太郎殿	7月13日	横切継紙・1通	え4606-11-7
(書状、来字掛物の代金相分からず御話しに付上納方は仕らず御伺いの上仰せ下さるべき旨) 源八→栄太郎殿	2月7日	横切継紙/(え4606-1~30は紙縫一括)・1通	え4606-27
(書状、此程は繁多にて朝組の者浪人共稽古に付、及び書物4冊ほか昨日到来の品相達し候旨) *(端裏書)「栄太郎殿 源八」 源八→栄太郎殿	6月22日	横切継紙・1通	え4606-28
(罹病卒の友多田について悲嘆に絶えず歌連作の雅会催す旨など書付) *鉛筆書き、添削		便箋/(え4615-1~80は括り紐一括)・	え4615-68
(罹病卒の友多田について悲嘆に絶えず歌連作の雅会催す旨など書付) *朱書		縦紙・1通	え4615-69
寛(東鏡全25冊拝借仕るに付) 源八→刑左衛門様		横切紙/(え4617-1~17は括り紐一括)・1通	え4617-4
(書状、先達中御願ひ申す佐久間の所、先々の掛け物余程難しき品なのか伺いたきに付) *下書 →伊せ町様		横切継紙/(え4628-1~64は袋一括)・1通	え4628-42

(書状、先達中御願ひ申す佐久間の所、先々の掛け物余程難しき品なのか伺いたきに付)		横切紙・1通	え4628-43
(書状、その節歎願仕る拙文御高覧に入れるにより御添削願たきに付) * (封筒表書)「埴科郡松代町ニ而竹山町ニ而松木董正様」/(封筒裏書)「屋代驛吉村直豊拜」直豊拜→松木先醒玉座下	5月3日	横切継紙/(え4615-1~80は括り紐一括)・1通	え4615-19
(書状、本年3月分までの代金23銭前金約定により御進送下されるべきに付) 東京々橋區銀座一丁目九番地絵入新聞両文社→信州松代町千式百六十一番地松木董隆様貴下	第3月16日午後	葉書・1通	え4615-30
(書状、山田より御借入の佐久間先生の額の掛物などこの人に御下げ下さるべきに付) 松山丁→竹山丁様	3月4日	横切継紙/(え4645-1~33は括り紐一括)・1通	え4645-29

7.15.情報

(書状、①集会条例発行のため小生などに至るまで談会に聴講仕る訳にも参り難く、僅かに共存同衆の実学研窮上の演説位に止まり残念、②国会開設願望の指令については分り兼ねる、③深川でコレラ流行などに付)	(明治13年5月)	横切継紙/(え4615-1~80は括り紐一括)/(え4615-59-1~4は封筒一括)・1通	え4615-59-2
(書状、①本月7日御出発の品々蚊帳・袴など本日泰作殿持参致し拜受、②先般課業書の金円受取、③靖国神社祭典、④松代出身の堀田連太郎共存同衆にて演説し満堂唱采などに付ほか) 董隆拜→御父上様申上	5月16日11時認む	横切継紙・1通	え4615-59-4
(立田革差出し松木董正宛書状一括)		封筒一括/(え4645-1~33は括り紐一括)/(え4645-32-1~3は封筒一括)・1点	え4645-32-0
(封筒) * (封筒表書)「信州埴科郡松代竹山町松木源八様親展」/(封筒裏書)「東京芝區西久保茸手町十七番地立田革」/1銭切手3枚・2銭切手1枚貼付		封筒・1点	え4645-32-1
(書状、政府においても会計一件にて先頃も各省の平額も減らし官員の掃除も致す位に付) 立田革→松木董正様待史	8月25日	横切紙・1通	え4645-32-2
(書状、国会論も昨今頻りに唱え出し条約改正も立ち申さず就中国家財政一件は実に困窮に付) 立田革拜□→松木先生玉机下	2月9日	横切継紙・1通	え4645-32-3

7.16.寺社

覚(1貫248文・148文御香奠寺納に付) 願行寺納處→松木様御使中	8月5日	横切紙/(え4607-1~35は紙縋一括)・1通	え4607-1
覚(御布施30疋ほか寺納に付) 願行寺納所→松木東様御内市川友左衛門様	8月18日	横切継紙・1通	え4607-2
覚(御布施30疋ほか受納に付) 願行寺納處→松木様御使中	4月19日	横切紙・1通	え4607-3
覚(御香奠5通小山田重太夫様奥様より受納に付) 願行寺納所→	正月19日	横切紙・1通	え4607-4

7.松木家/16.寺社

覚(御香奠5通受納に付) 願行寺納所→松木東様御内市川友左衛門様	正月29日	横切紙・1通	え4607-5
覚(御布施30通ほか受納仕る旨) 願行寺納所→松木東様御内市川友左衛門様	正月19日	横切紙・1通	え4607-7
覚(御布施30通ほか受納仕る旨) 願行寺納所→松木東様御内市川友左衛門様	正月29日	横切紙・1通	え4607-8

7.17.法事

(書状、金松院17回忌8月中相当の処故障これあり私宅において法事執行致す旨) * (端裏書)「五百人様 束」束→五百人様	4月15日	横切紙・1通	え4607-6
--	-------	--------	---------

7.18.その他

(帯紙) * (端裏書)「松木董正先生井上小四郎」		帯・1点	え4607-27
(封筒) * (封筒表書)「董(墨書により判別不可)元賢」(岡野元賢)→		封筒/(え4615-1~80は括り紐一括)・1点	え4615-67
(「やまふて四町角之助」書付)		切紙/(え4628-1~64は袋一括)・1通	え4628-44

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

8.混入文書

8.1.下総国相馬郡藤代村飯田家文書

(双方納得の上金1両2分当9月20日まで返済すべき筈にて熟談内済仕る旨) *前欠 右青柳村願人重兵衛(印)→	文久元年酉8月	竪紙/(え4605-1 ~64は紙縫一括)・1通	え4605-57
--	---------	-----------------------------	----------

8.2.下総国北相馬郡

(書状下書、御払米について当春は引続き下落により売却の機会を失うに付) *冒頭4行のみ		罫紙(黒色10行)/(え4643-1 ~25は括り紐一括)・1通	え4643-2
---	--	-------------------------------------	---------

8.3.陸奥国白河郡栃本村根本家文書

覚(人数2人の内男1人・女1人寅御改人数点検書き上げるに付) 栃本村郷士格根本栄三郎→御代官所	慶応2寅年12月9日	折紙/(え4637-1 ~11は括り紐一括)・1通	え4637-7
---	------------	------------------------------	---------

既刊目録に見られる八田家文書群の階層構造一覧

凡 例：大＝大項目、中＝中項目、小＝小項目、小々＝小々項目とする。

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
01	内方(御茶之間)			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	01	系図・親類書		1	2				6		8		10	11		13	14
		01	由緒		2				6		8		10				14
		02	扶持方請取		2												
	02	相続／家督／隠居		1	2				6		8			11	12		14
	03	家訓・規定		1	2				6		8			11			
		01	条目・遺言		1						8			11			
		02	東条村養父運右衛門殺害候八十吉磔罪一件								8						
		03	勝手向取締(家政立て直し)		1	2											
		04	役代調印規定		1												
		05	帳簿口立規定		1												
		06	店入足規定(奉公人規定)		1												
		07	帳面仕立方			2											
		08	元方・勘定一式			2											
	04	人別改		1													
	05	家族・奉公人(別家・日傭)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		01	鉄之助内室出産				4										
		02	市兵衛意見書				4										
		03	増田徳左衛門家勝手向立直し								8					13	14
		04	本家勝手向立直し									9		11			
		05	婚姻											11	12	13	14
		06	鉄之助(嫡子)								8			11			14
		07	大瀬登へ養女縁組								8						
		08	鉄治郎松村家養子入り								8				12		
		09	嘉永7年江戸表鉄治郎離縁一条書類綴／鉄治郎不行跡								8			11			
		10	鉄治郎金井家養子入り								8			11	12	13	
		11	辰三郎引き取り								8			11			
		12	八田喜兵衛(一件)									9		11		13	14
		13	人名(・年齢書上)				4									13	14
		14	儀礼					5									
		15	役代					5			8			11			
		16	店入別規定(奉公人規定)		2												
		17	奉公人請状									9					
		18	奉公人勤向		2						8	9	10	11	12		
		19	奉公人給金(不払一件／出入)		2	3					8			11			14
		20	貸付金								8						
		21	送金												12		
		22	八田鉄之助前髪剃										10				
		23	八田辰三郎													13	
		24	書状その他											11	12		14
	06	親類				3								11	12	13	14
		01	増田徳左衛門家勝手向立直し			3											
		02	親類不埒示談仲介			3											
		03	八田本之進跡目申立入用書類											11			
		04	柿崎源左衛門一件												12		
		05	書状											11	12		14
		06	師岡七郎右衛門縁組													13	
		07	甲州八代郡八田村八田新太郎													13	
		08	その他											11	12		14
	07	田村半右衛門書状綴				4											
	08	家政						5							12		14
	09	藩への上納金・才覚金				4	5			7	8	9	10	11	12	13	14
	10	藩関係								7	8	9		11	12		14
		01	御目見(御入・拝領)							7		9		11	12		14
		02	救恤							7							
		03	勤務									9		11	12		14
		04	献上									9					
		05	藩士との交際									9		11	12		14
		06	藩士への縁組への助力									9					
		07	藩主相撲上覧一件									9					
		08	他藩ほかの情報									9					
		09	樋口民衛												12		
		10	諸伺・諸届												12		14

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
		11	書状												12		
		12	その他							7				11	12		
	11	町関係								7							14
		01	立入人							7							
		02	上水関係							7							
	12	給人格取立・扶持加増					4	5			8					13	14
	13	土地経営(所有地経営)		1	2	3			6	7	8	9	10	11	12	13	14
		01	持地	1					6		8	9	10			13	
		02	借家(借家・借地経営)						6			9	10	11	12	13	
		03	江戸屋敷						6								
		04	持地・抱屋敷絵図	1										11	12		14
		05	抱屋敷肝煎用留	1													
		06	買取・質取	1					6		8	9		11	12		14
		07	売渡	1								9		11	12		14
		08	田畑見廻	1													
		09	田地譲渡						6							13	
		10	(家賃・)小作年貢取立	1	2									11			14
		11	小作年貢滞納出入	1	2												
		12	小作方日記	1													
		13	年貢諸役上納	1							8		10	11	12		14
		14	米・桑売渡	1							8						14
		15	家屋敷建築		2								10				
		16	下屋敷		2				6				10	11			
		17	抱屋敷引請		2						8						
		18	抱屋敷普請		2												
		19	手作地		2												
		20	田地譲渡取調		2												
		21	質地証文・借用証文			4(小々々)											
		22	所持地年貢目録綴									9					
		23	所持地石高取調									9					
		24	土地絵図									9			12		
		25	小作			4(小々々)			6		8		10			13	
		26	土口村(小作)		2						8	9					14
		27	矢代村(小作)		2					7	8	9	10	11			14
		28	生管村小作		2												
		29	長岡助右衛門小作		2												
		30	古川敷小作		2												
		31	東寺尾村新堰		2												
		32	屋敷敷・土蔵			3					8				12		
		33	自作・小作貸出			3											
		34	質入						6								
		35	根津村								8			11			
		36	小作米日延								8						
		37	赤倉温泉								8		10				
		38	鹿沢温泉・山野湯温泉								8						14
		39	取米(正徳米)												12		
		40	御安口堤土手								8						
		41	井上村								8						
		42	東寺尾村								8	9			12		14
		43	西寺尾村								8	9					
		44	沓野村								8						
		45	上徳間村								8						
		46	皆神山								8	9	10				
		47	牧内村								8	9					14
		48	田野口村							7	8						
		49	後町							7							
		50	清野村							7		9			12		
		51	東条村							7		9		11	12		
		52	平林村							7	8	9			12		
		53	赤岩村									9					
		54	田中村									9					
		55	河原新田									9			12		
		56	浦新田									9					
		57	木町									9					
		58	西条村									9	10	11			
		59	岩野村新田									9					
		60	会村									9					
		61	東荒町村									9					

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
		62	中条村									9	11				
		63	荒町村									9					
		64	御安口村									9					
		65	新御安口村									9					
		66	荒町									9	10	11			
		67	浄行寺									9					
		68	練光寺							7				11			
		69	地券								8						
		70	所持地年貢皆済明細勘定書綴										10				
		71	山林														14
		72	堤普請														14
		73	その他							7			10	11			
	14	小作年貢滞出入一件			2			6(中中)						11			
		01	岩村田小作年貢滞一件		2												
		02	飯山小作年貢滞一件		2												
		03	田野口村小作年貢滞一件		2												
		04	中野實地一件		2									11			
		05	赤倉湯一件		2												
		06	その他											11			
	15	材木方		1	2				6		8			11			
	16	通船方		1	2						8			11			
	17	金融		1	2	3		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		01	借入金・預り金	1		3		5	6		8	9	10	11	12		14
			01 松代藩御用達金預り運用			3											
		02	貸付金	1	2	3		5	6		8	9	10	11	12	13	14
		03	他家借財片付	1					6					11			
		04	無尽	1	2	3(中)		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		05	預り金利払		2								10		12		
		06	貸付金調		2												
		07	貸付金返済滞り		2										12		14
		08	広田筑後・岩出六右衛門無尽一条		2									11			
		09	皆神山無尽		2												
		10	家中侍借財勝手向立直し		2				6						12		
		11	質地(・借金)					5									14
		12	飯山藩・岩村田藩領(小作年貢滞一件)					5						11		13	
		13	伊勢山田御師広田筑後一件					5			8			11	12	13	14
		14	貸借金							7			10	11	12		14
		15	宿方式割増御手充積金								8						
		16	余計金上納								8						
		17	下屋敷御助成金								8						
		18	拝借米								8				12	13	
		19	高遠へ御貸金取立方一件										10		12		
		20	八田家払底一件												12		
		21	その他												12		
	18	飯山領								7	8(小)	9	10	11	12	13	14
		01	無尽							7		9		11	12		14
		02	訴訟							7				11	12		14
		03	貸付金									9		11		13	14
		04	質地									9		11			
		05	本多豊後守婚礼										10				
		06	本多豊後守松代城下止宿関係綴										10			13	
		07	芝津村斧右衛門借財片付方一件										10				
		08	音信												12		14
		09	藩御用(年貢廻払)												12		14
	19	上田領										9					
	20	岩村田領								7	8(小)	9	10	11	12	13	14
		01	御勝手御用									9					14
		02	仕送金									9					14
		03	地所改									9					
		04	小作									9			12		
		05	貸付金									9		11	12	13	14
		06	無尽										10		12	13	14
		07	訴訟										10	11			14
		08	岩村田差引方調書類綴										10				
		09	岩村田村法華堂差引勘定一件										10				
		10	内藤豊後守大番頭就任													13	
		11	訴訟														
		12	音信														14

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
			13 その他												11	12	
			21 田野口領									9	10				
			22 埴科郡下戸倉村(幕領)									9					
			23 小県郡根津(旗本知行所)									9					
			24 赤倉温泉									9		11	12		
			25 出張		1	2								11	12		
			26 金銭・穀物請払		1	2		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
			01 店方江下ヶ金・上納金		1	2					8						
			02 金銭請取		1	2								11		13	14
			03 暮方見積		1												
			04 入用		1					8						13	
			05 買物方日記		1												
			06 金銭出入帳(金銭請払帳)		1												
			07 金銭差引(金銭差引帳)		1						8		10	11			
			08 穀物・諸品請払		1		4(中)				8	9	10	11		13	14
			09 金銭穀物請払取調勘定		1												
			10 請払勘定覚			2											
			11 木町伊勢町差引帳			2										13	
			12 金銭払方			2			6					11	12		14
			13 雑穀			2											
			14 売掛金滞			2											
			15 金銭勘定						6						12	13	14
			16 普請						6			9		11	12		
			17 近代税金領収書								8						
			18 近代諸領収書								8						
			19 小切手								8						
			20 株券(・公債)								8			11			
			21 両替													12	
			22 その他											11	12	13	
		27 賄		1	2			5	6					11	12		14
			01 賄穀物請払		1									11			
			02 入用		1									11			
			03 勝手方日記・控帳		1												
			04 御膳日記		1												
			05 諸品通帳(家計)			2								11			
			06 諸品請払						6					11	12		14
			07 献立											11	12		
			08 移送												12		14
		28 勝手向				3					8		10	11			14
			01 勝手向立て直し			3					8		10				
			02 勝手向取極・諸入用			3											
			03 金銭出入帳			3											
		29 棚卸		1	2												
		30 家計取調										9					
		31 日記・控留		1	2												
			01 被仰付書・願書控留		1												
			02 状留		1												
			03 茶之間日記・元方日記・役代日記他		1												
			04 万書留帳		1												
			05 手控		1	2											
			06 殿様湧泉亭御入一条			2											
		32 儀礼(家族)		1	2	3			6	7	8	9	10	11	12	13	14
			01 為知帳		1	2											
			02 赤飯配		1	2											
			03 出生／節句									9				13	14
			04 元服／成人									9		11	12		14
			05 献上・進物		1		3				8						
			06 献上・寄付						6								
			07 来訪(人名面帳)		1												14
			08 到来物		1	2	3								12		
			09 贈答覚帳(贈答)		1					7							
			10 贈答・進物									9		11	12	13	14
			11 婚姻・離縁		1	2			6	7		9	10	11		13	14
			12 葬儀・法事		1	2			6	7	8	9	10	11	12	13	14
			13 先祖供養									9		11			14
			14 大福帳(諸儀礼覚帳)		1												
			15 年中行事(帳)		1								10	11			
			16 宴会		1						8		10			13	14

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
		17	引越為知		2											13	
		18	祝儀入料		2												
		19	書状[儀礼の書状]			3		6		8		10	11				
		20	中島三右衛門書状							8							
		21	目録・目録包紙一括							8							
		22	年賀状(・暑中見舞・寒中見舞)													13	14
		23	御目見・代替・就任挨拶・許可／加増													13	14
		24	見舞い													13	
	33	旅		1								10	11	12		14	
		01	社寺参詣	1								10	12			14	
		02	入湯	1								10				14	
		03	経費													14	
	34	寺社(寺社奉加)		1	2			5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		01	寺社奉加		2										12	13	14
		02	浄福寺借財関係									9	10				
		03	浄福寺(無尽一件)										11				14
		04	浄福寺祠堂金貸付一件									9					
		05	菩提寺浄福寺(一件)		2			6	7	8		10	11	12		14	
		06	松代大林寺							8			11	12	13		
		07	松代清瀧山観音堂							8					13		
		08	松代証蓮寺							8				12			
		09	湯田中梅翁寺							8							
		10	高野山明泉院							8						13	14
		11	松代興善寺							8							
		12	松代離山神社							8							
		13	埴科郡倉科村福昌寺									10					
		14	和合院												12		14
		15	戸隠山善法院												12		
		16	江戸							8			11				
		17	松代練光寺													13	14
		18	松代福德寺													13	
		19	白鳥宮													13	
		20	海野宿奥善寺														14
		21	良性院														14
		22	諸寺社														14
		23	水銭														14
		24	その他						7	8	9	10	11	12			
	35	家財		1	2	3				8			11	12	13	14	
		01	武器	1	2					8			11	12		14	
		02	衣類・諸道具・書画ほか	1	2								11	12	13	14	
		03	武具・印章等注文			3								12	13		
		04	茶道具等売払			3											
		05	諸道具貸出			3								12	13	14	
	36	運送													12		
		01	荷札												12		
	37	投資							7								
		01	松代貯積銀行						7								
	38	蔵書(・読書)		1		3		6					11	12			
	39	見聞・風説書		1	2	3		6		8		10	11	12	13	14	
	40	アメリカ船渡来情報収集					4										
	41	外交・軍事情報						5		8							
	42	諸情報													12		14
	43	諸芸		1	2	3		6	7	8	9	10	11	12	13	14	
		01	武芸・文芸	1	2		5(中)			8		10	11	12	13	14	
		02	茶の湯	1	2					8	9		11	12	13	14	
		03	学芸			3								12		14	
		04	能			3											
		05	柔術			3							11				
		06	水術			3											
		07	松明製法			3											
		08	手習							8			11		13	14	
		09	占い(観相)								9		11		13		
		10	泰全様御在命中山口専始齊先生より御伝達書類綴									10					
		11	俳句・和歌													13	14
		12	将棋													13	
		13	その他										11	12			
	44	学校		1		3		6		8							
		01	試験問題			3											

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
		02	教科書								8						
	45	証書		1													
		01	生系改会社証記簿	1													
		02	横浜正金銀行創立証書	1													
	46	養蚕				3											
	47	信心				3								11		13	
	48	諸家交流													12		14
		01	音信												12		14
		02	礼状												12		14
		03	贈答物												12		
		04	依頼												12		
	49	書状類						5		7			10	11	12		14
		01	嘉永6年12月中到来書状綴											11			
		02	嘉永7年正月より到来書簡											11			
		03	嘉永7年3月よりの到来書簡											11			
		04	嘉永7年4月よりの到来書簡											11			
		05	安政2年10月よりの来状											11			
		06	安政2年11月中よりの書簡綴											11			
		07	安政2年12月よりの来簡											11			
		08	安政3年6月よりの来簡											11			
		09	安政3年7月よりの来簡											11			
		10	安政3年11月中より来状											11			
		11	安政3年12月書簡綴											11			
		12	安政4年4月中より到来の書簡											11			
		13	安政4年7月よりの来状											11			
		14	安政4年10月中より到来の要用書簡											11			
		15	安政5年正月より到来書簡											11			
		16	年代不明の袋											11			
		17	依田市右衛門関係												12		14
		18	経営														14
		19	相談														14
		20	依頼														14
		21	連絡														14
		22	封紙のみ														14
		23	その他											11	12		
	50	諸書類						5			8	9	10	11	12		14
		01	大瀬弥門縁付関係綴								8						
		02	京平岡入日記								8						
		03	雑用書類								8						
		04	岩村田上向筋調帳面綴								8						
		05	文政5年御出張付入用書類								8						
		06	当用書帖								8						
		07	天保7年御向來状綴								8						
		08	嘉永5年中到来の要用書状綴								8						
		09	嘉永7年3月より品々差引書抜								8						
		10	安政2年6月よりの要用来簡綴								8						
		11	安政3年8月以降来簡綴								8						
		12	安政3年～文久元年要用の書類綴								8						
		13	安政4年7月中到来書簡								8						
		14	安政4年11月中到来書簡								8						
		15	紀元2533年6月中よりの来章綴								8						
		16	巳年京都入綴								8						
		17	明治10年2月用書類綴								8						
		18	善光寺一件								8						
		19	澤守禮ほか印書関係									9					14
		20	安政3丙辰年正月中よりの参簡									9					
		21	依田市右衛門関係									9					
		22	諸方到来之文通									9					
		23	天保8年正月中よりの来簡綴										10				
		24	天保11子年切手関係綴										10				
		25	嘉永5子年10月取調要用書状綴										10				
		26	嘉永7年入用の書類綴										10				
		27	安政3丙辰年12月晦日より到来書状綴										10				
		28	安政4年正月下旬よりの到来要用書状綴										10				
		29	安政4年3月中よりの到来要用書簡綴										10				
		30	安政6年4月よりの来簡綴										10				
		31	安政7年正月よりの来簡綴										10				
		32	文久元年5月～10月までの来簡綴										10				

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
		33	文久元年10月～12月の来簡綴										10				
		34	慶応2年9月中よりの書簡綴										10				
		35	慶応2年11月中よりの来簡綴										10				
		36	慶応3年正月よりの来書簡綴										10				
		37	慶応3年4月中よりの来状綴										10				
		38	慶応3年8月よりの来簡綴										10				
		39	慶応4年2月～9月まで来簡一綴										10				
		40	明治2年3月より10月までの来簡綴										10				
		41	明治4年正月中よりの来簡綴										10				
		42	明治5年5月よりの来簡綴										10				
		43	明治5年10月よりの来簡綴										10				
		44	明治5年10月中よりの書状綴										10				
		45	酉2月中来簡関係綴										10				
		46	酉3月中諸方御到来状并諸向差出書類綴										10				
		47	酉4月中諸方より到来状并申立書類綴										10				
		48	酉5月中諸方御到来書帖及び書取類の綴										10				
		49	酉6月中諸方よりの到来状・雑書等綴										10				
		50	酉極月中諸方到来状綴										10				
		51	10月中入用書類綴										10				
		52	松代表より到来書状及び入用書状の綴										10				
		53	弘化年間金銭書上書類綴											11			
		54	書出品々入綴											11			
		55	諸色代金書上一括											11			
		56	不用書類											11			
		57	その他												12		14
	51	吹直金銀引替											10				14
	52	泰全院一代一巻綴											10				
	53	その他		1								9	10	11			
02	店方			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	01	酒造方(酒蔵・酒店)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
		01	酒株・酒造高書上／酒造株高	1		3	4	5						11			
		02	酒造鑑札	1								9		11			
		03	内方より拝借米金・上納金	1								9					
		04	酒造入用	1								9					
		05	酒蔵より酒店出酒	1													
		06	売渡	1		3											
		07	金銀出入帳	1													
		08	取替(立替)	1													
		09	棚卸	1	2							9					
		10	酒蔵・酒道具貸付	1	2												
		11	諸控留	1	2												
		12	蔵書	1													
		13	酒蔵・酒店勘定		2					8		10	11				14
		14	酒売掛帳		2												
		15	酒蔵普請		2												
		16	水油		2												
		17	質地証文				4										
		18	酒株・鑑札						6		8						
		19	仕法						6		8		11	12			
		20	酒造高								8		10	11			
		21	酒造米(貸付)								8						14
		22	奉公人(使用人)						6		8			11			
		23	手充						6								
		24	諸品請払						6								
		25	借入金						6		8	9					
		26	一件						6								
		27	道具調						6								
		28	書状						6					11	12		
		29	褒賞								8						
		30	酒造関係綴								8		10	11			
		31	酒造関係重要古書類									9					
		32	藩関係											11	12		
02	呉服店			1	2			5		7	8			11		13	14
		01	売買	1							8			11			
		02	御会符荷物	1													
		03	棚卸	1													
		04	控留	1													
		05	呉服仕入勘定		2												

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
		06	古着		2												
		07	その他											11			
	03	油店		1	2				6		8				12		14
		01	内方より拝借金・上納金	1													
		02	金銭請払	1													
		03	棚卸	1											12		
		04	油・醤油		2												
		05	奉公人(使用人)								8				12		
	04	醤油店(松井店)		1	2	3			6	7	8	9		11			14
		01	内方より拝借金・上納金	1													
		02	仕入	1													
		03	売渡	1													
		04	売買差引勘定	1										11			
		05	入用	1								9		11			
		06	取替(立替)	1													
		07	棚卸	1							8						
		08	道具調	1													
		09	越後赤倉松井店	1						7							
		10	店立て直し			3					8						
		11	他店立て直し									9					
		12	藩御用			3								11			
	06	質店		1	2				6		8			11		13	
		01	内方より拝借金・上納金	1													
		02	入用	1													
		03	取替(立替)	1													
		04	棚卸	1													
		05	控留	1													
	07	角店・酒店												11			
	08	陶器方			2	3	4										
	09	甘草方					4								12		
	10	諸勘定						5									
	11	諸情報													12		
	12	赤倉松井店														13	14
	13	その他		1										11			
03	町方	町年寄		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	01	控留		1							8		10				
		01	高札・条目写控	1							8		10				
		02	町年寄用留	1			4										
	02	触留						5								13	
	03	宗門改						5			8	9	10	11	12	13	
	04	諸役・貢税		1							8				12		14
		01	家数・町役書上	1							8						
		02	伝馬役	1							8				12		
		03	巡見本陣役	1													
		04	明治期貢税取調	1													14
		05	御用金								8						
		06	年貢諸役												12		
	05	殿様御用		1					6		8		10	11	12	13	
		01	殿様帰城出迎	1													
		02	殿様御入接待	1									10	11			
		03	殿様御巡見												12		
	06	救済		1							8			11	12	13	
		01	飢饉	1							8			11		13	
		02	火災・水害	1							8			11	12		
		03	御買上米												12		
		04	手当・施行												12		
	07	講		1											12		14
		01	町内無尽講	1											12		
		02	恵比寿講	1													
	08	町会所			2												
	09	穀行司			2												
	10	御巡見様入用			2											13	
	11	大庄屋			2												
	12	触書写控				3								11			14
	13	転切支丹類族改				3											
	14	殿様御入				3					8						
	15	飢饉時米調達				3											
	16	町政ノ一件							6	7	8	9	10	11	12		14

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
	17	御取締							6								
	18	御巡見様御用							6	8				12			
	19	貸借							6	8							
	20	社倉							6					12			
	21	町内無尽							6								
	23	祭礼								8				11			14
	24	相場								8							
	25	町役金								8					12		
	26	酒造													12		
	27	水道方														13	
04	松代藩御用			1	2	3			6	8	9	10	11	12	13	14	
	01	年貢諸役取立請負・御用米金調達		1	2					8		10	11		13		
	02	御勝手御用役		1		3							11				
		01 月番表		1													
		02 用留・日記		1													
		03 融通金		1													
	03	産物御用掛		1		3	4			8			11	12			
		01 用留		1													
		02 産物取立無尽		1		3								12			
		03 国産方入用		1													
		04 産物御用掛任命				3	4										
		05 藩より拝借金				3											
	04	手控		1													
	05	御用達金預り運用				3				8							
	06	産物売捌方問屋				3											
		01 褒賞				3											
	07	川船会所				3				8	9	10	11	12	13	14	
		01 通船免許				3				8	9	10			13	14	
		02 通船貸下				3											
		03 通船取締				3										13	
		04 会所世話料				3											
		05 金子・田畑屋敷貸下				3				8						13	
		06 冥加金				3											
		07 飯山一件									9						14
		08 中野一件									9						14
		09 貸付金									9						
		10 諸書類綴								8							
		11 殿様田植見物														13	
	08	接待用諸道具貸出				3											
	09	御用金・御用米／御用米納入							6		9		11				
	10	江戸運送							6								
	11	人足							6								
	12	漬物御用								8							
	13	荷物札差認方								8							
	15	巡見使接待									9						
	16	分量金									9						
	17	荷物差札認方									9						
	18	融通米世話											10				14
	19	椀類挽物問屋											10				14
	20	飛脚会所												11			14
	21	その他															14
05	会所・商社／糸会所			1(中)	2	3	4	5		8	9		11	12	13	14	
	01	藩より拝借金品		1(小)		3											
	02	諸方より預り金・借入金		1(小)		3									12		
	03	会所貸下金		1(小)		3								11	12		
	04	借入金・預り金・貸付金					4	5						11			
	05	繭中買人仲間・糸元師仲間／繭仲買		1(小)										11			
	06	糸元師への鑑札給付					4										
	07	糸元師不正取り締まり					4										
	08	糸元師の統制						5									
	09	締市統制					4							11			
	10	繭中買人仲間		1(小)							9						
	11	糸売買		1(小)										11		13	
	12	買物帳		1(小)													
	13	取替(立替)		1(小)													
	14	金銀請払		1(小)													
	15	日記・用留		1(小)													
	16	御内用荷		1(小)													
	17	糸会所締掛任命					3										

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
	18	糸元師				3											
	19	紬類売捌				3											
	20	上州売り捌き					4				8						
	21	紡会所			2												
	22	木綿行司			2												
	23	諸書類(綴)					4							11			
06	会所・商社／産物会所			1(中)		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	01	触順		1(小)													
	02	拝借金							6			9		11	12	13	14
	03	藩より拝借金(上納金)		1(小)		3	4	5						11			
	04	会所江献上金		1(小)													
	05	会所貸下金		1(小)		3					8	9		11		13	14
	06	会所より貸下げ品・拝借金					4	5						11			
		01 蚕種紙					4										
		02 拝借金					4							11			
		03 諸品					4										
	07	産物改		1(小)													
	08	出役		1(小)													
	09	鑑札渡		1(小)													
	10	産物会所鑑札名面			2												
	11	冥加金(取立)		1(小)	2							9		11	12		14
	12	絹紬類買入		1(小)													
	13	絹紬類売捌		1(小)										11	12		
	14	絹紬類貸下		1(小)													
	15	甘草・杏仁大坂取引		1(小)											12		
	16	駄送／江戸への荷物運送駄賃・取引		1(小)				5	6		8			11		13	
	17	麻・木綿売買		1(小)							8						
	18	蚕種・生糸売買		1(小)													14
	19	入用		1(小)	2											12	
		01 諸入用														12	
	20	金銭請払		1(小)							8			11	12		
	21	金銭請払取調勘定		1(小)										11			14
	22	棚卸		1(小)													
	23	日記・用留		1(小)													
	24	褒賞		1(小)								9				13	14
	25	過料		1(小)													
	26	産物助成講		1(小)							8						
	27	道具帳		1(小)													
	28	蔵書		1(小)													
	29	会所役人心得方・取計方条々				3								11			
	30	藩江献上金				3											
	31	藩入用品調達				3											
	32	諸方より預り金				3	4				8						
	33	産物会所仕入金融通			2												
	34	産物無尽			2									11			14
	35	産業統制				3	4	5			8		10	11	12	13	14
		01 市役金・店口銭				3											
		01 糸市役金				3											
		02 店口銭				3											
		02 絹紬・木綿布・麻布等他製品商売禁制				3											
		03 諸国より城下入込商人改				3					8						
		04 行司				3								11		13	
		05 産物改				3											
		01 木綿改所				3											
		02 縮緬改				3											
		03 産物会所并取締役				3											
		06 鑑札				3		5						11	12	13	
		01 領産取締				3											
		02 絹紬仲買鑑札				3	4										
		03 繭仲買・蚕種商売・糸繭買・唐糸師等の鑑札				3	4	5									
		04 蚕種・生糸鑑札				3	4										
		05 木綿商買・木綿布仲買鑑札				3											
		06 杏干仁商売鑑札				3	4										
		07 甘草仲買鑑札				3	4										
		08 天秤振商売(香具)鑑札				3	4	5									
		09 煙草鑑札				3											
		10 楮商人荷宿并鑑札				3	4	5									
		07 糸商売免許				3											

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
		08	冥加金			3						9(中)			12		
			01 絹紬仲買冥加金			3	4										
			02 繭仲買冥加金			3	4										
			03 唐糸師冥加金			3											
			04 木綿師冥加金			3											
			05 品々冥加金			3											
		09	陶器竈場			3		5	6								14
		10	桑畑			3											
		11	縮緬製造			3											
		13	関係書類綴					5									
		17	蚕種・絹紬				4	5			8					13	14
			01 紬売り代金書上				4	5									
			02 隠糸挽				4	5									
			03 触留					5									
			04 仕法替え					5									
			05 糸繭取引					5									
			06 紬ほか売り代金書上					5									
			07 荷札					5									
			08 冥加金				4										
		18	甘草				4				8			11	12		
			01 取締筋				4										
			02 植え付け				4										
			03 鑑札				4				8						
		19	杏仁				4				8	9(中)	10	11	12		14
			01 買入れ				4										
			02 惣勘定				4										
			03「杏仁御買上ニ付入用之雑書類入」				4										
			04 諸書類綴				4						10				
			05 書状												12		
		20	杏仁・甘草		2(中)		4	5								13	
		21	椿				4							11			
		22	天秤振				4										
		23	蚊帳				4										
		24	明礬				4	5									
		25	白粉				4										
		26	硫黄				4				8						
		27	木綿				4	5			8						
		28	麻					5									
		29	薬草						6								14
		30	銅山						6								
		31	諸品				4							11			
		32	その他				4										
			01 鑑札給付				4										
			02 鑑札制作				4										
		36	絹紬類売買				3										
			13 絹紬類織立				3										
			14 絹紬類買上				3										
			15 絹紬類売捌				3										
			01 絹紬類専売仕法替				3										
			02 上州吹屋村一件				3										
			16 絹紬類買下				3										
		37	葉藍			2									11		
		38	陶器竈			2									11		
		39	大坂交易				3	4	5	6	8		10	11		13	14
			01 嘉永期甘草・杏仁等大坂売捌仕法				3	4	5		8		10			13	
			01 大坂交易関係文書書留				3										
			02 甘草相場下落				3										
			03 炭屋孫七手許不繰合一件				3										
			04 大坂表無心一件				3										
			05 御用場								8						
			02 西国産物買入／西国産諸品買い上げ				3	4						11		13	
			03 安政期杏仁大坂売捌仕法／杏仁売捌				3	4	5					11			
			01 杏仁買上				3										
			02 杏仁大坂試捌				3										
			04 維新时期京坂交易				3										
			05 北国への荷物運送駄賃・取引					4	5				10				
			06 炭屋孫七割済金関係					4									
			07 炭屋彦五郎からの預り金					4									

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
		08	炭屋孫七関係書状など綴				4	5					10	11			
		09	諸仕切状綴				4										
		10	年賀状・暑中見舞・寒中見舞													13	
		11	その他				4							11			
	40	大坂にて金子調達			2									11			
	41	京都での取引					4	5	6					11	12		
	42	横浜での取引					4							11			
		01	才覚金徴集				4										
		02	横浜交易取扱所				4										
	43	近郷での取引					4	5									
	44	江戸での取引					4	5			8		10	11		13	14
		01	諸品				4	5									14
		02	売捌代金滞り				4	5			8						14
		03	荷物送り状				4										
		04	取引					5			8		10				
	45	松前での取引														13	
	46	その他地域での取引						5									
	47	麻・木綿)売買					3									12	14
		01	麻売買				3										
		02	木綿売買				3										
		03	繰綿													12	
	48	明礬江戸送り					3										14
	49	蚕種・生糸改井外国交易					3										
	50	検断・調停					3										
		01	不実商い吟味				3										
		02	商い出入調停				3										
	51	入用					3							11			
		01	諸入用				3										
		02	会所普請・作事入用				3							11			
	52	勘定					3			6							
	53	会所運営(・賄い領収書)						4	5					11	12		14
		01	近代産物会所領収書綴					4									
		02	御用米世話料					4									
		03	荷物駄賃					4								12	
		04	諸品					4						11			
		05	通船川岸端地所売り渡し					4									
		06	役人任免・俸禄						5					11	12		
		07	用地取得						5						12		
		08	賄い領収書						5					11			14
		09	相場情報						5								
		10	会所締方													12	
		11	諸勘定													12	
	54	産物会所手控			2												
	55	産物会所勤人別			2												
	56	産物会所仲間給金			2												
	57	川船会所						4	5					11			14
		01	貸付金					4									
		02	廻送荷物の改め					4									
		03	船手の者の願書受付					4									
		04	川船会所への地所売り渡し					4									
		05	小作証文					4									
		06	その他					4									
	58	藩内地域の産物会所						4	5								
		01	力石村					4									
		02	内川村					4									
		03	向八幡村					4									
	59	役人任免・俸禄						4			8			11			
	60	一件								6							
	61	諸書類綴					3	4	5	6		8	10				
		01	東京より来状綴								8						
		02	産物方用事書状								8						
	62	用状					3							11	12		14
	63	関田家文書														12	
	64	その他					3							11	12		
07	会所・商社/松代商法社			1(中)		3	4	5	6	7		9	10	11	12		
	01	商法社貸出金		1(小)													
	02	貸付金の貸与						4									
	03	蚕種・生糸売買		1(小)													

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
	04	商社手形・太政官札引換		1(小)													
	05	入用		1(小)													
	06	棚卸		1(小)													
	07	商社引払		1(小)													
	08	諸書類綴							6				10				
	09	商社			2												
	10	書状							6						12		14
08	会所・商社来状一括											9		11			
09	長野県					3									12		
	01	勸業				3									12		
		01 蚕種・生糸交易				3									12		
10	松木家					3								11	12	13	14
	01	松代藩士															14
	02	藩勤役													12		14
		01 御警衛方御番士															14
		02 御吟味役															14
		03 銃兵小隊長															14
		04 役職不明															14
	03	護国隊														13	14
	04	砲術														13	
	05	御賞典															14
	06	教育職															14
		01 教授															14
		02 訓導															14
	07	求職/上京															14
	08	家経営															14
		01 借金															14
		02 貸付金・無尽														13	14
		03 株															14
		04 金銭授受															14
		05 金銭勘定															14
		06 諸品請払													12		14
		07 土地・建物															14
		08 その他															14
	09	教育															14
		01 手習															14
		02 董宣															14
		03 董隆															14
	10	董隆徴兵															13
	11	家族															13 14
		01 董正(源太郎・源八)															14
		02 長(てふ・ちやう)															14
		03 栄太郎															14
		04 董宣															14
		05 董隆															14
		06 姉妹															14
		07 作成者不明															14
	12	縁談														13	14
	13	交際															14
	14	挨拶・連絡															14
	15	贈答															14
	16	依頼															14
	17	接待															14
	18	購入															14
	19	文芸														13	14
	20	情報															14
	21	寺社															14
	22	書簡				3								11	12		
	23	その他												11			14
11	副区長(第大区小区)								6								
12	第六十三国立銀行頭取								6	7	8						
	01	借用									8						
	02	預金									8						
13	電信切手売下所										8						
14	混合文書									7			9				
	01	内方・系会所混合文書											9				
	02	内方・産物会所混合文書					4	5					9				
		01「有用之紙屑」					4										

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14
			02 書状・領収書ほか一括				4	5									
			03 白紙・断簡					5									
16	内方・店方・産物会所混在文書							6									
17	その他					4		6	7	8	9			11	12	13	
	01 諸書類綴					4											
	02 真田家郡方当番日記					4											
	03 不明									8				11	12	13	
	04 袋・包紙・こより等									8				11			
	05 白紙													11	12		
18	混入文書									8	9			11	12		14
	01 信濃国佐久郡御馬寄村町田家文書									8				11	12		
	01 町田家									8				11			
	02 収集史料									8							
	02 下総国相馬郡藤代村飯田家文書									8							14
	03 下総国北相馬郡																14
	04 出羽国村山郡山家村山口家文書													11			
	05 陸奥国白河郡栃本村根本家文書													11	12		14
	06 甲斐国山梨郡下井尻村													11			
	07 不明									8							

『信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録(その1～14)』より作成。

丸括弧やスラッシュで示した項目名は、類似の項目をまとめるための表現である。

例えば、「奉公人給金(不払一件ノ出入)」は、「奉公人給金」「奉公人給金不払一件」「奉公人給金出入」という三種類の項目表現をまとめた表現であることを意味する。

史料目録 第115集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その14）

印刷発行 令和4年3月31日

発行者 人間文化研究機構 国文学研究資料館

編集 学術資料事業部

〒190-0014

東京都立川市緑町 10-3

電話 050-5533-2900（代）

印刷 株式会社アズデイップ

© 人間文化研究機構 禁無断複写

（本目録は国文学研究資料館史料館の『史料館所蔵史料目録』（第78集まで発行）を継続しています。）

ISBN 978-4-87592-206-3

ISSN 2435-2055



9784875922063

ISBN 978-4-87592-206-3

ISSN 2435-2055